

### ●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

大正十一年四月十一日  
法律第三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、内務大臣副署)

#### 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

第一條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ  
相續又ハ法人ノ合併ニ因リ前項ノ業ヲ繼承スル場合ハ前項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條 行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者カ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第三條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ノ製造所、貯藏所其ノ他之ヲ收蔵スルノ場所ニ臨檢シ又ハ壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器並之ヲ收蔵スルノ疑アル物件若ハ事業上ノ機轉其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル數量ニ限リ當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防又ハ衛生ノ爲壓縮瓦斯液化瓦斯ノ製造所、貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

#### 第四條

行政官廳ハ保安上必要アリト認ムルトキハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受、運搬又ハ携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

#### 第五條

左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
一 本法ヲ適用セサル壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ範圍

二 壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣、授受、使用、運搬其ノ他ノ取扱

#### 第六條

第一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第七條

第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第八條

第三條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第三條若ハ第四條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第九條

壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

#### 第十條

壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ

〔輯六五〕

指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十一條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十二年勅令第七十七號ヲ以テ大正十二年六月一日ヨリ施行)

### ●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行

昭和十一年七月二十日  
内務省令第二十三號

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令左ノ通改正ス  
壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令

#### 第一章 總則

第一條 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ハ攝氏三十五度ニ於テ十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯、攝氏十五度ニ於テ二氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮アセチレン瓦斯及總テノ液化瓦斯ニ之ヲ適用ス

第二條 本令ニ於ケル瓦斯容積ハ溫度攝氏零度氣壓七百六十ミリメートルノ狀態ニ換算シタル容積トス

第三條 壓縮瓦斯及液化瓦斯ノ容器ヲ分チテ左ノ三種トス  
大容器 容積五百リットル以上ノモノ  
中容器 容積五十リットル以上ノモノ  
小容器 容積五リットル以上ノモノ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

〔輯六五〕

中容器 容積五リットルヲ超エ五百リットル(塩素瓦斯ヲ充填スルモノニ在リテハ四百リットル)ニ滿タザルモノ

小容器 容積五リットル以上五リットル以下ノモノ

#### 第二章 製造、貯藏、販賣

第四條 一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製造所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ申請スベシ但シ第四號ト、チ、第六號及第七號ノ事項ニシテ申請ノ際未定ナルモノハ其ノ旨記載シ決定ノ上提出スルヲ妨ゲズ

一 住所、氏名、生年月日及職業(法人ニ在リテハ名稱、事務所ノ所在地及代表者ノ住所氏名以下之ニ同シ)

二 製造ノ目的、瓦斯ノ種類及名稱、作業ノ工程並ニ一日内ニ製造スベキ最大數量

三 製造所ノ位置及附近ノ狀況(圖面ヲ添附スルコト)

四 製造所ノ設備

イ 全體ノ配置圖

ロ 作業室ノ構造及設備(圖面ヲ添附スルコト)

ハ 壓縮機ノ種類、型式、構造(回轉數、ピストン行程、氣筒内徑、段數)、能力(各段ノ壓力、毎時壓縮量)、製作所名、製作年月及經歷(壓縮機ノ圖面ヲ添附スルコト)

ニ 瓦斯分離裝置、電槽及其ノ他ノ設備ヲ表ハシタル圖面

ホ 壓力計ノ型式、目盛及箇數

ヘ 瓦斯メーターノ型式及箇數

三一九



ト 耐壓試驗裝置ノ構造、能力及臺數

チ 瓦斯分析裝置及其ノ箇數、分析方法並ニ分析瓦斯採取箇所

リ 瓦斯溜ノ型式、構造、容量及外部ノ塗裝

ス 充填シタル容器ノ貯藏室、貯藏方法及最大貯藏數量

五 原料ノ種類、貯藏方法及最大貯藏數量

六 作業主任者ノ氏名及履歷

七 職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規程

第五條 百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯  
(壓縮瓦斯ト液化瓦斯ト共ニ貯藏スル場合ハ壓縮瓦斯一立方メートル  
ヲ液化瓦斯十キログラムト看做ス以下之ニ同ジ)ヲ貯藏セントスル者ハ  
左ノ事項ヲ具シ貯藏所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一 住所、氏名、生年月日及職業

二 貯藏所ノ位置、設備及附近ノ狀況

三 貯藏スベキ瓦斯ノ種類、名稱、最大數量及貯藏方法

第六條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サントスル者ハ第二項ニ規  
定スル場合ヲ除クノ外左ノ事項ヲ具シ販賣所所在地ノ地方長官ニ申請ス  
ベシ

一 住所、氏名、生年月日及職業

二 販賣スベキ瓦斯ノ種類及名稱

三 販賣所、貯藏室及詰替所ノ位置、設備及附近ノ狀況

四 貯藏スベキ瓦斯ノ種類、名稱、最大數量及貯藏方法

壓縮酸素瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サントスル場合ニシテ其ノ貯藏數量五立方  
メートルヲ超エザルトキハ前項各號ノ事項ヲ具シ販賣所所在地ノ地方長

官ニ届出ヅベシ其ノ具シタル事項ヲ變更シ又ハ其ノ業ヲ廢止シタルトキ  
亦同ジ

第七條 前三條ノ規定ニ依リ申請書ニ具シタル事項ヲ變更セントスルトキ  
ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ住所、氏名、職業、第四條第一項第四  
號ホ、ヘ又ハ同項第七號ノ事項ニ付テハ其ノ變更ノ日ヨリ二十日以内ニ  
地方長官ニ届出ヅベシ

前三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ開始シ若ハ廢止シ又ハ一  
月以上休止セントスルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ

第八條 第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業ヲ相續又ハ法人  
ノ合併ニ因リ繼承シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ届出ヅベシ

第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業ヲ讓渡セントスルトキ  
ハ關係者連署ノ上地方長官ニ申請スベシ

第三章 作業主任者

第九條 一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所  
ニハ作業主任者トシテ化學主任者免狀ヲ有スル者及機械主任者免狀ヲ有  
スル者ヲ置クベシ但シ製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造  
所ニ在リテハ化學主任者免狀ヲ有スル者ヲ、壓縮機ヲ使用セズシテ瓦斯  
ヲ液化スル製造所ニ在リテハ機械主任者免狀ヲ有スル者ヲ置カザルコト  
ヲ得

第十條 前條ノ化學主任者免狀及機械主任者免狀ハ左ノ通トス

甲種化學主任者免狀

總テノ製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

乙種化學主任者免狀

一 時間ニ付千立方メートル以下ノ瓦斯ヲ攝氏三十五度ニ於テ二百氣壓

以下ニ壓縮スル製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得

丙種機械主任者免狀

製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニ於テ作業主任者  
タルコトヲ得

第十一條 化學主任者免狀及機械主任者免狀ハ左ノ資格ヲ有シ且壓縮瓦斯  
及液化瓦斯取締法令ノ知識ヲ有スル者ニ就キ本人ノ申請ニ依リ内務大臣  
給與ノ上之ヲ交付ス

甲種化學主任者免狀

一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ應用化學ニ關スル學科ヲ專  
修シタル卒業生ニシテ一年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ作業ニ從  
事シタル者

二 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上  
ノ學識經驗ヲ有スル者

乙種化學主任者免狀

一 工業學校(尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年  
又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ)

又ハ之ト同等以上ノ學校ノ應用化學ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業生  
ニシテ一年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ作業ニ從事シタル者

第十二條 地方長官官保安上必要アリト認ムルトキハ作業主任者ノ變更ヲ命  
ズルコトヲ得

丙種機械主任者免狀

製氷又ハ冷凍用ノ壓縮機取扱ノ作業ニ六月以上從事シタル者

前項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル免狀ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ  
事由ヲ具シ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前二項ノ申請ハ申請者ノ住所地ノ地方長官ヲ經由スベシ

内務大臣官保安上必要アリト認ムルトキハ免狀ノ返納ヲ命ズルコトアルベ  
シ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

三三一



第四章 作業上ノ制限

第十三條 第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ設備ニ付検査ヲ受ケ合格スルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十四條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者容器ニ瓦斯ヲ充填シタルトキハ製造所ニ於テ其ノ都度別記第一號様式ニ依リ充填日誌ニ所定ノ事項ヲ記録スベシ

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ詰替ハ之ヲ充填ト看做ス

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者瓦斯ノ授受ヲ爲シタルトキハ製造所ニ於テ其ノ都度別記第二號様式ニ依リ容器臺帳ニ所定ノ事項ヲ記録スベシ

第十五條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ貯藏者、輸入者又ハ販賣業者瓦斯ノ授受ヲ爲シタルトキハ其ノ都度別記第三號様式ニ依リ取引簿ニ所定ノ事項ヲ記録スベシ但シ販賣業者ニシテ製造業者ヲ兼ヌル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造所ノ構造及設備ハ左ノ制限ニ從フベシ但シ第四號、第五號及第十號ノ制限ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 製造所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ製造所ノ標示ヲ爲スコト

二 可燃性又ハ支燃性ノ瓦斯ヲ製造シ又ハ其ノ壓縮、液化若ハ充填ヲ爲ス作業室並ニ其ノ瓦斯及引火又ハ發火ノ虞アル原料ノ貯藏室ハ不燃性材料ヲ以テ築造シ其ノ照明裝置ハ電燈ヲ用ヒ且外部見易キ場所ニ火氣ニ對スル警戒標示ヲ爲スコト

三 毒性瓦斯發散ノ虞アル作業室及貯藏室ハ換氣ヲ完全ニシ且發散瓦斯ノ排氣又ハ吸收裝置ヲ爲スコト

四 五立方メートル以上ノ瓦斯ヲ常時收納スル瓦斯溜ハ鐵材ヲ用ヒ氣密ニ構造シ瓦斯放出裝置ヲ施シ可燃性瓦斯溜ニ在リテハ赤色ノ塗料ヲ、不燃性又ハ支燃性瓦斯溜ニ在リテハ黑色ノ塗料ヲ其ノ外部ニ塗布シ且可燃性瓦斯溜ノ出口ニハ逆火ヲ防止スルニ足ル安全裝置ヲ施スコト

五 瓦斯壓縮機ト瓦斯ヲ容器ニ充填スル場所トノ間ニハ高さ二・五メートル以上厚サ十センチメートル以上ノ煉瓦壁又ハ之ニ相當スル強サヲ有スル障壁ヲ設クルコト

六 アセチレン瓦斯ヲ發生セシメ又ハ之ヲ溶解ニ溶解セシムル爲ニ使用スル機械器具類ノアセチレン瓦斯ニ接觸スル部分ニハ銅ヲ使用セザルコト

七 水ノ電氣分解ニ依リ酸素又ハ水素ノ製造ニ要スル發電機、開閉器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ赤熱スルノ虞アル器具ノ類ハ電槽室又ハ壓縮機室以外ノ場所ニ之ヲ設置シ其ノ電路ニハ電槽ニ生ズル逆電流ニ依リ發電機磁極ノ逆變ヲ防グベキ適當ノ自動裝置ヲ爲スコト

八 可燃性瓦斯ノ發生室及壓縮機室ニ電氣裝置ヲ爲ス場合ニハ發火ヲ誘致スルノ危險ヲ防止スルニ必要ナル設備ヲ爲スコト

九 瓦斯ノ貯藏、壓縮、液化、充填、耐壓試驗等ニ使用スル溫度計、瓦斯メーター又ハ壓力計ハ度量衡法第八條ノ規定ニ抵觸セザルモノヲ使用シ且壓力計ハ常用壓力ノ一倍半以上二倍以下ノ最高目盛アルモノヲ使用スルコト

十 製造所内ノ機械、裝置及導管ニシテ常用壓力十氣壓以上ノモノハ毎

年一回以上其ノ常用壓力ニ其ノ二分ノ一以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試驗ヲ行ヒタルモノナルコト

前項第九號ノ壓力計ハ別ニ標準壓力計二箇以上ヲ備ヘ之ニ據リ毎月一回以上其ノ機能ヲ試驗スベシ

前項ノ標準壓力計ニ付テハ毎年一回以上中央度量衡檢定所ノ比較検査ヲ受ケ且其ノ検査成績書ノ交付ヲ受クベシ但シ地方長官ノ検査ニ合格シタル壓力計試驗機ニ依リ毎月一回以上試驗ヲ行ヒ其ノ誤差度量衡法施行令第十條ニ規定シタル公差ノ二分ノ一ヲ超エザルモノヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ壓力計試驗機ノ分銅ニ付テハ五年ニ一回中央度量衡檢定所ノ比較検査ヲ受クベシ

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ詰替所ノ構造及設備ニ付テハ第一項第二號及第三號ノ規定ヲ準用ス

第十七條 瓦斯ノ壓縮又ハ液化作業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 作業者手前分析ヲ行ヒ可燃性瓦斯中ニ酸素容量ニパーセント以上、酸素瓦斯中ニ可燃性瓦斯容量ニパーセント以上ヲ含有スルモノハ壓縮セザルコト

二 水ノ電氣分解ニ依リ酸素又ハ水素ヲ製造スルトキハ電槽ヨリ出ヅル瓦斯及精製裝置通過直後ノ瓦斯、他ノ製造方法ニ依リ水素其ノ他ノ可燃性瓦斯ヲ製造スルトキハ其ノ製造裝置ヨリ出ヅル瓦斯及精製裝置通過直後ノ瓦斯ニ就キ一時間毎ニ分析ヲ行ヒ其ノ收納シタル瓦斯溜ノ瓦斯ハ瓦斯溜ノ出口ニ近キモノニ就キ一日二回以上分析ヲ行ヒ其ノ成績ハ分析者名ト共ニ之ヲ記録スルコト

三 酸化性ヲ有スル瓦斯ノ壓縮機ノ内部潤滑劑ニハ油、脂肪又ハ濃厚ナルグリセリンヲ使用セザルコト

四 作業室内ノ機械、裝置、導管等ノ内部ニ異物ノ蓄積ナカラシムルコト

第十八條 第十六條第一項第二號及第三號ノ規定ハ製造所以外ノ場所ニ於ケル二十立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ二百キログラム以上ノ液化瓦斯ノ貯藏室又ハ貯藏所ニ之ヲ準用ス

前項ノ貯藏室又ハ貯藏所ニハ見易キ場所ニ其ノ標示ヲ爲スベシ

第十九條 一日ニ付十立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ノ作業室及貯藏室、可燃性、支燃性又ハ毒性瓦斯ヲ收納スル容量五立方メートル以上ノ瓦斯溜並ニ百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯ノ貯藏室又ハ貯藏所ヲ新設セントストキハ其ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ有セシムベシ

一 宮城、離宮、御用邸、神宮又ハ皇陵ハ四百メートル以上

二 社寺、公園、學校、寄宿舎、病院、劇場其ノ他多衆ヲ收容スベキ建造物ハ百メートル以上

前項ノ施設ハ其ノ外側ヨリ前項第一號ニ掲グルモノハ二百メートル以上、前項第二號ニ掲グルモノ及人家ハ二十メートル以上ノ距離ヲ保有スベシ

第二十條 地方長官ハ所在地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ申請ニ依リ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得



第二十一條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ充填作業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 壓縮瓦斯ニ在リテハ最高充填壓力以上ノ壓力アル瓦斯ヲ充填シ又ハ液化瓦斯ニ在リテハ第二十三條第六號ノ充填重量ヲ超エテ充填セザルコト
- 二 アセチレン瓦斯ヲ充填スルトキハ豫メ容器内ニ多孔質物ヲ均等ニ詰メ之ニ溶劑ヲ均等ニ浸潤セシムルコト
- 三 アセチレン瓦斯ハ攝氏十五度ニ於テ十五氣壓ヲ超ユル壓力ヲ以テ充填セザルコト
- 四 アセチレン瓦斯以外ノ瓦斯ヲ充填スルトキハ豫メ其ノ内部ヲ照明検査シ塵埃、鐵片其ノ他ノ異物アルトキハ之ヲ除去スルコト
- 五 酸素瓦斯又ハ空氣ヲ充填スルトキハ豫メ容器ノ瓦斯ニ接觸スベキ部分ノ油脂類ヲ洗除シ且容器ニ可燃性緊塞材料ヲ使用セザルコト
- 六 容器ノ瓦斯開閉裝置及之ニ取付クル導管ノ凍塞ヲ融解シ又ハ液化瓦斯ノ容器ヲ充填ノ爲ニ加熱スルニハ熱濕布又ハ攝氏四十度以下ノ溫湯ヲ以テスルコト
- 七 瓦斯開閉裝置ノ突出セル容器ニハ瓦斯充填後其ノ損傷ヲ防グニ足ルベキ鐵製ノ小孔アル帽蓋ヲ螺著スルコト但シ内容積五リットル未満ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 八 瓦斯ヲ充填シタル容器ニハ外面見易キ箇所ニ瓦斯ノ名稱、充填者ノ住所氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、充填場所及充填年月日並ニ壓縮瓦斯(アセチレン瓦斯ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ攝氏三十五度ニ於ケル壓力、液化瓦斯ニ在リテハ容器ノ重量(瓦斯開閉裝置、帽蓋等附屬物ノ

第五章 容器

第二十三條 左ノ各號ニ該當シ當該官廳ヨリ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ非ザレバアセチレン瓦斯、攝氏三十五度ニ於テ二十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル他ノ壓縮瓦斯及總テノ液化瓦斯ヲ充填スルコトヲ得ズ

- 一 材料ニハ鋼又ハ鐵ヲ用フルコト但シ壓縮酸素瓦斯又ハ液化炭酸瓦斯ヲ充填スル小容器ニシテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタル者ノ製造シタル輕合金製ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 大容器ヲ除クノ外雜目ナク製作シタルモノナルコト
- 三 熔接シタル大容器ハ内務大臣ノ指定シタル者ノ熔接シ熔接後適當ナル方法ニ依リ燒鈍シタルモノナルコト
- 四 大容器ハ別ニ定ムル屈曲試驗及延伸試驗ニ合格シタル材料ヲ以テ製作シ中容器及小容器ハ別ニ定ムル壓潰試驗及延伸試驗ニ合格シタルモノナルコト
- 五 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ攝氏十五度ヲ標準トセル充填壓力ノ三倍以上ノ壓力、其ノ他ノ壓縮瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ攝氏三十五度ヲ標準トセル充填壓力ニ其ノ三分ノ二以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試驗(容器ノ耐壓試驗ハ水壓ニ依リ以下之ニ同シ)ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル内容積ノ恒久増加ガ全増加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ノモノナルコト
- 六 左ノ液化瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ各表示ノ耐壓試驗壓力以上ノ壓力ニ對シ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル内容積ノ恒久増加ガ全増加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ナルコトノ外充填物ノ重量一キログラムニ對シ各表示ノ内容積以上ヲ有スルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	耐壓試驗壓力	内容積
炭酸瓦斯	二〇〇氣壓	リットル 一・三四
亞酸化窒素瓦斯	二〇〇	一・三四

アンモニア瓦斯	塩素瓦斯	亞硫酸瓦斯	ホスゲン瓦斯	油瓦斯	プロパン瓦斯	クロルメチル瓦斯	クロルエチル瓦斯
三〇	二五	二〇	二五	二〇〇	三〇	二〇	一五
一・八六	〇・八	〇・八	〇・八	二・五	二・三五	一・二五	一・二五

- 七 瓦斯開閉裝置ハ充填瓦斯ニ依リ浸蝕セラレザル材料ヲ以テ作りタルモノナルコト
- 八 瓦斯開閉裝置ニハ容器ノ耐壓試驗壓力ノ十分ノ八ノ壓力ニ耐ヘザル安全裝置ヲ備フルコト
- 九 瓦斯充填口及放出口ノホチハ可燃性瓦斯ヲ充填スベキ容器ニ在リテハ左回轉、其ノ他ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ニ在リテハ右回轉タルコト
- 十 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ノ安全裝置、瓦斯開閉裝置等瓦斯ト接觸スル部分ニハ鋼ヲ用ヒザルコト
- 十一 外部ニ損傷ヲ生ジタル容器又ハ最近ノ耐壓試驗後三年(大容器及輕合金ヲ以テ製作シタル小容器ニ在リテハ二年)ヲ經過シタル容器ハ第五號又ハ第六號ノ規定ニ依リ更ニ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト



十二 容器ハ其ノ見易キ箇所ニ容器番號(記號アルモノハ之ヲ合ム以下之ニ同シ)、耐壓試驗年月日、容器製造所ノ名稱又ハ其ノ符號、充填シ得ベキ瓦斯ノ名稱並ニ液化瓦斯ノ容器ニ在リテハ耐壓試驗壓力及其ノ内容積、壓縮瓦斯ノ容器ニ在リテハ最高充填壓力ヲ鮮明ニ刻印セルモノナルコト

十三 左ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ其ノ外面ヲ各表示ノ色別ニ塗裝シ其ノ他ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ其ノ外面ニ充填スベキ瓦斯ノ名稱ヲ記載シタルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	色
酸素瓦斯	黒
水素瓦斯	赤
炭酸瓦斯	緑
アンモニア瓦斯	白
塩素瓦斯	黄
アセチレン瓦斯	褐

第二十四條 大容器ニ關スル前條第四號ノ屈曲試驗及延伸試驗ハ材料タル鑄塊ヲ具ニスル毎ニ作リタル試驗片ニ就キ之ヲ行フ

中容器及小容器ニ關スル前條第四號ノ耐壓試驗及延伸試驗ハ同一製造所ニ於テ同一鑄塊ノ材料ヨリ製作シタル同形ノ容器ニシテ製作時期一月以上ヲ隔テザル百箇以內ノ一群ノモノノ中ヨリ任意一箇(小容器ニシテ必

容器ノ授受ヲ爲シタルトキハ讓渡人ハ其ノ容器證明書ヲ容器ト共ニ讓渡シ讓受人ハ運滯ナク容器證明書ニ裏書ヲ爲スベシ

容器證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ所有者ハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ交付シタル官廳ニ對シ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

容器ノ使用ヲ廢止シタルトキハ所有者ハ其ノ旨地方長官ニ届出テ容器證明書ヲ返納スベシ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法第三條第三項ノ規定ニ依リ容器ノ使用ヲ禁止セラレタルトキ亦同シ

第二十八條 前條第二項ノ容器證明書ヲ有スル容器ニ付其ノ充填シ得ベキ瓦斯ノ種類、名稱又ハ最高充填壓力ヲ變更セントスルトキハ所有者ハ大容器ニ在リテハ内務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ得テ第二十三條第十二號ノ刻印ヲ改訂シ又ハ同條第十三號ノ塗色若ハ瓦斯ノ名稱ノ記載ヲ變更スベシ

當該官廳前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ容器證明書ノ記載事項ヲ改訂ス

第二十九條 容器ノ製造、輸入又ハ販賣ノ業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ニ届出ヅベシ

前項ノ製造業者又ハ輸入業者ハ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ付左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 容器ノ種類、充填瓦斯ノ種類及名稱、容器製造所ノ名稱(輸入シタル容器ニ限ル)、容器番號、内容積並ニ製造年月日

二 耐壓試驗及延伸試驗ノ場所、年月日及成績並ニ試驗ニ供シタル容器ノ容器番號

三 耐壓試驗ノ場所、年月日及成績

四 材料トシテ使用シタル鑄塊ノ製造業者

要アル場合ハ任意二箇ヲ抽出シテ之ヲ行ヒ合格シタルトキハ其ノ一群ニ屬スル殘餘ノ全部ヲ合格品トシ若シ合格セザルトキハ全部ヲ不合格品トス

第二十五條 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ニシテ第二十三條第十一號ノ規定ニ依リ行フ耐壓試驗ハ製造所、内容積、形狀及製造年月ヲ同シクスルモノノ中ヨリ任意一箇ヲ抽出シテ之ヲ行ヒ合格シタルトキハ殘餘ノモノニ對スル試驗ヲ省略シ合格品トシ若シ合格セザルトキハ全部ニ對シ試驗ヲ行フベシ

前項ノ試驗ハ容器所有者ノ申請ニ依リ各箇ノ容器ニ付多孔質物及溶劑ヲ詰メタル儘酸含有量一パーセント以下ノ窒素瓦斯ヲ以テ行ヒ之ニ代フルコトヲ得

第二十六條 第二十三條第四號乃至第六號及第十一號ノ試驗ハ容器ノ製造者又ハ所有者ノ申請ニ依リ大容器ニ在リテハ内務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ノ行フ此ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ其ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 容器ノ所有者ハ容器證明書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ構造(設計及材料ヲ含ム)、製作工程及製造所ノ設備ニ關スル事項ヲ具シ大容器ニ在リテハ内務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ニ申請スベシ

當該官廳前項ノ規定ニ依リ申請シタル容器ニ付第二十三條各號ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別記第四號様式ノ容器證明書ヲ交付ス

第二十三條第十一號ノ試驗ニ合格シタルトキハ當該官廳ハ其ノ容器證明書ニ之ヲ記入スルモノトス

容器證明書ハ容器ノ所有者ニ於テ之ヲ保管スベシ

五 容器ヲ讓渡シタルトキハ讓渡年月日及讓渡先

第三十條 容器ノ製造業者、輸入業者又ハ販賣業者ハ毎年一月末日迄ニ別記第五號様式ニ依リ其ノ前年末ニ於ケル容器ノ現存數量及前年中ニ製造、輸入又ハ販賣ヲ爲シタル容器ノ數量ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

第三十一條 左ノ各號ニ該當スル容器ニ非ザレバ攝氏三十五度ニ於テ二十氣壓未滿ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯ヲ充填スルコトヲ得ズ

一 第二十三條第七號、第九號、第十二號及第十三號規定ノ事項

二 攝氏三十五度ヲ標準トセル充填壓力ノ三倍以上ノ壓力ヲ以テスル耐壓試驗ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且膨脹均一ノモノナルコト

三 外部ニ損傷ヲ生ジタルモノ又ハ最近ノ耐壓試驗後三年ヲ經過シタルモノニ在リテハ前號ノ規定ニ依リ更ニ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト

第三十二條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ輸入又ハ移入シタル場合ニ於テハ其ノ容器ガ充填瓦斯ノ種類又ハ壓力ニ應ジ第二十三條各號又ハ前條各號ノ規定ニ適合スルニ非ザレバ之ヲ授受又ハ運搬スルコトヲ得ズ

第六章 手数料

第三十三條 容器證明書、化學主任者免狀及機械主任者免狀ノ交付又ハ再交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ手数料ヲ納付スベシ

容器證明書	容 器 種 別		
	大 容 器	中 容 器	小 容 器
交付(容器一枚)	内容積一立方メートル以上五立方メートル以下	内容積一立方メートル以下	内容積一立方メートル以下
	三圓	三圓	一圓











(裏) 備考

一 材料	四 刻印ノ完否
二 外部損傷ノ有無	五 塗 色
三 安全装置ノ種類	六 其 ノ 他

耐壓試験成績

年月日	試験壓力 (氣 壓)	容 積 (リットル)	全増加 (立方寸)	恒久増加 (立方寸)	恒久増加ノ全 増加ニ對スル 割合(%)	試験場所	係官又ハ 試験者ノ 氏名印	備 考

容器所有者

讓受年月日					
住 所					
氏 名					

**銃砲火藥類取締令**  
 大正元年八月二十一日  
 制令第三號

銃砲火藥類取締令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

第一條 軍用銃砲ハ之ヲ製造又ハ改造スルコトヲ得ス

備考

- 一 容器製造所ノ名稱欄ハ輸入業者ニ限リ之ヲ記載スベシ
- 二 容器ノ種類欄ニハ大、中、小ノ種別ヲ記載スベシ
- 三 充填瓦斯ノ種類欄ニハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ種別ヲ記載スベシ
- 四 充填瓦斯ノ名稱欄ニハ酸素、水素、アンモニア等其ノ名稱ヲ記載スベシ

第五號様式 (壓縮瓦斯及液化瓦斯取) 壓縮(液化)瓦斯容器製造(輸入、販賣)届

年 月 日

住 所

氏 名

容器製造所ノ名稱	容器ノ種類	容 積	充 填 瓦 斯 類	充 填 瓦 斯 前 年 中 製 造 現 存 高 數 量

〔輯六五〕

(裏) 耐壓試験成績

年月日	試験壓力 (氣 壓)	容 積 (リットル)	全増加 (立方寸)	恒久増加 (立方寸)	恒久増加ノ全 増加ニ對スル 割合(%)	試験場所	係官又ハ 試験者ノ 氏名印	備 考

容器所有者

讓受年月日					
住 所					
氏 名					

(大容器圖面添附)

第四號様式ノ二 (壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法) 施行令第二十七條第二項

第 號 壓縮(液化)瓦斯中(小)容器證明書

本容器ハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

年 月 日

應 府 縣 名 圖

〔輯六五〕

壓縮試驗及延 伸試驗施行 場所	日 時	容 器 番 號	容 器 ノ 重 量	容 器 ノ 内 容 積	充 填 瓦 斯 ノ 名 稱	容 器 所 有 者	
						住 氏	名 所



非軍用銃砲ノ製造又ハ改造ハ銃砲製造業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 火藥類ハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

火藥類ノ變形又ハ修理ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 銃砲、火藥類ノ輸出入又ハ移出輸入行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 銃砲ノ讓渡又ハ讓受ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ銃砲製造業者又ハ銃砲販賣業者カ非軍用銃砲ノ讓渡又ハ讓受ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ火藥類販賣業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 非軍用銃砲ノ製造若ハ販賣又ハ火藥類ノ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルヘシ但シ銃砲製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル非軍用銃砲ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル者ハ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ非軍用銃砲ノ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做ス

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ販賣スルコトヲ得ス

第八條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ作業所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲火藥類ノ作業所若ハ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ輸出入又ハ移出輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶又ハ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十一條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十二條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

- 一 本令ノ適用ヲ受ケルヘキ銃砲、火藥類ノ範圍
- 二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱
- 三 銃砲、火藥類ノ取扱人ニ關スル事項
- 四 銃砲、火藥類ノ作業所及貯藏所ニ關スル事項
- 五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十三條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ武器又ハ爆發物物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本令ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ朝鮮總督ハ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲シタル許可ヲ取消シ又ハ許可シタル事業若ハ行爲ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

〔日本〕

〔日本(1111)號〕

一 銃砲ノ製造改造修繕、火藥類ノ變形修理又ハ銃砲、火藥類ノ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス又ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ

二 不實ノ申告ヲ爲シ許可ヲ受ケタルトキ

三 許可ヲ受ケタル者法令ニ違反シタルトキ

四 許可ヲ受ケタル者安寧秩序ヲ害スルノ虞アルトキ

第十五條 第一條乃至第三條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第六條ノ營業ヲ爲シ、第九條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ若ハ第四條ノ規定ニ違反シテ軍用銃砲ノ讓渡、讓受ヲ爲シタル者又ハ不實ノ申告ヲ爲シ本令ニ依ル許可ヲ受ケタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項、第二條第一項若ハ第三條ノ規定ニ違反スル罪又ハ第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反スル罪ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十六條 第四條ノ規定ニ違反シテ非軍用銃砲ノ讓渡若ハ讓受ヲ爲シ、第五條ノ規定ニ違反シ又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第八條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第八條第一項若ハ第十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十二條 大正元年制令第四號第三條ノ規定ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

朝鮮刑事令第一條中爆發物取締則ハ本令ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

本令施行前銃砲修繕業若ハ銃砲、火藥類販賣業ノ許可ヲ受ケタル者又ハ銃砲、火藥類ノ輸出入、移出輸入、讓渡若ハ讓受ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

●銃砲火藥類取締令施行規則

三二九

(大正元年朝鮮總督府令第二十四號) 以テ同年十二月一日ヨリ施行







二 警察ニ非スシテ他人ノ爲銃砲ノ修繕ヲ爲ス者  
 三 銃砲販賣業者  
 四 銃砲ノ輸入ヲ爲シタル者  
 五 銃砲ヲ譲受ケタル者  
 六 運送業者  
 七 拳銃又ハ仕込銃ヲ運搬又ハ携帯スル者  
 八 第一號乃至第三號及第六號ニ掲グル者ノ從業者  
 銃砲ヲ所持スル者廢業、認可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ノ一ニ該當セサルニ至リタルトキハ讓渡又ハ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ銃砲ノ種類、數量及所持ノ目的ヲ、前項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ銃砲ノ種類、數量並處分ノ方法、期間及事由ヲ記載スヘシ

第十八條 前條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者並同條同項第四號及第五號ニ掲グル者住所氏名ヲ變更シタルトキハ十日内ニ所轄警察署長ニ届出ツヘシ

第十九條 拳銃又ハ仕込銃ヲ運搬シ又ハ携帯セムトスル者ハ其ノ種類、數量、事由並運搬ノ場合ニ在リテハ運搬ノ日時、方法、通路及發着ノ場所ヲ具シ運搬ニ付テハ發送地ヲ、携帯ニ付テハ住所地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケヘシ但シ職務又ハ銃砲ニ關スル警察ノ爲ニスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ携帯ノ許可ヲ受ケタル者ハ携帯中許可證ヲ携帯シ警察官吏ノ請求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第二十條 銃砲ノ輸出入、讓渡、讓受、所持、運搬若ハ携帯ノ許可又ハ處分ノ認可ヲ爲ストキハ様式第七號乃至第九號、第十四號、第十六號若ハ第十七號ノ許可證又ハ様式第十五號ノ認可證ヲ交付ス

第二十一條 銃砲ニ關スル許可證又ハ認可證ハ許可又ハ認可力取消サレ又ハ效力ヲ失ヒタルトキハ十日内ニ交付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

銃砲ニ關スル許可證又ハ認可證ノ喪失又ハ盜難アリタルトキハ運搬ナク許可證又ハ認可證ノ種類及交付シタル官廳名ヲ最寄警察官吏ニ届出ツヘシ

許可證又ハ認可證ノ喪失、盜難又ハ毀損アリタルトキハ交付シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第二十二條 銃砲ヲ所持スル者其ノ銃砲ヲ廢棄セムトスルトキハ所轄警察署長ニ届出ツヘシ但シ第十七條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 火藥類

第一節 總則

第二十三條 銃砲火藥類取締令ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ掲グル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

一 火藥 黑色火藥及無煙火藥ノ類  
 二 爆藥 起爆劑及各種爆藥  
 三 火工品 實包、空包、雷管、發熱導火線(三十センチメートルノ燃焼時間十秒以上ヲ要スルモノ)、煙火其ノ他火藥又ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク

第二十四條 第三十五條、第五十二條、第六十四條、第六十五條及第七十

運搬ノ規定ハ發熱導火線ニ之ヲ適用セス

第三十一條、第三十二條、第三十五條乃至第三十七條、第四十七條、第五十二條及第五十九條並銃砲火藥類取締令第三條及第五條ノ規定ハ煙火發射機付用煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

第二十五條 火藥類ニ關スル許可證又ハ認可證ハ許可又ハ認可力取消サレ又ハ效力ヲ失ヒタルトキハ十日内ニ交付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

火藥類ニ關スル許可證又ハ認可證ノ喪失又ハ盜難アリタルトキハ運搬ナク許可證又ハ認可證ノ種類及交付シタル官廳名ヲ最寄警察官吏ニ届出ツヘシ

許可證又ハ認可證ノ喪失、盜難又ハ毀損アリタルトキハ交付シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第二節 變形修理

第二十六條 火藥類ノ變形又ハ修理ヲ爲サントスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケヘシ

第二十七條 罰則

第二十八條 罰則

第二十九條 罰則

第三十條 罰則

第三節 輸出入及販賣

第三十一條 火藥類輸出入ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ輸移入スヘキ火藥類ノ種類數量及貯藏方法、輸移入ノ目的及方法、仕入先、輸移入地並輸移入後定年月日ヲ、火藥類輸移出ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ輸移出スヘキ火藥類ノ種類數量及貯藏方法、輸移出ノ目的及方法、輸移出先、輸移出

地並輸移出後定年月日ヲ具シ輸移出入地ヲ管轄スル道知事ニ申請スヘシ

火藥類ノ輸出入ハ開港又ハ大正十二年朝鮮總督府令第四十八號第三條ニ指定スル港ニ於テ之ヲ爲スヘシ

火藥類ヲ輸移入シタル者ハ輸移入ノ時ヨリ二十四時間内ニ其ノ種類、數量及日時ヲ輸移入地ヲ管轄スル警察署長ニ届出ツヘシ

第三十二條 火藥類ヲ積載シタル船舶朝鮮外ヨリ朝鮮各港ニ入港シタルトキハ運搬ナク積載スル火藥類ノ種類、數量、積載地、陸揚地及積載ノ目的ヲ其ノ地最寄警察官吏ニ届出ツヘシ但シ開港ニ入港スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條ノ二 火藥類販賣業ヲ別チテ甲及乙ノ二種トス

甲種火藥類販賣業者ハ業トシテ火藥類ノ卸賣ヲ爲スコトヲ得ス

乙種火藥類販賣業者ハ業トシテ火藥類ノ小賣ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲グル數量ヲ一回ニ賣渡ス場合及導線ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 工業用黑色火藥 四百五十キログラム以上  
 二 爆藥 四百五十キログラム以上  
 三 工業用雷管 四千箇以上  
 四 發熱導火線 四千メートル以上

第三十三條 火藥類販賣業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ住所、氏名、年齢及職業、甲種又ハ乙種ノ別、販賣所ノ位置、貯藏所ノ位置、設備及貯藏ノ方法並營業開始期日ヲ具シ所轄道知事ニ申請スヘシ

第三十四條 前條ニ規定スル申請書ニ記載シタル事項中住所、氏名及職業ヲ變更シタルトキハ十日内ニ許可官廳ニ届出ツルヲ以テ足ル



第三十四條ノ二 火藥類販賣所ニシテ支店又ハ出張所タルモノニハ支配人又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置クヘシ  
火藥類販賣業者前項ノ規定ニ依リ支配人又ハ之ニ準スヘキ者ヲ置キタルトキハ十日内ニ其ノ氏名ヲ具シ所轄通知事ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

通知事ハ第一項ノ支配人又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ不適當ト認ムル者アルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十四條ノ三 朝鮮總督又ハ道知事ハ火藥類ノ販賣方法ニシテ不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ制限シ其ノ他取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ道知事ノ許可ヲ受ケ倉庫若ハ假貯藏所ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ火藥庫ヲ備ヘサルコトヲ得

第三十六條 火藥類販賣業者ハ様式第三號及第四號ノ帳簿ヲ備フヘシ

第三十七條 火藥類販賣業者ハ毎月様式第六號ニ依ル届書ヲ調製シ翌月十日迄ニ所轄警察署長ニ提出スヘシ

火藥類販賣業者ハ第四十四條第一項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證ヲ毎月其ノ月分ヲ取纏メ前項ノ規定ニ依ル届出同時ニ所轄警察署長ニ之ヲ提出スヘシ

第三十八條 火藥類販賣業者ハ其ノ營業所ニ甲種又ハ乙種別ノ營業名及住所氏名ヲ記載シタル看板ヲ掲グヘシ

第三十九條 相續ニ依リ火藥類販賣業ヲ承継シタル者ハ十日内ニ甲種又ハ乙種別ノ營業名、被承継者ノ住所氏名、承継者ノ住所氏名年齢職業及相

續ノ年月日ヲ許可官廳ニ届出ツヘシ

第三十九條ノ二 火藥類販賣業者三月以上其ノ營業ヲ休止セントスルトキハ其ノ期間及事由ヲ具シ豫メ許可官廳ニ届出ツヘシ

第四十條 火藥類販賣業者廢業シタルトキハ十日内ニ許可官廳ニ届出ツヘシ

火藥類販賣業者死亡シタルトキハ十日内ニ戸主又ハ家族ヨリ許可官廳ニ届出ツヘシ但シ「前條」ノ規定ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 火藥類販賣ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、數量及事由ヲ具シ住所地方管轄スル警察署長ニ申請スヘシ

火藥類販賣ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、數量、用途、消費ノ日時及場所並貯藏ノ方法ヲ具シ其ノ消費地ヲ管轄スル警察署長ニ申請スヘシ但シ消費地ニ以上ノ警察署ノ管轄ニ跨ルトキハ主タル消費地ヲ管轄スル警察署長ニ、消費地一定セス又ハ朝鮮外ナルトキハ住所地方管轄スル警察署長ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニ記載スヘキ火藥類ノ數量ハ一年内ニ消費シ得ヘキ數量ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 削除

第四十三條 火藥類販賣業者ハ讓受ノ許可ヲ受ケサル者ニ火藥類ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 火藥類讓受ノ許可證ハ讓受ノ際之ヲ讓渡人公賣又ハ競賣ノ場競賣ス、其ノ讓渡ノ許可證ハ讓渡ノ際之ヲ讓受人ニ交付スヘシ

〔輯二二八〕

〔輯二二八〕

火藥類販賣業者ニ非サル者前項ノ許可證ノ交付ヲ受ケタルトキハ十日内ニ住所地方管轄スル警察署長ニ之ヲ提出スヘシ

第四十五條 火藥類ノ輸移出入、讓渡及讓受ノ許可ヲ爲ストキハ様式第七號、第八號、第十號乃至第十二號ノ許可證ヲ交付ス

第四十六條 第四十一條ノ規定ニ依リ火藥類讓受許可證ヲ有スル者ニ火藥類ヲ讓渡ス者ハ其ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ其ノ許可證ニ記入シ記名捺印ノ上讓渡シタル數量カ許可數量ニ達セサルトキハ其ノ許可證ヲ讓受人ニ返付スヘシ

第五節 取扱、運搬、所持及使用

第四十七條 火藥類販賣業者ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル取扱主任ヲ置クヘシ一年間七千五百キログラム以上ノ火藥又ハ三千七百五十キログラム以上ノ爆藥ヲ消費スル者亦同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥三千七百五十グラムヲ火藥七千五百グラムト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用シ消費ノ場所ニ以上アル場合ニ於テハ各消費場所ニ付亦之ヲ適用ス

火藥類取扱主任ハ火藥類ノ出納、授受、使用（讓業者續業ノ爲ニ使用スル場合ヲ除ク）、運搬、貯藏其ノ他火藥類ノ取扱ニ關スル事項ヲ掌ルモノトス

通知事ハ火藥類取扱主任ニシテ不適當ト認ムルモノアルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

特別ノ事由アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス道知事ノ許可ヲ受ケ火藥類取扱主任ヲ置カサルコトヲ得

第四十八條 火藥類取扱免狀ハ甲乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り本人ノ申請ニ依リ道知事並衛ノ上之ヲ交付ス

甲種

第九條 警察 衛生 第一章 警察 第九條 火藥類 販賣及渡化五章

一 甲種實業學校、之ト同等以上ノ學校又ハ朝鮮總督ノ指定スル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタル履歴ヲ有スル者

二 陸軍工科學校ニ於テ火工術ヲ専修シタル者又ハ陸軍若ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

三 銃砲火藥類取締法施行細則第四條ノ規定ニ依リ甲種火藥類取扱免狀ヲ受ケタル者

四 中學校若ハ實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタル履歴ヲ有スル者

五 乙種火藥類取扱免狀ノ交付ヲ受ケタル後引續キ二年以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタル履歴ヲ有スル者

六 朝鮮總督ノ指定スル機關ニ於テ火藥類及發破ニ關スル學術技能ヲ修得シタル者

七 朝鮮總督ノ指定スル試驗ニ合格シ一年以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタル履歴ヲ有スル者

乙種

一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタル履歴ヲ有スル者

二 朝鮮總督ノ指定スル機關ニ於テ火藥類及發破ニ關スル學術技能ヲ修得シタル者

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ本籍、住所、氏名、年齢、職業及免狀ノ種類ヲ記載シ戸籍抄本、履歴書及資格ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ



火藥類取扱免狀ハ各道ヲ通シテ其ノ效力ヲ有ス  
 通知事ハ火藥類取扱免狀ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ不適當ト認ムルモノ  
 アルトキハ免狀ノ返納ヲ命スルコトヲ得  
 第四十八條ノ二 火藥類取扱免狀ヲ有スル者本籍、住所及氏名ヲ變更シタ  
 ルトキハ十日内ニ火藥類取扱免狀ヲ交付シタル通知事ニ届出ツヘシ  
 火藥類取扱免狀ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ亡失又ハ毀損ノ年月日及事由  
 ヲ具シ毀損ノ場合ハ毀損シタルモノヲ添ヘ火藥類取扱免狀ヲ交付シタル  
 通知事ニ申請シ其ノ再交付ヲ受ケルコトヲ得  
 火藥類取扱免狀ヲ有スル者死亡シタルトキ又ハ行衛不明ト爲リタルトキ  
 ハ戸主、家族、同居人又ハ雇主ハ遲滞ナク死亡シ又ハ行衛不明ト爲リタ  
 ル年月日ヲ記載シタル届書ヲ添ヘ火藥類取扱免狀ヲ交付シタル通知事ニ  
 之ヲ返納スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ依リ火藥類取扱免狀ヲ返納スルコ  
 ト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疎明スヘシ  
 第四十九條 一年間二萬キログラム以上ノ火藥又ハ一萬三千キログラム以  
 上ノ爆藥ノ取扱主任ハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者ヲシテ之ニ任セシ  
 ムヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ數量ノ計算ニ付テハ第四十七條第二項ノ規定ヲ準用ス  
 第五十條 火藥類取扱主任ヲ選任シタルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、年  
 齡及選任年月日ヲ具シ履歷書及免狀寫ヲ添ヘ十日内ニ火藥類販賣業者ニ  
 在リテハ警察地ヲ管轄スル警察署長ニ、火藥消費者ニ在リテハ主たる消  
 費地ヲ管轄スル警察署長ニ届出ツヘシ  
 火藥類取扱主任ヲ解任シタルトキハ解任ノ年月日及事由ヲ具シ前項ノ區

【轉二二五】

第五十二條 第七十四條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ  
 超ユル火藥類ヲ運搬セントスル者ハ運搬スベキ火藥類ノ種類、數量、運  
 搬ノ日時方法通路及事由並ニ發着ノ場所及運搬中ノ看守ノ方法ヲ具シ發  
 送地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケベシ  
 第五十三條 前條ノ許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬スル者ハ左ノ各號ノ規定ニ據  
 ルヘシ  
 一 許可證ヲ携帯スルコト  
 二 運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ用キテ運搬スルトキハ看守人ヲ附シ晝間ハ赤  
 地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル旗(縦六十センチメートル以上横七十  
 センチメートル以上)晝間ハ赤色安全燈ヲ携フルコト但シ特別ノ  
 事由ニ依リ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 三 看守人及運搬人ハ前號ノ安全燈ヲ除クノ外機寸其ノ他發火ノ虞アル  
 物件ヲ携ヘ又ハ荷造荷解荷荷卸ニ際シ若ハ荷物ニ接近シテ喫煙シ  
 若ハ火氣ノ取扱ヲ爲ササルコト  
 四 機寸其ノ他發火ノ虞アル物件ハ火藥類ト共ニ積載セサルコト  
 五 荷牛馬車ノ類ニ在リテハ牛馬ノ類取付ノ儘荷積又ハ荷卸ヲ爲ササル  
 コト  
 六 火藥類ハ第七十八條ノ規定ニ依リ之ヲ收納スルコト  
 七 容器ハ密閉シ堅固ニ積載シ日光ノ直射セサル様適當ノ被覆ヲ爲シ摩  
 擦、動搖、衝突、轉倒又ハ墜落ノ虞ナカラシムルコト  
 八 運搬中ハ徐行シ他ニ通路ナキ場合ヲ除クノ外人家稠密ノ場所又ハ火  
 氣ヲ取扱ヒ若ハ發火質、引火質ノ物品ヲ蓄積スル等危險ノ虞アル場  
 所ヲ通過セサルコト

分ニ準シ届出ツヘシ  
 第五十一條 火藥類ヲ消費スル者ハ様式第十八號ノ二ノ帳簿ヲ備フヘシ但  
 シ一年間ニ銃用火藥五キログラム以内、銃用實包又ハ銃用空包各千箇以  
 内、銃用雷管又ハ雷管附藥莖各二千箇以内ヲ消費スル場合ハ此ノ限ニ在  
 ラス  
 一年間ノ火藥類消費數量火藥ニ在リテハ二十キログラム、爆藥ニ在リテ  
 ハ五キログラム工業用雷管ニ在リテハ二千箇、信管、爆管又ハ門管ニ在  
 リテハ各千箇、導火線ニ在リテハ千メートルヲ超ユル場合ニ於テハ消費  
 者ハ火藥類出納主任ヲ定メ十日内ニ其ノ氏名及履歷ヲ具シ第四十一條第  
 二項ノ区分ニ準シ警察署長ニ届出ツヘシ  
 火藥類出納主任ハ火藥類ノ出納及其ノ取締ニ關スル事項ヲ掌ルモノトス  
 但シ消費者ニ於テ火藥類取扱主任ヲ置カサル場合ハ火藥類ノ授受、使用  
 (續業權者續業ノ爲ニ使用スル場合ヲ除ク)、運搬、貯藏其ノ他火藥類ノ  
 取扱ニ關スル事項ヲモ掌ルモノトス  
 警察署長ハ火藥類出納主任ニシテ不適當ト認ムルモノアルトキハ其ノ變  
 更ヲ命ズルコトヲ得  
 火藥類出納主任ハ一繼續業務時間ニ使用スヘキ數量ヲ超ユル火藥類ヲ從  
 業者ニ交付スヘカラス  
 從業者ハ業務終了後交付ヲ受ケタル火藥類ノ殘餘アルトキハ直ニ之ヲ火  
 藥類出納主任ニ返付スヘシ  
 火藥類出納主任ハ様式第十九號ノ帳簿ニ毎日ノ出納ヲ記載スヘシ  
 第二項ノ消費者ハ様式第二十號ニ依リ其ノ消費シタル火藥類ニ付毎月ノ  
 消費高ヲ翌月十日迄、毎年ノ消費高ヲ翌年一月十日迄ニ第四十一條第  
 二項ノ区分ニ準シ警察署長ニ届出ツヘシ

【轉二二五】

九 運搬具又ハ牛馬ノ類ニ積載スル火藥類ハ普通積載量ノ二分ノ一ヲ超  
 エサルコト  
 十 以上ノ運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ連行スルトキハ其ノ距離各九メー  
 ル以上ヲ保有スルコト  
 十一 運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ安全ナル位置ヲ選ミ且看守人ヲ  
 附スルコト  
 十二 運搬中宿泊セムトスルトキハ其ノ地ノ警察官吏ニ届出ツルコト  
 第七十六條第一項第四號ノ規定ハ火藥類ノ運搬ニ付準用ス但シ銃用火藥  
 五キログラム以内、銃用實包又ハ銃用空包各千箇以内、銃用雷管又ハ雷  
 管附藥莖各二千箇以内ノ運搬ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
 第五十四條 火藥類ヲ自動車ニ依リ運搬セムトスルトキハ危險豫防上特別  
 ノ設備ヲ爲シ且火藥類運搬用トシテ主タル使用地ヲ管轄スル通知事ノ檢  
 査ヲ受ケタル車輛ニ依ルコトヲ要ス但シ左ニ掲グル場合ニ於テハ此ノ限  
 ニ在ラス  
 一 火藥類ヲ消費スル者自家用貨物自動車ニ依リ自己ノ事業ノ用ニ供ス  
 ル火藥類ヲ運搬スル場合  
 二 銃用火藥五キログラム以内、銃用實包又ハ銃用空包各千箇以内、銃  
 用雷管又ハ雷管附藥莖各二千箇以内ヲ携帯者ト共ニ運搬スル場合  
 三 火工品(工業用雷管ヲ除ク)、硝安爆藥、「カーリット」、工事用、鑽  
 業用、漁業用、船内銃砲用、煙火製造用其ノ他工業用ニ供スル二萬二  
 千五百グラム以内ノ火藥及五キログラム以内ノ爆藥ヲ客ヲ乗車セシメ  
 スシテ運搬スル場合  
 四 其ノ他特別ノ事由ニ依リ發送地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケタ



ル場合

前項第一號及第四號ノ場合ニ於テハ火藥類ノ取扱ニ關シ相當經驗ヲ有スル者ヲ附添ハシムヘシ

第五十五條 素道ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セムトスルトキハ素道ト地面トノ距離、素道ノ方式、掘子及運搬具ノ構造、運搬具ニ積載シ得ヘキ重量、運搬具ニ積載スヘキ火藥類ノ種類、數量、積載ノ方法、發着ノ場所及火藥類運搬中看守人ヲ配置スヘキ場所ヲ具シ且素道直下ノ地點ヨリ百メートル以内ニ在ル社寺、學校、官公衙、病院、公園、工場、鐵道、軌道、道路等ヲ明示セル平面圖ヲ添ヘ主タル運搬地ヲ管轄スル道知事ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ

第五十六條 火藥類ハ之ヲ變裝若ハ假裝シ又ハ他ノ物件ト混包シテ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス

變裝若ハ假裝シ又ハ他ノ物件ト混包シタル火藥類ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ其ノ旨届出ツヘシ

第五十七條 火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ銃用火藥五キログラム以内、銃用實包又ハ銃用空包各千箇以内、銃用雷管又ハ雷管附藥莖各二千箇以内ニ付テハ十五歳以上ノ未成年者ニ限り之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十八條 火藥品ノ荷造、荷解、荷卸、荷積、授受又ハ運搬ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日出前又ハ日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ銃用火藥五キログラム以内、銃用實包又ハ銃用空包各千箇以内、銃用雷管又ハ雷管附藥莖各二千箇以内ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

但シ朝鮮總督ノ特ニ定メタル場合又ハ鐵業權者鐵業ノ爲ニ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 破砕スヘキ地盤又ハ物件
  - 二 破砕ノ目的
  - 三 使用スヘキ火藥又ハ爆藥ノ種類及數量
  - 四 使用ノ日時及場所
  - 五 使用ノ位置ヲ示シタル附近見取圖
  - 六 使用方法及危險預防方法
- 前項ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ地盤又ハ物件ノ破砕ニ付官廳ノ許可又ハ他人ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ之ヲ證スル書類ヲ添附スヘシ
- 第六十二條ノ二 前條第一項ニ規定スル者ハ必要數ノ雷管解器、木製込棒、木製其ノ他適當ナル構造ノ火藥類携帶箱及結水期ニ在リテハ凍結「ダイナマイト」ノ融解器ヲ備フヘシ但シ使用地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ融解器ハ「ダイナマイト」ニ水分ノ接觸スルヲ避ケ且火氣ヲ使用セサル裝置タルヲ要ス
- 第六十二條ノ三 第六十二條第一項ニ規定スル者ハ發破作業ニ相當經驗アル發破主任及發破係ヲ定メ其ノ氏名及履歷ヲ具シ使用地ヲ管轄スル警察署長ニ届出ツヘシ但シ使用地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ發破係ヲ置カサルコトヲ得
- 前項ニ規定スル者ハ發破主任又ハ發破係以外ノ者ヲシテ火藥類ノ裝填、裝填、填塞、點火其ノ他ノ發破作業ニ從事セシムルコトヲ得ス
- 警察署長ハ第一項ノ發破主任又ハ發破係ニシテ適當ト認ムルモノアル

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當セサル者火藥類ヲ所持セムトスルトキハ住所地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一 火藥類ノ變形又ハ修理ヲ爲ス者
  - 二 火藥類販賣業者
  - 三 火藥類ノ輸移入ヲ爲シタル者
  - 四 火藥類ヲ購受ケタル者
  - 五 運送業者
  - 六 火藥類運搬ノ許可ヲ受ケタル者
  - 七 第一號、第二號及第五號ニ掲グル者ノ從業者
- 火藥類ヲ所持スル者廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ノ一ニ該當セサルニ至リタルトキハ讓渡シ又ハ所轄警察署長ノ認可ヲ受ケ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ火藥類ノ種類、數量及所持ノ目的、期間及事由ヲ記載スヘシ

第六十條 前條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者並同條第三號及第四號ニ掲グル者住所氏名ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署長ニ届出ツヘシ

第六十一條 火藥類ヲ所持スル者其ノ火藥ヲ廢業セムトスルトキハ所轄警察署長ニ届出ツヘシ但シ第五十九條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 地盤又ハ物件ヲ破砕スル目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ使用地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受ケヘシ

トキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

- 一 凍結「ダイナマイト」ハ所定ノ融解器ニ依リ攝氏四十五度以下ノ溫湯ヲ用ヒ徐徐ニ融解スルコト
- 二 前號ノ融解作業並發藥、雷管及導火線ノ裝備ハ人畜ニ危害ヲ及ボス虞ナキ一定ノ安全ナル場所ニ於テ之ヲ爲スコト
- 三 裝填及填塞ニハ木製込棒以外ノモノヲ使用セサルコト
- 四 填塞用ノ込物ニハ粘土其ノ他發火又ハ引火ノ虞ナキモノヲ用フルコト
- 五 破片ノ飛散ヲ少ナカラシムル爲裝藥ニハ充分ニ込物ヲ施シ附近ニ人家、道路等アル場合ハ席又ハ金網ノ類ニテ爆破箇所ヲ蔽ヒ其ノ他危險防止上適當ノ處置ヲ爲スコト
- 六 點火ハ發メ附近ノ者ニ警告シ避難セシメタル後ニ非サレハ之ヲ爲ササルコト
- 七 點火後ハ爆音ニ注意シ不發ニ終リタルトキ又ハ不發アリト認ムルトキハ電氣點火法ニ依リタル場合ニ在リテハ發破母線ヲ點火器ヨリ取離シタル後、其ノ他ノ場合ニ在リテハ少グトモ點火後二十分ヲ經過シタル後ニ非サレハ裝填箇所ニ近寄ラサルコト
- 八 發破主任(鐵業權者鐵業ノ爲ニ爆發藥ヲ使用スル場合ニ於テハ發破係員及助手トス)ハ爆發後必ス爆破箇所ヲ嚴密ニ検査シ危險防止上必要ナル處置ヲ爲スコト

【輯一二五】

【輯一二五】



九 不發ノ裝藥又ハ込物ハ之ヲ類リ出スコトナク發破主任ハ發破者續  
續ノ爲ニ爆發藥ヲ使用スル場合ニ於テハ發破係員及助手トスノ指  
揮ニ從ヒ危險ノ虞ナカラシムル爲適當ノ處置ヲ爲スコト  
十 災害發生シタルトキハ警察官吏ニ届出テ其ノ指揮ヲ受クルニ非サレ  
ハ安ニ現狀ヲ變更セサルコト

第六十三條 火藥類ノ所持、運搬及使用ノ許可又ハ處分ノ認可ヲ爲スコトキ  
ハ様式第十四號、第十六號若ハ第十八號ノ許可證又ハ様式第十五號ノ認  
可證ヲ交付ス

第六節 貯藏

第六十四條 火藥類ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外火藥庫又ハ  
倉庫ニ之ヲ貯藏スヘシ

一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏  
スル場合

二 六月内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥二萬二千五百  
グラム以内、爆發藥一萬二千五百グラム以内、工業用雷管二千箇以内、  
信管、導管又ハ門管各千箇以内、導火線千メートル以内其ノ事業中  
消費地ヲ管轄スル警察署長ノ指定シタル安全ナル場所ニ貯藏スル場合  
三 船積、船卸又ハ陸揚ノ爲火藥類ヲ裝留船又ハ倉庫給ニ一時貯藏スル  
場合

四 純用火藥五キログラム以内、純用實包又ハ純用空包各千箇以内、純  
用雷管又ハ雷管附裝藥各二千箇以内ヲ完全ナル場所ニ貯藏スル場合  
續業ノ用ニ供スル火藥類ノ貯藏ニ付テハ事業開始後六月内ニ限り前項第  
二號ノ規定ヲ準用ス

カ第三項ノ検査後ナルトキハ第七十二條ニ規定スル届出ノミヲ爲スヘ  
シ  
火藥類貯藏所ハ許可官廳ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ  
得ス其ノ設備ヲ變更シタルトキ亦同シ  
第六十六條 第七十四條第一項ニ規定スル最大數量ノ火藥類ヲ貯藏スル火  
藥類貯藏所ニ在リテハ倉庫ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有セシ  
ムヘシ

一 社寺、學校、病院、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力  
ヲ使用スル工場、發火質物ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ常  
航路若ハ裝留所又ハ市街地ヘ四百三十メートル以上  
二 住宅地、國道、地方道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、燃  
燒質物ヲ蓄積スル場所其ノ他朝鮮總督ノ指定シタル箇所ヘ九十メー  
トル以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ平方根ニ比例シ之ヲ短縮ス但シ其ノ五分ノ一ヲ  
下ルコトヲ得ス  
倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ百八十センチメートル以上ノ空地ヲ保有セシム  
ヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ通知事ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ  
在ラス

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス  
第六十七條 許可官廳ハ土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル  
程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ短縮ヲ許可スルコトヲ得  
前項ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得  
第六十八條 火藥庫ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ據ルヘシ但シ地下又ハ水上

第一項第三號ノ場合ニ於テハ船舶ノ設備、裝留ノ位置、貯藏スヘキ火藥  
類ノ種類、數量及期間ヲ具シ裝留地ヲ管轄スル警察署長ニ届出ツヘシ  
警察署長危險豫防ノ爲必要アリト認ムルトキハ第一項第三號ノ裝留船又  
ハ倉庫船ニ對シ其ノ位置ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコト  
ヲ得

第六十五條 火藥類貯藏所ヲ新設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ工事用、  
續業用、漁業用、船内純施用、煙火製造用其ノ他工業ノ用ニ供スル火藥  
四十五キログラム以内、爆發藥二萬二千五百グラム以内、工業用雷管二千  
箇以内、信管、導管又ハ門管各千箇以内導火線千メートル以内ヲ貯藏ス  
ル假貯藏所ニ在リテハ新設地ヲ管轄スル警察署長ニ、其ノ他ノ火藥類貯藏  
所ニ在リテハ新設地ヲ管轄スル道知事ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ増築、改  
築、修繕、模様替ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

- 一 設立者ノ住所、氏名、年齢及職業
  - 二 火藥類貯藏所ノ種類
  - 三 位置
  - 四 貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量及貯藏所内ニ於ケル積載方法
  - 五 貯藏所ノ設計圖、仕様及附近四町内ノ見取圖
  - 六 工事ノ著手及竣功ノ期日
  - 七 看守方法
  - 八 假貯藏所ニ在リテハ前各號ニ規定スル事項ノ外火藥類ヲ要スル事業  
及期間
- 前項ニ規定スル申請書ニ記載シタル事項中設立者ノ住所、氏名及職業ヲ  
變更シタルトキハ十日内ニ許可官廳ニ届出ツルヲ以テ足ル但シ其ノ變更

ニ設ケル場合其ノ他土地ノ狀況又ハ特別ノ設備ニ依リ危險ノ虞ナシト認  
ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス  
一 土藏造、鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造ノ平屋建ト爲スコ  
ト

二 屋根ノ外面ハ薄キ金屬板、石盤板若ハ瓦又ハ輕量ノ不燃質物ヲ用キ  
テ覆葺スルコト  
三 庫壁ハ土藏造又ハ鐵筋「コンクリート」造ノ部分ニ於テ厚サ十五セン  
チメートル以上、煉瓦造又ハ石造ノ部分ニ於テ厚サ二十一センチメ  
ートル以上トシ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用キス扉ニハ防火ノ設備ヲ爲ス  
コト

四 庫ノ内面ハ石、瓦、「メント」又ハ土砂ノ剝落飛散ヲ防ク裝置ヲ爲シ  
鐵類ヲ露ハササルコト  
五 避雷針又ハ之ニ代ルヘキ裝置ヲ設ケルコト  
六 避雷針ハ其ノ尖端ヨリ屋端ノ最遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十  
五度以内ノ角度ヲ保ツコト  
七 避雷針ハ少クとも毎年一回雨期前ニ於テ之ヲ検査シ必要アルトキハ  
修繕ヲ加フルコト

六 火藥庫ノ周圍ニハ庫壁ノ外側面ヨリ堤脚迄百八十センチメートル乃  
至千八十センチメートルノ距離ニ於テ成ルヘク庫壁ニ接近シテ土堤  
ヲ設ケルコト  
火藥庫ニ以上相接スル場合ニ於テハ各庫間ノ土堤ハ相離スルコトヲ  
得土堤ノ入口ハ堤外ヨリ火藥庫ヲ通視シ能ハサル程度ニ土堤ノ一端  
ヲ曲折延長シ又ハ入口ノ前面ニ更ニ土堤ヲ設ケ若ハ土堤ノ入口ヲ隱



第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

遺ト爲シ其ノ兩端ニ堅固ナル扉ヲ設ケルコト

土堤ノ高サハ火藥庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、其ノ頂部ノ厚サハ九十センチメートル以上トシ堤面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト但シ堤脚ハ土堤ノ高サノ三分ノ一ニ至ル迄土留ヲ石積、煉瓦積又ハ「コンクリート」造ト爲スコトヲ得

七 前號ニ規定スル土堤ハ無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ニ在リテハ鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造若ハ石造ニシテ厚サ四十五センチメートル以上、高サ火藥庫ノ軒桁ノ高サト同一以上ノ圍壁ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六十九條 倉庫ノ設備ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ避雷針及之ニ代ルヘキ裝置ハ之ヲ省略シ土堤ニ圍シテハ左ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ得

一 庫壁ノ外側面ニ接觸シ高サ倉庫ノ軒桁ノ高サト同シク厚サ頂部ニ於テ六十センチメートル以上ヲ有シ礎ノ混入セサル土ヲ以テ積上ケタル外層ニ依リ圍繞シ(入口ノ部)土堤ヲ省略スルコト但シ庫壁ニシテ其ノ厚サ六十センチメートル以上又ハ之ト同一ノ抵抗力ヲ有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得

二 倉庫ノ入口ハ危險ノ虞少キ側面ニ之ヲ設ケ其ノ前面ニ掩體ヲ有セサル場合ハ其ノ扉ヲ堅固ナラシムルコト

第七十條 假貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ據ルヘシ但シ通知事特別ノ事由アリト認めルトキハ第六十八條ノ規定ノ一部ヲ準用スルコトヲ得

一 木造又ハ土蔵ノ平屋建ト爲シ外側ハ不燃質物ヲ以テ被覆スルコト

二 屋蓋ノ外面ハ鐵キ金屬板、石疊板若ハ瓦又ハ輕量ノ不燃質物ヲ用キ

第七十四條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ其ノ種類毎ニ一棟ニ付左ノ數量ヲ超ユルコトヲ得ス

貯藏所ノ種類	火藥	庫	倉	庫	假貯藏所
火藥類ノ種類	三萬七千五百キログラム	四十五キログラム	一萬八千七百五十キログラム	一萬八千七百五十キログラム	九千三百七十五キログラム
爆藥	一萬八千七百五十キログラム	二萬二千五百グラム	九千三百七十五キログラム		
銃用實包	二千萬箇	三萬箇	三萬箇	千萬箇	
銃用空包	二千萬箇	三萬箇	三萬箇	千萬箇	
銃用雷管	二千五百萬箇	十萬箇	十萬箇	五百萬箇	
工業用雷管	三百萬箇	一萬箇	一萬箇	三十萬箇	

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ第七十五條第一項但書ニ規定スル火藥類貯藏所ニ在リテハ其ノ一室ヲ一棟ト看做ス

第一項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ニ付第一項ノ規定ヲ適用ス但シ火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莖ハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 火藥類ハ左ノ區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ貯藏シ得ル數量以內ノ火藥類ヲ貯藏スル火藥類貯藏所ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル相當抵抗力アル圍壁ニ依リ遮斷シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 黑色火藥、爆藥、黑色火藥ヲ裝填シタル銃用實包及銃用空包並黑色火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品
- 二 無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包並無煙火藥ノ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

テ覆葺スルコト

三 貯藏所ノ内面ハ石、瓦又ハ土砂ノ剝落飛散ヲ防ク裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露ハササルコト

四 避雷針又ハ之ニ代ルヘキ裝置ヲ設ケルコト

五 周圍ニハ土堤ヲ設ケルコト

第七十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ火藥類貯藏所ノ新設、増築、改築、修繕又ハ模様替ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事ノ著手期日ヨリ三月内ニ工事ニ著手セサルトキ

三 工事ノ竣功期日ヨリ三月内ニ工事竣功セサルトキ

七十二條 火藥類貯藏所ノ所有者其ノ住所氏名ヲ變更シ若ハ其ノ貯藏所ヲ讓渡シ、貸渡シ若ハ廢止シタルトキ又ハ貯藏所ノ使用者住所、氏名ヲ變更シ若ハ貯藏所ノ使用ヲ休止シ、再開シ若ハ廢止シタルトキハ十日内ニ貯藏所ノ所在地ヲ管轄スル通知事ニ届出ツヘシ

火藥類貯藏所ノ所有者又ハ使用者死亡シタルトキハ前項ノ規定ニ依ル届出ハ相続人ヨリ、相續人ナキトキハ戸主又ハ家族ヨリ十日内ニ貯藏所ノ所在地ヲ管轄スル通知事ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ニ規定スル届出ハ工事用、鑛業用、漁業用、船内銃砲用、煙火製造用其ノ他工業ノ用ニ供スル火藥四十五キログラム以內、爆藥二萬二千五百グラム以內、工業用雷管二千箇以內、信管、爆管又ハ門管各千箇以內、導火線千メートル以內ヲ貯藏スル假貯藏所ニ付テハ其ノ所在地ヲ管轄スル警察署長ニ之ヲ爲スヘシ

第七十三條 火藥類貯藏所ニハ其ノ名稱及使用者ノ住所氏名ヲ記載シタル看板ヲ掲グヘシ

【輯一二五】

ミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品

三 火工品(第一號及第二號ニ掲グル火工品ヲ含ム)

前項同一號ニ掲グル二種類以上ノ火藥類一棟ニ貯藏スルトキハ各種類毎ニ第七十四條ニ掲グル數量ヲ以テ貯藏スル數量ヲ除シ其ノ商ヲ加ヘタル和カ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第七十六條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ據ルヘシ

一 内壁ヨリ三十センチメートル以上、天井ヨリ六十センチメートル以上ノ距離ヲ保有シ下部ニハ高サ約九センチメートルノ枕木ヲ置キテ

容器ヲ積上グルコト但シ土地又ハ設備ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ第六十五條ニ規定スル許可官廳ノ許可ヲ受ケ適宜斟酌スルコトヲ得

二 火藥類ハ第七十八條ノ規定ニ據リ之ヲ收納スルコト

三 各種「ダイナマイト」ノ類ノ藥包ハ之ヲ横置スルコト

四 各種「ダイナマイト」ノ類ノ藥包ヨリ容器ノ外面又ハ床上ニ「ナイトログリセリン」滲出シタルトキハ苛性曹達ノ「アルコール」溶液ヲ注シ

五十「グラム」ヲ水七十五立方「センチメートル」ニ溶解シ之ヲ注キ「アルコール」五百立方「センチメートル」ニ混シタルモノヲ注キ「ナイトログリセリン」ヲ分解セシメ布片ヲ以テ清拭スルコト

五 適當ナル換氣ヲ爲スコト

六 無煙火藥又ハ爆藥ヲ貯藏スル火藥庫ニ在リテハ元差寒暖計ヲ備ヘテ

溫度ノ調節ヲ爲シ火藥類ノ品性ノ保存ニ注意スルコト

第七十七條 火藥類貯藏所ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ據ルヘシ但シ倉庫ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ通知事ノ許可ヲ受ケ第一號又ハ第二號ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

三四三



- 一 貯藏所ノ境界ニハ適當ナル圍牆ヲ設ケ且見易キ場所ニ警戒札ヲ建ツルコト
- 二 森林内ニ設置スル貯藏所ニ在リテハ其ノ圍牆ノ外側ニ沿ヒ幅百八十センチメートル以上ノ防火地帯ヲ設クルコト
- 三 貯藏所内ニ於テ荷造又ハ荷解ヲ爲ササルコト
- 四 貯藏所内ニハ鐵類、發火若ハ燃燒シ易キ物品ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ラサルコト
- 五 貯藏所内ニハ火藥類ヲ除クノ外ノ物品ヲ貯藏セサルコト
- 六 貯藏所内ニ於テハ携帶電燈ノ外火氣ヲ使用セサルコト
- 七 貯藏所ニ於テ爆發其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキハ直ニ警察官吏ニ届出其ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ現狀ヲ變更セサルコト
- 第七十八條 火藥類ヲ收納スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ
  - 一 火藥類ハ乾燥性油紙(桐油、荏油又ハ亞麻仁油ノ類)ヲ以テ之ヲ包被セサルコト
  - 二 火藥類ハ第七十五條第一項ニ規定スル區別ニ從ヒ隔離スルコト
  - 三 火藥類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入ルルニハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火藥類ノ粉末ノ介在ヲナカラシムルコト
  - 四 火藥類ノ容器ノ外箱ハ鐵類ヲ露ハササルコト
- 第七十九條 試驗
  - 第七十九條 火藥又ハ火藥ニシテ盛ニ赤色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トス
  - 第八十條 無煙火藥、棉火藥又ハ「ナイトログリセリン」若ハ硝化纖維素ヲ含有スル火藥ニ在リテハ其ノ容器内ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色「リトマス」試験紙ヲ入レ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造所及製造年月ヲ同シタル同種類ノ火藥又ハ火藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノニ在リテハ其ノ外箱二十五箱迄毎ニ、製造後二年ヲ經過シタルモノニ在リテハ

- モノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回耐熱試驗ヲ行フヘシ
- 第八十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ耐熱試驗ヲ行フヘシ
  - 一 遊離酸試驗ノ結果第八十二條第二項ノ不良品ニ該當セサルトキ
  - 二 注意品タル火藥類ヲ汽車又ハ汽船等ニ依リ運搬セムトスルトキ及運搬ヲ終リタルトキ
  - 三 硝酸「アンモニア」ヲ主トスル爆發藥ニシテ「ナイトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ及硫酸「アンモニア」ヲ含有スル「ダイナマイト」ニシテ第八十條ノ注意品ニ該當スルトキ
  - 四 前各號ニ規定スル場合ノ外警察署長ノ指示アリタルトキ
- 第八十七條 耐熱試驗ハ第二項乃至第七項ニ規定スル方法ニ依リ之ヲ行フヘシ
  - 一 湯煎器ノ口際迄水又ハ微温湯ヲ滿シテ鋼網上ニ之ヲ熱スルノ裝置ヲ爲シ蓋孔ヨリ寒暖計ヲ挿入シ木栓又ハ膠板ヲ以テ之ヲ保持スヘシ
  - 二 試驗スヘキ火藥類ハ左ノ各號ノ區別ニ從ヒ試料ヲ作り之ヲ試験管内徑約十センチメートル、高さ約百センチメートルヘシ
  - 三 硅藻土質「ダイナマイト」ハ其ノ二十「グラム」乃至三十「グラム」ヲ採リ粉ニ壓シ細粒トシ之ヲ口徑約五十「ミリメートル」ノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製無水石綿又ハ精製脫脂綿ノ小片ヲ置キタル上ニ入レ硝子棒ニテ其ノ表面ヲ平ニシ尙其ノ上部ヲ三「ミリメートル」ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石綿粉ヲ以テ覆ヒ徐ニ上面ヨリ蒸餾水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スル「ナイトログリセリン」三「グラム」乃至三「グラム」半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルルヘキ試料トス
  - 四 膠質「ダイナマイト」ハ其ノ三「グラム」半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細粉シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七「グラム」ヲ加ヘ本製乳棒ヲ以テ粉ニ輕ク完全ニ攪リ混セ之ヲ一試験管ニ入ルルヘキ試料トス

- 外箱十箱迄毎ニ各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色「リトマス」試験紙ヲ入レ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 前項ノ試験紙ノ全面赤色ニ變シタルトキハ其ノ火藥又ハ火藥及同一貯藏所ニ貯藏スル同種類ノ火藥又ハ火藥ニシテ其ノ製造所及製造年月ヲ同シタルモノハ之ヲ注意品トス
- 第八十一條 硝酸「アンモニア」ヲ主トスル爆發藥中「ナイトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回遊離酸試驗ヲ行フヘシ
- 第八十二條 第八十條ノ注意品「ナイトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ及硫酸「アンモニア」ヲ主トスル爆發藥ニシテ「ナイトログリセリン」ニシテ第七十九條ノ不良品ニ非サルモノニ付テハ外箱一箱毎ニ直ニ遊離酸試驗又ハ耐熱試驗ヲ行フヘシ
- 前項ノ遊離酸試驗ノ結果無煙火藥及棉火藥ニ在リテハ六時間内ニ、其ノ他ノ火藥類ニ在リテハ四時間内ニ試験紙ノ全面ヲ赤色ニ變セシメタルトキハ之ヲ不良品トス
- 第八十三條 遊離酸試驗ハ試驗スヘキ火藥類ノ包被物ヲ除去シ之ヲ硝子罐ニ入レ罐内ノ高さ約五分ノ三ニ至ラシメタル後青色「リトマス」試験紙ヲ火藥類ノ上面ヨリ稍上方ニ吊シ直ニ罐口ヲ密栓シテ之ヲ行フヘシ
- 第八十四條 無煙火藥、棉火藥又ハ「ナイトログリセリン」若ハ硝化纖維素ヲ含有スル火藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回耐熱試驗ヲ行フヘシ
- 第八十五條 硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥中硝基化合物ヲ含有スルモノ、硝酸「アンモニア」ヲ主トスルモノ及「ナイトログリセリン」ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年ヲ經過シタル

- 三 硅藻土質及膠質「ダイナマイト」ヲ除クノ外「ダイナマイト」ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕セルモノハ攝氏四十五度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後三「グラム」半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルルヘキ試料トス
- 四 無煙火藥ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方形帶狀又ハ紐狀ノモノハ飽、小刀又ハ鉄ヲ以テ細粒狀ニ削截シ試験管ノ高さノ五分ノ三ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルルヘキ試料トス
- 五 棉火藥其ノ他ノ火藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試験管ノ高さノ三分ノ一ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルルヘキ試料トス
- 一ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルルヘキ試料トス
- 一 沃度加里澱粉紙ノ上部ヲ硝子棒ヲ用キテ蒸餾水及「グリセリン」ノ等分混液ニテ潤シ之ヲ硝子棒鉤ニ懸吊シ棒ヲ保持セル木栓ヲ以テ試験管口ヲ掩ヒ沃度加里澱粉紙ノ下縁ヲシテ火藥類上面ヨリ稍上方ニ在ラシムヘシ
- 二 第二項乃至第四項ニ規定スル準備ヲ爲シタル後湯煎器ヲ熱シ攝氏六十五度ノ溫度ヲ保持スルニ至ラハ試験管ヲ寒暖計ト同シ深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ乾濕分界部ヲ注視シ試験管挿入ノ時ヨリ其ノ液褐色ニ變スルニ至ルノ時間ヲ以テ火藥類ノ耐熱時間ト定ムヘシ
- 沃度加里澱粉紙ニ現ハルル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ムヘシ
- 標準色紙、沃度加里澱粉紙及精製滑石粉ハ陸軍造兵廠ニ於テ製造シタルモノヲ用ウヘシ
- 火藥類ノ耐熱時間八分以下ナルトキハ之ヲ不良品トス
- 第八十八條 第八十一條ニ規定スル遊離酸試驗ノ結果四時間内ニ試験紙ノ全面赤色ニ變シタルトキハ更ニ加熱試驗ヲ行フヘシ
- 通知事必要アリト認ムルトキハ第八十五條ニ規定スル火藥中種類ヲ限リ第八十九條第一號乃至第三號ニ規定スル方法ニ依リ加熱試驗ヲ行フヘシ



第九十九條 加熱試驗ハ左ノ各號ニ規定スル方法ニ依リテ行フヘシ  
 一 徑約三十五「ミリメートル」高サ約五十「ミリメートル」ノ秤量器ヲ乾燥器内ニ於テ乾燥スヘシ  
 二 試驗スヘキ火藥中ヨリ試料十「グラム」ヲ採リテ之ヲ前號ノ秤量器ニ入レテ秤量シ秤量シタル後乾燥器内ニ於テ約七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ四十八時間靜置スヘシ  
 前號ニ規定スル試驗中赤色瓦斯ヲ盛ニ發生スルトキハ之ヲ不良品トス盛ニ發生セザルトキハ再ヒ之ヲ密檢シ其ノ重量ヲ秤ルヘシ其ノ減量百分ノ一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス  
 三 試驗スヘキ火藥ニシテ吸濕セル疑アルトキハ先ツ其ノ試料ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後前各號ニ規定スル方法ニ依リテ試驗ヲ行ヒ試驗中赤色瓦斯ヲ盛ニ發生スルカ又ハ前號ノ減量百分ノ一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス  
 第九十條 第八十一條、第八十四條、第八十五條及第八十八條ニ規定スル試驗ハ火藥類ノ製造所及製造年月ヲ同シケル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セザルモノニ在リテハ外箱十箱迄毎ニ各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ外箱ノ各種ニ付テ行フ  
 第九十一條 一年間一萬八千七百五十キログラム以上ノ無煙火藥又ハ九千三百七十五キログラム以上ノ爆藥ヲ取扱フ者ハ何時ニテモ耐熱試驗又ハ加熱試驗ヲ行フコトヲ得ヘキ準備ヲ爲スヘシ  
 第九十二條 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ施行ハ警察署長ニ之ヲ申請スルコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ申請シタル耐熱試驗又ハ加熱試驗ニ關スル費用ハ申請者之ヲ負擔スヘシ

第九十三條 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ結果ハ様式第二十一號ノ帳簿ニ之ヲ記載シ置クヘシ  
 第九十四條 不良品タル火藥類ハ警察署長ノ指示ニ從ヒ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ在リテハ之ヲ水中ニ放流シ其ノ他ノ火藥類ニ在リテハ屋外廣闊ナル場所ニ於テ風ヲ除ケ少量宛之ヲ燃燒スヘシ但シ警察署長ノ認可ヲ受ケ履質ニ非サル「ダイナマイト」類ハ海岸ヲ距ルコト四十キロメートル以上ノ海水中ニ、「ダイナマイト」ヲ除クノ外ノ火藥類ハ海岸ヲ距ルコト二十キロメートル以上ノ海水中又ハ他ニ危險若ハ損害ヲ及ボササル適當ナル水中ニ之ヲ沈下スルコトヲ得  
 不良品ニシテ不良ノ程度極メテ輕微ナル火藥類ハ警察署長ニ於テ危險ノ虞ナシト認めタルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ  
 此ノ場合ニ於テハ之ヲ他ノ火藥類ト隔離スヘシ  
 第三章 雜則  
 第九十五條 銃砲火藥類取締令第九條ノ規定ニ依ル銃砲火藥類ノ輸移出入ノ禁止又ハ制限ハ朝鮮總督之ヲ行フ  
 第九十六條 銃砲火藥類取締令及本令中非軍用銃砲ニ關スル規定ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス  
 第九十七條 銃砲火藥類取締令第八條乃至第十一條及第十五條乃至第十七條ノ規定ハ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ武器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス  
 第九十八條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ道知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ  
 第九十九條 銃砲火藥類ノ喪失又ハ盜難アリタルトキハ所持者ハ遲滞ナク最寄警察官吏ニ届出ツヘシ  
 第一百條 火藥類異狀ヲ呈シ又ハ災害、盜難其ノ他ノ危險ノ虞アルトキハ火

【輯一二五】

藥類ノ所有者又ハ所持者ハ直ニ應急ノ措置ヲ爲シ警察官吏ニ其ノ旨届出ツヘシ  
 第一百一條 火藥類ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ火藥類販賣業者ニ在リテハ營業地ヲ、其ノ他ノ者ニ在リテハ消費地ヲ管轄スル警察署長ノ許可ヲ受クヘシ  
 第四章 罰則  
 第一百二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 第十五條、第十七條第一項第二項、第三十四條ノ二第一項、第四十三條、第四十七條第一項、第五十二條、第五十六條第一項、第五十九條第一項第二項、第六十二條第一項、第六十四條第一項、第六十五條第一項、第七十四條、第七十五條、第九十四條又ハ第一百一條ノ規定ニ違反シタル者  
 二 不實ノ申告ヲ爲シ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル者  
 三 本令ニ依リ備フヘキ帳簿ニ記載ヲ怠リ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者  
 四 第六十六條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者  
 第一百三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス  
 一 第三條、第七條、第十二條第二項、第十九條第一項、第三十一條第一項、第三十六條、第四十七條第三項、第四十九條、第五十一條第一項第三項第五項乃至第七項、第五十三條乃至第五十五條、第五十七條、第五十八條、第六十五條第三項、第七十六條乃至第七十八條、第八十條乃至第八十二條、第八十四條乃至第八十六條、第八十八條、第九十一條、第九十二條又ハ第九十三條ノ規定ニ違反シタル者  
 第九編 警察 衛生 第一章 警察 第九節 銃砲火藥類 屠畜及液化瓦斯

第一百四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
 一 第八條第二項、第九條、第十六條、第十九條第二項、第二十一條第一項、第二十五條第一項、第三十二條ノ二第二項若ハ第三項、第三十七條第二項、第三十八條、第四十四條、第四十六條、第四十八條ノ二第三項、第六十二條ノ二、第六十二條ノ三第二項、第六十二條ノ四、第六十五條第二項又ハ第七十三條ノ規定ニ違反シタル者  
 二 第十六條又ハ第四十四條ノ規定ニ依リ交付スヘキ許可證ヲ受ケシテ銃砲又ハ火藥類ヲ運渡シ又ハ讓受ケタル者  
 三 第四條、第六條、第十一條、第十二條第三項、第十三條、第十八條第二十一條第二項、第二十二條、第二十五條第二項、第三十一條第三項、第三十二條、第三十四條、第三十四條ノ二第二項、第三十九條ノ二、第四十條、第四十八條ノ二第一項、第五十條、第五十六條第二項、第六十條、第六十一條、第六十二條ノ三第一項又ハ第七十二條ニ規定スル届出ヲ爲サス又ハ届出ヲ爲スモ其ノ實ヲ以テセザル者  
 附則  
 第一百五條 本令ハ大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

三四七



第四百六條 大正元年朝鮮總督府令第二十五號及大正元年朝鮮總督府警察廳  
 警部令第四號ハ之ヲ廢止ス  
 第四百七條 舊令ニ依ル許可證又ハ認可證ニシテ本令施行ノ際現ニ效力ヲ有  
 スルモノハ本令ニ依ル之ニ相當スルモノト看做ス  
 第四百八條 火藥類取扱免狀ヲ有スル取扱主任ヲ置クコトヲ要スル者ハ甲種  
 取扱免狀ヲ有スル取扱主任ニ在リテハ本令施行後一年ヲ、乙種取扱免狀  
 ヲ有スル取扱主任ニ在リテハ本令施行後三月ヲ限リ仍舊令ニ依ル火藥類  
 取扱主任者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
 第四百九條 舊令ニ依リ火藥類貯藏所ノ貸借ノ許可アリタルモノニ付テハ第  
 七十二條ニ規定スル届出アリタルモノト看做ス  
 第四百十條 第八十一條ノ規定ニ依ル加熱試驗ノ準備ハ本令施行後一年內ニ  
 之ヲ爲スヘシ

附則 (昭和九年朝鮮總督府令第八十八號)

本令ハ昭和九年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
 従前ノ規定ニ依リ火藥類販賣業ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ本令施行後仍引  
 續キ其ノ營業ヲ爲サントスル者ハ本令施行ノ日ヨリ二月內ニ第三十三條ノ  
 改正規定ニ依リ許可ヲ受ケヘシ  
 前項ノ期間內ニ許可ヲ受ケサル者ハ其ノ營業ヲ廢止シタル者ト看做ス  
 火藥類販賣業者ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ營業ヲ休止スル者ハ本令施行  
 ノ日ヨリ十日內ニ其ノ期間及事由ヲ具シ許可官廳ニ届出ツヘシ

附則 (昭和十六年朝鮮總督府令第二百六十六號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 本令施行ノ際現ニ朝鮮總督ニ爲シタル銃砲修繕業ノ許可申請ハ之ヲ通知事

ニ爲シタルモノト看做ス  
 本令施行ノ際現ニ通知事ニ爲シタル火藥類讓受許可申請ハ之ヲ警察署長ニ  
 爲シタルモノト看做ス  
 本令施行ノ際現ニ素道ニ依リ火藥類ヲ運搬スル者ハ本令ノ規定ニ依リ許可  
 ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第五十五條ノ規定  
 ニ依ル事項ヲ主タル運搬地ヲ管轄スル通知事ニ届出ツヘシ  
 (様式略ス)

●昭和二年朝鮮總督府令第九十九號  
 (陸軍軍用ノ銃砲及火藥類ノ讓渡又ハ讓受ニ關シ銃砲火藥類ノ取締令ノ規定ヲ適用セサルノ件)

昭和二年十月二十二日 朝鮮總督府令第九十九號  
 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ陸軍軍用ノ銃砲及火藥類ノ讓渡又ハ讓受ニ關シ銃砲火藥類取締令第四條及第五條ノ規定ヲ適用セズ  
 一 官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校ニ於テ教練振作ノ爲軍用銃砲ヲ讓受ケル場合  
 二 大正十四年勅令第二百四十六號(文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件)ニ依リ陸軍現役將校ヲ配屬シタル學校ニ於テ教練振作ノ爲實包、空包、狹窄實包等ヲ讓受ケ其ノ出納ヲ配屬將校ニ於

〔輯一三五〕

ヲ取扱フ場合

三 在郷軍人會ニ於テ軍隊ニ射撃ノ出願ヲ爲シ其ノ監視ノ下ニ軍隊所屬ノ射撃場ニ於テ射撃ヲ實施シ所要彈藥ノ出納ヲ軍隊ニ於テ取扱フ場合  
 附則  
 本令ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●引火質物取締規則

昭和六年五月十三日 朝鮮總督府令第五十九號

引火質物取締規則左ノ通定ム  
 第一條 本令ニ於テ引火質物ト稱スルハ「アール」閉塞發焰試驗器ヲ用ヒ七百六十ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏二十一度以上七十度未滿ノ溫度ニテ發焰スル石油(以下單ニ石油ト稱ス)及攝氏二十一度未滿ノ溫度ニテ發焰スル揮發油(以下單ニ揮發油ト稱ス)並ニ「アルコール」及「ベンゾール」ヲ指フ

〔輯五〇〕

第二條 本令ニ於テ貯藏所ト稱スルハ引火質物ヲ貯藏スル倉庫又ハ槽ヲ、詰替所ト稱スルハ引火質物ヲ詰替スル建設物ヲ謂フ  
 第三條 引火質物ノ貯藏ハ貯藏所、詰替所以外ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ其ノ貯藏又ハ一日ノ詰替數量ガ石油ニ在リテハ一千八百五十リットル、「アルコール」又ハ「ベンゾール」ニ在リテハ五百四十二リットル半、揮發油ニ在リテハ二百七十七リットルヲ超エザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 揮發油貯藏ノ爲特別ノ注出裝置及車輪附移動裝置ヲ有スル金屬製密閉容器ヲ用フル場合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケ三百六十一リットル迄ノ數量ヲ貯藏スルコトヲ得  
 第一項但書及前項ニ規定スル數量ハ同一棟內ニ於テ二種以上ノ引火質物ヲ貯藏又ハ詰替スル場合ニ於テハ「アルコール」又ハ「ベンゾール」ニ在リテハ其ノ一リットルヲ石油ニリットル、揮發油ニ在リテハ其ノ一リットルヲ石油五リットルト看做シ合算シタル數量トス  
 餘隙地ニ於テ石油ノミヲ貯藏スル場合ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケ二千六百五十五リットル迄ノ數量ヲ貯藏所以外ノ場所ニ於テ貯藏スルコトヲ得  
 販賣又ハ運送若ハ賃貸自動車營業ノ用ニ供スル引火質物ノ貯藏又ハ詰替ハ第一項但書ノ規定ニ拘ラズ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ  
 第四條 貯藏所又ハ詰替所ヲ建設セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ建設地ヲ管轄スル通知事ニ申請シ許可ヲ受クベシ  
 一 建設者ノ住所、氏名、生年月日及職業(法人ニ在リテハ主たる事務



所ノ所在地、名稱並ニ代表者ノ住所及氏名)

二 建設ノ目的

三 位置

四 設計圖及仕様書、附近四百四十メートル以内ノ見取圖並ニ周圍ノ建

造物ノ種類及此等トノ距離

五 貯蔵又ハ一日ニ詰替スベキ引火質物ノ種類別最大數量

六 貯蔵又ハ詰替ノ方法

七 工事ノ著手及竣功ノ期日

第五條 貯蔵所又ハ詰替所ハ其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有セシムベシ但シ

槽ヲ地下ニ設ケル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一 社寺、學校、病院、公園、劇場、停車場、人家稠密ナル場所、電氣

又ハ瓦斯ノ工場、電力又ハ火力ヲ使用スル工場其ノ他危險ノ虞アリト

認ムル場所ハ百メートル以上

二 人家ハ二十メートル以上

第六條 貯蔵所又ハ詰替所ノ構造及設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ但シ

槽ヲ地下ニ設ケル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一 建物ノ外壁ヨリ十メートル以上ノ空地ヲ保有シ圍障ヲ設ケルコト

二 建物ハ平家建ト爲スコト

三 建物ハ屋根ヲ除クノ外不燃質物ヲ用ヒ屋上ハ瓦、石蓋其ノ他ノ不燃

質物ヲ以テ覆葺スルコト

四 地盤及洞ハ不透過且不燃質ノ材料ヲ以テ築造スルコト

五 地盤ハ相當ノ傾斜ヲ保テシメ溜ニ流下スル設備ト爲シ又ハ適當ノ砂

ヲ敷キ時時日光ニ曝シ乾燥スルコト

六 建物ニシテ九十九平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ一箇所以上

ノ非常口ヲ設ケ扉ハ外開戸又ハ引戸ト爲シ其ノ戸締ハ外部ニ之ヲ設ケ

ルコト但シ詰替所ノ戸締ハ之ニ依ラザルコトヲ得

七 建物ニハ探光及換氣ノ設備ヲ爲スコト

八 建物ニハ適當ナル消火設備ヲ爲スコト

九 同一棟内ニ貯蔵所及詰替所ヲ設ケル場合ニ於テハ煉瓦、鐵筋コンク

リート、石材等ヲ以テ築造シタル防火壁ニ依リ完全ニ遮斷スルコト

十 槽ハ不透過且不燃質ノ材料ヲ以テ築造シ通氣孔ニハ適當ノ防火裝置

ヲ爲スコト

第七條 槽ヲ地下ニ設ケル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依ルベシ

一 槽ノ容積ハ三千六百リットル以下ト爲スコト

二 槽ハ特殊ノ構造又ハ設備ヲ爲ス場合ヲ除クノ外コンクリート、石材

又ハ煉瓦ヲ以テ築造セル室ニ横置シ其ノ空間ニハ砂ヲ充填スルコト

三 槽ノ上端ハ地面下一メートル以上ト爲スコト

四 槽ハ厚サ二メートル以上ノ鐵板ヲ以テ造リ毎平方センチメートル

ルニ付七百グラム以上ノ水壓試驗ニ耐ユルコト

五 槽ノ外面ニハ防蝕方法ヲ施スコト

六 槽ノ上端ニハ直徑三十ミリメートル以上、高サ地上四メートル以上

ノ通氣管ヲ取附ケルコト

七 通氣管ハ其ノ先端ヲ下方ニ屈曲セシメ鋼網ヲ裝置シ且周圍ニ建造物

アル場合ハ其ノ窓又ハ出入口ヨリ一メートル以上ノ距離ヲ保有セシム

ルコト

第八條 通知事ハ貯蔵若ハ詰替スル物品ノ種類若ハ數量又ハ土地若ハ設備

〔輯五〇〕

ノ狀況等ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ第五條、第六條第一號、第

四號、第六號若ハ第七號又ハ前條第一號ノ規定ニ拘ラズ貯蔵所又ハ詰替

所ノ建設ヲ許可スルコトヲ得但シ第五條及第六條第一號ニ規定スル距離

ニ付テハ其ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ズ

第九條 貯蔵所又ハ詰替所ノ建設、改築、増築又ハ大修繕ノ工事竣功シタ

ルトキハ遅滞ナク通知事ニ届出テ其ノ検査ヲ受ケベシ

貯蔵所又ハ詰替所ハ前項ノ検査ニ合格スルニ非ザレバ之ヲ使用スルコト

ヲ得ズ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ貯蔵所又ハ詰替所ノ建設者

ハ建設地ヲ管轄スル通知事ニ申請シ許可ヲ受ケベシ

一 第四條第三號又ハ同條第五號乃至第七號ノ事項ヲ變更セントスルト

キ

二 第四條第四號ノ設計圖又ハ仕様書ヲ變更セントスルトキ

三 貯蔵所又ハ詰替所ノ増築、改築又ハ大修繕ヲ爲サントスルトキ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ貯蔵所又ハ詰替所ノ建設

者ハ十日以内ニ其ノ旨ヲ通知事ニ届出ヅベシ

一 貯蔵所又ハ詰替所ノ建設、改築、増築又ハ大修繕ノ工事ニ著手シタ

ルトキ

二 住所又ハ氏名(法人ニ在リテハ主たる事務所ノ所在地、名稱又ハ代

表者ノ住所若ハ氏名)ヲ變更シタルトキ

三 貯蔵所又ハ詰替所ヲ廢止シタルトキ

四 死亡(法人ニ在リテハ解散)シ又ハ所在不明ト爲リタルトキ

五 貯蔵所又ハ詰替所ノ使用ヲ三月以上休止セントスルトキ



第十七條 貯藏所内ニ於ケル引火質物ノ積載方法ハ内壁ヨリ二十センチメートル以上、梁下ヨリ三十センチメートル以上ノ距離ヲ保有シ且非常口ニ面スル部分ハ非常持出ニ便ナラシムルベシ

第十八條 當該官吏必要アリト認ムルトキハ貯藏所、詰替所、第三條第二項、第四項若ハ第五項ノ規定ニ依リ引火質物ヲ貯藏若ハ詰替スル場所又ハ第二十條若ハ第二十一條ノ規定ニ依ル取締上必要ナル場所ニ臨檢スルコトヲ得

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ通知事ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ對シ許可ヲ取消シ、貯藏所若ハ詰替所ノ使用ヲ制限若ハ停止シ、其ノ構造ヲ變更セシメ又ハ危害豫防上必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

一 危害豫防上必要アリト認ムルトキ  
二 正當ノ事由ナクシテ貯藏所又ハ詰替所ノ建設工事ノ著手ノ期日ヨリ三十日内ニ工事ニ著手セザルトキ  
三 正當ノ事由ナクシテ貯藏所又ハ詰替所ノ建設工事ノ竣功ノ期日ヨリ六十日ヲ經過スルモ仍竣功セザルトキ  
四 正當ノ事由ナクシテ六月以上貯藏所又ハ詰替所ノ使用ヲ休止シタルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ  
第二十條 通知事ハ危害豫防上必要アリト認ムルトキハ引火質物ノ運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ハ黃燐、赤燐、硫化燐、「カリウム」、「ナトリウム」、過酸化ソーダ、炭化石灰、燐化石灰、生石灰、二硫化炭素、「エーテル」、

ラズ

附則

第二十七條 本令ハ昭和六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十八條 引火質物貯藏所取締規則ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 舊令ニ依リ爲シタル許可、處分其ノ他ノ行爲ハ之ヲ本令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

第三十條 舊令ニ依リ建設シタル貯藏所ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノノ位置、構造及設備ニ關シテハ本令施行ノ日ヨリ六月間ハ仍舊令ニ依ル

第三十一條 本令施行ノ際現ニ第三條第一項但書ニ規定スル數量ヲ超エ「ベンゾール」ノ貯藏又ハ引火質物ノ詰替ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ第四條ノ規定ニ準ジ許可ノ申請ヲ爲スベシ

第三十二條 前條ニ規定スル者ハ同條ノ期間仍「ベンゾール」ノ貯藏又ハ引火質物ノ詰替ヲ爲スコトヲ得同條ノ規定ニ依リ許可申請ヲ爲シタル者ニ付同條ノ期間經過後其ノ申請ノ許可アル迄ノ間亦同シ

第三十三條 本令施行ノ際現ニ販賣又ハ運送若ハ貸貸自動車營業ノ用ニ供スル引火質物ノ貯藏又ハ詰替ヲ爲ス者ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ六月間ハ第三條第五項ノ規定ヲ適用セズ

●煙火取締規則

昭和二年一月十八日 朝鮮總督府令第四號

改正 昭和九年第九號

煙火取締規則左ノ通改正ス

第一條 煙火爆竹ヲ含ムハ煙火製造業者以下製造業ニ非サレハ之ヲ製造、改造、變形又ハ修理スルコトヲ得ス

第二條 煙火製造業ト稱スル者ハ左ノ事項ヲ具シ營業地ヲ管轄スル通知事ニ申請シ許可ヲ受ケヘシ

一 本籍、住所、氏名、年齢及職業 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ寫以下

二 製作品ノ種類

三 一年内ニ製作スヘキ最大數量及所要火藥類ノ豫定數量

四 作業主任者ノ氏名及履歷

五 作業ノ方法

六 作業所ノ位置、設備及周圍一町内ノ地物ヲ表示スル圖面

七 職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數

八 所要火藥類貯藏所及煙火貯藏所ノ位置及貯藏ノ方法

九 作業開始ノ期日

十 販賣所ヲ設ケル場合ニ在リテハ販賣所ノ位置



第三條 煙火ハ作業所外ニ於テ之ヲ製造、改造、變形又ハ修理スルコトヲ得ス但シ特ニ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケ一時作業所外ニ於テ變形又ハ修理スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 煙火ハ日出前又ハ日没後之ヲ製造又ハ改造スルコトヲ得ス

第五條 製造業者ハ其ノ製造又ハ改造シタル煙火爆竹ニ製造業者ノ住所、氏名又ハ製造所名及其ノ所在地名、配合火藥類ノ種類及數量並製造又ハ改造ノ年月日ヲ表記スヘシ

第六條 通知事ハ作業主任者ニシテ不適當ト認メラルルモノアルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第七條 製造業者ハ作業主任者ヲ解雇シタルトキ又ハ作業主任者行衛不明ト爲リ若ハ死亡シタルトキハ十日内ニ其ノ旨通知事ニ届出ツヘシ

第八條 製造業者ハ職工ヲ雇入レタルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、年齢及雇入ノ年月日ヲ、職工ヲ解雇シタルトキ又ハ職工行衛不明ト爲リ若ハ死亡シタルトキハ其ノ旨十日内ニ所轄警察署長ニ届出ツヘシ

第九條 作業所ノ設備ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

工場ノ構造

- 一 煉瓦造、石造又ハ木造ノ平屋建ト爲スコト
- 二 屋根ハ薄キ金屬板、石盤板若ハ瓦又ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒテ覆葺スルコト
- 三 屋根裏及天井ハ内部ヨリ壓力ヲ加フルトキハ容易ニ屋蓋ヲ昂起シ得ヘキ構造ト爲スコト
- 四 出入口ヲ二箇所以上設クルコト但シ建物ノ構造ニ依リ一箇所ト爲スコトヲ得

前項ノ帳簿ニハ煙火又ハ火藥類ノ種類別ニ月計及年計ヲ朱記スヘシ

第十四條 製造業者ハ其ノ製造又ハ販賣シタル煙火ノ種類、數量及煙火製造ノ爲使用シタル火藥類ノ種類及數量ニ付、販賣業者ハ其ノ買入又ハ販賣シタル煙火ノ種類及數量ニ付毎年一月乃至六月分ヲ七月二十日迄、七月乃至十二月分ヲ翌年一月二十日迄ニ營業地ヲ管轄スル通知事ニ届出ツヘシ

第十五條 相續ニ依リ製造業又ハ販賣業ヲ承繼シタル者ハ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ規定ニ依リ承繼シタル者ハ十日内ニ其ノ營業種別、被承繼者ノ住所、氏名、承繼者ノ住所、氏名、年齢及職業並相續ノ年月日ヲ通知事ニ届出ツヘシ

第十六條 製造業者又ハ販賣業者一月以上休業セムトスルトキハ通知事ニ届出ツヘシ

製造業者又ハ販賣業者行衛不明ト爲リ又ハ死亡シタルトキハ一月内ニ戶主又ハ家族ヨリ通知事ニ届出ツヘシ但シ死亡ノ場合ニ於テ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 煙火ハ火藥類貯藏所又ハ本令ニ規定スル煙火貯藏所以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス但シ五貫以内ノ煙火ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

第十八條 煙火貯藏所ヲ建設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ建設地ヲ管轄スル通知事ノ許可ヲ受ケヘシ

五 適當ノ採光裝置ヲ爲スコト

六 高所ニ物品ヲ置キ又ハ懸吊スルカ如キ設備ヲ爲ササルコト

火藥類貯藏場ノ構造

- 一 煉瓦造、石造、土藏造其ノ他不燃質物造ノ平屋建ト爲シ且前項第二號及第三號ノ規定ニ依ルコト但シ地下ニ設ケル場合ニ於テ防濕ノ設備ヲ施シ且不燃質物ヲ以テ外面ヲ被フトキハ木造ト爲スコトヲ得
- 二 棚ヲ設ケル場合ハ物品ノ墜落セサル裝置ト爲シ且堅牢ナル構造ト爲スコト

火藥類貯藏場ハ工場附近ニ之ヲ設ケ且相當ノ距離ヲ保有セシムルコト

第十條 煙火販賣業以下販賣業ヲ營ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ營業地ヲ管轄スル通知事ニ申請スヘシ但シ製造業者其ノ製造又ハ加工シタル煙火ヲ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 本籍、住所、氏名、年齢及職業
- 二 販賣所ノ位置
- 三 煙火貯藏所ノ位置及貯藏ノ方法
- 四 營業開始ノ期日

第十一條 煙火販賣業者以下販賣業ハ輸移入ニ係ル煙火ニ付テハ第五條ノ規定ニ準スル表記アルモノニ非サレハ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十二條 製造業者又ハ販賣業者ハ煙火貯藏所ヲ備フヘシ但シ銃砲火藥類取持令施行規則ニ定ムル火藥庫又ハ倉庫アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 製造業者又ハ製造業者ニシテ販賣業ヲ兼ムル者ハ株式第一號乃至第五號ノ帳簿ヲ、販賣業者ハ株式第五號ノ帳簿ヲ備ヘ遲滞ナク所定ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 建設者ノ本籍、住所、氏名、年齢及職業
- 二 貯藏所ノ位置
- 三 貯藏スヘキ煙火ノ種類及最大數量
- 四 貯藏所ノ設計圖、仕様及周圍一町内ノ地物ヲ表示スル圖面
- 五 工事ノ著手及竣功ノ期日

第十九條 煙火貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ不燃質物ヲ以テ造リタル安全ナル建物ノ一部ヲ區劃シテ充當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 土藏造、鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造ノ平屋建ト爲スコト
- 二 屋根ハ不燃質物ヲ用ヒ意及出入口ニハ防火ノ設備ヲ爲スコト
- 三 内部ニハ鐵類ヲ露ハササルコト

第二十條 煙火貯藏所ニハ煙火及一貫三百匁以内ノ有煙火藥以外ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第二十一條 煙火貯藏所内ニハ木炭、油類、綿類、襪其ノ他點火、發火又ハ燃燒シ易キ物品ヲ搬入スルコトヲ得ス

第二十二條 煙火貯藏所ヲ讓渡若ハ貸渡又ハ廢止シタルトキハ十日内ニ通知事ニ其ノ旨届出ツヘシ其ノ滅失シタルトキ亦同シ

第二十三條 作業所又ハ煙火貯藏所ハ其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有セシムヘシ但シ作業所及煙火貯藏所相互間ノ距離ニ付テハ本條ヲ適用セス

- 一 社寺、學校、病院、劇場、公園、市場、電氣、瓦斯若ハ石油工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、船舶ノ繫留所又ハ市街地ノ建物ニ一町以上







注意

- 一 自己所有ノ煙火ヲ改造、變形又ハ修理シタルトキハ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ
- 二 月計及年計ハ改造、變形及修理ノ區別ニ從ヒ記載スヘシ

第五號

- 一 此ノ様式ノ帳簿ハ火藥類ノ種類別ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ但シ受拂ノ簡單ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 二 拂出高及拂出ノ事由漏ニハ煙火ノ製造、改造、變形、修理若ハ打揚又ハ買入レタル火藥類ノ讓渡等ノ區別ニ依リ記載スヘシ

火藥類買入明細簿

年月日	種類 名稱	數量	住 所	賣渡人ノ 氏名	備 考

注意

此ノ様式ノ帳簿ハ火藥類ノ種類別ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ

第四號

火藥類受拂明細簿

年月日	種類 名稱	受入 高	拂出 高	現在 高	拂出ノ 事由	備 考

注意

一 此ノ様式ノ帳簿ハ火藥類ノ種類別ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ但シ受

●普通火藥類製造取締規則

昭和七年七月十六日  
朝鮮總督府令第六十五號

- 一 此ノ様式ノ帳簿ハ煙火ノ種類別ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ但シ受拂ノ簡單ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 二 此ノ様式ノ帳簿ニハ製造業者ニ在リテハ製造又ハ依託ニ依ル改造、變形若ハ修理ニ係ル煙火ノ受拂ニ付、販賣業者ニ在リテハ買入又ハ拂出シタル煙火ニ付記載スヘシ
- 三 製造業及販賣業ヲ兼ムル者ニ在リテハ同一帳簿ニ其ノ受拂ヲ記載スヘシ
- 四 月計及年計ハ受拂ノ別ニ記載スヘシ

制定 昭和九年第九〇號、一〇年第一一八號、一四年第二九號  
爆藥製造取締規則左ノ通定ム

普通火藥類製造取締規則

- 第一條 本令ニ於テ普通火藥類ト稱スルハ火藥類中專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ除キタルモノヲ謂フ
- 第二條 普通火藥類ヲ製造セントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クベシ但シ販賣ヲ目的トスル者ハ營業ノ種類、販賣所ノ位置、貯藏所ノ位置及設備、貯藏ノ方法並ニ營業開始ノ期日ヲモ記載スベシ
- 一 住所、氏名、年齢及職業(會社ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所氏名、定款ノ寫及社員又ハ株主ノ名簿)
- 二 製造ノ目的及期間
- 三 製品ノ種類、説明及貯藏ノ方法
- 四 一定期間内ニ製造スベキ豫定數量
- 五 作業主任ノ氏名及履歷
- 六 作業ノ詳細ナル方法
- 七 作業所ノ位置及設備並ニ其ノ附近ノ狀況
- 八 作業ノ開始期日
- 九 職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及取締ニ關スル規定
- 十 作業所ニ同時ニ置クベキ火藥類、其ノ原料又ハ半成品ノ種類及最大數量
- 十一 原料火藥類ノ調達及貯藏ノ方法
- 十二 試驗爆發ヲ爲ス場合ニ於ケル危險豫防ノ爲設備スベキ事項
- 十三 其ノ他危險豫防ノ爲必要ナル事項



- ザル建築物ヲ除クノ外危險區域内ニ築造スルコトヲ得ズ
- 五 汽罐室及煙突ハ無危險區域内ニ之ヲ築造シ爆發若ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スベシ
- 六 爆發ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有シ且爆發ニ當リ輕量ノ飛散物ト爲ルベキ物ヲ用フベシ
- 七 爆發ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ必要ニ應ジ避雷裝置及土堤ヲ設ケベシ
- 八 發火ノ危險アル工場ニハ避雷裝置ヲ爲スベシ
- 九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ強風ノ際砂塵ノ飛揚ヲ防止スル爲メ撒水ヲ爲スベシ但シ作業上已ムテ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニハ適當箇影ノ意及非常ノ際從業者ノ避難上便利ナル場所ニ出口ヲ設ケ扉ハ外開トシ其ノ金具ニシテ直接鐵ト摩擦スル部分ニハ銅、黃銅又ハ青銅ノ類ヲ用ヒ日光ノ直射ヲ受クル部分ノ意硝子ニハ不透明ノモノヲ用フベシ
- 十一 爆發ノ危險アル工場ノ内面ハ土砂類ノ剝落飛散ヲ防ギ且鐵類ヲ露ハサザル措置ヲ爲スベシ
- 十二 火藥類飛散ノ虞アル工場ノ天井、内壁ハ罅隙ヲ存スルコトナク且水洗ニ耐フル塗料ヲ塗布スベシ
- 十三 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用ヒテ密ニ張り詰メ火藥類ノ滲透又ハ其ノ粉末ノ介入ヲ避ケベキ適當ノ方法ヲ講ズベシ
- 十四 發火性若ハ引火性ノ瓦斯又ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯

【輯四三】

- 二十二 工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類カ火藥又ハ火藥類内ニ混入セザル措置ヲ爲スベシ
- 二十三 火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外ノ適當ナル場所ニ搬出スベシ
- 二十四 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内及其ノ附近ニハ發火又ハ燃焼シ易キ物ヲ堆積スルコトヲ得ズ
- 二十五 工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帯品ノ檢査ヲ行フベシ
- 二十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用スルコトヲ得ズ
- 二十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ定員外ノ勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ
- 二十八 危險區域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタル者ノ外立入ラシムルコトヲ得ズ
- 二十九 作業所内ニ於テ飲酒シ又ハ工場若ハ火藥類溜置場以外ニ於テ特ニ設ケタル室内ニ非ザレバ喫煙スルコトヲ得ズ
- 三十 爆發若ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場内ノ照明ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用スルコトヲ得ズ
- 三十一 爆發若ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ携帯電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ズ
- 三十二 火藥、爆藥及其ノ原料ハ作業ニ要スル最少量ニ非ザレバ工場内ニ之ヲ置クコトヲ得ズ作業中避ケベカラザル停滯品ヲ生ジタル場合ハ

- ノ排氣裝置ヲ爲スベシ
- 十五 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造建物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スベシ
- 十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ原動機ヲ据附クルコトヲ得ズ但シ火藥類ノ粉末又ハ爆發性若ハ引火性ノ瓦斯ノ侵入ヲ防止スベキ裝置アル區内ニ据附クル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ据附又ハ備附クル機械器具類ハ作業上已ムテ得ザル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用ヒ總テノ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類ノ粉末ノ附著ヲ避ケベキ適當ノ方法ヲ講ズベシ
- 十八 火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スベシ但シ之ヲ裝置スルコトヲ得ザルモノニ在リテハ手力ヲ以テ容易ニ調整シ得ベキ裝置ヲ爲スベシ
- 十九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於ケル暖房裝置ニハ蒸氣、熱氣又ハ温水ノ外使用スルコトヲ得ズ
- 暖房裝置ハ燃焼シ易キ物ト隔離シ且塵埃又ハ火藥類ノ粉末ノ附著ヲ避ケベキ適當ノ方法ヲ講ズベシ
- 二十 火藥又ハ爆藥ノ乾燥室内ノ暖房裝置ハ火藥又ハ爆藥ヲ乾燥スル場所ヨリ隔離スベシ但シ温水暖房裝置ニシテ其ノ温度乾燥温度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
- 二十一 工場又ハ火藥類溜置場ニハ内部又ハ外部ノ見易キ場所ニ揭示板ヲ掲ケ其ノ場内ニ存置セシメ得ベキ原料及製作品ノ種類、數量及其ノ取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スベシ

【輯五七】

三三八ノ三











二 爆藥 雷酸鹽「雷汞」、起爆ノ用途ニ供スル窒化物「窒化鉛」其ノ他ノ起爆劑、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥「各種ダイナマイトノ類」、硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル硝化火藥、芳香系列ノ硝化物及之ヲ主トスル混和物、ナイトロベンジン、ナイトロナフタリン、ナイトロトリユノ類、オール、ヒクリン酸及ヒクリン酸ヲ主トスル混和物ノ類、

三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線一尺ノ燃秒以上ヲ要スル速燃導火線又ハ煙火、爆竹其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス

第二條ノ二 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造又ハ變形修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥

二 爆藥 雷酸鹽「雷汞」、ナイトロトリユオール、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥「各種ダイナマイトノ類」、硝酸アンモニアヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル硝化火藥又ハ煙火原料用爆藥

三 火工品全部

第三條 臺灣銃砲火藥類取締規則ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

第四條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ニ付行政官廳ノ委託事項ヲ記載スヘシ

火藥類販賣營業ノ許可申請書ニハ甲種、乙種ノ區別及販賣所ノ位置、設備ヲ記載スヘシ

第八條ノ二 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可ヲ受ケタル者第七條及第八條ノ規定ニ依リ許可申請書ニ具シタル事項作業所ノ設備又ハ其ノ變更セムトスルキハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケルヘシ但シ住所、姓名、職業、代表者ノ住所、姓名、名稱、事務所ノ所在地、ニ付テハ其ノ變更後七日内ニ届出ヘシ

第九條 銃砲火藥類製造業者其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲火藥類ノ販賣營業ヲ兼ムル者ハ其ノ事業開始前販賣所ノ位置、設備ヲ營業地所轄知事又ハ廳長ニ届出ヘシ

相續ニ因リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ承繼シタル者ハ十日内ニ其ノ營業ノ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ届出ヘシ

前項ノ届出ニハ相續ニ因リ承繼スル營業、被相續人ノ住所姓名、相續ノ原因及年月日ヲ記載スヘシ

第十條 許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル設備ハ臺灣總督又ハ其ノ委任ヲ受ケタル知事又ハ廳長ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付亦同シ

第十一條 銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ事項ヲ命スルコトヲ得

前項ノ設備ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

ヲ受ケタル者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修理スヘキ火藥類ノ種類、數量、委託ノ年月日、委託ノ條件及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添附シ作業地所轄知事又ハ廳長ニ届出ヘシ

第五條 銃砲ノ製造又ハ火藥若ハ爆藥ノ製造若ハ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理又ハ煙火原料用火藥若ハ爆藥製造ノ許可ハ作業地所轄知事又ハ廳長ヲ經由シ臺灣總督ニ申請スヘシ

第六條 銃砲火藥類ノ販賣營業ノ許可ハ營業地所轄知事又ハ廳長ニ申請スヘシ

第七條 銃砲ノ製造又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、姓名、年齢、職業、代表者ノ住所、姓名、定款寫、社員若ハ株主ノ名簿、製作ノ目的、製作品ノ種類、其ノ細密圖及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、作業ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備、職工其ノ他ノ勞務者ノ取締ニ關スル規定、試驗射撃ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲メ特ニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯藏ノ方法、作業所ニ同時ニ置クヘキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ種類、員數ノ最大限其ノ他危害豫防ノ爲メ特ニ規定スヘキ事項ヲ記載スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ハ危害豫防ニ關スル警察官吏ノ職權ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第十三條 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第十一條ノ規定ニ依リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル者ハ許可又ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受ケルヘシ

前項ノ許可申請ニシテ臺灣總督ニ之ヲ爲ストキハ作業地所轄知事又ハ廳長ヲ經由スヘシ

第十四條 銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥類販賣業者ニ與フル許可ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フヘシ

第十六條 火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者之ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥一貫ヲ火藥ニ貫ト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各消費ノ場所ニ付之ヲ適用ス

第十六條ノ二 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ火藥類ノ作業主任者ヲ置クヘシ

〔輯四〇〕

〔輯四〇〕



第十七條 火藥類取扱免狀ハ甲、乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ臺灣總督銜ノ上之ヲ交付ス

甲種

- 一 實業學校令ニ依リ甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣又ハ臺灣總督ノ指定シタル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者
- 二 陸軍砲兵工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者
- 三 陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者
- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

乙種

- 一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者
- 二 火藥類作業主任者免狀ハ甲、乙、丙ノ三種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ臺灣總督銜ノ上之ヲ交付ス

甲種

- 一 火藥學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於ケル火藥學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者
- 二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ付テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者
- 三 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校卒業者ニシテ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火藥類ノ作業主任者トシテ三年以上其ノ實務ニ從事シタル者
- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

日本

乙種

- 一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者
- 二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者
- 三 實業學校令ニ依リ甲種實業學校其ノ他内務大臣又ハ臺灣總督ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者
- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

丙種

- 一 實業學校令ニ依リ甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣又ハ臺灣總督ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品ノ製造ノ實務ニ從事シタル者
  - 二 陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者
  - 三 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者
  - 四 本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技能ヲ有スル者
- 第十七條ノ三 火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫以上ノ作業所ニハ甲種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者、火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫未滿ノ作業所又ハ火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リ以上ノ作業所ニハ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者、其ノ他ノ火藥類作

【附四】

業所ニハ丙種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者ヲ置ケヘシ

第十七條ノ四 臺灣總督ハ保安上必要ト認ムル場合ニ於テハ火藥類作業主任者ノ變更ヲ命ジ若ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十八條 假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥又ハ爆藥ヲ取扱フニハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者ニ任スルコトヲ要ス

第十九條 火藥類取扱人ヲ定メタルトキハ其ノ姓名、履歷及火藥類取扱免狀ノ種別ヲ具シ火藥類販賣業者ニ在リテハ營業地、其ノ消費者ニ在リテハ消費地ノ郡役所、支廳又ハ警察官署ニ之ヲ届出ヘシ但シ消費地定マラサルトキハ所轄郡役所、支廳又ハ警察官署ニ之ヲ届出ヘシ

第二十條 銃砲火藥類ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ所持スルコトヲ得ス

第二十一條 銃砲火藥類ハ未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者、白痴若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス但シ官公立學校ニ於テ其ノ生徒ニ之レヲ所持セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 軍用銃砲火藥類ノ所持、讓渡又ハ讓受ノ許可ハ臺灣總督ニ申請スヘシ

非軍用銃砲火藥類ノ所持、讓渡又ハ讓受ノ許可ハ所轄知事又ハ廳長ニ申請スヘシ但シ火藥類ノ消費地所轄縣外ナルトキハ消費地ノ所轄知事又ハ廳長ニ申請スヘシ

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ銃砲火藥類ノ種類、數量及事由ヲ記載スヘシ但シ火藥類ノ讓受ニ在リテハ用途、消費ノ時、場所ヲ併記シ若シ消費ノ時、場所定ラサルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ  
前項ノ許可申請書ニ記載スヘキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定

ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

第二十四條 銃砲火藥類販賣業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 銃砲讓渡ノ許可ヲ受ケタル者ハ銃砲ト共ニ所持許可證ヲ讓受人ニ交付スヘシ但シ銃砲ノ製造業者又ハ販賣業者ニ讓渡ストキハ所持許可證ハ下付ヲ受ケタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

第二十六條 銃砲火藥類讓受ノ許可證ハ銃砲火藥類ヲ讓受ケルノ際之ヲ讓渡人ニ、其ノ讓渡許可證又ハ認可證ハ銃砲火藥類ヲ讓渡スノ際之ヲ讓受人ニ交付スヘシ

第二十七條 第二項又ハ第三十條ノ規定ニ依リ火藥類讓受又ハ消費ノ許可ヲ有スル者ニ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ其ノ許可證ニ記入シ署名捺印スヘシ

火藥類讓受又ハ消費許可證ハ前項ニ定メタル事項ヲ記入スル餘白ナキニ至リタルトキハ十日内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

銃砲火藥類販賣業者ニ非サル者第一項ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證又ハ認可證ハ十日内ニ所轄郡役所、支廳又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ

第二十七條 第三十三條及第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受ケル者ハ行政官廳ノ與ヘタル銃砲免狀又ハ火藥類消費ノ許可證ヲ讓渡人ニ提示スヘシ

第二十八條 火藥類所持許可證ヲ有スル者其ノ火藥類ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ數量ヲ許可證所定欄ニ記入シ火藥ノ全部ヲ消費シ讓渡シ又ハ記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ十日内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ之



ヲ返納スヘシ但シ記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ新所持許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二十九條 銃砲火藥類讓渡又ハ讓受ノ許可ハ二月間其ノ效力ヲ有ス

第三十條 工業用、鑛業用、漁業用、船内銃砲用、煙火爆竹製造用其ノ他工業ノ爲火藥類ヲ消費セムトスル者ハ所持郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ニ申請シ消費ノ許可ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ許可申請書ニハ工業ノ種類、所要火藥類ノ種類、數量及其ノ使用方法ヲ記載スヘシ

第三十一條 銃砲火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依ル競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セス

前項ノ公賣又ハ競賣ヲ爲ス者ハ臺灣銃砲火藥類取締規則及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第三十二條 地盤又ハ物件ヲ破砕スル目的ヲ以テ火藥類ヲ使用セムトスル者ハ使用地所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ許可ヲ受ケヘシ但シ臺灣總督ノ特ニ定メタル場合又ハ臺灣鑛業規則ニ依ル鑛物ノ採掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ許可申請書ニハ所要火藥類ノ種類、數量、使用方法、事業ノ種類及其ノ場所ヲ表示シ其ノ附近ノ略圖ヲ添付スヘシ

第三十二條ノ二 陸軍服裝規則ニ依リ拳銃ノ携帶ヲ要スル者ハ該拳銃ニ限リ讓受ノ許可ヲ要セス

前項ニ依リ拳銃ヲ讓受ケタルトキハ三日内ニ住所、官職、姓名、讓受年月日、拳銃ノ種類、數量及製造番號ヲ所轄郡守、支廳長又ハ警察署長ニ届出ツベシ但シ所屬部隊長(在郷軍人ニ在リテハ臺灣軍司令官トス)ヨリ通知アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 第三十條ノ規定ニ依リ消費ノ許可ヲ受ケタル者其ノ消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ左ノ各號ノ火藥類ニ限リ讓受ノ許可ヲ要セス

- 一 火藥 三貫以内
  - 二 工業用雷管 一貫以内
  - 三 工業用雷管 二千箇以内
  - 四 信管 千箇以内
  - 五 爆管 千箇以内
  - 六 門管 千箇以内
  - 七 導火線 五百間以内
- 第三十四條 銃砲免狀ヲ受ケタル者銃砲期間内消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ左ノ各號ノ火藥類ニ限リ讓受ノ許可ヲ要セス
- 一 火藥 四百匁以内
  - 二 銃用實包 四百箇以内
  - 三 銃用空包 四百箇以内
  - 四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莖 四百箇以内
- 第三十五條 左ノ各號ニ該當スル者ハ銃砲火藥類所持ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 一 銃砲火藥類製造業者
  - 二 銃砲火藥類販賣業者
  - 三 委託若ハ許可ヲ受ケ銃砲火藥類ノ製造、修繕若ハ變形修理ヲ爲ス者
  - 四 第三十二條ノ規定ニ依リ銃砲火藥類讓受ノ許可ヲ受ケタル者
  - 五 第三十三條及第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受ケタル者
  - 六 銃砲火藥類輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
  - 七 運送業者
- 第三十六條 第三十三條及第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セスシテ讓受ケタル火藥類ヲ事業終了後又ハ狩獵期間外ニ於テ所持セムトスル者ハ第

二十二條ノ規定ニ依リ所持ノ許可ヲ申請スヘシ

第三十七條 法人ノ合併、相續又ハ遺贈ニ因リ銃砲火藥類ヲ所持スル者又ハ自用ノ銃砲火藥類ヲ移入シタル者ハ第二十二條ノ規定ニ依リ所持ノ許可ヲ申請スヘシ但シ移入ノ場合ヲ除クノ外申請書ニハ前許可證ヲ添付スヘシ

銃砲火藥類ヲ所持スル者死亡、廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ所持スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ法人解散ノ場合ニ在リテハ精算人ヨリ死亡ノ場合ニ在リテハ戸主、相續人又ハ遺產管理人ヨリ其ノ他ノ場合ニ在リテハ其ノ物件ヲ所持スル者ヨリ十日内ニ軍用銃砲火藥類ニ在リテハ臺灣總督、非軍用銃砲火藥類ニ在リテハ所轄知事又ハ廳長ノ認可ヲ受ケ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ處分スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、處分ノ方法及其ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十八條 前條第一項ノ許可又ハ第二項ノ認可ヲ爲ササル場合若ハ許可又ハ處分ノ認可ヲ申請セサル者ニ對シテハ臺灣總督知事又ハ廳長ハ期間ヲ指定シテ銃砲火藥類ノ處分ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ從ハサルトキハ其ノ物件ヲ沒收ス

第三十九條 軍用銃砲ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ヨリ交付ヲ受ケタル所持許可證ヲ添ヘ三日内ニ臺灣總督ニ許可證ノ裏書ヲ申請スヘシ

第三十九條ノ二 軍用銃砲ヲ陸、海軍官廳又ハ銃砲販賣業者ヨリ讓受ケタル者ハ三日内ニ臺灣總督ニ所持許可證ノ下付ヲ申請スヘシ

第四十條 非軍用銃砲ヲ銃砲販賣業者ヨリ讓受ケタル者ハ三日内ニ所轄知事又ハ廳長ニ所持許可證ノ下付ヲ申請スヘシ

第四十一條 非軍用銃砲ヲ銃砲販賣業者以外ノ者ヨリ讓受ケタル者ハ讓渡人ヨリ交付ヲ受ケタル所持許可證ヲ添ヘ三日内ニ所轄知事又ハ廳長ニ許可證ノ裏書ヲ申請スヘシ

第四十一條ノ二 火藥類ヲ讓受ケタル者ハ三日内ニ軍用ニ在リテハ臺灣總督ニ非軍用ニ在リテハ所轄知事又ハ廳長ニ所持許可證ノ下付ヲ申請スヘシ

第四十二條 銃砲火藥類所持許可證ヲ有スル者住所姓名ヲ變更シタルトキハ三日内ニ許可證ノ下付ヲ受ケタル官廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

第四十三條 銃砲ノ所持許可證ノ下付ヲ受ケタルトキハ其ノ銃砲ヲ許可證ノ下付ヲ受ケル官廳ニ差出シ檢印番號ノ打刻ヲ受ケヘシ但シ製造番號ヲ以テ檢印番號ニ代フルコトヲ得

第四十四條 銃砲火藥類ハ之ヲ遺棄スルコトヲ得ス

第四十五條 銃砲火藥類ヲ廢棄セムトスルトキハ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ニ届出テ其ノ指示ヲ受ケヘシ

第四十六條 銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條、第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ武器及爆發質物品ニ之ヲ準用ス

第四十七條 軍用銃砲火藥類輸出ノ許可ハ臺灣總督ニ、非軍用銃砲火藥類ノ輸出ノ許可ハ所轄知事又ハ廳長ニ申請スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ輸出スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、輸出ノ目的、輸出先、輸出年月日、輸出取扱者、輸出港名、積載スヘキ船名及輸出品調達ノ方法ヲ記載スヘシ

銃砲火藥類ノ製造業者又ハ販賣業者銃砲火藥類ヲ輸出セムトスルトキハ一週間前ニ前項ノ事項ヲ具シ所轄知事又ハ廳長ニ届出ヘシ



第一項ノ許可ヲ受ケタル者又ハ銃砲火藥類ノ製造業者若ハ販賣業者銃砲火藥類ヲ輸出セムトスルトキハ一週間前其ノ種類、數量、輸出先、輸出年月日、輸出取扱者、積載スヘキ船名ヲ輸出港所轄知事又ハ廳長ニ届出ヘシ但シ輸出ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可證ノ寫ヲ添付スヘシ

第四十八條 軍用銃砲火藥類輸入ノ許可ハ臺灣總督ニ、非軍用銃砲火藥類輸入ノ許可ハ所轄知事又ハ廳長ニ申請スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ輸入スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、輸入ノ目的、買入先、輸入港名、到達ノ日取、積載スヘキ船名及火藥類ニ在リテハ其ノ成分並輸入ノ數量ニ對スル貯藏ノ方法ヲ記載スヘシ

第四十九條 銃砲火藥類ヲ輸入シタル者ハ輸入ノ時ヨリ二十四時間内ニ其ノ種類、數量及陸揚シタル年月日ヲ輸入港所轄知事又ハ廳長ニ届出ヘシ自用ノ銃砲火藥類ヲ移入スル者ハ其ノ銃砲火藥類ノ種類、數量及行先地ヲ船長ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ受ケタル船長ハ入港ノ際直ニ移入港所轄知事、支廳又ハ警察官署ニ届出ヘシ

第五十條 第四十七條及第四十八條ノ許可ハ六月間其ノ效力ヲ有ス

第五十一條 第二十二條、第三十條、第三十二條、第四十七條及第四十八條ノ許可ハ行政官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第五十二條 輸入、讓受又ハ所持ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ爲シタル行政官廳、第三十三條及第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ讓受ケタル火藥類ハ所轄知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

〔日本〕

第五十三條 保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲火藥類ノ輸入、輸出ノ禁止又ハ制限ハ臺灣總督之ヲ行フ

第五十四條 銃砲ノ讓受、火藥類ノ消費及使用ノ許可ハ其ノ事由ノ消滅ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第五十五條 銃砲火藥類ノ讓渡、讓受、所持、輸入、輸出、運搬又ハ火藥類ノ消費若ハ使用ノ許可證又ハ認可證ハ許可力取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

第五十六條 銃砲火藥類製造業者ハ別記第一號様式及第二號様式ノ帳簿ヲ備ヘ之ニ其ノ製造、改造又ハ修繕若ハ變形修理シタル年月日、銃砲火藥類ノ種類、數量及其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條 銃砲火藥類ノ製造業者又ハ販賣業者ハ別記第三號様式及第四號様式ノ帳簿ヲ備ヘ其ノ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量、取引ノ年月日、讓渡人、注文人若ハ讓受人ノ住所姓名、讓受又ハ讓渡ノ事由、法人ニ在リテハ其ノ商號及事務所ノ所在地ヲ記載スヘシ

第五十八條 銃砲火藥類ノ製造業者又ハ販賣業者ハ一月間取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量並各種類月未現在高ヲ別記第五號様式及第六號様式ニ依リ翌月十日迄ニ所轄知事、支廳又ハ警察官署ニ届出ヘシ

第二十六條第一項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證又ハ認可證ハ一月分取盡メ前項届出ト同時ニ郡役所、支廳又ハ警察官署ニ差出スヘシ

第五十九條 火藥類消費者ニシテ一年間ノ火藥消費數量カ第三十三條各號ノ數量ヲ超過スルトキハ火藥類ノ出納及其ノ取締ニ關スル事項ヲ掌ラシムル爲メ火藥類出納主任者ヲ定メ其ノ住所姓名ヲ消費地所轄知事、支廳又ハ警察官署ニ届出ヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

〔日本〕

前項ノ火藥類消費者ノ火藥類出納ニ付テハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 火藥類出納主任者ハ一日間ノ使用豫定數量ヲ超過シタル火藥類ヲ從業者ニ交付スルコトヲ得ス

二 從業者ハ火藥類ヲ使用シタル後殘餘アルトキハ直ニ之ヲ火藥出納主任者ニ返還スヘシ

第一項ノ火藥類消費者ハ別記第七號様式ノ帳簿ヲ備ヘ消費ニ關スル事項ヲ記載シ火藥類ノ毎月未現在高及消費セシ火藥類ノ種類、數量ヲ別記第八號様式ニ依リ翌月十日迄ニ消費地所轄知事、支廳又ハ警察官署ニ届出ヘシ

第六十條 銃砲火藥類ノ所持、讓渡、讓受、輸入及輸出ノ許可證又ハ認可證並火藥類ノ運搬、消費及使用ノ許可證ハ別記第九號様式乃至第十八號様式ニ依ルヘシ

第六十一條 銃砲火藥類又ハ前條ノ許可證若ハ認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明ト爲リタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知りタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタル時ヨリ二十四時間内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種別及許可證ヲ下付シタル官廳名ヲ警察官吏ニ届出ヘシ

第六十二條 前條ノ届出ヲ爲シタルトキハ許可又ハ認可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證又ハ認可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

第六十三條 火藥類作業所ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 工場又ハ火藥類溜置場ハ相當ノ距離ヲ保有スヘシ

二 作業所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ警戒札ヲ建ツヘシ

三 森林内ニ設置スル作業所ニ在リテハ其ノ圍墻ニ沿ヒ幅一間以上ノ防火線ヲ設クヘシ

四 作業所内ハ危險區域ト無危險區域トヲ明瞭ニ區分シ作業上已ムテ得サル建築物ヲ除クノ外危險区域内ニ築造スヘカラス

五 汽罐室及煙突ハ無危險區域内ニ之ヲ築造シ爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スヘシ

六 爆發ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有シ且爆發ニ當リ輕量ノ飛散物ト爲ルヘキモノヲ用ウヘシ

七 爆發ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ必要ニ應ジ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ第七十五條第一項第六號乃至第八號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置及土堤ニ之ヲ準用ス

八 發火ノ危險アル工場ニハ避雷裝置ヲ爲スヘシ第七十五條第一項第六號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置ニ之ヲ準用ス

九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ強風ノ際砂塵ノ飛揚ヲ防止スル爲メ撒水ヲ爲スヘシ但シ作業上已ムテ得サルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニハ適當箇數ノ窓及非常ノ際從業者ノ避難上便利ナル場所ニ出口ヲ設ケ扉ハ外開キトシ其ノ金具ハ直接鐵ト摩擦スル部分ニハ銅、黃銅又ハ青銅ノ類ヲ用井日光ノ直射ヲ受クル部分ノ窓硝子ニハ不透明ノモノヲ用ウヘシ

十一 爆發ノ危險アル工場ノ内面ハ土砂類ノ剥落飛散ヲ防キ且鐵類ヲ露ハササル措置ヲ爲スヘシ

十二 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ノ天井、内壁ハ罅隙ヲ存スルコトナ



- 十三 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用テ密ニ張り詰メ火藥類ノ滲透又ハ其ノ粉末ノ介入ヲ避ケヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ
- 十四 發火性又ハ引火性瓦斯若ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ
- 十五 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造建物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スヘシ
- 十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ原動機ヲ据付クルコトヲ得ス但シ火藥類粉末又ハ爆發性、引火性瓦斯ノ侵入ヲ防止スヘキ裝置アル區劃内ニ据付クルハ此ノ限ニ在ラス
- 十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ据付又ハ備付クル機械、器具類ハ作業上已ムテ得サル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用井總テノ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類粉末ノ附著ヲ避ケヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ
- 十八 火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スヘシ但シ之ヲ裝置スルコトヲ得サルモノニ在リテハ手力ヲ以テ容易ニ調整シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 十九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於ケル暖房裝置ニハ蒸氣、熱氣又ハ温水ノ外使用スルコトヲ得ス

〔日本〕

- 備ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用スヘカラス
- 三十一 爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場ニハ携帯電燈ノ外燈丁火ヲ携フルコトヲ得ス
- 三十二 火藥、爆藥及其ノ原料ハ作業ニ要スル最少量ニ非サレハ工場内ニ之ヲ置クコトヲ得ス作業中避ケヘカラス停滯品ヲ生シタル場合ニ於テハ工場附近ニ於テ相當ノ距離ヲ保有スル場所ニ築造シタル火藥類溜置場ニ一時之ヲ入レ置クヘシ
- 三十三 作業所内ニ於テ生シタル火藥類ノ廢棄及不良品ハ一定ノ廢棄容器ニ收容シ毎日一回一定ノ場所ニ於テ廢棄其ノ他危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 三十四 火藥、爆藥又ハ其ノ原料ヲ運搬スル容器ハ適當ノ材料ヲ以テ之ヲ作り且確實ニ之ヲ閉塞スヘシ
- 三十五 火藥類運搬ノ通路ハ暴露シタル火器使用ノ場所ヲ回避シ路面ハ之ヲ平坦ナラシメ勾配ヲ附スル必要アル場合ニ於テハ地形上已ムテ得サル場合ノ外六十分ノ一以下ト爲スヘシ
- 三十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ於テ改築、修繕等ノ工事ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ著手前危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 三十七 爆發其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ヘシ郡役所、支廳又ハ警察官署ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ現場ヲ變更スルコトヲ得ス
- 三十八 製造又ハ變形修理シタル火藥、爆藥ノ容器及其ノ外箱ニハ火

- 二十 火藥、爆藥乾燥室内ノ暖房裝置ハ火藥、爆藥ヲ乾燥スル場所ヨリ隔離スヘシ但シ温水暖房裝置ニシテ其ノ溫度乾燥溫度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 二十一 工場又ハ火藥類溜置場ニハ内部又ハ外部見易キ場所ニ揭示板ヲ設ケ其ノ場内ニ存置セシメ得ヘキ原料及製作品ノ種類、數量及其ノ取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スヘシ
- 二十二 工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類ヲ火藥、爆藥内ニ混入セシメサルノ措置ヲ爲スヘシ
- 二十三 火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外適當ノ場所ニ搬出スヘシ
- 二十四 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内及其ノ附近ニハ發火又ハ燃燒シ易キモノヲ堆積スヘカラス
- 二十五 工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帶品ノ檢査ヲ行フヘシ
- 二十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用スヘカラス
- 二十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ定員外ノ勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス
- 二十八 危險區域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ郡役所、支廳又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ノ外立入ラシムルコトヲ得ス
- 二十九 作業所内ニ於テ飲酒シ又ハ工場若ハ火藥類溜置場以外ニ於テ特ニ設ケタル室内ニ非サレハ喫煙スヘカラス
- 三十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場若ハ火藥類溜置場内ヲ照明スル設

第六十三條ノ二 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ノ作業所ニ於テハ第六十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケヘシ但シ同時ニ二十五貫以上ノ火藥ヲ取扱ハサル工場ニ於テハ土堤ヲ省略シ不燃質物ヲ以テ築造セル牆壁高サ工場ノ屋頂ト同シク厚サ頂部ニ於テ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 二 同時ニ百三十貫以上ノ火藥ヲ取扱フ工場ハ其ノ構造ヲ放爆式ト爲スコトヲ得ス
- 三 放爆式構造ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ堅固ナル三側壁トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ
- 四 火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離外壁ヨリ外壁ニ至テ保有スヘシ
- 五 爆發ノ危險アル工場ニシテ成形機、壓榨機若ハ搗磨機等ノ機械類ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ作業ノ目的ヲ異ニスル毎ニ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ放爆式構造ナルトキ又ハ一工場内ノ勞務者定員四名以下ニシテ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ區劃セルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 六 同一工場内ニハ二箇以上ノ爆發ノ危險アル作業用機械ヲ据付クルコトヲ得ス但シ勞務者ノ定員二人ヲ超エサルトキ又ハ勞務者ノ定員四人ヲ超エサル工場ニ於テ同一種類ノモノ若ハ作業上分離シ難キモノ



- 七 火藥又ハ其ノ原料ヲ取扱フ工場内ニ在リテハ鐵製飾ヲ使用スルコトヲ得ス
- 八 火藥原料ハ混和前篩分シ砂石類ヲ除去スヘシ
- 九 木炭ハ炭化後七日以上ヲ経過スルニ非サレハ粉末ト爲スコトヲ得ス
- 十 硫黃、木炭ノ二味ヲ鐵製混和機ニ依リ粉碎混和スル場合ニ於テハ青銅球ヲ使用スヘシ
- 十一 混和機ヲ使用シ混和シタル硫黃、木炭ノ二味混和物ハ更ニ篩分スルニ非サレハ硝石ヲ混和スルコトヲ得ス
- 十二 硫黃、木炭、硝石ノ三味混和機ニハ金屬製ノモノヲ使用スヘカラス
- 十三 火藥及其ノ原料ニシテ床上又ハ地上ニ落下シ汚穢セルモノハ直ニ廢棄容器ニ之ヲ收容スヘシ
- 十四 左ノ工場内ニハ其ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
三味混和工場	混和機一回ノ仕込量	二人
磨機又ハ搗磨機	磨機又ハ搗磨機一回ノ仕込量	二人
水壓工場	水壓機一回半ノ仕込量	四人
破碎工場	七十貫	三人
成形工場	成形機一回ノ仕込量又ハ八十貫	三人

- 一 棉火藥乾燥工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケヘシ
- 二 棉火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ乾燥工場相互間ノ距離ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤又ハ屋頂ヲ超ユルコト二尺以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ニシテ放爆式構造ニ依ルモノニ在リテ

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
篩分工場	八十貫	二人
乾燥工場	千貫	十人
掃粉工場	八十貫	二人
光澤工場	光澤機一回ノ仕込量	二人
混同工場	二百五十貫	三人
收函工場	二百五十貫	三人

〔日本〕

〔日本〕

- ハ三側壁ノ厚サチ一尺以上トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ放爆面ノ防火壁又ハ其ノ保有距離ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用ス
- 五 無煙火藥乾燥工場ハ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケ若ハ作業所内ノ地ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 アルコール、エーテル、アセトン類ノ貯藏所ノ建築材料ニハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用井作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 七 發火ノ危険アル工場ノ建築材料ニハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用井作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ五工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 八 發火ノ危険アル工場ニハ自動注水消火設備ヲ爲スヘシ但シ特ニ臺灣總督ノ許可ヲ受ケ之ニ代ルヘキ消火設備ヲ爲スコトヲ得
- 九 工場内ニ於テハアルコール、エーテル、アセトン類ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スヘカラス
- 十 棉火藥ハ作業上必要ナル場合ノ外ニ乾燥スルコトヲ得ス
- 十一 乾燥工場ニ於ケル乾燥温度ハ攝氏五十度ヲ超ユルコトヲ得ス
- 十二 乾燥セル無煙火藥又ハ棉火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ運搬容器ニ收容スルコトヲ得ス
- 十三 左ノ工場内ニハ其ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
除水工場	除水機二回ノ仕込量	一機二人
捏和工場	捏和機二回ノ仕込量	同 三人
成形(壓伸、裁斷)工場	一機ニ付 四十八貫	同 三人
溶劑捕集又ハ風乾工場	四百五十貫	六人
光澤工場	光澤機二回ノ仕込量	三人
篩分工場	百三十五貫	五人
乾燥工場	千五百貫	六人
風晒工場	四千貫	五人
收函工場	八百貫	十人

- 第六十三條ノ四 雷酸鹽「雷米」ノ作業所ニ於テハ第六十三條ノ規定ニ依リノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ
- 一 化成洗滌工場、乾燥工場及其ノ他ノ雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ
  - 二 乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、混和工場、造粒工場及填壓工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
  - 三 乾燥工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケヘシ







- 十四 爆發ノ危険アル工場ノ窓ハ外開キトシ且硝子戸ニ在リテハ其ノ内面ニ硝子破損ノ際破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ
- 十五 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ得ヘキ装置ヲ爲スヘシ
- 十六 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ装置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ
- 十七 グリセリンノ硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓迫空氣ニ依リ攪拌スルモノニ在リテハ完全ナル豫備攪拌装置ヲ爲スヘシ
- 十八 左ノ工場内ニハ其ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
硝化工場	硝化二回分	四人
洗滌工場 (又ハ洗滌 濾過工場)	千百貫	二人 於テ濾過ニ 業ヲ行フモ ノハ三人
濾過工場	百八十七貫	二人
配合工場	ナイトログリセリン 硝化藥其ノ他	十四貫 二十七貫
豫捏和工場		六十貫
機械捏和工場		百三十四貫

工場ノ種類	火藥類ノ種類	數量	勞務者定員
手捏和工場	火藥類	八貫	五人
壓伸工場	火藥類	百三十四貫	五人
壓榨工場	火藥類	八貫	五人
包裝工場	火藥類	百三十四貫	十人
收函工場	火藥類	百三十四貫	四人
古酸分離工場	火藥類	二貫	二人
硝化乾燥工場	火藥類	二十七貫	二人
同節分工場	火藥類	三十二貫	四人

本條ニ於テ爆發ノ危険アル工場ト稱スルハ硝化乾燥工場、同節分工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌工場、濾過工場、配合工場、豫捏和工場、捏和工場、壓伸工場、壓榨工場、包裝工場、收函工場及古酸分離工場ヲ謂フ

- 第六十三條ノ七 硝化アンモニア主トスル火藥ノ作業所ニ於テハ第六十三條ノ規定ニ依リテ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ
- 一 乙種硝安火藥ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ、填藥工場、包裝工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及節分工場及完成火藥ノ收函工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ
- 二 甲種硝安火藥ノ製造工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及節分工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用ウヘシ

【會考】

- 三 乙種硝安火藥ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ及完成火藥ノ收函工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ火藥ノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以内ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四プロセント以上ノ硝化纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セサル火藥ノ工場ニ在リテハ作業中停滯スヘキ火藥ノ數量ニ關スル本號規定ノ區別ニ從ヒ六間、十二間又ハ十七間ニ短縮スルコトヲ得
- 四 乙種硝安火藥ノ填藥工場及包裝工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四プロセント以上ノ硝化纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セサル乙種硝安火藥ノ包裝工場ハ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ二工場以内又ハ收函工場ト連接シテ築造スルコトヲ得

本條ニ於テ甲種硝安火藥ト稱スルハ硝化アンモニア主劑トシ二硝基ベシロン、二硝基ナフサリン、硝酸鹽類又ハ酸粉ノ類ヲ混和セルモノヲ謂フ乙種硝安火藥ト稱スルハ硝酸アンモニア主劑トシナイトログリセリン、硝化纖維素、三硝基トリニオール、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ類ヲ混和セルモノヲ謂フ

第六十三條ノ八 臺灣總督ハ第六十三條乃至第六十三條ノ七ニ規定セル事項ノ外必要ナル設備ヲ命ジ又ハ其ノ規定セル事項ニ付土地ノ狀況其ノ他ノ關係ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ特ニ其ノ變更ヲ許可スルコトヲ得

火藥類ノ種類	貯藏所ノ種類	火藥庫	倉庫	假貯藏所
火藥	火藥庫	一萬貫	十二貫	五千貫
爆藥	火藥庫	五千貫	三貫	二千五百貫
銃用實包	火藥庫	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用空包	火藥庫	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用雷管	火藥庫	千萬箇	十萬箇	五百萬箇
工業用雷管	火藥庫	六十萬箇	一萬箇	三十萬箇
信管、爆管、門管	火藥庫	無制限	三萬箇	無制限

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莖及導火線ハ此ノ限ニ在ラス



第六十六條 臺灣總督ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火藥庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火藥類ノ貯藏ヲ許可スレト得

第六十七條

火藥類ハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ之ヲ收納又ハ貯藏スヘシ

- 一 火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥ニシテ火藥類、保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ包ミタルモノニ在リテハ錫引又ハ亞鉛引鐵器ニ、少量ノ火藥ニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
- 二 火工品ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器、厚紙製罐ニ收納スルコトヲ要ス但シ其ノ形狀巨大ニシテ收納ニ適セザルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 ビクリン酸ハ陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器又ハ木器ニ其ノ他ノ火藥ハ其ノ種類ニ應ジ木器、紙器、亞鉛器、鐵器又ハ硝子器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝酸アンモニアヲ主トスル火藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
- 四 雷汞ハ清水ニ滿タセル硝子器ニ收納シテ貯藏スルコトヲ要ス
- 五 火藥、爆藥ハ容器ト火藥類ト直接ニ觸接セザル爲メ火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ隔絶スヘシ但シ容器ノ内面ニ漆又ハセラフクノ類ヲ塗布シタル場合若ハ少量ノ火藥類ヲ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 六 削除

第六十九條

火藥類ハ左ノ各號ノ區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 有煙火藥、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及有煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品
  - 二 無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及無煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品
  - 三 爆藥
  - 四 火工品
- 前項第三號ヲ除クノ外各號中ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スルニハ各種類毎ニ第六十五條ニ掲ケタル數量ヲ以テ貯藏セムトスル數量ヲ除シ其ノ商ヲ加ヘ其ノ和ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第七十條 火藥類貯藏所ノ新設ハ所在地所轄知事又ハ廳長ノ許可ヲ受クヘシ其ノ増築、改築、修繕又ハ模様替ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ
- 前項ノ許可申請書ニハ位置、設備又ハ増築、改築、修繕若ハ模様替ノ仕様並貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ記載スヘシ
- 假貯藏所ニ在リテハ前項ノ外火藥類ヲ要スル事業及期間ヲ記載スヘシ
- 工事ヲ竣リタル火藥類貯藏所ハ許可ヲ爲シタル官廳ノ検査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第七十一條 第六十五條ノ規定ニ依リ火藥類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火藥類ノ貯藏ニ付テハ倉庫ヲ除クノ外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ
- 一 社寺、廟宇、學校、公園、電氣、瓦斯又ハ石油ノ工場、電力若ハ火力

七 火藥類ハ乾燥性油紙、桐油、荏油、又ハチ以テ之ヲ包被スルコトヲ得

- 八 各種ダイナマイトヲ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置スルコトヲ要ス
- 九 各種ダイナマイトニシテ貯藏中藥包ヨリナイトログリセリン滲出シテ容器ノ外面若ハ床上ヲ汚染シタルトキハ硫黃華泥ヲ擴布シナイトログリセリンヲ吸集セシメ硫黃華泥ハ布片ヲ以テ靜ニ拭ヒ取り焼却スヘシ
- 十 硫黃華泥ハ二倍量ノ水ニ溶解セシメタル炭酸曹達溶液約〇、五リットル及硫黃華約一キログラムノ配合ヨリ成ルコトヲ要ス
- 十一 各種ダイナマイトニシテ貯藏中凍結シタルトキハ安ニ融解シ若ハ搬出スルコトナク庫内ニ寒氣ノ浸入ヲ防止シ自然ニ融解セシメ又ハ水分ヲ藥包ニ觸接セシメサルノ裝置ヲ爲シタル容器ニ之ヲ收容シ湯湯ニ浸シテ間接ニ融解セシムヘシ
- 十二 火藥類ハ第六十九條ノ區別ニ從ヒ互ニ隔離スヘシ
- 十三 火藥類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入ルルニハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火藥類粉末ノ殘留ナキヲ要ス
- 十四 一旦使用シタル火藥類ノ容器又ハ其ノ外箱ハ適宜ノ方法ニ依リ清掃淨拭スルニ非サレハ再ヒ火藥類ヲ收納スルコトヲ得ス
- 第十五 第六十八條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火藥類ノ數量ハ其ノ設備ニ應ジ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル官廳之ヲ指定ス

ヲ使用スル工場、發火質物件ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ當航路若ハ繫留所又ハ市街地ハ五町以上

- 二 宅地、公道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル燃料物其ノ他臺灣總督ノ指定シタル箇所ハ五十間以上
- 前項ノ距離ハ貯藏數量ノ増減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ増減ス但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス
- 倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ所在地所轄知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 知事又ハ廳長ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依リ距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトヲ得
- 火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス
- 七十二條 臺灣總督ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得
- 七十三條 第六十六條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消コトヲ得
- 七十四條 火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏スルニハ内壁ヨリ一尺以上ヲ隔テ下部ニハ高サ三寸以上ノ枕木ヲ置キテ容器ヲ積上ケヘシ
- 火藥類貯藏所ニ於テハ所在地所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ指示ニ從ヒ換氣ニ注意スヘシ
- 火藥類貯藏所内ノ溫度ハ無煙火藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏三十一度以下、爆藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏九度以上三十六度以下ヲ保ツコトニ



注意スヘシ

火藥類貯藏所ニ於テハ携帶電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ス  
火藥類貯藏所ニ於テハ荷造、荷解ヲ爲シ又ハ鐵類若ハ鐵類ノ附屬シタル  
器具ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルコトヲ得ス戸外ニ於テ先ツ塵埃ヲ拂  
ヒ且ツ上草履ヲ穿ツヘシ

火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第七十五條 火藥庫ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但シ地下又ハ水上  
ニ設ケル火藥庫ニ關シテハ所在地所轄知事又ハ廳長ノ許可ヲ得テ特別ノ  
設備ヲ爲スコトヲ得

一 火藥庫ハ土藏造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造ノ平屋建ナ  
ルコト

二 火藥庫ノ屋根ノ外面ハ薄キ小形ナル金屬板、石盤板又ハ瓦若ハ輕量  
ノ不燃質物ヲ用井屋根裏又ハ天井内ヨリ壓力ヲ加フルトキハ容  
易ニ屋根蓋ヲ吊起シ得ヘキ構造ヲ爲スコト

三 庫壁ハ土造、鐵筋コンクリート造ノ部分ニ於テ厚サ五寸以上トシ煉  
瓦造、石造ノ部分ニ於テ厚サ七寸以上トシ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ウ  
ルコトナク且ツ扉ニハ防火ノ設備ヲ爲スコト

四 庫ノ内面ハ石、瓦、ベトン、土砂ノ剝落飛散ヲ防ク裝置ヲ爲シ鐵類  
ヲ露ハササルコト

五 床ハ密ニ張り詰メ鐵類ヲ露ハササルコト

六 火藥庫ニハ避雷針ヲ設ケルコト但シ避雷針ニ代ルヘキ裝置アルトキ  
ハ之ヲ省略スルコトヲ得

分テ)シタル場合ハ土堤ヲ省略スルコト但シ庫壁ニシテ其ノ厚サ二  
尺以上若ハ之ト同一ノ抗力ヲ有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得  
倉庫ノ入口ハ危險ノ虞少キ側面ニ之ヲ設ケ其ノ前面ニ掩體ヲ有セザ  
ル場合ハ其ノ扉ヲ堅固ナラシムヘシ

第七十七條 火藥類假貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但シ所在  
地所轄知事又ハ廳長ハ特別ノ事由アリト認ムルトキハ第七十五條各號ノ  
制限ニ依ルヘキコトヲ命スルコトヲ得

一 木造又ハ土藏造平屋建ト爲シ外側ハ不燃質物ヲ以テスルコト

二 屋根ノ外面ハ薄キ小形ノ金屬板又ハ瓦若ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ避  
雷針又ハ避雷針ニ代ルヘキ裝置ヲ爲スコト但シ知事又ハ廳長ノ許  
可ヲ受ケタルトキハ避雷針ノ設備ヲ省略スルコトヲ得

三 假貯藏所ノ内面ハ石、瓦、土砂等ノ剝落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ鐵  
類ヲ露ハササルコト

四 周囲ニハ土堤ヲ設ケルコト但シ土地ノ狀況ニ依リ特ニ知事又ハ廳長  
ノ許可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

假貯藏所ヲ地下ニ設ケル場合ニ於テハ知事又ハ廳長ノ許可ヲ得テ特  
別ノ設備ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 緊留船又ハ倉庫船ハ火藥類ノ船積、船卸又ハ陸揚ノ場合ニ限  
リ一時倉庫ニ代用スルコトヲ得

第七十九條 緊留船又ハ倉庫船ニ火藥類ヲ貯藏セムトスル者ハ船舶ノ設備、  
緊留ノ位置及貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ具シ港務所長又ハ船舶所  
在地所轄知事又ハ廳長ノ許可ヲ受ケヘシ

港務所ノ設備ナキ地ニ於テハ警察官吏ハ危害豫防ノ爲緊留船又ハ倉庫船  
第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

避難針ハ其ノ尖頭ヨリ屋端ノ最遠隔セル點ニ至ル想像的直線ト四十  
五度内ノ角度ヲ有ツコト

避難針ハ少クとも毎年二回(二、三月頃)之ヲ検査シ必要アルトキハ  
修繕ヲ加フルコト

七 各火藥庫ノ周圍ニハ庫壁ノ外側面ヨリ堤脚迄一間乃至六間ノ距離ニ  
於テ可成庫壁ニ接近シテ土堤ヲ設ケルコト但シ知事又ハ廳長ハ天然  
又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ム  
ルトキハ土堤ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトヲ得

火藥庫ニ以上相接スル場合ニ於テ各庫ノ土堤ハ相兼ヌルコトヲ得  
土堤ハ堤外ヨリ火藥庫ヲ通視シ能ハサラシムルカ爲其ノ一端ヲ屈折  
延長スルカ又ハ通路ノ入口ノ前面ニ更ニ土堤ヲ設ケ若ハ入口ヲ隱遣  
ト爲シ其ノ兩端ニ堅固ナル扉ヲ設ケルコト

土堤ノ高サハ火藥庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、其ノ頂部ノ厚サハ三  
尺以上トシ堤面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト但シ堤脚ハ土堤ノ高サ  
ノ三分ノ一ニ至ル迄土留石積又ハ煉瓦積ト爲スコトヲ得

八 土堤ノ外部ニ於テ餘地アルトキハ常盤木ヲ栽植スルコト  
前項第六號ノ検査ヲ行ヒタルトキハ三日内ニ其ノ成績ヲ知事又ハ廳長ニ  
届出ヘシ

第七十六條 倉庫ノ設備ハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ避難針及土堤ニ關シテ  
ハ前條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ得

一 避難針及之ニ代ルヘキ裝置ヲ省略スルコト

二 庫壁ノ外側面ニ觸接シ高サハ倉庫ト同クシ厚サハ頂部ニ於テ二尺以  
上ヲ有シ礫ノ混入セサル土ヲ以テ積上ケタル外層ニ依リ圍繞(入口  
ノ部

ノ位置ヲ指定シ又ハ之ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ  
得

第八十條 第六十三條第二號、第二十一號、第二十二號、第二十四號、第  
二十五號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ火藥庫及假貯藏所ニ之ヲ準用  
シ同條第二十二號、第二十四號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ倉庫ニ  
之ヲ準用ス

第八十一條 第六十五條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ  
超過スル火藥類ハ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ許可ヲ  
受ケルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

前項ノ許可申請書ニハ運搬スヘキ火藥類ノ種類、數量、運搬ノ日時、方  
法、通路及發着ノ場所ヲ記載スヘシ

第八十二條 許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬スルニハ許可證ヲ携帶スルノ外左ノ  
各號ノ制限ニ從フヘシ

一 運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ用井テ運搬スルニハ看守人ヲ附シ晝間ハ赤地  
ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺縱)夜間ハ赤色安全燈  
ヲ携フヘシ

二 看守人及運搬人ハ前號安全燈ノ外燐寸其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ携  
帶シ又ハ荷造、荷解、荷積及荷卸ニ際シ若ハ荷物ニ接近シテ喫煙シ  
又ハ火氣ヲ取扱フコトヲ得ス

三 燐寸其ノ他發火ノ虞アル物件ハ火藥類ト共ニ積載スルコトヲ得ス  
四 荷牛馬車ニ在リテハ牛馬取付ノ儘荷積又ハ荷卸ヲ爲スコトヲ得ス  
五 容器ハ密閉シ堅固ニ積載シ日光ノ直射セサル様適當ノ被覆ヲ爲シ摩  
擦、動搖、衝突、轉倒及墜落ノ虞ナカラシムヘシ



六 運搬中ハ徐行シ他ニ通路ナキ場合ノ外人家稠密ノ場所又ハ火氣ヲ取扱ヒ若ハ發火質物品ヲ蓄積スル等危險ノ虞アル場所ヲ通過スルコトヲ得ス

七 運搬具又ハ牛馬ニ積載スル火藥類ハ普通積載量ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

八 運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ人家ヲ遠隔セル安全ノ位置ヲ撰ヒ且ツ看守人ヲ附スヘシ

八十三條 火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス

八十四條 第三十四條各號以外ノ火藥類ハ所在地所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ荷造、荷解、荷卸又ハ授受スルコトヲ得ス

八十五條 火藥類ノ運搬其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第三十四條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歳以上ノ者ニ限リ之ヲ爲シ又ハ爲サシムルコトヲ得

八十六條 第三十四條以外ノ火藥類運搬ニ付テハ第六十七條及其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

八十七條 無煙火藥又ハ爆藥ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ示差寒

暖計ヲ備ヘ毎週一回之ヲ檢シ其ノ溫度ヲ明ニシ置クヘシ

示差寒暖計ヲ備フルハ三月ヨリ十一月迄ハ最高溫度ノ位置ニ於テシ十二月ヨリ二月迄ハ最低溫度ノ位置ニ於テスヘシ但シ所在地所轄知事又ハ廳長ハ土地ノ氣候ニ應ジ其ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得

八十八條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ内箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ其ノ外箱ニ二十五箱箱數ハ二十五ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱箱數ハ十箱ニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キニ切上ク

他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ試験紙全面ニ涉リ赤色ニ變シタルトキハ收納セル火藥、爆藥及同一貯藏所内ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ其ノ製造所及製造年月ヲ同クスルモノハ之ヲ注意品トス

八十九條 火藥、爆藥ニシテ盛ニ赤色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トス

九十條 第八十八條ノ注意品 硝酸アンモニア主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ若ハ硝酸アンモニア含有スルダイナマイト

ニシテ前條ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フヘシ但シ本條ノ試験ヲ省略シ直ニ第九十二條ノ耐熱試験ヲ行フコトヲ得

九十一條 第三十四條以外ノ火藥類運搬ニ付テハ第六十七條及其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

九十二條 無煙火藥又ハ爆藥ニシテ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ若ハ硝酸アンモニア含有スルダイナマイトニシテ前條ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

九十三條 耐熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

湯煎器ノ口際迄水又ハ微温湯ヲ充タシテ銅網上ニ之ヲ熱スルノ裝置ヲ爲シ蓋孔ヨリ寒暖計ヲ挿入シ木栓若ハ護蓋ヲ以テ之ヲ保持スヘシ

試驗スヘキ火藥類ハ左ノ各號ノ區別ニ從ヒ試料ヲ作り之ヲ試験管 中徑約高サ約百ニ入ルヘシ

一 硅藻土質ダイナマイトハ其ノ二十五乃至三十瓦ヲ採リ靜ニ壓シ細粒ト爲シ之ヲ口徑約五種ノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製無水石綿若ハ精製

脫脂綿ノ小片ヲ置キタル上ニ入レ硝子棒ニテ其ノ表面ニ平ニシ尙其ノ上部ヲ三耗ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石綿粉ヲ以テ覆ヒ徐々ニ

上面ヨリ蒸溜水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スルナイトログリセリン

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

三瓦乃至三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

二 膠質ダイナマイトハ其ノ三粉半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細裁シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七瓦ヲ加ヘ木製乳鉢ヲ以テ靜ニ輕ク完全ニ攪リ混セ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

三 硅藻土質及膠質以外ノダイナマイトニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕ノ疑アルモノハ攝氏四十五度ニテ約五時間乾燥シタル後三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

四 無煙火藥ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方狀、帶狀又ハ紐狀ノモノハ鉤、小刀又ハ鉄ヲ以テ細粒狀ニ削裁シ試験管ノ高サノ五分ノ三ニ應

スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

五 棉火藥及其ノ他ノ爆藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試験管ノ高サノ三分

ノ一ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

沃度加里澱粉紙ノ上部ヲ蒸溜水及グリセリンノ等分混液ヲ用井玻璃棒ニテ潤シ之ヲ玻璃桿鉤ニ懸吊シ桿ヲ保持セル木栓ヲ以テ試験管口ヲ掩ヒ沃

度加里澱粉紙ノ下縁ヲシテ火藥類上面ヨリ稍上方ニ在ラシムヘシ

前各項ノ準備ヲ爲シタル後湯煎器ヲ熱シ攝氏六十五度ノ溫度ヲ保持スル

ニ至ラハ試験管ヲ寒暖計ト同シ深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ

乾濕分界部ヲ注視シ試験管挿入ノ時ヨリ其淡褐色ニ變スルニ至ルノ時間

ヲ以テ火藥類ノ耐熱時間ト定ムヘシ

沃度加里澱粉紙ニ現ハルル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ム

標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ハ官廳ニ於テ製造シタルモノヲ

用ス

〔日本〕

〔日本〕



用ウヘシ  
**第九十三條** 火藥類ノ耐熱時間八分以下ナルトキハ之ヲ不良品トス  
**第九十三條ノ二** 硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン  
 又ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニ在リテハ製造後二年ヲ經過セサルモ  
 ノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモ  
 ノハ六月毎ニ一回第九十條第二項ノ方法ニ依リ遊離酸試驗ヲ行フヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ四時間内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ涉リ赤色ニ變シタルト  
 キハ更ニ加熱試驗ヲ行フヘシ  
**第九十三條ノ三** 加熱試驗ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ  
 徑約三十五ミリメートル高約五十ミリメートルノ秤量罐ヲ乾燥器内ニ  
 於テ乾燥スヘシ  
 試驗スヘキ爆藥中ヨリ試料十グラムヲ採リ之ヲ前項ノ秤量罐ニ入レ密栓  
 シ秤量シタル後栓ヲ除キ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ  
 四十八時間靜置スヘシ  
 前項ノ試驗中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ之ヲ不良品トス此ノ作用ヲ  
 起ササルトキハ再ヒ之ヲ密栓シ其ノ重量ヲ秤ルヘシ其ノ減耗量百分ノ一  
 以上ナルトキハ之ヲ不良品トス  
 試驗スヘキ爆藥ニシテ濕氣ヲ吸收シタル疑アルトキハ先ツ其ノ試料ヲ攝  
 氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後  
 秤量シ第二項及第三項ノ方法ニ依リ試驗ヲ行ヒ試驗中盛ニ赤色瓦斯ヲ發  
 生スルカ又ハ前項ノ方法ニ依リ秤量シタル減耗量百分ノ〇・一以上ナル  
 トキハ之ヲ不良品トス

**第九十四條** 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ結果ハ所在地所轄郡守、支廳長、警  
 察署長又ハ警察分署長ニ之ヲ申請スルコトヲ得

ハ爆藥ヲ取扱フ者ハ何時ニテモ耐熱試驗又ハ加熱試驗ヲ行フコトヲ得ヘ  
 キ準備ヲ爲スヘシ  
**第九十七條** 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ施行ハ所在地所轄郡守、支廳長、警  
 察署長又ハ警察分署長ニ之ヲ申請スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ試驗ニ關スル費用ハ申請者之ヲ負擔スヘシ  
**第七十五條第一項第六號ノ場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ準用ス**  
**第九十八條** 不良品タル火藥類ハ郡役所、支廳又ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ  
 硝化鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ在リテハ之ヲ水中ニ放流シ其ノ他ノ火藥  
 類ニ在リテハ屋外廣潤ナル場所ニ於テ風ヲ除ケ少量宛之ヲ燃焼スヘシ但  
 シ郡役所、支廳又ハ警察官署ノ認可ヲ受ケ膠質ニ非サルダイナマイト類  
 ハ海岸ヲ距ルコト二十哩以上ノ海水中ニ、ダイナマイト以外ノ火藥類ハ  
 海岸ヲ距ルコト十哩以上ノ海水中又ハ他ニ危險若ハ損害ヲ及ボササル適  
 當ナル水中ニ之ヲ沈下スルコトヲ得  
 不良ノ程度極メテ輕微ナル火藥類ハ郡役所、支廳又ハ警察官署ニ於テ危  
 險ノ虞ナシト認めタルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ  
 得ルヘシ此ノ場合ニ於テハ之ヲ良品ト隔離スルヲ要ス  
**第九十九條** 火藥類貯藏所危險ノ狀態ト爲リ又ハ火藥類異狀ヲ呈シタルコ  
 トヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ届出ヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ火藥類貯藏所若ハ火藥類ノ所有者又ハ管理者ハ直ニ應  
 急ノ措置ヲ行フヘシ  
**第一百條** 銃砲火藥類ノ收納貯藏ヲ爲スニハ喪失又ハ盜竊等ノ虞ナカラシム  
 ル爲メ守テ嚴ニシ且ツ必要ナル設備ヲ施スヘシ  
**第一一條** 營業者其ノ住所姓名若ハ作業所、營業所ヲ變更シタルトキハ十

警察署長又ハ警察分署長ノ指示ニ從ヒ之ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ  
**第九十五條** 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ  
 含有スル爆藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二  
 年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回第九十二條ニ定  
 ムル試驗ヲ行フヘシ三月内ニ於テ異狀ヲ認めタルトキ亦同シ  
**第九十五條ノ二** 硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ  
 硝基化合物ヲ含有スルモノ、硝酸アンモニアヲ主トスルモノ及ナイトログ  
 クニ在リテハ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上  
 ヲ經過シタルモノ若ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第九十二條ニ  
 定ムル試驗ヲ行フヘシ六月内ニ於テ異常ヲ認めタルトキ亦同シ  
**第九十五條ノ三** 郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ハ前條ノ爆藥中  
 種類ヲ限リ第九十三條ノ三第二項、第三項ノ方法ニ依リ加熱試驗ヲ行ハ  
 シムルコトヲ得  
 前項ノ試驗中赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ不良品トス  
**第九十五條ノ四** 第九十三條ノ二、第九十五條、第九十五條ノ二及第九十  
 五條ノ三ノ規定ニ依リ試驗ヲ行フヘキ火藥類ノ箱數ハ製造所及製造年月  
 ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノニ在リテ  
 ハ外箱二十五箱箱數ハ二十五ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノニ  
 在リテハ外箱十箱箱數ハ十ニ付各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ  
 外箱ノ各箇トス  
**第九十六條** 假貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル無煙火藥又

日内ニ許可ヲ爲シタル官廳ニ届出テ許可證ノ書換ヲ申請スヘシ休業若ハ  
 廢業シタルトキハ十日内ニ許可ヲ爲シタル官廳ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ  
**第一百條** 火藥類貯藏所ノ設置者其ノ住所姓名ヲ變更シ、火藥類貯藏所ノ  
 新設、増築、改築、修繕若ハ模様若ノ工事ニ著手シタルトキ又ハ火藥類  
 貯藏所ノ使用ヲ休止若ハ廢止シタルトキハ十日内ニ許可ヲ爲シタル官廳  
 ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ  
**第一百條** 銃砲ノ製造業者又ハ販賣業者若ハ火藥類貯藏所設置者死亡シ又  
 ハ所在不明ト爲リタルトキハ十日内ニ戶主、相續人又ハ遺產管理人ヨリ  
 許可ヲ爲シタル官廳ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ  
**第一百條** 火藥類取扱者死亡シ又ハ之ヲ解僱シタルトキハ十日内ニ使用者  
 ヨリ其ノ旨ヲ所轄郡役所、支廳又ハ警察官署ニ届出ヘシ  
**第一百條** 輸出入ニ關スル本令ノ規定及其ノ細則ハ移出入ノ場合ニ之ヲ準  
 用ス  
**第一百條** 本令ニ依リ知事又ハ廳長ニ申請スヘキ書類ハ所轄郡役所、支廳  
 又ハ警察官署ヲ經由スヘシ  
**第一百條** 第七條、第十一條第二項、第十三條第一項、第十五條、第十六  
 條、第十六條ノ二、第二十條、第二十一條、第二十四條、第三十二條第一  
 項、第三十七條第二項、第五十二條、第六十四條第一項、第六十九條、  
 第七十條第一項及第四項、第八十一條第一項、第八十三條第一項ニ違反  
 シタル者、第七十一條ノ規定ニ違反シ又ハ許可若ハ指定ノ範圍ヲ超ヘテ  
 火藥類ヲ貯藏シタル者及第七十五條、第七十六條、第七十七條ノ規定ニ  
 適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ  
 二百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔日本〕

〔日本〕



第四百八條 第八條ノ二、第十七條ノ三、第十八條、第六十一條、第六十三條第一號乃至第三號、第九號、第十九號、第二十一號乃至第三十四號、第三十六號乃至第三十八號、第六十三條ノ二第一項第七號乃至第十四號、第六十三條ノ三第九號乃至第十三號、第六十三條ノ四第六號乃至第十二號、第六十三條ノ五第四號乃至第六號、第六十三條ノ六第一項第十二號、第十六號、第十八號、第六十七條、第七十四條、第七十九條第一項、第八十二條、第八十四條、第八十七條、第八十八條第一項、第九十條第一項、第九十一條、第九十三條ノ二、第九十五條、第九十五條ノ二、第九十六條、第九十八條、第九十九條、第一百條ニ違反シ又ハ第十七條ノ四、第六十三條ノ八、第七十九條第二項ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第九十二條第七項ノ標準色紙及沃度加里澱粉並精製滑石粉ヲ偽造シタル者、本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許可條件ニ適合セサル火藥類作業所ニ於テ火藥類ヲ製造シ又ハ變形修理シタル者又ハ知事又ハ廳長ノ許可ノ條件ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百九條 第四十四條、第八十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第四百十條 第四條、第九條第一項及第二項、第十九條、第二十六條第一項第二項及第四項、第二十七條、第四十五條、第四十七條第三項及第四項、第四十九條、第五十五條乃至第五十九條、第八十三條第二項、第九十二條第七項、第九十四條ニ違反シ又ハ交付若ハ揭示ヲ受ケヘキ許可證又ハ認可證ヲ受領若ハ檢閲セスシテ銃砲火藥類ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四百十一條 第二十五條、第二十八條、第三十二條ノ二第二項、第三十九條、第三十九條ノ二、第四十條、第四十一條、第四十一條ノ二、第四十二條、第四十三條、第七十五條第二項又ハ第一百條乃至第四百條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則  
本令ハ臺灣銃砲火藥類取締規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第十五條、第十六條及第九十六條ノ規定ハ二年間之ヲ適用セス  
本令施行前銃砲ノ改造、修繕業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做シ火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ甲種火藥類販賣業ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス  
本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ所在地所轄知事又ハ廳長ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ  
前項ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本令施行前銃砲火藥類所有ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行後一月内ニ第二十二條ノ規定ニ依リ所持許可ヲ申請スヘシ  
本令施行ノ際現ニ軍用銃砲火藥類ヲ所持スル者ニ對シ知事又ハ廳長ハ期間ヲ指定シテ其ノ物件ノ處分ヲ命スルコトヲ得  
前項ノ命令ニ從ハサルトキハ其ノ物件ヲ沒收ス

(別記)  
第一號様式(用紙美濃紙)  
銃砲(火藥類)製造明細簿

種類	製造又ハ 拂出年月日	製造數量	拂出數量	差引現在	備考

〔輯四〇〕

種類	數量	住所	姓名	備考

注意  
一 此ノ帳簿ハ銃砲ト火藥類ト各別ニ調製シ其ノ種類別ニ口座ヲ設ケヘシ  
二 廢棄、盜難、紛失其ノ他ノ事由ニ因リ數量減少シタルトキハ其ノ數量ヲ拂出欄ニ朱書シ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

第二號様式(用紙美濃紙)  
銃砲改造修繕(火藥類變形修理)明細簿

受領(變形修繕) 年月日	改造修繕 年月日	種類	數量	住所	姓名	備考

注意  
一 此ノ帳簿ハ銃砲ト火藥類トニ付各別ニ調製スヘシ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

三八五

二 自己所有ノ銃砲火藥類ヲ改造修繕、變形修理シタルトキハ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

第三號様式(用紙美濃紙)  
銃砲(火藥類)讓渡(讓受)明細簿

讓渡(讓受) 年月日	種類	數量	住所	姓名	讓渡(讓受)事由 及許可證又ハ認 可證下付官署名	備考

注意  
一 此ノ帳簿ハ銃砲ト火藥類ト讓渡ト讓受トニ付各別ニ調製スヘシ  
二 製造業者ノ調製スル讓渡明細簿ハ製造、改造修繕、變形修理別ニ口座ヲ設ケヘシ

第四號様式(用紙美濃紙)  
銃砲(火藥類)收支明細簿

年月日	受入高	拂出高	現在高	備考







面 裏 印契

許 可 官 廳 印	許 可 年 月 日	所 持 者 年 月 日	姓 名	住 所
	許 可 官 廳 印			

第十號樣式(用紙模造紙長七寸)

面 表 印契

第 號	火 藥 類 所 持 許 可 證	年 月 日	官 廳 印	姓 名	住 所	許 可 受 付 者 之 姓 名 及 住 所

面 裏

年 月 日	消 費 又 ハ 讓 渡	消 費	讓 渡	差 引 現 在	備 考

注意  
一 所持ノ火藥ノ全部ヲ消費又ハ讓渡ヲ爲シタルトキハ許可ヲ爲シタル官廳二十日內ニ返納シ其一部ヲ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、數量、差引現在高チ記入シ尙其ノ事由ヲ備考欄ニ記入シ全部ヲ消費又ハ讓渡シタル後十日內ニ許可ヲ爲シタル官廳ニ返納スヘシ  
二 廢棄、盜難、紛失等ニ因リ數量減少シタルトキハ其ノ數量ヲ消費欄ニ朱書シ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

第十一號樣式(用紙美濃半切)

面 表 印契

第 號	銃 砲 讓 渡 (讓 受) 許 可 證	年 月 日	官 廳 印

【台本】

讓 渡 (讓 受) 許 可 受 付 者	住 所	姓 名
種 類		
檢 印 (製 造) 番 號		
讓 渡 (讓 受) ノ 事 由 目 的		
證 書 有 效 期 間		

注意

- 一 此ノ許可證ハ讓渡人ハ讓受人ニ(讓受人ハ讓渡人ニ)銃砲ヲ讓渡スル際交付スヘシ
- 二 此ノ許可證ハ喪失シ盜取セラレ又ハ所在不明ト爲リタルトキハ二十四時間內ニ警察官吏ニ届出ヘシ

第十二號樣式(用紙美濃半切)

面 表 印契

第 號	火 藥 類 讓 渡 許 可 (認 可) 證	年 月 日	官 廳 印	姓 名	住 所
種 類					
數 量					

讓 渡 ノ 事 由 目 的	
證 書 有 效 期 間	

注意

- 一 此ノ許可證ハ火藥ヲ讓渡ス際讓受人ニ交付スヘシ
- 二 此ノ許可證ハ喪失シ盜取セラレ又ハ所在不明ト爲リタルトキハ二十四時間內ニ警察官吏ニ届出ヘシ

第十三號樣式(用紙美濃半切)

面 表 印契

第 號	火 藥 類 讓 受 許 可 證	年 月 日	官 廳 印	姓 名	住 所
讓 受 許 可 受 付 者					
種 類					
數 量					
讓 受 ノ 事 由 目 的					
用 途					
消 費 ノ 場 所					
消 費 ノ 日 時					



證書有效期間

注意

- 一 此ノ許可證ハ火藥類ヲ讓受クル際讓渡人ニ交付スヘシ
- 二 此ノ許可證ハ喪失シ盜取セラレ又ハ所在不明ト爲リタルトキハ二十四時間内ニ警察官吏ニ届出ヘシ

第十四號様式(用紙美濃四ツ折册子)

面 表

印契

第 號

火藥類讓受(消費)許可證

(本許可證 表紙共 枚)

許可ヲ受ケタル者ノ住所姓名	住所	姓	名
年月日	官	廳	印
讓受(消費)ノ事由(目的、用途)			
消費ノ場所			
消費ノ日時			
證書有效期間			

部 内

注意

- 一 此ノ許可證ハ火藥類ヲ販賣業者ヨリ讓受クル際提示シ所定欄ノ記入ヲ受ケヘシ
  - 二 此ノ許可證ハ讓受(消費)ノ許可數量ヲ讓受ケタルトキ又ハ記入欄ニ餘白ナキニ至リタルトキハ十日内ニ許可ヲ受ケタル官廳ニ返納スヘシ
- 但シ許可數量全部ノ讓受ケヲ爲ササルトキ記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ本許可證ヲ添ヘ新許可證ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

第十五號様式(用紙美濃半切)

印契

第 號

火藥類使用許可證

年月日	官	廳	印
-----	---	---	---

許可ヲ受ケタル者	住所	姓	名
種類			
數量			
使用ノ事由、目的、用途			
使用ノ場所			
使用ノ日時			
證書有效期間			

注意

- 一 此ノ許可證ヲ喪失シ盜取セラレ又ハ所在不明ト爲リタルトキハ二十四時間内ニ警察官吏ニ届出ヘシ

第十六號様式(用紙美濃半切)

印契

第 號

火藥類運搬許可證

許可ヲ受ケタル者	住所	姓	名
年月日	官	廳	印
種類			
數量			

第十七號様式(用紙美濃半切)

運搬ノ日時			
運搬ノ方法			
通路			
發着ノ場所			

印契

第 號

銃砲(火藥類)輸入(移入)許可證

許可ヲ受ケタル者	住所	姓	名
種類			
數量			
輸入(移入)ノ目的			
買入先			
輸入(移入)ノ港名			
積載スヘキ船名			
證書有效期間			

第十八號様式(用紙美濃半切)



(甲) 銃砲(火藥類)輸出(移出)許可證

第 號

年 月 日

官 廳 印

許 可 者 姓 名

住 所

種 類

數 量

輸 出 的 目 的

輸 出 ( 移 出 ) 港 名

積 載 船 名

輸 出 ( 移 出 ) 品 類

運 送 方 法

證 書 有 效 期 間

大正二年二月五日  
臺灣總督府告示第二十號

臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則第十七條ニ依リ交付スヘキ火藥類取扱免狀ノ様式左ノ通相定ム  
用紙美濃半切

第 號

大正七年一月三十一日  
臺灣總督府告示第六號

臺灣銃砲火藥類取締規則第十七條ニ依リ之ヲ附與ス  
定ニ依リ交付スヘキ火藥類作業主任者免狀ノ様式左ノ通相定ム  
用紙美濃半切

(甲) 銃砲火藥類取扱免狀

第 號

年 月 日

官 廳 印

許 可 者 姓 名

住 所

種 類

數 量

輸 出 的 目 的

輸 出 ( 移 出 ) 港 名

積 載 船 名

輸 出 ( 移 出 ) 品 類

運 送 方 法

證 書 有 效 期 間

大正二年一月令第七號臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則第十七條ノ二ノ規  
定ニ依リ交付スヘキ火藥類作業主任者免狀

本 籍  
住 所

〔日本〕

第 號

臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則第十七條ノ二ニ依リ之ヲ付與ス

第 號

年 月 日

官 廳 印

許 可 者 姓 名

住 所

種 類

數 量

輸 出 的 目 的

輸 出 ( 移 出 ) 港 名

積 載 船 名

輸 出 ( 移 出 ) 品 類

運 送 方 法

證 書 有 效 期 間

生 年 月 日

〔轉九七〕



●昭和十四年臺灣總督府令第二十四號(臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則第十七條ノ規定ニ依ル甲種火藥類取扱人ノ資格試験ニ關スル件)

昭和十四年二月二十八日 臺灣總督府令第二十四號

臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則第十七條ノ規定ニ依ル甲種火藥類取扱人ノ資格試験ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 甲種火藥類取扱人ノ資格試験ハ本令ニ依リ之ヲ行フ  
第二條 試験ハ乙種火藥類取扱免狀ノ所持者(内地、朝鮮及關東州ニ於テタル者)又ハ一年以上火藥類ノ取扱ニ從事シタル者ニ非ザレバ之ヲ受ケルコトヲ得ズ

第三條 試験ハ學科試験及實地試験トシ其ノ科目左ノ如シ  
學科試験

一 火藥學

二 臺灣銃砲火藥類取締法令

實地試験

一 火藥類ノ取扱要領

第四條 試験ノ期日、場所等ハ豫メ之ヲ公告ス

第五條 試験ヲ受ケントスル者ハ別記第一號様式ノ願書ニ履歷書ヲ添附シ臺灣總督ニ出願スベシ

前項ノ願書ニハ手數料トシテ金二圓ノ收入印紙ヲ貼付スベシ  
既ニ納付シタル手數料ハ之ヲ還付セズ

第六條 試験ニ合格シタル者ニハ別記第二號様式ノ合格證書ヲ付與ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式省略)

●緩燃導火線及煙火爆竹取締規則

大正二年一月三十日 臺灣總督府令第八號

修正 大正九年第一二二號

緩燃導火線及煙火爆竹取締規則左ノ通相定ム

緩燃導火線及煙火爆竹取締規則

第一條 緩燃導火線及煙火、爆竹ノ製造又ハ製造營業者ハ販賣營業ヲ爲サ  
ムトスル者ハ製造者又ハ製造營業者ニ在リテハ作業地所轄知事又ハ廳長  
ニ販賣營業者ニ在リテハ所轄郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ニ  
申請スベシ  
第二條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹製造ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載  
スベシ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

- 一 製作品ノ種類
  - 二 製作品ノ原料、分量及調製方法
  - 三 作業所、製作品貯藏所ノ位置、設備並附近ノ狀況
  - 四 一年內ノ所要火藥類ノ豫定數量
  - 五 作業主任者ノ住所姓名、生年月日及履歷
  - 六 作業ノ方法
  - 七 所要火藥類ノ調達並火藥類貯藏ノ方法
  - 八 使役職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數
- 第三條 緩燃導火線及煙火、爆竹販賣ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載ス  
ヘシ
- 一 販賣品ノ種類
  - 二 販賣所ノ位置
  - 三 貯藏所ノ位置、設備、貯藏ノ方法並附近ノ狀況

第四條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹ハ日出前日没後之ヲ製造スルコトヲ得  
ス  
第五條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹ノ製造業者ハ緩燃導火線ハ其ノ容器ニ  
煙火、爆竹ハ其ノ外部又ハ包裝ニ製造業者ノ姓名及配合火藥ノ種類、數  
量ヲ記載スベシ  
第六條 緩燃導火線若ハ煙火、爆竹ヲ輸入又ハ移入シタル者ハ其ノ容器、  
外部又ハ包裝ニ輸入、移入者ノ住所姓名ヲ記載スベシ  
第七條 緩燃導火線ノ容器又ハ煙火、爆竹ノ外部若ハ包裝ニ前二條ノ事項  
ヲ記載セサルモノハ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ  
第八條 臺灣銃砲火藥類取締規則第三條ノ規定ハ煙火、爆竹ニ之ヲ適用セ



第九條 緩燃導火線ノ所持、讓渡、讓受又ハ使用ニ關シテハ臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則ニ依ル

第十條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹ノ輸入輸出、移入移出及作業ニ關シテハ臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則ニ依ル

第十一條 煙火、爆竹ハ十歳未満ノ者又ハ白痴、癡癩者ニ讓渡シ又ハ所持セシムルコトヲ得ス

第十二條 發火ニ因リ五間以上ノ距離ニ火氣若ハ物體ノ達スベキ煙火、爆竹ハ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ許可申請書ニハ煙火、爆竹ノ種類、數量、使用ノ目的、年月日時、場所、取扱者ノ姓名及生年月日ヲ記載スヘシ

第十三條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹ニシテ一貫以上ノ火藥類ヲ含有スル場合ハ貯藏所以外ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス

第十四條 前條ノ貯藏所ノ設備ニ付テハ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ命令ニ從フヘシ

第十五條 煙火、爆竹ノ製造業者ハ別記第一號様式ノ帳簿、其ノ販賣業者ハ別記第二號様式ノ帳簿ヲ備フヘシ

緩燃導火線ノ製造業者又ハ販賣業者ノ備フヘキ帳簿ハ臺灣銃砲火藥類取締規則施行規則第五十六條及第五十七條ノ規定ニ依ル

第十六條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹ノ製造業者若ハ販賣業者本居、本籍、住所姓名ヲ變更シタルトキハ十日内ニ其ノ旨ヲ所轄官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ營業者廢業シ、死亡シ又ハ行衛不明ト爲リタルトキハ十日内ニ其

ノ旨ヲ所轄官廳ニ届出テ許可證ヲ返納スヘシ但シ死亡又ハ行衛不明ト爲リタル場合ニ在リテハ戸主、相續人若ハ遺產管理人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 緩燃導火線又ハ煙火、爆竹ノ製造業者若ハ販賣業者一年以上休業シ又ハ法令ニ違反シ若ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テ其ノ許可ノ取消又ハ其ノ營業ノ停止若ハ制限ハ製造業者ニ在リテハ知事又ハ廳長、販賣業者ニ在リテハ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長之ヲ行フ

第十八條 保安上必要アリト認ムル場合ニ於テ緩燃導火線及煙火、爆竹ノ輸入輸出又ハ移入移出ノ禁止若ハ制限ハ臺灣總督之ヲ行フ

第十九條 第四條乃至第七條、第十一條、第十二條第一項、第十三條ニ違反シ又ハ本令ニ定ムル帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留、科料ニ處ス

第二十條 第十五條第一項又ハ第十六條ニ違反シタル者ハ拘留若ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ大正二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前煙火、爆竹ノ製造營業又ハ販賣營業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行後二月内ニ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルニ非サレハ引續キ營業ヲ爲スコトヲ得ス

(別記)

第一號様式

煙火、爆竹製造明細簿 (各種類毎ニ口座ヲ設クヘシ)

[輯九七]

甲

煙火、爆竹賣渡簿 (各種類毎ニ口座ヲ設クヘシ)

年月日	名稱	數量	含有火藥數量	摘要
月計				

乙

煙火、爆竹賣渡簿 (各種類毎ニ口座ヲ設クヘシ)

年月日	名稱	數量	含有火藥數量	賣渡		姓名
				住	所	
月計						

丙

煙火、爆竹受拂簿 (各種類毎ニ口座ヲ設クヘシ)

年月日名稱	製造		賣渡		現在	
	數量	含有火藥數量	數量	含有火藥數量	數量	含有火藥數量
月計						

第二號様式

煙火、爆竹受拂簿 (各種類毎ニ口座ヲ設クヘシ)

年月日	名稱	買入		賣渡		現在		摘要
		數量	含有火藥數量	數量	含有火藥數量	數量	含有火藥數量	
月計								

住所姓名ヨリ買入  
住所姓名ヘ賣渡シ



●昭和十四年臺灣總督府令第四十六號 (軍用ノ銃砲火藥類ノ讓受ニ關スル取扱手續ノ件)

昭和十四年四月八日  
臺灣總督府令第四十六號

軍用ノ銃砲火藥類ノ讓受ニ關スル取扱手續ノ件左ノ通定ム  
官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校、大正十四年勅令第二百四十六號(文部大臣所轄外ノ學校ニ陸軍現役將校ヲ配屬スルノ件)ニ依リ陸軍現役將校ヲ配屬シアル學校、帝國在郷軍人會及昭和六年府令第七十三號(臺灣ニ於ケル公立ノ特殊教育施設ニ關スル件)第一條ノ規定ニ依リ公立ノ青年訓練施設ニ於テ軍用ノ銃砲火藥類ヲ讓受クル場合ニ限り臺灣銃砲火藥類取締規則第三條ノ規定ニ拘ラズ行政官廳ノ許可ヲ受ケズシテ之ヲ讓受クルコトヲ得

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

[輯100]

●硝石取締規則

大正二年四月十一日  
臺灣總督府令第四十號

改正 大正九年第一二三號  
硝石取締規則左ノ通相定ム

硝石取締規則

- 第一條 硝石ノ販賣營業ヲ爲サムトスル者ハ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 營業者ハ別記第一號様式及第二號様式ノ帳簿ヲ備フヘシ
- 第三條 營業者硝石ヲ賣渡ストキハ別記第二號様式ノ帳簿ニ賣渡年月日、賣渡數量、使用ノ目的及買受人ノ住所姓名ヲ記載シ之ニ捺印セシムヘシ
- 他人ノ依託ヲ受ケ硝石ノ買入ヲ爲ス者ニ賣渡ストキハ前項ノ事項並受託者ノ住所姓名ヲ記載シ之ニ捺印セシムヘシ
- 第四條 營業者ハ醫師、醫生、藥劑師以外ノ者ニ硝石ヲ賣渡サムトスルトキハ買受人ノ住所姓名、賣渡數量及使用ノ目的ヲ具シ豫メ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長ノ認可ヲ受クヘシ

[輯100]







二 製造、火藥類ノ製造、變形若ハ修理又ハ其ノ營業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ樺太廳長官ニ之ヲ申請スベシ

一 住所、氏名、年齢、職業（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所及氏名、定款並ニ社員又ハ株主ノ名稱）

二 製作ノ目的

三 製作品ノ種類及説明

四 一定ノ期間内ニ製作スベキ定數量

五 作業主任者ノ氏名及履歷

六 作業ノ方法及手續

七 作業所ノ位置、設備及其ノ附近ノ状況

八 職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規定

九 試験爆發ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲特ニ設備スベキ事項

十 試験爆發ニ要スル火藥類ノ調達及貯蔵ノ方法

十一 作業所ニ同時ニ置クベキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ種類、員數ノ最大限

十二 其ノ他危害豫防ノ爲特ニ規定スベキ事項

火藥類ノ販賣營業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ住所、氏名、年齢、職業（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所及氏名、定款並ニ社員又ハ株主ノ名稱）、甲種又ハ乙種ノ區別並ニ販賣所ノ位置及設備ヲ具シ樺太廳長官ニ之ヲ申請スベシ

三 銃砲ノ製造、火藥類ノ製造、變形若ハ修理又ハ其ノ營業ノ許可ヲ受ケタル者前二條ノ規定ニ依リ許可申請書ニ具シタル事項（作業所ノ設備又ハ其ノ附近ノ状況ノ變更ヲ除ク）ヲ變更セントスルトキハ樺太廳長

官ノ許可ヲ受ケベシ但シ住所、氏名、職業（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所及氏名、定款並ニ社員又ハ株主ノ名稱）ニ付テハ其ノ變更後七日以内ニ之ヲ届出ツベシ

第四條 銃砲火藥類製造業者其ノ製造又ハ加工シタル銃砲火藥類ノ卸賣ヲ爲サントスルトキハ其ノ事業開始前販賣所ノ位置及設備ヲ樺太廳長官ニ届出ツベシ

相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ承継シタル者ハ十日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ届出ツベシ

第五條 仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ニ申請シ許可ヲ受ケベシ第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

一 本籍、住所、氏名及生年月日

二 製作品又ハ販賣品ノ種類及構造圖

三 作業所又ハ營業所ノ位置及設備

前項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ七日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ届出ツベシ

相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リ第一項ノ營業ヲ承継シタル者ハ十日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ届出ツベシ

第六條 銃砲火藥類又ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ爲ス者廢業シタルトキハ七日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ届出ツベシ

第七條 銃砲火藥類又ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ爲ス者其ノ業務ニ關シ從業者ヲ雇入レタルトキハ其ノ本籍、住所、

〔附一八九〕

氏名、生年月日及雇入年月日ヲ具シ五日以内ニ作業地又ハ營業地所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ從業者ヲ解雇シ又ハ從業者死亡若ハ所在不明ト爲ラルトキ亦同シ

第八條 火藥類取扱免狀ハ甲乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り本人ノ申請ニ依リ樺太廳長官詮衡ノ上之ヲ交付ス

甲種

- 一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他樺太廳長官ノ指定シタル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタルノ履歷ヲ有スル者
- 二 陸軍工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者
- 三 陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ附與シタル者
- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

乙種

- 一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ關シタルノ履歷ヲ有スル者
- 第九條 一年間五千貫以上ノ火藥又ハ二千五百貫以上ノ爆發ヲ取扱フ場合ニ於テハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者其ノ取扱ニ任ズルコトヲ要ス
- 火藥及爆發ヲ共ニ取扱フ場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ爆發一貫ヲ火藥二貫ト看做ス
- 第十條 火藥類取扱人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名、履歷及火藥類取扱免狀ノ種別ヲ具シ火藥類販賣業者ニ在リテハ營業地ノ、其ノ消費者ニ在リテハ消費地ノ所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ但シ營業地又ハ消費地定マラズ若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲火藥類取締法（以下法ト稱ス）施行區域

第九條 警察 衛生 第一章 警察 第九條 銃砲火藥類 販賣及液化瓦斯

三九八ノ三

〔附一一四〕

外ニ保ル場合ニ於テハ所轄警察署長ニ之ヲ届出ツベシ

前項ノ規定ニ依ル届書ニハ火藥類取扱免狀ノ寫ヲ添付スベシ

第十一條 火藥類作業主任者免狀ハ甲乙丙ノ三種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り本人ノ申請ニ依リ樺太廳長官之ヲ交付ス

甲種

- 一 火藥學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於ケル火藥學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者
- 二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者
- 三 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者
- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者

乙種

- 一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者
- 二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ附與シタル者
- 三 實業學校令ニ依ル甲種實業學校其ノ他樺太廳長官ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者
- 四 別ニ定ムル規定ニ依リ試験ヲ受ケ合格シタル者



丙種

- 一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他樺太廳長官ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品ノ製造ノ實務ニ從事シタル者
- 二 陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ附與シタル者
- 三 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者
- 四 本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技能ヲ有スル者

第十二條 火藥類ノ製造、變形又ハ修理ヲ爲ス作業所ニ於テハ左ノ免狀ヲ有スル火藥類作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

一 火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫以上ノ作業所ニ於テハ甲種

二 火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造、變形若ハ修理ノ爲メ火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫(雷汞ニ在リ)以上ノ作業所ニ於テハ乙種

第十三條 火藥類作業主任者ヲ定ムルトキハ其ノ住所、氏名及生年月日ヲ具シ火藥類作業主任者免狀寫及履歷書ヲ添へ作業地所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ

第十四條 火藥類取扱人又ハ火藥類作業主任者死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ十日以内ニ戶籍上ノ届出義務者ヨリ免狀ヲ添へ樺太廳長官ニ之ヲ届出ヅベシ

第十五條 火藥類取扱人又ハ火藥類作業主任者ヲ解雇シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ

第十六條 火藥類取扱人又ハ火藥類作業主任者免狀ハ之ヲ貸與スルコトヲ得ズ

ハ讓渡ノ事由ヲ記載スベシ

前二項ノ規定ニ依リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ爲ス者ノ備フベキ帳簿ハ第一號乃至第四號様式ニ依ルベシ

第十九條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ一月間製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量及月末現在高ヲ翌月十日迄ニ所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第三十七條 第一項、第三十八條及第三十九條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證、認可證、讓受證書又ハ委任狀ハ一月分取讀メ前項ニ規定シタル届出ト同時ニ所轄警察署長ニ之ヲ差出スベシ

第二十條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ノ爲メベキ届出書ハ第五號及第六號様式ニ依ルベシ

第二十一條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニ非ザル者第三十七條第一項、第三十八條及第三十九條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル許可證、認可證、讓受證書又ハ委任狀ハ十日以内ニ所轄警察署長ニ之ヲ差出スベシ

第二十二條 輸入ノ許可ヲ受ケントスル者ハ輸入スベキ銃砲火藥類ノ種類、數量、輸入ノ目的、買入先、輸入港名、輸入豫定年月日並ニ火藥類ニ在リテハ其ノ成分及貯藏方法ヲ具シ樺太廳長官ニ之ヲ申請スベシ

第二十三條 火藥類販賣業者火藥類ノ輸移入ヲ爲サントスルトキハ豫メ檢査方法及輸出豫定年月日ヲ具シ樺太廳長官ニ之ヲ申請スベシ

火藥類取扱人又ハ火藥類作業主任者ヲ解雇シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ

第十五條 火藥類取扱免狀又ハ火藥類作業主任者免狀ヲ受ケントスル者ハ本籍、住所、氏名、生年月日及職業ヲ具シ履歷書、資格ヲ證明スベキ書類及戶籍抄本ヲ添へ樺太廳長官ニ之ヲ申請スベシ

第十六條 火藥類取扱免狀及火藥類作業主任者免狀ハ之ヲ貸與スルコトヲ得ズ

第十七條 樺太廳長官ハ保安上必要ト認ムルトキハ火藥類取扱人又ハ火藥類作業主任者ノ變更ヲ命ジ又ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命ズルコトアルベシ

第十八條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ其ノ製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量、製造又ハ取引ノ年月日並ニ讓渡人、注文人及讓受人ノ住所及氏名(法人ニ在リテハ其ノ商號、事務所ノ所在地)其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第十九條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ノ爲メ銃砲火藥類ノ輸移出ヲ爲サントスルトキハ輸移出前ニ其ノ種類、數量、輸移出ノ目的、輸移出先、輸移出港名、輸移出ノ年月日、輸移出取扱者及積載スベキ船名ヲ樺太廳長官ニ届出ヅベシ

第二十條 火藥類ノ輸移入シタル者ハ輸移入ノ時ヨリ二十四時間以内ニ輸移入シタル火藥類ノ種類、數量、陸揚港名及陸揚年月日ヲ輸移入港所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第二十一條 銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ爲ス者銃砲火藥類ノ輸移出ヲ爲サントスルトキハ輸移出前ニ其ノ種類、數量、輸移出ノ目的、輸移出先、輸移出港名、輸移出ノ年月日、輸移出取扱者及積載スベキ船名ヲ樺太廳長官ニ届出ヅベシ

第二十二條 規則第十六條、第十七條及第十八條ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ讓渡シ又ハ讓受クベキ銃砲火藥類ノ種類、數量及讓渡又ハ讓受ノ事由並ニ火藥類ノ讓受ニ在リテハ用途、消費ノ時及場所、若ハ消費ノ時及場所定マラザルトキハ其ノ事由ヲ具スルコトヲ要ス但シ讓渡ニ付許可ヲ要スル者ヨリ火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ讓受ノ許可申請書ニ讓渡ノ許可アリタルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第二十三條 規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受許可申請書ニ具スベキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラザル一定ノ期間ニ於ケル需要ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

第二十四條 規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ處分スベキ火藥類ノ種類、數量並ニ處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス

第二十五條 工服用、鑛業用、漁業用、船内銃砲用又ハ煙火製造用其ノ他工業用ニ充ツル火藥類ニ付テハ規則第十七條ヲ適用ス

第二十六條 規則第二十一條ノ規定ニ依リ工事又ハ工業ノ爲メ火藥類ヲ消費スルノ許可ハ樺太廳長官ニ之ヲ申請スベシ



前項ノ許可申請書ニハ工事又ハ工業ノ種類並ニ所要火藥類ノ種類數量及其ノ使用ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

第二十九條 規則第三十八條ノ規定ニ依ル地盤又ハ物件ノ破砕ヲ目的トスル火藥又ハ爆藥ノ使用許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス

- 一 住所、氏名、生年月日及職業
- 二 使用ノ目的及場所
- 三 使用ノ場所ノ周圍ノ見取圖(周圍二町以内ノ見取圖)
- 四 使用ノ目的及方法
- 五 火藥類ノ種類、數量及貯藏ノ方法

第三十條 規則第三十九條ノ規定ニ依ル拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬又ハ携帶ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス

- 一 本籍、住所、氏名、生年月日及職業
- 二 目的物ノ種類、數量及特徴(記號、番號、形體ノ類)
- 三 授受、運搬又ハ携帶ヲ必要トスル事由
- 四 携帶期間

前項ニ規定シタル物件ノ運搬許可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項、運搬ノ目的及方法並ニ發着ノ日時及場所ヲ具スルコトヲ要ス

第三十一條 規則第三十九條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者拳銃、短銃、仕込銃ヲ携帶又ハ運搬スルトキハ其ノ許可證ヲ携帶シ警察官吏ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ

第三十二條 拳銃、短銃、仕込銃ヲ所持スル者(製造又ハ販賣ヲ業トスル者ヲ除ク)其ノ住所ヲ變更シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ具シ住所地所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ管外ヨリ轉入シタルトキ亦同シ

第三十七條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ火藥類ノ授受ノ許可證ハ銃砲火藥類ヲ授受スルノ際之ヲ讓渡人ニ、其ノ讓渡ノ許可證又ハ認可證ハ銃砲火藥類ヲ讓渡ノ際之ヲ讓受人ニ交付スベシ

規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類ノ授受ノ許可證ヲ有スル者ニ火藥類ヲ讓渡スル者ハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印ノ上讓渡シタル許可證ニ連セザルトキハ其ノ許可證ヲ讓受人ニ返付スベシ

第三十八條 規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ火藥類ヲ讓受ケル者ハ行政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書其ノ他資格ヲ證明スルコトヲ得ベキ文書ヲ讓渡人ニ提示シ且讓渡法ニ依リ讓渡物ノ試探若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ讓受ケベキ火藥類ノ種類、數量、讓受ノ理由、用途、消費ノ時及場所、職業、工事又ハ工業ノ種類並ニ試探若ハ探掘權登錄番號又ハ消費許可證番號ヲ具シタル讓受證書ヲ交付スベシ

第三十九條 委任ニ依リ銃砲火藥類ヲ讓受ケル者ハ前二條ノ許可證、認可證又ハ讓受證書ト共ニ委任狀ヲ讓渡人ニ交付スベシ

第四十條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニ非ザル者相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リ軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ取得ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ

- 一 本籍、住所、氏名、生年月日及職業
- 二 取得物件ノ種類、數量及特徴(記號、番號、形體ノ類)
- 三 取得ノ事由

- 一 本籍、住所(前住所ヲ含ム)、氏名、生年月日及職業
- 二 或器ノ種類、數量及特徴(記號、番號、形體ノ類)
- 三 實包及空包ノ數量
- 四 移轉年月日

前項ニ規定シタル物件ノ所持者其ノ氏名又ハ職業ヲ變更シタルトキハ七日以内ニ之ヲ届出ヅベシ

第三十三條 樺太廳長官又ハ所轄警察署長ニ於テ銃砲若ハ火藥類ノ讓渡、讓受若ハ運搬ノ許可、規則第二十二條第二項ノ規定ニ係ル火藥類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬若ハ携帶ノ許可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス

規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受許可證ハ第三十七條第二項ニ規定スル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ許可證又ハ認可證ハ第七號乃至第十二號様式ニ依ルモノトス

第三十四條 前條ノ許可證ハ許可ヲ取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ樺太廳長官又ハ所轄警察署長ニ之ヲ返納スベシ

第三十五條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類又ハ第三十三條ノ許可證若ハ認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明ト爲リタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知りタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタル時ヨリ二十四時間以内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證若ハ認可證ノ種類及之ヲ下付シタル官廳名ヲ最寄警察署長ニ届出ヅベシ

第三十六條 前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ許可又ハ認可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證又ハ認可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

四 貯藏ノ場所及方法

第四十一條 銃砲製造業者又ハ販賣業者ニ非ザル者軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃ヲ廢棄シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ十日以内ニ所轄警察署長ニ之ヲ届出ヅベシ

- 一 住所、氏名、生年月日及職業
- 二 廢棄物件ノ種類、數量及特徴(記號、番號、形體ノ類)
- 三 廢棄ノ事由及方法
- 四 廢棄ノ年月日
- 五 銃砲ニ在リテハ實包及空包ノ處置

第四十二條 第十八條乃至第二十條、第三十三條乃至第三十七條、第四十條、第四十一條及其ノ副則ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル或器ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 火藥類作業所ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ

- 一 工場又ハ火藥類溜置場ハ相當ノ距離ヲ保有スベシ
- 二 作業所ノ境界ニハ適當ナル圍牆ヲ構設シ且見易キ場所ニ警戒札ヲ建ツベシ
- 三 森林内ニ設置スル作業所ニ在リテハ其ノ圍牆ニ沿ヒ幅十間以上ノ防火線ヲ設ケベシ
- 四 作業所内ハ危險區域ト無危險區域トヲ明瞭ニ区分シ作業上已ムヲ得ザル建築物ノ外危險区域内ニ築造スベカラズ
- 五 汽罐室及煙突ハ無危險区域内ニ之ヲ築造シ爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スベシ
- 六 爆發ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火燭ニ對シ抵抗性ヲ有シ且爆發



- ニ當リ輕量ノ飛散物ト爲ルベキモノヲ用フベシ
- 七 爆發ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ必要ニ應ジ避雷装置及土堤ヲ設ケベシ第六十二條第六號乃至第八號ノ規定ハ本號ノ避雷装置及土堤ニ付テ準用ス
- 八 發火ノ危險アル工場ニハ避雷装置ヲ爲スベシ第六十二條第六號ノ規定ハ本號ノ避雷装置ニ付テ準用ス
- 九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ強風ノ際砂塵ノ飛揚ヲ防止スル爲メ撒水ヲ爲スベシ但シ作業上已ムラ得ザルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
- 十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニハ適當箇數ノ窓及非常ノ際從業者ノ避難上便利ナル場所ニ出口ヲ設ケ扉ハ外開トシ其ノ金具ハ直接鐵ト摩接スル部分ニハ銅、黃銅又ハ青銅ノ類ヲ用ヒ日光ノ直射ヲ受クル部分ノ窓硝子ニハ不透明ノモノヲ用フベシ
- 十一 爆發ノ危險アル工場ノ内面ハ土砂類ノ剝落飛散ヲ妨ギ且鐵類ヲ露ハサザル措置ヲ爲スベシ
- 十二 火藥類ノ粉末飛散ノ虞アル工場ノ天井、内壁ハ綽障ヲ存スルコトナク且水洗ニ耐ユル塗料ヲ塗布スベシ
- 十三 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用ヒ密ニ張り詰メ火藥類ノ滲透又ハ其ノ粉末ノ介入ヲ避ケベキ適當ノ方法ヲ講ズベシ
- 十四 發火性若ハ引火性瓦斯又ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯ノ排氣装置ヲ爲スベシ
- 十五 爆發又ハ發火ノ危險アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造建物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スベシ
- 十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ原動機ヲ附付クルコトヲ得ズ

- 但シ火藥類粉末又ハ爆發性、引火性瓦斯ノ侵入ヲ防止スベキ裝置アル區劃内ニ据付クルハ此ノ限ニ在ラズ
- 十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ据付又ハ備付クル機械器具類ハ作業上已ムラ得ザル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用ヒ總テノ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類粉末ノ附著ヲ避ケベキ適當ノ方法ヲ講ズベシ
- 十八 火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スベシ但シ之ヲ裝置スルコトヲ得ザルモノニ在リテハ手力ヲ以テ容易ニ調整シ得ベキ裝置ヲ爲スベシ
- 十九 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於ケル暖房裝置ニハ蒸氣、熱氣又ハ温水ノ外使用スルコトヲ得ズ
- 暖房裝置ハ燃燒シ易キ物件ト隔離シ且塵埃又ハ火藥類粉末ノ附著ヲ避ケベキ適當ノ方法ヲ講ズベシ
- 二十 火藥、爆藥乾燥室内ノ暖房裝置ハ火藥、爆藥ヲ乾燥スル場所ヨリ隔離スベシ但シ温水暖房裝置ニシテ其ノ溫度乾燥溫度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
- 二十一 工場又ハ火藥類溜置場ニハ内部又ハ外部見易キ場所ニ揭示板ヲ設ケ其ノ場内ニ存置セシメ得ベキ原料及製作品ノ種類、數量及其ノ取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スベシ
- 二十二 工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類ヲ火藥、爆藥ノ中ニ混入セシメザルノ措置ヲ爲スベシ
- 二十三 火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外適當ノ場所ニ搬出スベシ

- 二十四 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内及其ノ附近ニハ發火又ハ燃燒シ易キモノヲ堆積スベカラズ
- 二十五 工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帯品ノ検査ヲ行フベシ
- 二十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用スベカラズ
- 二十七 爆發又ハ發火ノ危險アル工場内ニハ定員外ノ勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ
- 二十八 危險區域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノノ外立入ラシムルコトヲ得ズ
- 二十九 作業所内ニ於テ飲酒シ又ハ工場若ハ火藥類溜置場以外ニ於テ特ニ設ケタル室内ニ非ザレバ喫煙スベカラズ
- 三十 爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場内ヲ照明スル設備ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用スベカラズ
- 三十一 爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ携帯電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ズ
- 三十二 火藥、爆藥及其ノ原料ハ作業ニ要スル少量ニ非ザレバ工場内ニ之ヲ置クコトヲ得ズ作業中避ケベカラザル停滯品ヲ生ジタル場合ニ於テハ工場附近ニ於テ相當ノ距離ヲ保有スル場所ニ築造シタル火藥類溜置場ニ一時之ヲ入レ置クベシ
- 三十三 作業所内ニ於テ生ジタル火藥類ノ廢棄及不良品ハ一定ノ廢液容器ニ收容シ毎日一回一定ノ場所ニ於テ廢棄其ノ他危險防止上必要ナル

- 措置ヲ爲スベシ
- 三十四 火藥、爆藥又ハ其ノ原料ヲ運搬スル容器ハ適當ノ材料ヲ以テテヲ作り且確實ニ之ヲ閉塞スベシ
- 三十五 火藥類運搬ノ通路ハ暴露シタル火氣使用ノ場所ヲ回避シ路面ハ之ヲ平坦ナラシメ勾配ヲ附スル必要アル場合ニ於テハ地形上已ムラ得ザル場合ノ外六十分ノ一以下ト爲スベシ
- 三十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ於テ改築、修繕等ノ工事ヲ爲サントスル場合ニ於テハ著手前危險防止上必要ナル措置ヲ爲スベシ
- 三十七 爆發其ノ他ノ災害ヲ生ジタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ヅベシ所轄警察署長ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非ザレバ現状ヲ變更スルコトヲ得ズ
- 三十八 製造、變形又ハ修理シタル火藥、爆藥ノ容器及其ノ外箱ニハ火藥、爆藥ノ種類、數量、作業所名及製造、變形又ハ修理ノ年月日ヲ明記スベシ
- 第四十四條 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ノ作業所ニ於テハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ノ避雷装置及土堤ヲ設ケベシ但シ同時ニ二十五頁以上ノ火藥ヲ取扱ハザル工場ニ於テハ土堤ヲ省略シ不燃質物ヲ以テ築造セル塔壁(高さ工場ノ屋頂ト同ジク厚サ頂部ニ於テ)ヲ以テ之ヲ代用スルコトヲ得
- 二 同時ニ百五十頁以上ノ火藥ヲ取扱フ工場ハ其ノ構造ヲ放爆式ト爲スコトヲ得ズ



- 三 放爆式構造ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ堅固ナル三側壁トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ真壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ重量不燃質物ヲ以テ覆葺スベシ
- 四 火藥乾燥工場ハ作業場内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保フベシ
- 五 爆發ノ危険アル工場ニシテ成形機、壓搾機、搗磨機等ノ機械類ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ作業ノ目的ヲ異ニスル毎ニ各別棟ニ之ヲ築造スベシ但シ放爆式構造ナルトキ又ハ一工場内ノ勞務者定員四名以下ニシテ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ區劃セルトキハ三工場内以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 六 同一工場内ニハ二箇以上ノ爆發ノ危険アル作業用機械ヲ据付クルコトヲ得ズ但シ勞務者ノ定員二人ヲ超エザルトキ又ハ勞務者ノ定員四人ヲ超エザル工場ニ於テ同一種類ノモノ若ハ作業上分離シ難キモノヲ据付クルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 七 火藥又ハ其ノ原料ヲ取扱フ工場内ニ在リテハ鐵製物ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 八 火藥原料ハ混和前篩分シ砂石類ヲ除去スベシ
- 九 木炭ハ炭化後七日以上経過スルニ非ザレバ粉末ト爲スコトヲ得ズ
- 十 硫黃、木炭ノ二味ヲ鐵製混和機ニ依リ粉砕混和スル場合ニ於テハ青銅球ヲ使用スベシ
- 十一 混和機ヲ使用シ混和シタル硫黃、木炭ノ二味混和物ハ更ニ篩分スルニ非ザレバ硝石ヲ混和スルコトヲ得ズ
- 十二 硫黃、木炭、硝石ノ三味混和機ニハ金屬製ノモノヲ使用スベカラ

【輯一一四】

- 五 無煙火藥乾燥工場ハ其ノ周圍ニ防火壁若ハ土堤ヲ設ケ又ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保フスベシ
- 六 アルコール、エーテル、アセトン類ノ貯藏所ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗力ヲ有スルモノヲ用ヒ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保フスベシ
- 七 發火ノ危険アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗力ヲ有スルモノヲ用ヒ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十間以上ノ距離ヲ保フスベシ但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ五工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 八 發火ノ危険アル工場ニハ自動注水消防設備ヲ爲スベシ但シ特ニ棒太廳長官ノ許可ヲ受ケ之ニ代ルベキ消防設備ヲ爲スコトヲ得
- 九 工場内ニ於テハアルコール、エーテル、アセトン類ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スベカラズ
- 十 綿火藥ハ作業上必要ナル場合ノ外之ヲ乾燥スルコトヲ得ズ
- 十一 乾燥工場ニ於ケル乾燥溫度ハ攝氏五十度ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 十二 乾燥セル無煙火藥又ハ綿火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非ザレバ之ヲ運搬容器ニ收容スルコトヲ得ズ
- 十三 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ

(左記省略)

- 第四十六條 雷酸鹽(雷汞)ノ作業所ニ於テハ第四十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 化成洗滌工場、乾燥工場及其ノ他ノ雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱工

- 十三 火藥及其ノ原料ニシテ床上又ハ地上ニ落下シ汚穢セルモノハ直ニ廢棄容器ニ之ヲ收容スベシ
- 十四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類若ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ

(左記省略)

- 一 棉花藥乾燥工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケベシ
- 二 棉花藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保フスベシ但シ乾燥工場相互間ノ距離ハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上(五十貫以上ノ火藥類ヲ停滯セシ)ノ距離ヲ保フスベシ但シ土堤又ハ屋頂ヲ超ユルコト二尺以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 四 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ニシテ放爆式構造ニ依ルモノニ在リテハ三側壁ノ厚サ一尺以上トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ真壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ重量不燃質物ヲ以テ覆葺スベシ放爆面ノ防火壁又ハ其ノ保有距離ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用ス

【輯一一四】

【輯一一四】

- 場ハ各別棟ニ之ヲ築造スベシ
- 二 乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、混和工場、造粒工場及填壓工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保フスベシ
- 三 乾燥工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケベシ
- 四 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ取扱フ混和工場、造粒工場及填壓工場ハ三側壁ノ厚サ一尺以上トシ抵抗力微弱ナルモノヲ以テ他ノ側壁及屋根ヲ築造シ連接シテ之ヲ築造スル場合ニ於テハ各工場間ノ防火壁ヲ厚サ一尺以上ノ煉瓦造ト爲スベシ
- 五 混和工場ニハ混和機二箇以上ヲ据付クルコトヲ得ズ
- 六 潤滑セル雷酸鹽ハ水ト共ニ硝子製容器ニ收納スベシ但シ一容器ニ二貫七百匁以上ヲ收納スルコトヲ得ズ
- 七 乾燥セル雷酸鹽及其ノ混和物ハ紙又ハ護膜製容器ニ收納スベシ
- 八 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ運搬スル際ニハ百三十匁以内ヲ紙又ハ護膜製容器ニ收納シ總量二百六十匁以内ヲ限リ携行スベシ
- 九 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱ヲ爲ス勞務者ニハ胸當ヲ使用セシメ且其ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ勞務者ニハ口覆又ハ覆面ヲ使用セシムベシ
- 十 雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ乾燥溫度ハ攝氏五十度以下トシ乾燥了リタルモノハ乾燥室外ノ溫度ト大差ナキ溫度ニ放冷シタル後ニ非ザレバ之ヲ他ノ容器ニ移入スベカラズ
- 十一 洗滌作業中水ト共ニ流出スル微量ノ雷酸鹽又ハ他ノ作業中床上等ニ落下シ若ハ器具類ニ附着セル藥粉及廢藥等ハ次亞硫酸曹達液ヲ以テ



處理シ無危險物ト爲スベシ  
 十二 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ  
 (左記省略)

第四十七條 芳香系列ノ三硝基以上ノ硝化物(フエノール又ハグレ)ノ作業

- 一 硝化物工場、洗滌工場、精製工場及溶解母液回收工場ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ヒ火氣ニ對シ特ニ安全ナル場所ヲ選定シ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スベシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 二 乾燥工場及收函工場ハ遮雷裝置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十間以上、收函工場ハ十二間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分ノ一ニ短縮スルコトヲ得
- 三 硝化工厂、洗滌工場、精製工場及溶解母液回收工場ニハ作業中發生スル瓦斯及蒸氣ノ排氣裝置ヲ爲スベシ
- 四 引火性ノ原料及溶劑ハ完全ナル容器ニ收納シテ倉庫ニ貯藏シ又ハ堅牢ナル鐵製貯槽ニ收納シテ屋外安全ナル場所ニ貯藏スベシ地上倉庫ニ貯藏スル場合ニ在リテハ其ノ倉庫ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有シ且火災豫防上特別ノ設備ヲ爲スベシ
- 五 硝化物ニ接觸セル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムベシ

〔轉一一四〕

- ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スベシ
- 六 ナイトログリセリン洗滌工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以内ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スベシ
- 七 濾過工場、配合工場、糞担和工場、捏和工場、壓伸工場、壓排工場及包裝工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量第五號規定ノ限度ニ於テ各第五號規定ノ距離ヲ保有スベシ
- 八 古酸分離工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ八間以上ノ距離ヲ保有スベシ
- 九 收函工場、棉火藥乾燥工場及同節分工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スベシ
- 十 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン又ハナイトログリセリン等ノ流通種又ハ導管ヲ通ズル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケルコトヲ得ズ
- 十一 爆發ノ危険アル工場ニハ各箇ニ遮雷裝置及土堤ヲ設ケ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニ爆發ノ際飛散物ニ對スル避難ノ設備ヲ爲スベシ
- 十二 ナイトログリセリンノ流通種ハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲工場ヨリ隔離シ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スベシ
- 十三 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流通種ニハ船、渡渡又ハ軸葉ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用ヒ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スベシ
- 十四 爆發ノ危険アル工場ノ窓ハ外開トシ且硝子戸ニ在リテハ其ノ内面

硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ從業者ニハ「マスク」ヲ使用セシムベシ  
 七 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ  
 (左記省略)

第四十八條 ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆藥(各種ダイ)ノ作業所

- ニ於テハ第四十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 爆發ノ危険アル工場ハ汽機汽罐室、添加劑製造工場(硫酸土ノ根、鉛工場等爆藥製造ニ直接關聯セル工場並ニ從業者ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、酸工場、棉火藥製造工場(乾燥工場)等ダイナマイト製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、住宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、混酸室、秤量室、ダイナマイト包装用紙又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 爆發ノ危険アル工場ハ棉火藥乾燥工場、同節分工場、配合工場、壓伸工場、壓排工場、包裝工場、收函工場及古酸分離工場ヲ除クノ外之ヲ系統的ニ配置スベシ
- 三 一系統内ニ築造スルグリセリン硝化工厂ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ築造スルコトヲ得ズ
- 四 一系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スベシ
- 五 グリセリン硝化工厂ハ作業所内ノ他ノ建築物(硝化豫備工場)ニ對シ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ十四間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十二間以上、五百三十貫以内

〔轉一一四〕

- ニ硝子破損ノ際破片ヲ防止スルニ足ルベキ金網ヲ張ルベシ
- 十五 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ得ベキ裝置ヲ爲スベシ
- 十六 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ベキ裝置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スベシ
- 十七 グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓縮空氣ニ依リ攪拌スルモノニアリテハ完全ナル豫備攪拌裝置ヲ爲スベシ
- 十八 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ  
 (左記省略)

第四十九條 硝酸アンモニア主トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第四十三條

- ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場(攝氏四十五度以上ノ)、填藥工場、包裝工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及節分工場及完成爆藥ノ收函工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スベシ
- 二 甲種硝安爆藥ノ製造工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及節分工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用フベシ
- 三 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場(攝氏四十五度以上ノ)及完成爆



藥ノ收函工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十五間以上、五百三十貫以内ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ四アロセント以上ノ硝化纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セザル爆藥ノ工場ニ在リテハ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量ニ關スル本號規定ノ區別ニ從ヒ六間、十二間又ハ十七間ニ短縮スルコトヲ得

四 乙種硝安爆藥ノ填藥工場及包装工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十五間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ四アロセント以上ノ硝化纖維素又ハナイトログリセリンヲ含有セザル乙種硝安爆藥ノ包装工場ハ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ二工場以内又ハ收函工場ト連接シテ築造スルコトヲ得

前項ニ於テ甲種硝安爆藥ト稱スルハ硝酸アンモニアヲ主劑トシ二硝基ベシジン、二硝基ナフサリン、硝酸鹽類又ハ穀粉ノ類ヲ混和セルモノヲ謂ヒ、乙種硝安爆藥ト稱スルハ硝酸アンモニアヲ主劑トシナイトログリセリン、硝化纖維素、三硝基トリエオール、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ類ヲ混和セルモノヲ謂フ

第五十條 フエノール又ハクレゾールノ二硝基以上ノ硝化物ノ作業所ニ於テハ第四十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ  
一 乾燥工場、收函工場其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十八間以上、收函工場其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ作業中停滯スベ

シ二十間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、濕酸室、秤量室又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 グリセリン硝化工場及ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ系統的ニ配置シ系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スベシ

三 一系統内ニ築造スルグリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ築造スルコトヲ得ズ

四 グリセリン硝化工場ハ作業所内ノ他ノ建築物(硝化豫備工)ニ對シ作業中停滯スベキナイトログリセリンノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ十四間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十二間以上、五百三十貫以内ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スベシ

五 ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以内ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スベシ

六 硝化乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、乾燥硝化乾燥工場及混和工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スベシ

七 溶劑回收工場及無煙火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ對シ五間迄、異種類ノ工場ニ對シ十四間迄短縮スルコトヲ得

八 担和工場及壓伸工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分

キ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十五間以上、五百三十貫以内ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スベシ

二 硝化工場、洗滌及精製工場ハ火焰ニ對シ抵抗力ヲ有スル建築材料ヲ用ヒ火氣ニ對シ安全ナル場所ヲ選定シ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スベシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

三 硝化物ヲ取扱フ工場ニ於テハ硝化物ノ接觸ニ依リ危險ナル鹽類ノ成生ヲ防グベキ適當ノ措置ヲ爲スベシ  
四 硝化物ニ接觸セル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムベシ  
五 硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ從業者ニハ「マスク」ヲ使用セシムベシ  
六 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ

第五十一條 硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ作業所ニ於テハ第四十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ  
一 爆發ノ危險アル工場及無煙火藥乾燥工場ハ汽機汽罐室、鉛工場等無煙火藥製造ニ直接關係セル工場竝ニ從業者ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、酸工場、硝化乾燥工場(乾燥工場及乾燥工場)等無煙火藥製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、社宅等ニ對

ノ一ニ短縮スルコトヲ得

九 前號ノ工場ハ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ同種類ノモノニ限リ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

十 風晒工場、混同工場及收函工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ十四間迄短縮スルコトヲ得

十一 アセトン其ノ他ノ引火性溶劑ノ貯藏所ハ火焰ニ對シ抵抗力ヲ有スル建築材料ヲ用ヒ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スベシ

十二 發火ノ危險アル工場ハ火焰ニ對シ抵抗力ヲ有スル建築材料ヲ用ヒ注水消火設備ヲ爲スベシ

十三 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン、ナイトログリセリン等ノ流通樋又ハ導管ヲ通ズル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケルコトヲ得ズ

十四 爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケグリセリン硝化工場ノ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニハ爆發ノ際ニ於ケル飛散物ニ對シ避難ノ設備ヲ爲スベシ

十五 ナイトログリセリンノ流通樋ハ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スベシ  
十六 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流通樋ニハ鉛、鹽酸又ハ油類ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用ヒ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スベシ  
十七 爆發ノ危險アル工場ノ硝子戸ニハ内面ニ硝子破損ノ際ニ於ケル破



- 片ヲ防止スルニ足ルベキ金網ヲ張ルベシ
- 十八 グリセリン硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ且發散瓦斯ヲ窺見シ得ベキ裝置ヲ爲スベシ
- 十九 グリセリン硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ベキ裝置ヲ爲シ完全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スベシ
- 二十 グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓縮空氣ニ依リ攪拌スルモノニ在リテハ完全ナル豫備攪拌裝置ヲ爲スベシ
- 二十一 工場内ニ於テハアセトン其ノ他ノ溶劑ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スベカラズ
- 二十二 乾燥工場内ノ溫度ハ攝氏五十度ヲ、溶劑回収工場内ノ溫度ハ攝氏六十度ヲ超エシムルコトヲ得ズ
- 二十三 乾燥セル無煙火藥又ハ棉火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非ザレバ之ヲ運搬スルコトヲ得ズ
- 二十四 摺和機及壓伸機ハ同一工場内ニ二箇以上ヲ据付クルコトヲ得ズ
- 二十五 摺和機及壓伸機ニハ蓄電ヲ避ケル爲適當ノ裝置ヲ爲スベシ
- 二十六 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ

(左記省略)

前項ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ棉火藥乾燥工場、乾燥棉火藥取扱工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌及濾過工場並ニ混和工場ヲ謂ヒ、發火ノ危險アル工場ト稱スルハ摺和工場、壓伸工場、溶劑回収工場、無煙火藥乾燥工場、風晒工場、混同工場及收函工場ヲ謂

第五十二條

- 過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第四十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 過鹽素酸鹽ノ粉碎及篩分工場並ニ乾燥工場ハ別棟ニ之ヲ築造シ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用フベシ
  - 二 混和工場、填藥工場、包裝及收函工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スベキ爆藥ノ數量八十貫以內ノモノニ在リテハ八間以上、百六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ填藥工場、包裝及收函工場ハ厚サ一尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノモノニ限リ二工場ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
  - 三 混和工場内ニハ二箇以上ノ混和機ヲ据付クルコトヲ得ズ
  - 四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ

第五十三條

- 無煙火藥原料トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第四十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スベシ
- 一 無煙火藥風乾工場ハ避雷裝置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ無煙火藥ノ水蒸場ヲ其ノ附近ニ設置スルハ此ノ限ニ在ラズ
  - 二 截斷工場、粉碎工場、篩分及混和工場、填藥及包裝工場並ニ收函工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ヒ各別棟ニ之ヲ築造シ各

【輯一一五】

【輯一一四】

- 備ニ注水消防設備、避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スベシ但シ粉碎工場ハ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ限リ十工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 三 粉碎工場ニハ二箇ノ粉碎機ヲ据付ケ其ノ中間ニ避雷裝置ヲ設ケ粉碎機ハ交互ニ之ヲ使用スベシ
- 四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ズ

(左記省略)

第五十四條 樺太廳長官ハ第四十三條乃至前條ニ規定シタル事項ニ付土地ノ狀況其ノ他ノ關係ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ特ニ其ノ變更ヲ許可スルコトアルベシ

樺太廳長官ハ第四十三條乃至前條ニ規定シタル事項ノ外必要ナル設備又ハ作業所内ニ於ケル防火設備其ノ他取締上必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第五十五條

- 緩燃導火線及煙火ヲ除クノ外火藥類ハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ之ヲ收納又ハ貯藏スベシ
- 一 火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥ニシテ火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マザル紙又ハ布ヲ以テ包ミタルモノニ在リテハ錫引又ハ亞鉛引鐵器ニ、少量ノ火藥ニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
  - 二 火工品(導火線ヲ除ク)ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵葉器又ハ厚紙製鐵器ニ收納スルコトヲ要ス但シ其ノ形狀巨大ニシテ收納ニ適セザルモノ

- ハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 ビクリン酸ハ陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器又ハ木器ニ、其ノ他ノ爆藥ハ其ノ種類ニ應ジ木器、紙器、亞鉛器、護謨器又ハ硝子器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニ在リテハ白鐵葉器ニ收納スルコトヲ得
  - 四 雷汞ハ清水ヲ滿タセル硝子器ニ收納シテ貯藏スルコトヲ要ス
  - 五 火藥、爆藥ハ容器ト火藥類ト直接ニ接觸セザル爲火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マザル紙又ハ布ヲ以テ隔離スベシ但シ容器ノ内面ニ漆又ハセルラックノ類ヲ塗布シタル場合若ハ少量ノ火藥ヲ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
  - 六 火藥類ハ乾燥性油紙(桐油、荏油又ハ)ヲ以テ之ヲ包被スルコトヲ得ズ
  - 七 各種ダイナマイトヲ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置セシムルコトヲ要ス
  - 八 各種ダイナマイトニシテ貯藏中藥包ヨリナイトログリセリン滲出シテ容器ノ外面又ハ床面上ヲ汚染シタルトキハ苛性曹達ノアルコイル溶液(苛性曹達五十五ヲ水七十五立方體ニ溶解シ)ヲ注ギナイトログリセリンヲ分解セシメ布片ヲ以テ拭拭スベシ
  - 九 各種ダイナマイトニシテ貯藏中凍結シタルトキハ安ニ融解シ若ハ搬出スルコトナク庫内ニ寒氣ノ侵入ヲ防止シ自然ニ融解セシメ又ハ水分ヲ藥包ニ接觸セシメザルノ裝置ヲ爲シタル容器ニ之ヲ收容シ温湯ニ浸シ間接ニ融解セシムベシ
  - 十 火藥類ハ第五十六條ノ區別ニ依リ互ニ隔離スベシ



- 十一 火藥類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入ルルニハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火藥類粉末ノ殘留ナキヲ要ス
- 十二 一度使用シタル火藥類ノ容器又ハ其ノ外箱ハ適宜ノ方法ニ依リ清掃淨拭スルニ非ザレバ再ビ火藥類ヲ收納スルコトヲ得ズ
- 十三 火藥類ノ容器ノ外箱ハ鐵類ヲ露スコトヲ得ズ
- 第五十六條 規則第三十一條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スルハ左ノ各號ノ區別ニ依ルベシ
  - 一 有煙火藥、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及有煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品、硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ有機硝化物ヲ含有セザルモノ
  - 二 無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及無煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品

三 爆藥

四 火工品

- 前項第三號ヲ除クノ外各號中ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スルニハ各種類毎ニ規則第二十八條ニ掲ゲタル數量ヲ以テ貯藏セントスル數量ヲ除シ其ノ商ヲ加ヘ其ノ和ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第五十七條 火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏スルニハ内壁ヨリ一尺以上ヲ隔テ下部ニハ高サ約三寸ノ枕木ヲ置キテ容器ヲ積上ラゲシ
- 火藥類貯藏所ニ於テハ所轄警察署長ノ指示ニ從ヒ換氣ニ注意スベシ
- 火藥類貯藏所内ノ溫度ハ無煙火藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏三十一度以下、爆藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏九度以上三十六度以下ヲ保ツコトニ注意スベシ

- 要ス
- 前二項ニ依リ許可ヲ受ケタル者六月以内ニ工事ニ著手セズ又ハ正當ノ理由ナクシテ竣功期日經過後三十日以内ニ竣功セザルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ
- 第六十條 規則第二十七條第二號ニ依リ火藥類ヲ貯藏セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ貯藏地所轄警察署長ニ願出テ許可ヲ受ケベシ
  - 一 火藥類ヲ貯藏セントスル場所
  - 二 土工其ノ他ノ事業ノ期間
  - 三 火藥類ヲ貯藏セントスル期間
  - 四 火藥類ノ種類及數量
  - 五 火氣及盜難豫防ニ對スル設備ノ狀況
- 第六十一條 規則第二十七條第三號ニ依リ火藥ヲ裝填セザル雷管附藥莖ヲ貯藏スル場合ハ其ノ種類、數量、場所及貯藏方法ヲ所轄警察署長ニ届出ヅベシ
- 第六十二條 火藥庫ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ但シ地下又ハ水上ニ設ケル火藥庫ニ關シテハ樺太廳長官ノ許可ヲ得テ特別ノ設備ヲ爲スコトヲ得
  - 一 火藥庫ハ土藏造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造ノ平家建ナルコト
  - 二 火藥庫ノ屋根ノ外面ハ薄キ金屬板、石盤板又ハ瓦若ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒテ覆葺シ且盜難ヲ防ギ得ベキ構造ト爲スコト
  - 三 庫壁ハ土造、鐵筋コンクリート造ノ部分ニ於テ厚サ五寸以上、煉瓦造、石造ノ部分ニ於テ厚サ七寸以上トシ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ヒルコトナク且扉ニハ防火ノ設備ヲ爲スコト
  - 四 庫ノ内面ハ石、瓦、ベトン、土砂ノ剝落飛散ヲ防グノ裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露ハサザルコト

- 五 床ハ密ニ張詰メ鐵類ヲ露ハサザルコト
- 六 火藥庫ニハ避雷針ヲ設ケルコト但シ避雷針ニ代ハルベキ裝置アルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得
  - 五度以内ノ角度ヲ有スルコト
  - 避雷針ハ少クとも毎年一回梅雨期以前ニ於テ之ヲ検査シ必要アルトキハ修繕ヲ加フルコト
- 七 無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ノ周圍ニハ土堤又ハ鐵筋コンクリート造、煉瓦造若ハ石造ノ圍壁ヲ、其ノ他ノ火藥類ヲ貯藏スル火藥庫ノ周圍ニハ土堤ヲ庫壁ノ外側面ヨリ堤脚又ハ壁脚迄三尺乃至六間ノ距離ニ於テ成ルベク庫壁ニ接近シテ設ケルコト但シ樺太廳長官ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤又ハ圍壁ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトヲ得
- 火藥庫ニ以上相接スル場合ニ於テ各箇ノ土堤又ハ圍壁ハ相兼ヌルコトヲ得
  - 土堤又ハ圍壁ハ堤外ヨリ火藥庫ヲ通視シ能ハザラシムルガ爲其ノ一端ヲ屈折延長スルカ又ハ通路入口ノ前面ニ更ニ土堤又ハ圍壁ヲ設ケ若ハ土堤ノ入口ヲ隧道ト爲シ其ノ兩端ニ堅固ナル扉ヲ設ケルコト
  - 無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ノ土堤又ハ圍壁ノ高サハ火藥庫ノ軒桁ノ高サト、其ノ他ノ火藥類ヲ貯藏スル火藥庫ノ土堤ノ高サハ火藥庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、圍壁ノ厚サハ一尺五寸以上、土堤ノ頂部ノ厚サハ三尺以上トシ堤面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト但



シ堤脚ハ火藥庫ノ屋頂ノ高サノ三分ノ一ニ至ル迄土留ヲ石積、煉瓦積又ハコンクリート造ト爲スコトヲ得

八 土堤ノ外部ニ於テ餘地アルトキハ常盤木ヲ栽植スルコト

第六十三條 倉庫ノ設備ハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ避雷針及土堤ニ關シテハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ得

一 避雷針及之ニ代ハルベキ装置ヲ省略スルコト

二 庫壁ノ外側面ニ接觸シ高サハ倉庫ト同シクシ厚サハ頂部ニ於テ二尺以上ヲ有シ礫ノ混入セザル土ヲ以テ積上ゲタル外層ニ依リ圍繞（入口ノ部除ク）シ土堤ヲ省略スルコト但シ庫壁ニシテ其ノ厚サ二尺以上又ハ之ト同一ノ抵抗力ヲ有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得

倉庫ノ入口ハ危險ノ虞少ナキ側面ニ之ヲ設ケ其ノ前面ニ掩體ヲ有セザル場合ハ其ノ扉ヲ堅固ナラシムベシ

第六十四條 火藥類貯藏所ノ設備ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルベシ

第六十五條 火藥類貯藏所ヲ廢止、賣買又ハ讓渡（賣買、讓渡ノ場合ハ雙方連署）シタルトキハ七日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ届出ヅベシ

第六十六條 緊留船又ハ倉庫船ハ火藥類ノ船積、船卸又ハ陸揚ニ限リ一時倉庫ニ代用スルコトヲ得

第六十七條 緊留船又ハ倉庫船ニ火藥類ヲ貯藏セントスル者ハ船舶ノ設備、緊留ノ位置並ニ貯藏スベキ火藥類ノ種類及數量ヲ具シ船舶所在地警察署長ノ許可ヲ受クベシ

四 荷牛馬車、荷牛馬、犬種又ハ馴鹿種ニ在リテハ牛、馬、犬、馴鹿取付ノ能荷積又ハ荷卸ヲ爲スコトヲ得ズ

五 容積ハ密閉シ堅固ニ積載シ日光ノ直射セザル様適當ノ被覆ヲ爲シ塵埃、動搖、衝突、轉倒及墜落ノ虞ナカラシムベシ

六 運搬中ハ徐行シ他ニ通路ナキ場合ノ外人家稠密ノ場所又ハ火氣ヲ取扱ヒ若ハ發火貨物品ヲ蓄積スル等危險ノ虞アル場所ヲ通過スルコトヲ得ズ

七 運搬具又ハ牛馬ノ類ニ積載スル火藥類ハ普通積載量ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ

八 運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ人家ヲ遠隔セル安全ノ位置ヲ選ビ且看守人ヲ附スベシ

九 運搬中宿泊セントスルトキハ警察官吏ニ届出ヅベシ

十 爆藥ハ火種、馴鹿種ヲ以テ運搬スルコトヲ得ズ

第七十一條 索道ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セントスルトキハ索道直下ノ地點ヨリ六十間以内ニ在ル社寺、學校、官公衙、病院、公園、工場、鐵道、軌道、國道等ヲ明ニスル平面圖、索道ト地面トノ距離、索道ノ方式及掘子、運搬具ノ構造、運搬具ニ積載シ得ベキ重量、運搬具ニ積載スベキ火藥類ノ種類、數量及積込ノ方法、發着ノ場所並ニ火藥類運搬中看守人ヲ配置スベキ場所ヲ具シ樺太廳長官ニ申請シ許可ヲ受クベシ

七十二條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ遵守スベシ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

所轄警察署長ハ危害豫防ノ爲緊留船若ハ倉庫船ノ位置ヲ指定シ又ハ之ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第六十八條 規則第十八條各號以外ノ火藥類ハ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケルニ非ズレバ日出前又ハ日没後ニ於テ荷造、荷解、荷積、荷卸又ハ授受スルコトヲ得ズ

前項ノ許可申請書ニハ荷造、荷解、荷積、荷卸又ハ授受スベキ火藥類ノ種類、數量、日時及場所ヲ具スベシ

第六十九條 規則第三十六條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス

一 運搬スベキ火藥類ノ種類及數量

二 運搬ノ事由及方法

三 運搬ノ日時

四 通路及發着ノ場所

五 從事者ノ本籍、住所、氏名及生年月日

第七十條 所轄警察署長ノ許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬スルニハ許可證ヲ携帯スルノ外左ノ各號ノ制限ニ從フベシ

一 運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ用ヒテ運搬スルニハ看守人ヲ附シ晝間ハ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗（陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸）夜間ハ赤色安全燈ヲ携フベシ

二 看守人及運搬人ハ前號安全燈ノ外機寸其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ携帶シ又ハ荷造、荷解、荷積及荷卸ニ際シ若ハ荷物ニ接近シテ喫煙シ又ハ火氣ヲ取扱フコトヲ得ズ

三 機寸其ノ他發火ノ虞アル物件ハ火藥類ト共ニ積載スルコトヲ得ズ

一 索道専用電話ヲ架設シ又ハ標識其ノ他ノ方法ニ依リ火藥類運搬ニ關スル通信ヲ爲スコト

二 火藥類ノ運搬ハ雨天又ハ強風ノ日及夜間ニ於テ行ハザルコト

三 索道ノ運搬速度ハ普通貨物ヲ運搬スル速度ノ三分ノ一以内タルコト

四 運搬具ノ距離ハ索道支柱ノ最大區間以上之ヲ保ツコト

五 運搬具ハ脫線ヲ防ケ爲相當ノ重量ヲ附シ火藥類ノ積載量ハ第七十條第七號ニ紙觸セザル場合ト雖モ十二貫ヲ超ユルコトヲ得ズ

第七十三條 火藥類ヲ自動車ニ依リ運搬セントスルトキハ危害豫防上特別ノ設備ヲ爲シ且運搬用トシテ樺太廳長官ニ願出テ許可ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス但シ左ニ掲グル火藥類ヲ客ノ乗用ニ供セザル自動車ニ依リ運搬スル場合及少量ノ銃用火藥類ヲ其ノ攜帶者ト共ニ運搬スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 發熱導火線、煙火、信號焰管、星火ヲ發スル榴彈（十二箇以下ヲ木匣ニ裝入シテ密封シ得ル様各箇）、火箭（六箇以下ヲ木製容器ノ間ニ麻屑ノ類ヲ填充シタルモノ）、火筒（六箇以下ヲ木製容器ノ間ニ麻屑ノ類ヲ填充シタルモノ）

二 銃用實包、銃用空包、火藥ヲ裝填セザル雷管附又ハ爆管附藥莖、雷管（工業用雷管）、信管、爆管、門管

三 濕藥（箱内ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ）

四 芳香系列ノ硝化物又ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯



五 硝酸アンモニウム又ハ過鹽素酸アンモニウム主トスル爆藥中ナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ

六 六貫以下ノ火藥

七 一貫三百匁以下ノ爆藥(起爆劑ヲ除ク)

第七十四條 自動車ニ依リ火藥類ヲ運搬スル者ハ所轄警察署長ノ指示スル事項ヲ遵守スベシ

第七十五條 火藥類ヲ運搬スル自動車ノ最高速度ハ一時間二十軒トシ人家連擔地ハ十六軒トス

第七十六條 索道又ハ自動車ニ依リ火藥類ヲ運搬スル者ハ第七十條ニ規定シタル制限ニ從テ外棟太監長官又ハ所轄警察署長ノ指示スル事項ヲ遵守スベシ

第七十七條 規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ運搬ニ付テハ第五十五條及其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 無煙火藥又ハ爆藥(ナイトログリセリン又ハ)ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季、ナイトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆藥ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季及冬季示差寒暖計ヲ備ヘ毎週一回之ヲ檢シ其ノ溫度ヲ明記シ置クベシ

示差寒暖計ハ夏季ニハ之ヲ最高溫度ノ位置ニ於テ、冬季ニハ之ヲ最低溫度ノ位置ニ於テ備フベシ

前項ニ於テ夏季ト稱スルハ毎年七月ヨリ九月ニ至ル期間ヲ、冬季ト稱スルハ毎年十一月ヨリ四月ニ至ル期間ヲ謂フ

第七十九條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ内箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スベシ但シ製造所及製造年月日ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セザルモノハ其ノ外箱(端數ハ十箱)ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱(端數ハ十箱)ニ付各一箇以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ試験紙全面ニ涉リ赤色ニ變ジタルトキハ收納セル火藥、爆藥及同一貯藏所内ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ其ノ製造所及製造年月日ヲ同クスルモノハ之ヲ注意品トス

第八十條 火藥、爆藥ニシテ盛ニ赤色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トス

第八十一條 第七十九條ノ注意品(硝酸アンモニウム主トスル爆藥ニシテ含有スルモノ及硝酸アンモニウム)ニシテ前條ノ作用ヲ起サザルトキハ外箱一箱毎ニ左ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フベシ但シ本條ノ試験ヲ省略シ直ニ第八十三條ノ耐熱試験ヲ行フコトヲ得試験スベキ火藥類ハ其ノ包裝物ヲ除去シ之ヲ硝子瓶ニ入レ瓶内ノ高サ約五分ノ三ニ至ラシメタル後青色リトマス試験紙ヲ火藥類ノ上面ヨリ稍上方ニ吊シ直ニ瓶口ヲ密栓スベシ

前項ノ場合ニ於テ無煙火藥及棉火藥ハ六時間以内、其ノ他ノ火藥類ハ四時間以内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ涉リ赤色ニ變ジタルモノハ不良品トス

第八十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ耐熱試験ヲ行フベシ

一 遊離酸試験ノ結果前條ノ不良品ニ該當セザルトキ

二 注意品タル火藥類ヲ汽車、汽船等ニ依リ輸送セントスルトキ及輸送ヲ終リタルトキ

三 硝酸アンモニウム主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ又ハ硝酸アンモニウム主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノノ注意品ニ該當スルトキ

シテ第七十九條ノ注意品ニ該當スルトキ

四 前各號ノ外所轄警察署長ノ指示アリタルトキ

第八十三條 耐熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フベシ

湯煎器ノ口際迄水又ハ微温湯ヲ滿シテ銅網上ニ之ヲ熱スルノ裝置ヲ爲シ蓋孔ヨリ寒暖計ヲ挿入シ木栓又ハ保護線ヲ以テ之ヲ保持スベシ

試験スベキ火藥類ハ左ノ各號ノ区分ニ從ヒ試料ヲ作り之ヲ試験管(中徑約十九ミリ)ニ入ルベシ

約六十ミリ)ニ入ルベシ

一 硅藻土質ダイナマイトハ其ノ二十瓦乃至三十瓦ヲ採リ篩ニ壓シ細粒ト爲シ之ヲ口徑約五ミリノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製無水石綿若ハ精製脫脂綿ノ小片ヲ置キ其上ニ入レ硝子棒ニテ其ノ表面ヲ平ニシ尙其ノ上ヲ三耗ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石綿粉ヲ以テ覆ヒ徐々ニ上部ヨリ蒸溜水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スルナイトログリセリン三瓦乃至三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルベキ試料トス

二 膠質ダイナマイトハ其ノ三瓦半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細裁シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七瓦ヲ加ヘ木製乳棒ヲ以テ篩ニ輕ク完全ニ搗

リ混セ之ヲ一試験管ニ入ルベキ試料トス

三 硅藻土質及膠質以外ノダイナマイトニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕ノ疑アルモノハ攝氏四十五度ニテ約五時間乾燥シタル後三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルベキ試料トス

四 無煙火藥ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方形、帶狀又ハ紐狀ノモノハ鉤、小刀又ハ鉄ヲ以テ細粒狀ニ削裁シ試験管ノ高サノ五分ノ三ニ應ズル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルベキ試料トス

五 棉火藥及其ノ他ノ爆藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試験管ノ高サノ三分ノ一ニ應ズル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルベキ試料トス

一ニ應ズル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルベキ試料トス

沃度加里澱粉紙ノ上部ヲ蒸溜水及グリセリンノ等分混液ヲ用ヒ玻璃棒ニテ潤シ之ヲ玻璃棒鉤ニ懸吊シ桿ヲ保持セル木栓ヲ以テ試験管口ヲ掩ヒ沃度加里澱粉紙ノ下縁ヲシテ火藥類上面ヨリ稍上方ニ在ラシムベシ

前各項ノ準備ヲ爲シタル後湯煎器ヲ熱シ攝氏六十五度ノ溫度ヲ保持スルニ至ラバ試験管ヲ寒暖計ト同ク深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ乾燥分界部ヲ注視シ試験管挿入ノ時ヨリ其ノ淡褐色ニ變ズルニ至ルノ時間ヲ以テ火藥類ノ耐熱時間ト定ムベシ

沃度加里澱粉紙ニ現ハルル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ムベシ

標準色紙及沃度加里澱粉紙並ニ精製滑石粉ハ官廳ニ於テ製造シタルモノヲ用フベシ

第八十四條 火藥類ノ耐熱時間八分間以下ナルトキハ之ヲ不良品トス

第八十五條 硝酸アンモニウム主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又



ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニ在リテハ製造後二年ヲ經過セザルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第八十一條第二項ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フベシ前項ノ場合ニ於テ四時間以内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ渉リ赤色ニ變ジタルトキハ更ニ加熱試験ヲ行フベシ

第八十六條 加熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フベシ

徑約三十五高サ約五十高サノ秤量罐ヲ乾燥器内ニ於テ乾燥スベシ試験スベキ爆藥中ヨリ試料十瓦ヲ採リ之ヲ前項ノ秤量罐ニ入レ密栓シ秤量シタル後栓ヲ除キ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ四十八時間静置スベシ

前項ノ試験中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ之ヲ不良品トス此ノ作用ヲ起サザルトキハ再ビ之ヲ密栓シ其ノ重量ヲ秤ルベシ其ノ減耗量百分ノ一ナルトキハ之ヲ不良品トス

試驗スベキ爆藥ニシテ漏氣ヲ吸取シタル疑アルトキハ先ヅ其ノ試料ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後秤量シ第二項及第三項ノ方法ニ依リ試験ヲ行ヒ試験中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルカ又ハ前項ノ方法ニ依リ秤量シタル減耗量百分ノ〇・一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

第八十七條 耐熱試験又ハ加熱試験ノ結果ハ所轄警察署長ノ指示ニ從ヒ之ヲ帳簿ニ記載シ置クベシ

第八十八條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニシテ製造後二年ヲ經過セザルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回第八十三條ニ定

ムル試験ヲ行フベシ三月以内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第八十九條 硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ硝基化合物ヲ含有スルモノ(硝酸アンモニウム主トスルモノ及ナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノヲ除ク)ニ在リテハ製造後二年ヲ經過セザルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第八十三條ニ定

ムル試験ヲ行フベシ六月以内ニ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第九十條 樺太廳長官ハ前條爆藥中種類ヲ限リ第八十六條第二項及第三項ノ方法ニ依リ加熱試験ヲ行ハシムルコトヲ得

第九十一條 第八十五條、第八十八條、第八十九條及前條ニ依リ試験ヲ行フベキ火藥類ノ箱數ハ製造所及製造年月同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セザルモノニ在リテハ外箱二十五箱(端數ハ二十五)ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノニ在リテハ外箱十箱(端數ハ十)ニ付各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ外箱ノ各箇トス

第九十二條 一年間ニ於テ無煙火藥五千貫以上爆藥二千五百貫以上ヲ取扱フ者ハ何時ニテモ耐熱試験又ハ加熱試験ヲ行フコトヲ得ベキ準備ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條 耐熱試験又ハ加熱試験ノ施行ニハ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 住所、氏名、生年月日及職業
- 二 試験ヲ要スル事由
- 三 火藥類ノ種類及數量
- 四 製造年月日

(再一一四)

(再一一九)

五 製造所ノ名稱

前項ノ場合ニ於テ試験ニ關スル費用ハ申請者之ヲ負擔スベシ

第九十四條 不良品タル火藥類ハ所轄警察署長ノ指示ニ從ヒ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ在リテハ之ヲ水中ニ放流シ其ノ他ノ火藥類ニ在リテハ屋外廣闊ナル場所ニ於テ風ヲ除ケ少重宛之ヲ燃燒スベシ但シ所轄警察署長ノ認可ヲ受ケ應價ニ非ザルナイト類ハ海岸ヲ距ルコト二十海里以上ノ海水中ニ、ダイナマイト以外ノ火藥類ハ海岸ヲ距ルコト十海里以上ノ海水中又ハ他ニ危險若ハ損害ヲ及ボサザル適當ナル水中ニ之ヲ沈下スルコトヲ得

不良ノ程度極メテ輕微ナル火藥類ハ所轄警察署長ニ於テ危險ノ虞ナシト認メタルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ之ヲ良品ト隔離スルコトヲ要ス

第九十五條 火藥類貯藏所危險ノ狀態ト爲リ又ハ火藥類異狀ヲ呈シタルコトヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ火藥類貯藏所又ハ火藥類ノ所有者又ハ管理者ハ直ニ應急ノ措置ヲ行フベシ

第九十六條 火藥類ノ注意品又ハ不良品ヲ發見シタル者ハ速ニ之ヲ發見地所轄警察署長ニ届出テ其ノ指示ヲ受クベシ

第九十七條 煙火(玩具用普通火工品ヲ除ク)ハ火藥庫又ハ煙火貯藏所以外ノ場所ニ、其ノ半成品ハ煙火半成品貯藏所以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ズ但シ其ノ原料タル火藥類ノ數量五百知未滿ノ煙火又ハ其ノ半成品ヲ貯藏地所轄警察署長ノ指定シタル場所ニ貯藏スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第九十八條 煙火又ハ其ノ半成品ハ内部ニ鐵類ヲ露ハサザル有蓋容器ニ收納スルニ非ザレバ之ヲ貯藏又ハ運搬スルコトヲ得ズ

第九十九條 煙火貯藏所又ハ煙火半成品貯藏所ニ付テハ規則第三十二條及本令第五十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ貯藏所ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ樺太廳長官ニ之ヲ届出ヅベシ

第一百條 煙火貯藏所又ハ煙火半成品貯藏所ヲ設置セントスルトキハ其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スベシ

- 一 社寺、學校、公園、兵營、病院、興行場、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル場所、鐵道汽船ノ常航路若ハ繫留所又ハ市街地ハ四町以上
- 二 宅地及國道ハ五十町以上

第一百一條 煙火貯藏所又ハ煙火半成品貯藏所ハ其ノ敷地内ニ於テ貯藏所ノ外壁ヨリ十四間以上ノ空地ヲ保有スベシ但シ貯藏所相互間ノ距離ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二條 煙火貯藏所又ハ煙火半成品貯藏所ノ設備ハ左ノ制限ニ依ルベシ但シ貯藏セントスル煙火又ハ其ノ半成品ノ原料タル火藥類ノ數量三貫二百知未滿ノ場合ニ於テハ第六十三條ノ規定ニ準據スルコトヲ得

- 一 建物ハ平家建、鐵筋「コンクリート」造、周壁ハ厚サ一尺以上屋根ハ「スレート」毎ト爲スコト
- 二 建物ノ外壁ヨリ一間半ノ距離ニ於テ頂部ノ厚サ三尺以上、高サ建物ノ棟ト等高以上ノ土堤ヲ設ケ場面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト
- 三 内部ハ土砂ノ剝落飛散ヲ防止スベキ裝置ヲ爲シ其ノ床ハ板ヲ用ヒテ



密ニ要リ詰メ鐵類ヲ露ハサザルコト

四 適當ナル避雷針ヲ設クルコト

五 出入口ニハ鎖鑰ヲ施スコト

第百三條 煙火ノ打揚ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ打揚地所轄警察

署長ニ申請シ許可ヲ受クベシ

一 申請者及従事者ノ住所、氏名、生年月日及職業

二 打揚ノ日時及場所

三 打揚場所周圍ノ見取圖(周圍一町以内)

四 打揚ノ事由

五 煙火及其ノ打揚用火藥ノ種類、寸法(煙火ニ限ル)、數量及買入先

六 危險防止ニ關スル設備方法

第百四條 規則及本令ニ基キ樺太廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄警察署長

ヲ經由スベシ但シ銃砲火藥類ノ作業又ハ火藥類ノ消費ニ關スル書類ハ其

ノ作業地又ハ消費地ヲ管轄スル警察署長ヲ經由スベシ

第百五條 第三條、第九條、第十二條、第三十五條、第四十三條第一號乃

至第三號、第九號、第十九號、第二十一號乃至第三十四號及第三十六號

乃至第三十八號、第四十四條第一項第七號乃至第十四號、第四十五條第

九號乃至第十三號、第四十六條第六號乃至第十二號、第四十七條第四號

乃至第七號、第四十八條第一項第十二號、第十六號及第十八號、第二十

條第四號乃至第六號、第五十一條第一項第十五號、第十九號、第二十一

號乃至第二十三號及第二十六號、第五十二條第四號、第五十三條第三號

及第四號、第五十五條、第五十七條第一項乃至第六項、第六十七條第一

項、第六十八條、第七十條、第七十一條、第七十三條、第七十六條、第  
七十八條第一項及第二項、第七十九條第一項、第八十一條第一項、第八  
十二條、第八十五條、第八十八條、第九十二條、第九十四條並ニ第九十  
五條ノ規定ニ違反シタル者、第十七條及第六十七條第二項ノ規定ニ依ル  
命令ニ違反シタル者、第八十三條第七項ノ標準色紙及沃度加里澱粉紙並  
ニ精製滑石粉ヲ偽造シタル者、本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許  
可條件ニ適合セザル火藥類作業所ニ於テ火藥類ヲ製造、變形若ハ修理シ  
タル者又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許可ノ條件ニ適合セザル火藥類  
貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ百圓以下  
ノ罰金ニ處ス

〔附一〇九〕

第百八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第九十二條ハ一年間之ヲ施

行セズ

第百九條 明治四十三年廳令第二十號及第二十一號ハ之ヲ廢止ス  
第百十條 第九條ノ規定ニ拘ラズ昭和十七年五月末日迄ハ乙種火藥類取扱  
免狀ヲ有スル者ヲ以テ火藥類ノ取扱ニ任セシムルコトヲ得  
(様式省略)

### ●昭和十六年樺太廳令第八十號 (甲種火藥類取扱人資格試驗規 程)

昭和十六年九月十七日  
樺太廳令第八十號

甲種火藥類取扱人資格試驗規程左ノ通定ム

第一條 一年間五千圓以上ノ火藥又ハ二千五百圓以上ノ爆藥ヲ取扱フ場合

ニ於ケル甲種火藥類取扱人ノ資格試驗(以下試驗ト稱ス)ハ本令ニ依リ樺

太廳長官之ヲ行フ

第二條 試驗ヲ受ケントスル者ハ本籍、住所、氏名、生年月日及職業ヲ具

シ履歴書、戸籍抄本及試験手数料金二圓ヲ添へ試験期日十日前迄ニ所轄

警察官署ヲ經由シ樺太廳長官ニ願出ツベシ

前項ノ試験手数料ハ試験ヲ受ケザル場合ト雖モ之ヲ還付セズ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ズ

一 未成年者、白痴又ハ瘋癲者

二 五月以上火藥類取扱ノ實務ニ従事シタル經歷ヲ有セザル者

三 銃砲火藥類取扱法令ニ違反シ處罰セラレタル後一年ヲ經過セザル者

第四條 試驗ハ火藥學及銃砲火藥類取扱法ノ大意ニ就キ之ヲ行フ

第五條 試驗施行ノ日時、場所ハ告示ス

〔附一一九〕

第六條 試験ハ筆記試験トシ各百點ヲ以テ滿點トシ平均點六十點以上ヲ合

格トス但シ一科目四十點未滿ノモノアルトキハ不合格トス

第七條 履歴ヲ偽リ又ハ試験ニ關シ不正行爲アリタル者ハ其ノ試験ハ無效

トス試験ニ合格シタル後之ヲ發見シタル場合亦同シ

前項ニ該當スル者ハ爾後二年ヲ經過スルニ非ザレバ再ビ試験ヲ受クルコ

トヲ得ズ

第八條 試験ニ合格シタル者ニハ別記様式ノ合格證書ヲ交付ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式省略)



●銃砲火藥類取締規則

大正十三年一月十七日  
閣令第四號

大正十三年第五號、一五年第六號  
昭和四年第五號、第三〇號、七年第二二號、九年第四八號、一一年國庫局令第五號、  
一二年第一一號

銃砲火藥類取締規則ノ通定ム

銃砲火藥類取締規則

- 第一章 總則
- 第二章 銃砲火藥類ノ製造、販賣營業、倉庫營業
- 第三章 火藥類作業主任者、火藥類取扱者

- 第四章 銃砲火藥類ノ輸出入、譲渡及所持
- 第五章 火藥類ノ貯藏收納及試験
- 第六章 火藥類貯藏所及作業所
- 第七章 火藥類ノ運搬其ノ他ノ取扱ニ關スル事項
- 第八章 雜則
- 第九章 罰則

銃砲火藥類取締規則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ銃砲トハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ  
軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用トシテ指定シタル銃砲及  
千米突以上ノ距離ニ有效ニ著彈スヘキ裝備ヲ有シ陸海軍ノ軍用ニ供シ得  
ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ニシテ裝藥ニ依リ彈丸ヲ發射  
スル銃砲及空氣銃其ノ他ノ銃砲ニシテ厚サ二分五厘ニ仕上ケタル杉板ニ  
對シ五間ノ距離ニ於テ發射シタル彈丸五發ノ内一發以上ヲ貫通セシメ得  
ヘキ威力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ火藥類トハ左ニ掲グル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

- 一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥、硝化纖維素ト「ニトログリセリン」トノ結合物ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素ト「ニトロトリウエン」トヲ主トスル無煙火藥ノ類
- 二 爆藥 雷酸鹽ノ類、起爆ノ用途ニ供スル窒化物(窒化、鉛類)其ノ他ノ起爆劑

〔轉一一四〕

〔日本〕

「ニトログリセリン」及之ヲ主トスル爆發藥各種「ダイナ、ニトロトリウエン」及之ヲ主トスル爆發藥、硝酸鹽、鹽素酸鹽、過鹽素酸鹽又ハ硝酸「アムモニア」ヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物及之ヲ主トスル混和物「ニトロペンセン」、「ニトロトリウエン」、「ニトログリセリン」及之ヲ主トスル混和物「ニトロナフサリン」、「ニトロクレゾール」、「ヒクリン」酸又ハ「ヒクリ」並液體酸素ヲ浸漬シタル爆藥ノ類

三 火工品、實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線 一尺ノ燃焼上ヲ要ス、速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品

雷管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管ト看做シ、信管ヲ裝置シタル導火線ハ信管ト看做ス

第三條 本令ニ於テ普通火工品トハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供セサル火工品ヲ謂フ

第四條 軍用銃砲ハ之ヲ製造スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ依託ヲ受ケタル場合及許可ヲ受ケテ其ノ修繕ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ規定ハ前項但書ノ許可ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第五條 火藥類ハ左ニ掲グルモノノ外之ヲ製造スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥

二 爆藥 雷酸鹽ノ類、「ニトロトリウエン」、「ニトログリセリン」及之

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

四〇一



- 七 火藥類ノ輸入又ハ譲受ノ許可ヲ受ケタル者
- 八 火藥類運搬ノ許可ヲ受ケタル者
- 九 運送業者

第八條 銃砲ノ修繕若ハ改造ハ之ヲ銃砲ノ製造ト、火藥類ノ變形若ハ修理ハ之ヲ火藥類ノ製造ト看做ス

第九條 削除

第二章 銃砲火藥類製造、販賣營業、倉庫營業

第十條 行政官廳ノ委託ヲ受ケ銃砲火藥類ヲ製造セムトスル者ハ事業開始前共ノ委託官廳ノ證明書ヲ添附シ製造スヘキ銃砲、火藥類ノ種類、數量、委託ノ期間及委託ノ條件ヲ具シ、關東州廳長官ニ届出ツヘシ届出事項ニ異動アリタルトキ亦同シ

第十一條 銃砲製造營業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル正副二通ノ書面ヲ以テ滿洲國駐劄特命全權大使ニ願出ツヘシ第二號乃至第九號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一 本籍、住所、職業、氏名、生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ住所、氏名及定
- 二 製造ノ區別 製造、改造、修繕ノ區別
- 三 製造品ノ種類、名稱、細密圖及説明
- 四 一定期間内ニ製作シ得ヘキ豫定數
- 五 作業ノ順序及方法
- 六 作業所ノ位置及設備
- 七 職工其ノ他勞務者ノ取締ニ關スル規定

- 八 試驗射撃ノ方法及ヒ危險豫防ニ關スル設備
- 九 試驗射撃ニ要スル火藥類ノ調達及貯藏方法
- 十 作業所ノ竣工時期

- 八 試驗射撃ノ方法及ヒ危險豫防ニ關スル設備
- 九 試驗射撃ニ要スル火藥類ノ調達及貯藏方法
- 十 作業所ノ竣工時期
- 營業ニ非スシテ銃砲ヲ製造セムトスル者ハ製造ノ目的及數量ヲ附記シ前項ニ準シ許可ヲ受ケヘシ

第十二條 火藥類製造營業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シタル正副二通ノ書面ヲ以テ大使ニ願出ツヘシ第二號乃至第十四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一 本籍、住所、職業、氏名、生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ住所、氏名及定
- 二 營業ノ種類 甲種、乙種ノ別
- 三 製造ノ區別 製造、變形、修理ノ區別
- 四 製造品ノ種類、名稱及組成分
- 五 一定期間内ニ製作シ得ヘキ豫定數量
- 六 作業ノ順序及方法
- 七 作業所及附屬建物其ノ他工作物ノ位置、構造、設備及其ノ附近ノ狀況
- 八 職工其ノ他勞務者ノ最大員數及取締ニ關スル規定
- 九 試驗爆發ノ方法及ヒ危險豫防ニ關スル設備
- 十 原料調達及貯藏方法
- 十一 各作業所内ニ同時ニ存置スヘキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ

- 種類別數量ノ最大限
- 十二 各作業所間ニ於ケル火藥類又ハ其ノ原料品若ハ半成品ノ運搬方法
- 十三 危險豫防ノ設備
- 十四 火藥類貯藏所ノ位置
- 十五 作業所其ノ他工作物ノ竣工時期
- 十六 作業主任者ノ氏名及經歷ノ大要
- 營業ニ非スシテ火藥類ノ製造ヲ爲サムトスル者ハ製造ノ目的及數量ヲ具シ前項ニ準シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ但シ製造ノ目的自家用ニ在ルトキハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ附記スヘシ
- 一 火藥類ヲ自家ニ於テ製造スルノ必要アル事由及製造期間
- 二 火藥類ヲ使用スヘキ事業ノ種類及豫定繼續期間
- 三 一年間ニ於ケル所要火藥類ノ種類及數量
- 四 火藥類ノ受拂方法及ヒ手續並消費地區毎ニ火藥類取扱責任者ノ氏名
- 五 火藥類使用従業員ノ監督方法

- 一 作業所附近四町以内ノ地物ヲ表示シタル圖面
- 二 作業所其ノ他ノ工作物ノ配置圖
- 三 作業所其ノ他ノ工作物ノ平面圖
- 四 作業所ノ正面圖及斷面圖
- 五 自家用火藥類製造ニ在リテハ火藥類使用地域ノ圖面

第十三條 火藥類製造營業ハ甲、乙ノ二種トス

甲種火藥類製造營業トハ各種火藥類ヲ、乙種火藥類製造營業トハ緩燃導火線、煙火、爆竹、玩具用普通火工品及之等ノ製造材料トシテ必要ナル火藥又ハ爆發ノミヲ製造スルモノヲ謂フ

第十四條 銃砲ヲ爲ス者其ノ銃砲ニ使用スル實包ヲ安全ナル場所ニ於テ裝填スル場合ニハ第十二條ノ規定ヲ適用セシ

第十五條 銃砲火藥類販賣營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款
- 二 營業ノ種類
- 三 販賣所ノ位置及設備
- 四 營業品ノ種目
- 五 火藥類貯藏所ノ位置、構造、設備及工事仕様書

銃砲火藥類製造營業者ニシテ其ノ製造シタル銃砲火藥類販賣ノ營業ヲ爲ス場合ハ其ノ販賣營業ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ營業ヲ開始セムトスルトキハ前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ具シ關東州廳長官ニ届出ツヘシ

第十六條 火藥類販賣營業ハ甲、乙ノ二種トス

甲種火藥類販賣營業トハ各種火藥類ヲ、乙種火藥類販賣營業トハ緩燃導火線、煙火、爆竹及玩具用普通火工品ノミヲ販賣スルモノヲ謂フ

第十七條 火藥類ノ倉庫營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケヘシ第二號乃至第四號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦



同シ

- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名及定款
- 二 營業所ノ位置
- 三 取扱フヘキ火藥類ノ種別
- 四 火藥類貯藏所ノ位置、構造、設備及工事仕様書

第十八條 相續又ハ法人ノ合併ニ依リ銃砲火藥類ノ製造若ハ販賣ノ營業又ハ火藥類倉庫營業及自家用火藥類製造ヲ繼續セムトスル場合ハ相續又ハ合併ノ日ヨリ二十日以内ニ大使 製造營業以外ノモノニ 届出ツヘシ 前項ノ届出ヲ爲シタルトキハ相續若ハ合併ノ日ニ於テ其ノ事業ニ關シ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十九條 大使又ハ關東州廳長官ハ銃砲火藥類ノ製造若ハ販賣營業又ハ火藥類倉庫營業ノ許可ヲ受ケタル者一年以内ニ營業ヲ開始セス又ハ營業開始後六月以上營業ヲ休止シ若ハ休止ニ等シキ状態ニ在ルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十條 甲種火藥類製造營業者、自家用火藥類製造者及火藥類倉庫營業者ハ火藥庫ヲ、乙種火藥類製造營業者及火藥類販賣營業者ハ火藥庫若ハ火藥倉庫ヲ設備スヘシ但シ爆竹及玩具用普通火工品ノミヲ販賣スル者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 銃砲火藥類製造營業者ハ第一號様式及第二號様式、銃砲火藥類販賣營業者ハ第三號様式、自家用火藥類製造者及液體酸素ヲ浸漬シタル爆竹及玩具用普通火工品ノミヲ販賣スル者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 銃砲火藥類製造營業者ハ第一號様式及第二號様式、銃砲火藥類販賣營業者ハ第三號様式、自家用火藥類製造者及液體酸素ヲ浸漬シタル爆竹及玩具用普通火工品ノミヲ販賣スル者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 火藥類製造者ハ左ノ區別ニ依リ其ノ作業所ニ火藥類作業主任者ヲ置キ當時作業ノ監督ヲ爲サシメ若シ作業主任者疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ業務ヲ執ルコト能ハサルトキハ相當代理者ヲ置キ作業ノ監督ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 甲種火藥類販賣營業者及火藥類倉庫營業者ハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者ヲシテ乙種火藥類販賣營業者ハ乙種以上ノ火藥類取扱免狀ヲ有スル者ヲシテ其ノ火藥類ヲ取扱ハシムヘシ但シ爆竹及玩具用普通火工品ノミヲ販賣スル營業者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 火藥類製造營業者ニ於テ火藥類作業主任者ヲ定メタルトキ又ハ火藥類販賣營業者若ハ火藥類倉庫營業者ニ於テ火藥類取扱者ヲ定メタルトキハ其ノ氏名、履歴及免狀ノ種別、下付年月日、番號ヲ具シ關東州廳長官ニ届出ツヘシ

第二十六條 火藥類作業主任者免狀ハ甲、乙、丙ノ三種トシ年齢二十年以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ對シ本人ノ申請ニ依リ關東州廳長官詮衡ノ上之ヲ下付ス但シ必要アリト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

甲種 一 火藥學ニ關シ工學博士ノ稱號ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於テ火藥學科專

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

四〇五

證券番號及其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ 前二項ノ帳簿ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第二十二條 銃砲ノ製造營業ト販賣營業トヲ兼メル者ハ第五號様式、火藥類ノ製造營業ト販賣營業トヲ兼メル者ハ第六號様式、火藥類倉庫營業者ハ第七號様式、銃砲火藥類販賣營業者ハ第八號様式、自家用火藥類製造者及液體酸素ヲ浸漬シタル爆竹及玩具用普通火工品ノ製造者ハ第九號様式ニ依リ毎月五日迄ニ前月分ノ受拂高ヲ警察署長ニ届出ツヘシ

第二十三條 本章ノ營業ヲ許可セラレタル者廢業シタルトキハ十日以内ニ許可證ヲ添ヘ大使 製造營業以外ノモノニ 届出ツヘシ

第三章 火藥類作業主任者、火藥類取扱者

第二十三條 火藥類製造者ハ左ノ區別ニ依リ其ノ作業所ニ火藥類作業主任者ヲ置キ當時作業ノ監督ヲ爲サシメ若シ作業主任者疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ業務ヲ執ルコト能ハサルトキハ相當代理者ヲ置キ作業ノ監督ヲ爲サシムヘシ

一 一日ニ火藥三十貫以上若ハ爆竹十五貫以上又ハ火藥二貫ヲ爆竹一貫ニ換算シ火藥及爆竹ヲ通シ以上ノ數量ヲ超エテ製造スル作業所ニハ甲種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者

二 一日ニ火藥爆竹製造スル數量前號ノ數量ニ達セサル作業所又ハ火工品ヲ製造スル作業所ニハ乙種以上ノ火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者

三 乙種火藥類製造營業ノ作業所ニハ丙種以上ノ火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者但シ其ノ火工品製造材料タル火藥及爆竹ノ製造ニ付テハ一日ノ製造高火藥六貫以下若ハ爆竹三貫以下又ハ火藥二貫ヲ爆竹一貫ニ換算シ火藥及爆竹ヲ通シ以上ノ數量ヲ超エサルモノニ限ル

〔轉八四〕

修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

二 陸軍又ハ海軍ノ火藥製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者

三 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校卒業者ニシテ化學ニ關スル學科ヲ修得シ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火藥類ノ作業主任者トシテ三年以上其ノ實務ニ從事シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力經驗ヲ有スト認ムル者

四 銃砲火藥類取締法ニ依リ甲種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者

乙種 一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル者ニシテ化學ニ關スル學科ヲ修得シ火藥類製造ノ經驗アル者

二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

三 實業學校令ニ依リ甲種實業學校其ノ他内務大臣若ハ大使ノ指定シタル學校ニ於テ化學ニ關スル學科ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火藥類製造ノ實務ニ従事シタル者

四 銃砲火藥類取締法ニ依リ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者

丙種 一 實業學校令ニ依リ甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣若ハ大使ノ指定シタル學校ニ於テ化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品製造ノ實務ニ従事シタル者

二 陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ

四〇五

四〇五

四〇五



付與シタル者

三 本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技術ヲ有スト認ムル者

四 銃砲火藥類取締法ニ依ル丙種火藥類作業主任者免狀ヲ有スル者

前項免狀ノ書式ハ第十號様式ニ依ル

第二十七條 火藥類取扱免狀ハ甲、乙ノ二種トシ年齢二十年以上ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ對シ本人ノ申請ニ依リ關東州廳長官登衛ノ上之ヲ下付ス但シ必要ト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

甲種

一 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校及内務大臣若ハ大使ノ指定シタル學校ニ於テ火藥學ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ從事シタル者

二 陸軍砲兵工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者

三 陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

乙種

一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ從事シタル者

二 銃砲火藥類取締法ニ依ル乙種火藥類取扱免狀ヲ有スル者

前項免狀ノ書式ハ第十一號様式ニ依ル

第二十八條 火藥類作業主任者免狀及火藥類取扱免狀ノ下付申請書ニハ免狀ノ種別ヲ記載シ履歷書、寫眞及資格ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二十九條 火藥類作業主任者免狀又ハ火藥類取扱免狀ヲ毀損、亡失シタルトキ又ハ免狀記載ノ事項ニ異動アリタルトキハ其ノ事由ヲ具シ十日内ニ免狀ノ再下付又ハ書換ヲ申請スヘシ

第三十條 火藥類作業主任者免狀又ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者轉任若ハ死亡シタルトキハ十日内ニ關東州廳長官ニ届出ツヘシ但シ死亡ノ届出ニハ免狀ヲ添附シ戸主若ハ同居者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 關東州廳長官ハ保安上必要アリト認ムルトキハ火藥類作業主任者又ハ火藥類取扱者ノ解任若ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

火藥類作業主任者免狀又ハ火藥類取扱免狀ヲ有スルモ公安ヲ害スル虞アリト認メタルトキ又ハ業務ノ怠慢ニ因リ危害ヲ醸シタルト認ムルトキハ其ノ免狀ノ返付ヲ命シ若ハ其ノ免狀ヲ無効トスルコトアルヘシ

第四章 銃砲火藥類ノ輸出入、讓渡及所持

第三十二條 銃砲火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場、露店若ハ屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第三十三條 銃砲火藥類ヲ輸出入又ハ輸入セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケヘシ但シ一時ノ旅行者ノ所持スル隨身用又ハ銃獵用ノ銃砲ニシテ管内ニ於テ其ノ所持ノ證明又ハ許可ヲ受ケタルモノ及之ニ附屬スル火藥類ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一 本籍、住所、職業、氏名、生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名

二 銃砲火藥類ノ種類及數量

三 輸出入ノ目的

四 輸出入地、輸入地、發着日時、積載スヘキ船車ノ名稱又ハ記號、輸送方法、經過路

五 輸出ニ在リテハ輸出スヘキ銃砲火藥類ノ調達方法及荷受人ノ住所、

職業並氏名、輸入ニ在リテハ荷受人ノ住所、職業並氏名

第三十四條 銃砲火藥類ノ讓受若ハ讓渡ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署長ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

一 本籍、住所、職業、氏名、生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名

二 讓受若ハ讓渡スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量

三 讓受若ハ讓渡スヘキ期間及事由

四 讓受ニ在リテハ用途

五 火藥類ノ讓受ニ在リテハ貯藏方法、消費ノ時及場所若消費ノ時又ハ場所定マラサルトキハ其ノ事由、數目ニ讓受ケムトスル場合ハ一回ノ數量

火藥類ノ讓受及消費ノ期間ハ許可ノ日ヨリ六月ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項ノ場合ニ於テ工所用、工業用及農業用ノ爲ニスル火藥類讓受ノ願出ハ其ノ使用スル土地ノ所轄警察署長ニ之ヲ爲スヘシ

第一項ノ許可ヲ爲シタルトキハ銃砲ニ在リテハ第十二號様式、火藥類ニ在リテハ讓受ハ第十三號様式、讓渡ハ第十四號様式ノ許可證ヲ下付ス

第三十五條 銃砲火藥類ハ前條ノ許可證ヲ所持セサル者ト讓受又ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ陸軍服裝規則ニ依リ準銃ヲ携帯スヘキ將校、同等警官又ハ准士官ニシテ所屬部隊長（在郷軍人ニ在リテハ所管師團長又ハ軍司令官）ノ證明アルモノ又ハ銃砲火藥類販賣業者其ノ營業ニ關シ讓受又ハ讓渡ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 銃砲火藥類ノ讓受渡ヲ爲スニハ現品ノ受渡ニ際シ讓受人及讓渡人ハ其ノ相手方ノ所持スル讓受渡許可證ノ裏面相當欄ニ銃砲火藥類ノ種類、數量、年月日、住所、職業、氏名並ニ讓受渡ノ許可ヲ受ケタル警察署名、年月日及番號ヲ記入シ氏名下ニ捺印スヘシ

前項ノ規定ハ銃砲火藥類販賣業者ヲ一方ノ相手方トスル場合ニ之ヲ準

用ス

火藥類讓受許可證ハ許可數量全部ノ讓受渡ヲ了セサルニ裏面ノ記入欄餘白ナキニ至リタルトキハ殘餘ノ數量及期間ノ範圍内ニ於テ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條 銃砲ヲ輸入シ若ハ讓受ケタル者ハ十日内ニ輸入若ハ讓受ノ許可證及手札形寫眞二葉ヲ添ヘ警察署長ニ申請シ銃砲所持證明ヲ受ケヘシ

一時他人ノ銃砲ヲ借り受ケ所持セムトスル者ハ住所、氏名、生年月日、銃砲ノ種類、員數及期間ヲ具シ手札形寫眞二葉ヲ添ヘ所有者連署シ警察署長ノ許可ヲ受ケヘシ

第三十八條 銃砲ノ爲ニスル火藥類一回ノ讓受數量ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

一 火藥 一貫三百匁

二 獵銃用實包 一千箇

三 獵銃用實包又ハ獵銃用空包ニ要スル雷管 各二千箇

若ハ雷管附藥莖

第三十九條 火藥類ヲ讓受ケタル者ハ警察署長ノ指示ニ從ヒ其ノ收支ヲ明ニスヘシ但シ火藥類販賣業者及第四十三條第一項各號ニ掲ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 第十八條ノ場合ヲ除クノ外相續、遺贈若ハ法人ノ合併ニ依リ銃砲火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキ又ハ廢業、許可ノ取消若ハ失效其ノ他ノ事由ニ因リ銃砲火藥類ヲ所持スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ十日内ニ許可證又ハ證明書ヲ添ヘ警察署長ニ申請シテ其ノ處分ニ付指示ヲ



受クヘシ  
銃砲火藥類ヲ廢棄セムトスルトキハ許可證又ハ證明書ヲ添附シ廢棄ノ方法ヲ具シ警察署長ノ許可ヲ受クヘシ  
用途、消費日時、場所ヲ定メテ讓受ケ又ハ所持ノ許可若ハ證明ヲ受ケタル銃砲火藥類ハ更ニ警察署長ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ使用シ又ハ消費日時、場所ヲ變更スルコトヲ得ス  
第四十一條 銃砲所持證明書又ハ銃砲所持認可證ヲ有スル者住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ十日内ニ警察署長ニ届出テ其ノ書換ヲ受クヘシ  
第五章 火藥類ノ貯藏、收納及試驗  
第四十二條 火藥類貯藏所ハ火藥庫、火藥倉庫及假貯藏所ノ三種トス  
一棟ノ火藥類貯藏所ニ一種類ノ火藥類ヲ貯藏スル場合ニ於テ其ノ貯藏スヘキ火藥類ノ數量ハ貯藏所ノ種別ニ從ヒ左ノ區分ニ依ル數量ヲ超過スルコトヲ得ス

貯藏所ノ種別	火藥類ノ種類		
	火藥庫	火藥倉庫	假貯藏所
火藥類	一萬貫	十二貫	五貫
火藥	五貫	三貫	二千五百貫
爆藥	二千貫	三萬貫	
銃用實包	二千貫	三萬貫	
銃用空包	二千貫	三萬貫	
銃用雷管	十萬箇	十萬箇	

前項ニ掲ケサル火工品ノ貯藏ニ在リテハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ヲ算出シ其ノ數量前項ノ區分ニ依ル火藥又ハ爆藥ノ數量ヲ超過スルトキハ之ヲ一棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ス但シ緩燃導火線、煙火、爆竹及玩具用普通火工品ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ火工品ニシテ火藥、爆藥ヲ共ニ原料トセル場合ノ數量算出ニハ火藥二貫ヲ以テ爆藥一貫ニ換算ス  
第四十三條 火藥類ハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ除クノ外火藥庫又ハ火藥倉庫以外ノ場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得ス但シ土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ハ其ノ事業中假貯藏所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得  
一 火藥 一貫三百匁以内  
二 銃用實包又ハ銃用空包 各千箇以内  
三 銃用雷管又ハ雷管附藥莖 各二千箇以内  
四 緩燃導火線、煙火、爆竹及玩具用普通火工品  
前項各號ノ火藥類ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スヘシ  
第四十四條 火藥類ハ左ノ種目毎ニ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ之ヲ貯藏スヘシ但シ不燃質隔壁ニ依リ區別シタル火藥倉庫ニ於テ左ノ種別毎ニ別室ニ貯藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
第一種

工業用雷管	六十萬箇	一萬箇	三萬箇	十萬箇
信管	無制限	三萬箇	無制限	無制限
爆管、門管	無制限	三萬箇	無制限	無制限

〔輯八四〕

〔輯八四〕

有煙火藥、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包銃用空包及有煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品並硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ有機性硝化物ヲ混入セサルモノ  
第二種 棉火藥、無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包銃用空包及無煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品  
第三種 爆藥  
第四種 火工品 第一種、第二種ノ火工品ヲ除ク  
前項各號目ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スル場合及前項但書ニ依リ前項第一種乃至第四種ノ同棟ニ貯藏スル場合ニ於テ各種類毎ニ第四十二條ニ掲ケタル制限數量ヲ以テ貯藏數量ヲ除シタル商ノ和一以上ナルトキハ第四十二條ノ貯藏制限數量ヲ超過シタルモノト看做ス但シ緩燃導火線、煙火、爆竹及玩具用普通火工品ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス  
第四十五條 緩燃導火線、煙火、爆竹及玩具用普通火工品ヲ除クノ外火藥類ハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ之ヲ收納スヘシ  
一 火藥及速燃導火線ハ木器、亞鉛器又ハ銅器ニ收納スルコト但シ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥ニシテ火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ包ミタルモノニ在リテハ錫引又ハ亞鉛器ニ、端數ノ火藥ニ在リテハ白鐵器ニ收納スルコトヲ得  
二 火工品ハ亞鉛器、銅器、白鐵器又ハ厚紙製罐ニ收納スルコト但シ其ノ形狀巨大ニシテ收納ニ適セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 「ヒクリン」酸ハ陶器、磁器、純錫器、純「アルミニウム」器、硝子器又ハ木器ニ、其ノ他ノ爆藥ハ其ノ種類ニ應ジ木器、紙器、亞鉛器、護蓋器又ハ硝子器ニ收納スルコト但シ「硝酸アムモニア」ヲ主トスル爆藥ニシテ「ニトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニ在リテハ白鐵器ニ收納スルコトヲ得  
四 雷管ハ清水ヲ滿シタル硝子器ニ收納スルコト  
五 火藥及爆藥ハ容器ト直接ニ觸接セシメサル爲火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ隔絶スルコト但シ容器ノ内面ニ漆又ハ「セルラック」ノ類ヲ塗布シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス端數ノ火藥ヲ收納スル場合亦同シ  
六 火藥類ハ乾燥性油紙、桐油、荏油又ハワ以テ之ヲ包被セサルコト  
七 各種「ダイナマイト」ヲ容器ニ收納スルニハ其ノ藥包ヲ横置スルコト  
八 火藥類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入ルルニハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火藥類粉末ナカラシムルコト  
九 一旦使用シタル火藥類ノ容器又ハ其ノ外箱ハ適宜ノ方法ニ依リ清掃淨拭スルニ非サレハ再ヒ火藥類ヲ收納セサルコト  
火藥、爆藥ヲ收納シタル容器及其ノ外箱ニハ火藥、爆藥ノ種類、數量、作業所名及製造、變形若ハ修理ノ年月ヲ記入スヘシ  
火藥類ヲ貯藏スルトキハ貯藏所ノ内側壁ヨリ一尺以上ノ間隔ヲ保タシメ高サ約三寸ノ枕木ヲ置キ其ノ上ニ容器ヲ積ミ且相當ノ通路ヲ設クヘシ各種「ダイナマイト」ニシテ貯藏中藥包ヨリ「ニトログリセリン」滲出シテ容器ノ外面若ハ床上ヲ汚染シタルトキハ硫黃華泥ヲ撒布シ「ニトログリセリン」ヲ吸收セシメ其ノ硫黃華泥ハ布片ヲ以テ淨拭ヒ去リ燒棄スヘシ



シ硫黄華泥ハ二倍量ノ水ニ溶解セシメタル炭酸曹達溶液約〇・五「リットル」及硫黄華約一「キログラム」ノ配合ヨリ成ルコトヲ要ス  
各種「ダイナマイト」ニシテ貯藏中凍結シタルトキハ澆ニ融解シ若ハ搬出スルコトナク庫内ニ寒氣ノ侵入スルヲ防止シ自然ニ融解セシメ又ハ水分ヲ藥包ニ觸接セシメサルノ装置ヲ爲シタル容器ニ之ヲ收容シ湯煎器ヲ用キテ間接ニ融解セシムヘシ

第四十六條 火藥類貯藏所ニ於テハ携帶電燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス又荷造、荷解其ノ他摩察若ハ振動ヲ起スヘキ作業ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 火藥類貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス又鐵類若ハ鐵類ノ附屬シタル器具及發火性若ハ引火性ノ物ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘ニテニ入ルコトヲ得ス火藥類貯藏所ニ入ルトキハ先ツ身邊ノ塵芥ヲ拂ヒ且上草履ヲ穿ツヘシ

第四十八條 火藥類貯藏所内ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ鐵屑又ハ砂礫ノ混在スルコトヲ防止スヘシ

第四十九條 火藥類貯藏所及其ノ附近ニ於テ喫煙スルコトヲ得ス又火藥類貯藏所附近ニ發火若ハ燃焼シ易キ物ヲ置クコトヲ得ス

第五十條 火藥庫又ハ假貯藏所内ニハ見易キ箇所ニ揭示板ヲ設ケ貯藏シ得ヘキ火藥類ノ種類及最大數量、取扱心得其ノ他遵守スヘキ事項ヲ明記スヘシ

第五十一條 火藥類貯藏所ニ於テハ適當ナル換氣法ヲ行ヒ所内ノ溫度ハ無煙火藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏三十一度以下、爆藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏九度以上三十六度以下ヲ保タシムヘシ

無煙火藥、「ニトログリセリン」又ハ「ニトログリセリン」ヲ含有スル爆藥

ヲ貯藏スル火藥庫及假貯藏所内ニハ六月下旬ヨリ九月迄ハ最高溫度ノ位置ニ、十一月ヨリ三月迄ハ最低溫度ノ位置ニ自記寒暖計若ハ示差寒暖計ヲ備ヘ毎週一回之ヲ點檢シ示差寒暖計ニ在リテハ當時ノ溫度、示差溫度及檢點月日ヲ記載シ置クヘシ

寒暖計ノ溫度ノ記録ハ三年以上之ヲ保存スヘシ但シ貯藏所ノ使用ヲ廢止シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 無煙火藥、棉火藥又ハ「ニトログリセリン」若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ内箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色「リトマス」試験紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造年月日ヲ同シクスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ其ノ外箱二十五箱ニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱ニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色「リトマス」試験紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ試験紙全面ニ涉リ赤色ニ變シタルトキハ其ノ火藥、爆藥及同一貯藏所ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ製造所及製造年月ヲ同シクスルモノハ之ヲ注意品トシ直ニ其ノ旨警察署長ニ届出ツヘシ但シ第六十二條第一項ノ義務者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 火藥、爆藥ニシテ赤褐色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トシ直ニ其ノ旨警察署長ニ届出ツヘシ

第五十四條 第五十二條ノ注意品「硝化アムモニア」ヲ主トスル爆藥ニシテ含有スル「ダイナマイト」ヲ除ク「ニトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ及「アムモニア」ヲ主トスル爆藥ニシテ含有スル「ニトログリセリン」ヲ除ク「ニトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノノ作用ヲ起ササルトキハ外箱一箱毎ニ左ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行ヒ不良品

ナリヤ否ヤヲ檢スヘシ但シ本條ノ試験ヲ省略シ直ニ耐熱試験ヲ行フコトヲ得

一 試験スヘキ火藥類ハ其ノ包被物ヲ除去シ之ヲ硝子瓶ニ入レ瓶内ノ高さ約五分ノ三ニ至ラシメタル後青色「リトマス」試験紙ヲ火藥類ノ上面ヨリ稍上方ニ吊シ直ニ瓶口ヲ密栓ス

二 前條ノ場合ニ於テ無煙火藥及棉火藥ハ六時間内、其ノ他ノ火藥類ハ四時間内ニ其ノ試験紙ヲ全面ニ涉リ赤色ニ變シタルモノハ不良品トス

第五十五條 硝化アムモニアヲ主トスル爆藥ニシテ「ニトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニ在テハ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月ノ不明ナルモノハ六月毎ニ一回前條第一號ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テ四時間内ニ試験紙ノ全面ニ涉リ赤色ニ變シタルトキハ更ニ加熱試験ヲ行フヘシ

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ耐熱試験ヲ行フヘシ

一 第五十四條ノ規定ニ依リ遊離酸試験ヲ行ヒタル火藥類ニシテ不良品ノ反應ヲ示ササルトキ

二 硝化アムモニアヲ主トスル爆藥ニシテ「ニトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ若ハ「アムモニア」ヲ含有スル「ダイナマイト」ニシテ第五十二條ノ注意品ニ該當スルモノニ至リタルトキ

第五十七條 無煙火藥、棉火藥又ハ「ニトログリセリン」若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回耐熱試験ヲ行フヘシ

第五十八條 硝化鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ硝基化合物ヲ含有スルモノ「硝化アムモニア」ヲ主トスルモノ及「ニトログリセリン」又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ若ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回耐熱試験ヲ行フヘシ

第五十九條 耐熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

一 湯煎器ノ口際迄水又ハ微温湯ヲ滿タシテ銅網上ニ之ヲ熱スルノ裝置ヲ爲シ蓋孔ヨリ寒暖計ヲ挿入シ木栓若ハ護膜栓ヲ以テ之ヲ保持ス

二 試験スヘキ火藥類ヨリ左ノ區別ニ從ヒ試料ヲ採リ之ヲ試験管十九粒約六十粒ニ入ル

(イ) 硅藻土質「ダイナマイト」ハ二十瓦乃至三十瓦ヲ採リ靜ニ壓シ細粒ト爲シ之ヲ口徑五粒ノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製無水石棉若ハ精製麻脂綿ノ小片ヲ置キタル上ニ入レ硝子棒ニテ其ノ表面ヲ平ニシ尙其ノ上部ヲ三粒ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石棉粉ヲ以テ覆ヒ徐々ニ上面ヨリ蒸溜水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スル「ニトログリセリン」三瓦乃至三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

(ロ) 膠質「ダイナマイト」ハ三瓦半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細裁シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七瓦ヲ加ヘ木製乳棒ヲ以テ靜ニ輕ク完全ニ攪リ混セ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

(ハ) 硅藻土質及膠質以外ノ「ダイナマイト」ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕ノ疑アルモノハ攝氏四十五度ニテ約五時間乾燥シタル後三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス



(ニ) 無煙火藥ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方形、帶狀又ハ紐狀ノモノハ鉤、小刀又ハ鉄ヲ以テ細粒狀ニ削裁シ試験管ノ高サ五分ノ三ニ達スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

(ホ) 棉火藥及其ノ他ノ爆藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ニテ約五分間乾燥シタル後試験管ノ高サ三分ノ一ニ達スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

三 沃度加里澱粉紙ノ上部ヲ蒸溜水及「グリセリン」ノ等分混液ヲ用キ硝子棒ニテ潤シ之ヲ硝子棒鉤ニ懸吊シ棒ヲ保持セル木柱ヲ以テ試験管口ヲ掩ヒ沃度加里澱粉紙ノ下縁ヲシテ火藥類上面ヨリ稍上方ニ在ラシム

四 前各號ノ準備ヲ爲シタル後湯煎器ヲ熱シ攝氏六十五度ヲ保持スルニ至ラハ試験管ヲ寒暖計ト同シ深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ乾燥分界線ヲ注視シ試験管挿入ノ時ヨリ其ノ淡褐色ニ變スル迄ノ時間ヲ以テ火藥類ノ耐熱時間ト定ム

五 沃度加里澱粉紙ニ現ハル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ム  
標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ハ官廳ニ於テ製造シタルモノヲ用リヘシ

火藥類ノ耐熱時間八分以下ナルトキハ之ヲ不良品トス

第六十條 加熱試驗ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

- 一 口徑約三十五耗高サ約五十耗ノ秤量機ヲ乾燥器内ニ於テ乾燥ス
- 二 試験スヘキ爆藥中ヨリ試料十瓦ヲ採リ之ヲ前號ノ秤量機ニ入レ密栓

類所有者ニ對シ火藥類ノ安定性試験ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトアルヘシ

第六十三條 耐熱試驗、加熱試驗及第五十四條ノ遊離酸試驗ノ成績ハ直ニ警察署長ニ届出ツヘシ

第六十四條 注意品タル火藥類ハ試驗ノ結果不良品ニ非サルコトヲ確認シタル後ニ非サルヘシ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第六十五條 不良品タル火藥類ハ警察署長ノ指示ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ火藥類ヲ廢棄セムトスルトキハ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ在リテハ之ヲ水中ニ放棄シ其ノ他ノ火藥類ニ在リテハ危險ナキ廣闊ナル場所ニ於テ風ヲ除ケ少量ツツ之ヲ燃焼スヘシ但シ購買ニ非サル「ダイナマイト」ハ海岸及港灣ヲ距ル五哩以上ノ海水中ニ「ダイナマイト」以外ノ火藥類ハ海岸及港灣ヲ距ルコト一哩以上ノ海水中又ハ他ニ危險若ハ損害ヲ及ボササル適當ナル水中ニ之ヲ沈下スルノ方法ニ依ルコトヲ得  
第六十六條 火藥類ヲ貯藏セル者火藥類貯藏所又ハ貯藏火藥類ニ付危險ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ警察官吏ニ申告スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ所持者又ハ管理者ハ直ニ應急ノ措置ヲ爲スヘシ

第六章 火藥類貯藏所及作業所

第六十七條 火藥類貯藏所ヲ設置セムトスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ

- 一 本籍、住所、職業、氏名、生年月日 法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務及定款
- 二 貯藏所ノ位置、構造、設備、工事仕様書 附近ノ狀況ヲモ

第九輯 警察 衛生

第一章 警察

第九款

銃砲火藥類

壓縮及液化瓦斯

シ秤量シタル後檢ヲ除キ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ四十八時間靜置ス

前項ノ試驗中ニ赤褐色瓦斯ヲ發生スルトキハ之ヲ不良品トス此ノ作用ヲ起ササルトキハ再ヒ之ヲ密栓シ其ノ重量ヲ秤ルヘシ其ノ減耗量百分ノ一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

試驗スヘキ爆藥ニシテ濕氣ヲ吸收シタル疑アルトキハ先ツ其ノ試料ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後秤量シ第一項ノ方法ニ依リ試驗ヲ行ヒ試驗中ニ赤褐色瓦斯ヲ發スルカ又ハ前項ノ方法ニ依リ秤量シタル減耗量百分ノ〇・一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

第六十一條 第五十四條乃至第五十八條ニ依ル火藥類試驗ノ製造所及製造年月ヲ同シクスル同種類ノ火藥類ニ就キ製造後二年ヲ經過セサルモノニ在リテハ外箱二十五箱又ハ其ノ未滿毎ニ、製造後二年ヲ經過セルモノニ在リテハ外箱十箱又ハ其ノ未滿毎ニ各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ外箱ノ各箇ニ付之ヲ行フヘシ

第六十二條 耐熱試驗、加熱試驗及遊離酸試驗ヲ爲スヘキ規定ハ左ニ掲グル者ニ限リ之ヲ適用ス

- 一 火藥類製造營業者
- 二 火藥類販賣營業者
- 三 火藥類倉庫營業者
- 四 第二十四條第二項ニ依ル火藥類消費者
- 五 自家用火藥類製造者

關東州廳長官必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ前項ノ義務者又ハ火藥

三 貯藏スヘキ火藥類ノ種類及最大數量

四 看視方法

五 假貯藏所ニ在リテハ其ノ存續期間

六 設置事由

前項ノ願書ハ正副二通トシ之ニ建物及附屬工作物ノ平面圖及豎面圖、火藥庫又ハ假貯藏所ノ附近四町以内ノ略圖又ハ火藥倉庫ノ附近五十町以内ノ略圖ヲ添附スルコト

第一項第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關東州廳長官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六十八條 火藥庫ノ構造設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

- 一 建物ハ平屋建ト爲シ外壁ハ土藏造、鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造ト爲シ且冷熱ノ交感ヲ避クル爲之ニ熱ノ不良導體タル物質ヲ充填スルカ若ハ厚サヲ相當ナラシムルコト
- 二 屋根ノ外面ニハ薄キ小形ナル金屬板、石板、瓦若ハ輕量ノ熱ノ不良導體タル不燃物質ヲ、天井ニハ熱ノ不良導體タル物質ヲ用キテ冷熱ノ交感ヲ遮斷スルノ方法ヲ施シ且屋根裏及天井ハ庫内ヨリ壓力ヲ加フルトキハ容易ニ昇起シ得ヘキ構造ヲラシムルコト
- 三 外壁ノ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フルコトナク扉ニハ銅板若ハ亞鉛板ヲ以テ被覆シタルモノ又ハ不燃物質ヲ用キ之ニ堅固ナル鎖鑰二以上ヲ施スコト
- 四 庫内ニハ石、瓦、「ベストン」、土砂等ノ剝落飛散セサル裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露出セシメサルコト
- 五 床ニハ「リノリウム」ヲ張詰メ鐵類ヲ露出セシメサルコト



六 火藥庫ニハ避雷針ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ裝置ヲ爲スコト但シ避雷針ハ其ノ尖頭ヨリ屋端ノ最遠隔セル點ニ至ル直線ト約四十五度以内ノ角度ヲ有セシメ且毎年梅雨期前ニ於テ導通試驗ヲ行ヒ必要アルトキハ之ニ修繕ヲ加フルコト

七 各火藥庫ノ周圍ニハ庫壁ノ外面ヨリ堤脚迄一間乃至六間ノ距離ニ於テ成ルヘク庫壁ニ接近シテ土堤ヲ設ケルコト但シ火藥庫ニ以上相接スル場合ハ各庫ノ土堤ヲ相離スルコトヲ得土堤ハ堤外ヨリ火藥庫ヲ通視シ能ハサラシムル爲其ノ一端ヲ屈折延長シ又ハ通路ノ入口ノ前面ニ更ニ土堤ヲ設ケ若ハ入口ヲ隧道ト爲シ其ノ入口ニハ兩開ノ堅固ナル扉ヲ設ケ鎖鑰ニ以上ヲ施スコト

八 土堤ノ高サハ火藥庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、其ノ頂部ノ厚サハ三尺以上トシ堤面ハ芝草類ヲ植エテ被覆スルコト但シ堤脚ハ土堤ノ高サノ三分ノ一ニ至ル迄土留石積又ハ煉瓦積ト爲スコトヲ得

九 土堤ノ外部ニ於テ餘地アルトキハ常綠樹ヲ栽植スルコト

火藥庫ハ前項ノ規定ニ拘ラス天然ノ掩體ヲ利用シ若ハ人造ノ掩體ニ依リ地下客室ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ放爆面ヲ危險ナキ方面ニ向ケ濕氣ノ豫防及通風換氣ノ方法ヲ施スヘシ但シ客室ニ以上相接スル場合ハ其ノ間隔ハ二十間以上タルコトヲ要ス

第一項第四號及第九號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 火藥倉庫ノ設備ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

ノ平方根ニ比例シテ之ヲ減スルコトヲ得但シ其ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七十二條 火藥類作業所ニ關シテハ本令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 各種工場及火藥類貯置場ハ相互相當ノ距離ヲ保有スルコト

二 作業所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ警戒柵ヲ建ツルコト

三 森林内ニ設置スル作業所ニ在リテハ其ノ圍墻ニ沿ヒ幅一間以上ノ防火線ヲ設ケルコト

四 作業所内ハ危險區域ト無危險區域トヲ明瞭ニ區分シ作業上已ムテ得サル建築物ヲ除クノ外危險區域ニ築造セサルコト

五 汽罐室及煙突ハ無危險區域ニ之ヲ築造シ爆發又ハ發火ノ虞アル工場若ハ火藥類貯置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スルコト

六 爆發ノ虞アル工場ハ爆發ニ當リ輕量ノ飛散物ト爲ルヘキ材料ヲ用キテ建築シ且周壁ノ内外面及天井面ハ火焰ニ對シ燃燒性ヲ有セサル物質ヲ以テ被覆スルコト

七 爆發ノ虞アル工場及火藥類貯置場ニハ第六十八條第一項第六號及第七號ノ規定ニ準シ避雷裝置及土堤ヲ設ケルコト

八 發火ノ虞アル工場ニハ第六十八條ノ規定ニ準シ避雷裝置ヲ設ケルコト

九 爆發又ハ發火ノ虞アル工場ノ附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ且強風ノ際砂塵ノ飛揚スルコトヲ防止スル爲撥水ヲ爲スコト

火藥倉庫ニハ避雷針及之ニ代ルヘキ裝置ヲ省略シ且庫壁ノ外面ニ側接シ倉庫ノ高サト同一高サ及頂部ニ於テ二尺以上ノ厚サヲ有シ砂礫ノ混入セサル土ヲ以テ積上ケタル外層ニ依リ圍墻入口ノ部セラレタル場合ニ限リ土堤ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ庫壁二尺以上ノ厚サヲ有シ若ハ之ト同一抗力ヲ有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得

火藥倉庫ヲ地下客室ト爲シタル場合ニ於テ二以上相接スルトキハ其ノ間隔ハ六間以上タルコトヲ得

倉庫ノ入口ハ危險ノ虞少キ側面ニ之ヲ設ケ其ノ前面ニ掩體ヲ有セサル場合ハ其ノ扉ヲ堅固ナラシムヘシ

第七十條 假貯藏所ハ平屋建ト爲シ屋根及周壁ノ外面ハ不燃質物ヲ以テ構築スヘシ

第六十八條第一項第三號、第四號及第七號ノ規定ハ假貯藏所ニ之ヲ準用ス

第七十一條 火藥倉庫ヲ除クノ外火藥類貯藏所ハ第四十二條ノ規定ニ依リ最大數量ノ火藥類ヲ貯藏スル場合ニ於テ其ノ外壁ト左ノ各號ノ工作物其ノ他トノ距離ニ付各下記ノ制限ニ從フヘシ

一 社寺、廟宇、公園、市街、電氣、瓦斯若ハ石油ノ工場、發火質物件ヲ蓄積スル場所、汽車若ハ電車ノ軌道、燈臺、汽船ノ常航路若ハ繫留所

四町以上

二 住宅、道路、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積セル可燃物

五十間以上

火藥類貯藏所ト前項工作物其ノ他トノ距離ハ貯藏數量ノ減スルニ從ヒ其

〔日本〕

〔日本〕

十 爆發又ハ發火ノ虞アル工場ニハ適當箇所ニ窓ヲ設ケ其ノ日光ノ直射ヲ受クル部分ノ硝子ハ不透明ノモノヲ用キ且非常ノ際從業者ノ避難上便利ナル箇所ニ出口ヲ設ケ其ノ扉ハ外開キトシ其ノ金具ノ直接鐵ト摩接スル部分ハ銅、黃銅又ハ青銅ノ類ヲ用フルコト

十一 爆發ノ虞アル工場ノ内面ニハ土砂類ノ剝落飛散スルヲ防キ且鐵類ヲ露ササルコト

十二 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ノ天井及内壁ハ罅隙ヲ存スルコトナク且水洗ニ耐フル塗料ヲ塗布スルコト

十三 爆發又ハ發火ノ虞アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用キテ密ニ張り詰メ火藥類ノ滲透又ハ其ノ介入ヲ避ケヘキコト

十四 發火性又ハ引火性瓦斯若ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯ノ排氣裝置ヲ爲スコト

十五 爆發又ハ發火ノ虞アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スルコト

十六 爆發又ハ發火ノ虞アル工場内ニハ原動機ヲ据附ケサルコト但シ火藥類粉末又ハ爆發性若ハ引火性瓦斯ノ侵入ヲ防止スヘキ裝置アル區別内ニ据附ケルハ此ノ限ニ在ラス

十七 爆發又ハ發火ノ虞アル工場内ニ据附ケ又ハ備附ケル機械又ハ器具類ハ作業上已ムテ得サル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用キ且テ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類粉末ノ附著スルヲ避ケヘキ適當ノ方法ヲ講スルコト

十八 火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スルコト若シテ之ヲ裝置スルコトヲ得サ



- 十九 爆發又ハ發火ノ虞アル工場内ニ於ケル煙房裝置ニハ蒸氣熱氣又ハ温水ノ外使用セサルコト煙房裝置ハ塵埃又ハ火藥類粉末ノ附著スルヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スルコト
- 二十 火藥、火藥乾燥室内ノ溫度ハ攝氏六十五度以下トシ其ノ煙房裝置ハ火藥乾燥場場所ヨリ隔離スルコト但シ温水煙房裝置ニシテ其ノ溫度乾燥溫度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 二十一 工場又ハ火藥類溜置場ニハ見易キ箇所ニ標示板ヲ設ケ其ノ場内ニ存置シ得ヘキ原料及製品ノ種類、數量、取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スルコト
- 二十二 工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類ヲ火藥、火藥内ニ混入セシメサルノ裝置ヲ爲スコト
- 二十三 火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外適當ノ場所ニ搬出スルコト
- 二十四 爆發又ハ發火ノ虞アル工場及其ノ附近ニハ發火又ハ燃焼シ易キモノヲ置カサルコト
- 二十五 工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帯品ノ検査ヲ爲スコト
- 二十六 爆發又ハ發火ノ虞アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用セサルコト
- 二十七 爆發又ハ發火ノ虞アル工場ニハ定員外ノ者ヲ立入ラシメサルコト
- 二十八 危險区域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ警察官署ノ許可ヲ受

- ケタル者ノ外立入ラシメサルコト
- 二十九 作業所ニ於テ飲酒又ハ喫煙セサルコト但シ特ニ設ケタル室内ニ於テ喫煙スルハ此ノ限ニ在ラス
- 三十 爆發又ハ發火ノ虞アル工場若ハ火藥類溜置場内ヲ照明スル設備ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ安全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用セサルコト
- 三十一 爆發又ハ發火ノ虞アル工場若ハ火藥類溜置場ニ於テハ携帯電燈ノ外燈火ヲ携ヘサルコト
- 三十二 火藥類及其ノ原料ハ工場ニ之ヲ置カサルコト但シ作業ニ要スル最少量ハ此ノ限ニ在ラス作業中避クヘカラサル停滯品ヲ生シタル場合ニ於テハ工場附近ニ於テ相當ノ距離ヲ保有スル場所ニ築造シタル火藥類溜置場ニ一時之ヲ入レ置クコト
- 三十三 作業所内ニ於テ生シタル火藥類ノ廢棄及不良品ハ一定ノ廢棄容器ニ收容シ毎日一回一定ノ場所ニ於テ廢棄其ノ他危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スコト
- 三十四 火藥類又ハ其ノ原料ヲ運搬スル容器ハ適當ノ材料ヲ以テ之ヲ作り且確實ニ之ヲ閉塞スルコト
- 三十五 火藥類運搬ノ通路ハ曝露シタル火氣使用ノ場所ヲ回避シ路面ハ之ヲ平坦ナラシメ勾配ヲ附スル必要アル場合ニ於テハ地形上已ムヲ得サル外六十分ノ一以下ト爲スヘキコト
- 三十六 爆發又ハ發火ノ虞アル工場又ハ火藥類溜置場ノ改築、修繕等ヲ爲サントスル場合ニ於テハ著手前危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スコト
- 三十七 爆發其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキハ直ニ警察署長ニ之ヲ届出テ

其ノ指示ヲ受ケタル後ニ非サレハ現状ヲ變更セサルコト  
 三十八 製造又ハ變形修理シタル火藥類ノ容器及其ノ外箱ニハ火藥類ノ種類、數量、作業所名及製造又ハ變形修理ノ年月ヲ明記スルコト  
 第七十三條 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ノ作業所ニ於テハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 爆發ノ虞アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケルコト但シ同時ニ二十五貫以上ノ火藥ヲ取扱ハサルモノニ在リテハ其ノ土堤ハ高サ工場ノ屋頂ト同シク厚サ頂部ニ於テ二尺五寸以上脚部ニ於テ三尺五寸以上ニ築造セル不燃質物壁ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 二 同時ニ二百五十貫以上ノ火藥ヲ取扱フ工場ハ其ノ構造ヲ放爆式ト爲ササルコト
- 三 放爆式構造ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ堅固ナル三側壁トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
- 四 火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 五 爆發ノ虞アル工場ニシテ成形機、壓榨機若ハ搗磨機等ノ機械類ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ作業ノ目的ヲ異ニスル毎ニ之ヲ別棟トスルコト但シ放爆式構造ナルトキ又ハ一工場内ノ勞務者定員四名以下ニシテ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ區割シタルモノナルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 六 同一工場内ニハ二箇以上ノ爆發ノ虞アル作業用機械ヲ据附ケサルコト但シ勞務者ノ定員二人ヲ超エサルトキ又ハ勞務者ノ定員四人ヲ超エ

- サル工場ニ於テ同一種類ノモノ若ハ作業上分離シ難キモノヲ据附ケルハ此ノ限ニ在ラス
  - 七 火藥又ハ其ノ原料ヲ取扱フ工場内ニ在リテハ鐵製飾ヲ使用セサルコト
  - 八 火藥原料ハ混和前篩分シ砂石類ヲ除去スルコト
  - 九 木炭ハ炭化後七日以上經過スルニ非サレハ粉末ト爲ササルコト
  - 十 硫黃、木炭ノ二味ヲ鐵製混和機ニ依リ粉碎混和スル場合ニ於テハ青銅球ヲ使用スルコト
  - 十一 混和機ヲ使用シ混和シタル硫黃、木炭ノ二味混和物ハ更ニ分篩スルニ非サレハ硝石ヲ混和セサルコト
  - 十二 硫黃、木炭、硝石ノ三味混和機ニハ金屬製ノモノヲ使用セサルコト
  - 十三 火藥及其ノ原料ニシテ床上又ハ地下ニ落下シ汚穢セルモノハ直ニ廢棄容器ニ之ヲ收容スルコト
  - 十四 左ノ工場内ニハ各下記ノ數量又ハ定員ヲ超ユル火藥類若ハ其ノ原料又ハ勞務者ヲ存置シ若ハ立入ラシメサルコト
- |          |                |       |
|----------|----------------|-------|
| 工場ノ種類    | 火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量 | 勞務者定員 |
| 三味混和工場   | 混和機一臺          | 二人    |
| 壓磨又ハ搗磨工場 | 壓磨機又ハ搗磨機一臺     | 二人    |
| 水壓工場     | 水壓機一臺          | 四人    |
| 破碎工場     | ノ仕込量           | 七人    |



成形工場 成形機一同ノ仕 三 人  
 備分工場 八 十 貫 二 人  
 乾燥工場 千 貫 十 人  
 掃粉工場 八 十 貫 二 人  
 光澤工場 光澤機一同ノ仕 二 人  
 混同工場 二百五十貫 三 人  
 收函工場 二百五十貫 三 人  
 本條ニ於テ爆發ノ虞アル工場トハ三味混和工場、壓磨又ハ搗磨工場、水  
 壓工場、破碎工場、成形工場、備分工場、乾燥工場、掃粉工場、光澤工  
 場、混同工場及收函工場ヲ謂フ

第七十四條 硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥及爆發ノ用途ニ供スル棉火藥  
 ノ作業所ニ於テハ第七十二條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守ス  
 ヘシ

- 一 棉火藥乾燥工場ニハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケルコト
- 二 棉火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離  
 ナ保スルコト但シ乾燥工場相互ノ距離ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ五十貫  
 ナ超ユル火藥類ヲ停滯セシムルモノニ在リテハ二十間以上、五十貫以  
 上ノ火藥類ヲ停滯セシメサルモノニ在リテハ十間以上ノ距離ヲ保有ス  
 ルコト但シ土堤又ハ屋頂ヲ超ユルコト二尺以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シ  
 タル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ニシテ放煙式構造ニ依ルモノニ在リテ

工場ノ種類

工場ノ種類	火藥類ノ 最大數量	勞務者定員
除水工場	除水機二回ノ仕込量	一機ニ付二人
捏和工場	捏和機二回ノ仕込量	一機ニ付三人
成形(壓伸、壓延、裁切)工場	一機ニ付	一機ニ付三人
溶解捕集又ハ風乾工場	四百五十貫	六人
光澤工場	光澤機二回ノ仕込量	三人
篩分工場	百三十五貫	五人
乾燥工場	千五百貫	六人
風晒工場	四千貫	五人
收函工場	八百貫	十人

第七十五條 雷酸鹽ノ類ノ作業所ニ於テハ第七十二條ノ規定ニ依ルノ外左  
 ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 乾燥工場ハ各箇ニ避雷装置及土堤ヲ設ケルコト
- 二 化成工場、洗滌工場、乾燥工場及其ノ他ノ雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ  
 取扱工場ハ各別棟トスルコト
- 三 乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、混和工場、  
 造粉工場及填壓工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離  
 ナ保スルコト
- 四 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ取扱フ混和工場、造粉工場及填壓  
 工場ハ放煙式トシ其ノ側壁ノ厚サチ一尺以上トシ放煙面及屋根ハ抗力

ハ三側壁ノ厚サチ一尺以上トシ放煙面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ真壁  
 ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト前號但  
 書ノ規定ハ本號ノ場合ニ之ヲ準用ス

- 五 無煙火藥乾燥工場ハ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケ若ハ作業所内  
 ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 六 「アルコール」、「エーテル」、「アセトン」類貯藏所ノ建築材料ニハ火  
 焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用キ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二  
 間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 七 發火ノ虞アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ  
 用キ且其ノ工場ハ作業所内ノ他ノ工場又ハ建築物ニ對シ十間以上ノ距  
 離ヲ保有スルコト但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ  
 五工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 八 發火ノ虞アル工場ニハ自備注水消防設備又ハ之ニ代ルヘキ消防設備  
 ナラスコト
- 九 工場内ニ於テハ「アルコール」、「エーテル」、「アセトン」類ノ容器ハ  
 硝子製ノモノヲ使用セサルコト
- 十 棉火藥ハ作業上必要ナル場合ノ外之ヲ乾燥セシメサルコト
- 十一 乾燥工場ニ於ケル乾燥溫度ハ攝氏五十度ヲ超エサルコト
- 十二 乾燥セル無煙火藥又ハ棉火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後  
 ニ非サレハ之ヲ運搬容器ニ收容セサルコト
- 十三 左ノ工場内ニハ各下記ノ數量又ハ定員ヲ超ユル火藥類又ハ勞務者  
 ナ存置若ハ立入ラシメサルコト

微弱ナルモノヲ以テ築造シ若連接シテ之ヲ築造スル場合ニ於テハ各工  
場間ノ防火壁ハ厚サ一尺以上ノ煉瓦造ト爲スコト

- 五 混和工場ニハ混和機二箇以上ヲ据附ケサルコト
- 六 湯洞セル雷酸鹽ハ水ト共ニ硝子製容器ニ收納シ一容器ノ收納量ニ貫  
 七百匁以下ト爲スコト
- 七 乾燥セル雷酸鹽及其ノ混和物ハ紙又ハ護謨製容器ニ收納スルコト
- 八 乾燥セル雷酸鹽及其ノ混和物ヲ運搬スルニハ紙又ハ護謨製容器ニ收  
 納シテ之ヲ携行スルコト但シ一容器ノ收納量ハ百三十匁以下トシ一回  
 ノ運搬量ハ二百六十匁以下タルコト
- 九 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱ヲ爲ス勞務者ニハ胸當チ使用  
 セシメ且其ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ勞務者ニハ口鼻覆チ使用セシ  
 ムルコト
- 十 雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ乾燥溫度ハ攝氏五十度以下トシ乾燥ノ終リ  
 タルモノハ乾燥室外ノ溫度ト大差ナキ溫度ニ放冷シタル後ニ非サレハ  
 之ヲ他ノ容器ニ移入セサルコト
- 十一 洗滌作業中水ト共ニ流出スル微量ノ雷酸鹽又ハ他ノ作業中床上等  
 ニ落下シ若ハ器具類ニ附着セル藥粉及廢藥等ハ次亞硫酸曹達液ヲ以テ  
 處理シ無危險物ト爲スコト
- 十二 左ノ工場内ニハ各下記ノ數量又ハ定員ヲ超ユル火藥類又ハ勞務者  
 ナ存置若ハ立入ラシメサルコト



濕潤狀態 ニテ混合 スルモノ ノ	雷酸鹽	六百匁	五人
濕潤狀態 ニテ混合 スルモノ ノ	同	二十七匁	一人
造粒工場 ニテ粒造 スルモノ ノ	同	五十四匁	一人
乾燥造粒 スルモノ ノ	同	十四匁	一人
節分工場	同	百匁	一人

第七十六條 「ニトロトリウエン」ノ作業所ニ於テハ第七十二條ノ規定ニ依

- 一 硝化工場、洗滌及除液工場、精製工場、乾燥工場、包装及收函工場、溶解母液回收及精製工場ノ建築材料ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用キ火氣ニ對シ特ニ安全ナル場所ヲ選定シ且各別棟ニ之ヲ築造スルコト但シ硝化工場、洗滌及除液工場ハ完全ナル防火壁ヲ以テ隔離セルトキハ各三工場以テ連接シテ築造スルコトヲ得
- 二 硝化工場、溶解母液回收及精製工場ニハ作業中發生スル瓦斯及蒸汽ノ排氣裝置ヲ爲シ且非常ノ際從業者ノ避難ニ便利ナル場所ニ數箇ノ出口ヲ設ケルコト
- 三 洗滌及除液工場ハ空氣ノ流通良好ナル場所ニ築造シ且之ニ完全ナル排氣裝置ヲ爲スコト
- 四 引火性溶解劑及「トリウエン」ハ容器ニ收納シテ倉庫ニ貯藏シ又ハ堅牢ナル鐵製貯槽ニ收納シテ屋外安全ナル場所ニ貯藏スルコト但シ之ヲ

倉庫ニ貯藏スル場合ニ在リテハ倉庫ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十ニ間以上ノ距離ヲ保有シ且之ニ危險豫防上特別ノ設備ヲ爲スコト

五 「ニトロトリウエン」ニ觸接スル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムルコト

六 「ニトロトリウエン」飛散ノ虞アル工場内ノ從業者ニハ口鼻覆ヲ使用セシムルコト

- 一 爆發ノ虞アル工場ハ汽機汽罐室、添加劑製造工場、燒爐ヲ除ク等爆發製造ニ直接關係セル工場並從業者ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、棉火藥製造工場、乾燥工場、節分工場等「ダイナマイト」製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、住宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スルコト但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、混酸室、秤量室、「ダイナマイト」包装室又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 爆發ノ虞アル工場ハ棉火藥乾燥工場、同節分工場、配合工場、壓伸工場、壓伸工場、包装工場、收函工場及古酸分離工場ヲ除クノ外之ヲ系統のニ配置シ系統内ニ築造スル「グリセリン」硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外各二工場以下トシ工場相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 三 「グリセリン」硝化工場 硝化豫備工、濾過工場、配合工場、豫和工場、担和工場、壓伸工場、壓伸工場及包装工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十匁以內ノモノニ在リテハ

〔日本〕

- 十四間以上、三百二十匁以內ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 四 「ニトログリセリン」洗滌工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量三百二十匁以內ノモノニ在リテハ十四間以上、六百四十匁以內ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 五 古酸分離工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ八間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 六 收函工場、棉火藥乾燥工場及同節分工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スルコト
- 七 土壤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ「グリセリン」又ハ「ニトログリセリン」等ノ流通管又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土壤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケサルコト
- 八 爆發ノ虞アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土壤ヲ設ケ土壤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニ爆發飛散物ニ對シテ避難所ヲ設ケルコト
- 九 「ニトログリセリン」ノ流通管ハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲工場ヨリ隔離シ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スルコト
- 十 「ニトログリセリン」又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流通管ハ鉛、鐵、鋼又ハ釉藥ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ曝露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スコト
- 十一 爆發ノ虞アル工場ノ窓ハ外閉トシ且硝子戸ニ在リテハ其ノ内面ニ硝子破損ノ際破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルコト
- 十二 「グリセリン」ノ硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ

内容物ヲ檢温シ得ヘキ裝置ヲ爲スコト	三	「グリセリン」ノ硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ内容物ヲ安全槽ニ導入スヘキ裝置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水シ置ケルコト	十四	「グリセリン」硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓伸空氣ニ依リ攪拌スルモノニ在リテハ完全ナル豫備攪拌裝置ヲ爲スコト	十五	左ノ工場内ニハ各下記ノ數量又ハ定員ヲ超ユル火藥類若ハ其ノ原料又ハ勞務者ヲ存置若ハ立入ラシメサルコト			
工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	硝化二回分	勞務者定員	配合工場	豫和工場	機械担和工場	手担和工場	壓伸工場	壓伸工場
千 百 匁	百八十七匁	百六十匁	百三十四匁	百三十四匁	百三十四匁	八 匁	八 匁	八 匁	八 匁
二人	二人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人	三人

四二一



包一裝一工場	百三十四貫	十人
收一函一工場	百三十四貫	四人
古酸分離工場	二貫	二人
棉火藥乾燥工場	二十七貫	二人
同前分工場	三十二貫	四人

本條ニ於テ爆發ノ虞アル工場トハ棉火藥乾燥工場、同前分工場、「グリセリン」硝化工場、「ニトログリセリン」洗滌工場、濾過工場、配合工場、糞担和工場、担和工場、壓伸工場、壓榨工場、包裝工場、收函工場及古酸分離工場ヲ謂フ

第七十八條 硝酸「アムモニア」ヲ主トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第七十二條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ、填藥工場、包裝工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場及完成爆藥ノ收函工場ハ各別棟トスルコト
- 二 甲種硝安爆藥ノ製造工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用ウルコト
- 三 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ、及完成爆藥ノ收函工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以内ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スルコト但シ四「プロセント」以上ノ硝化纖維素又ハ「ニトログリセリン」ヲ含有セサル爆藥ノ

工場ニ在リテハ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量ニ關スル本號規定ノ區別ニ從ヒ六間、十二間又ハ十七間ニ短縮スルコトヲ得

四 乙種硝安爆藥ノ填藥工場及包裝工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十五間以上ノ距離ヲ保有スルコト但シ四「プロセント」以上ノ硝化纖維素又ハ「ニトログリセリン」ヲ含有セサル乙種硝安爆藥ノ包裝工場ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ限リ二工場以内ヲ連接シ又ハ收函工場ト連接シテ築造スルコトヲ得

本條ニ於テ甲種硝安爆藥トハ硝酸「アムモニア」ヲ主劑トシ二硝基「ベンジエン」、二硝基「ナフサリン」、硝酸鹽類又ハ穀粉ノ類ヲ混和セルモノヲ謂ヒ乙種硝安爆藥トハ硝酸「アムモニア」ヲ主劑トシ「ニトログリセリン」、「硝化纖維素」、三硝基「トリウエン」、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ類ヲ混和セルモノヲ謂フ

第七十九條 土地又ハ設備ノ狀況、規模ノ大小其ノ他ノ事由ニ依リ作業所及貯藏所ニ關スル制限ヲ附スルコトアルヘシ

第七章 火藥類ノ運搬其ノ他ノ取扱ニ關スル事項

第八十條 火藥類ハ警察署長ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日没後日出前ニ於テ之ヲ製造シ又ハ第四十三條第一項各號ニ掲グルモノヲ除クノ外之ヲ荷造、荷積、荷卸、授受若ハ運搬スルコトヲ得但シ鐵道ニ依ル運搬ハ此ノ限ニ在ラス

第八十一條 火藥類ハ未成年者之ヲ取扱ヒ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得但シ第四十三條第一項各號ノ火藥類ハ十五歳以上ノ未成年者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第八十二條 火藥類ハ警察署長ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ第四十二條ノ規定ニ依リ火藥倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ制限ヲ超過スル數量ヲ同時ニ運搬スルコトヲ得但シ輸出入ノ許可ヲ受ケタルモノ及煙火、爆竹、玩具用普通火工品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ許可ヲ受ケタルモノハ火藥類ノ種類、數量、運搬ノ時日、方法、通路及發着ノ場所ヲ具シ發送地ノ警察署長ニ願出ツヘシ

第八十三條 火藥類ハ他ノ物件ト混包、變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持又ハ運搬スルコトヲ得ス

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ届出ツヘシ

第八十四條 第三十三條、第八十二條ノ許可證ハ火藥類ト共ニ之ヲ引渡スヘシ

火藥類到着シタルトキハ荷受人前項ノ許可證ヲ添ヘ其ノ旨直ニ警察署長ニ届出ツヘシ但シ關東局管外ニ輸出スル場合ニ在リテハ本條ノ届出ハ關東局管内ニ於ケル最終通過地所轄警察署長ニ之ヲ爲スヘシ

第八十五條 第四十二條ノ規定ニ依リ火藥倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ制限ヲ超過スル數量ノ火藥類ヲ同時ニ運搬スルコトキハ特ニ規定アル場合ノ外左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

- 一 構寸其ノ他發火シ易キ物件ヲ火藥類ト共ニ積載若ハ攜帶セサルコト
- 二 火藥類ノ附近ニ於テ喫煙シ、火氣ヲ取扱ヒ又ハ安全燈以外ノ燈火ヲ使用セサルコト
- 三 火藥類ノ容器ハ之ヲ密閉シ日光ノ直射ヲ防グ爲適當ノ被覆ヲ爲シ塵埃、動搖、衝突、轉倒及墜落ノ虞ナキ様堅固ニ積載スルコト
- 四 晝間ハ白地ニ火藥ノ二字ヲ朱書シタル曲尺堅二尺横二尺五寸ノ旗、

夜間ハ赤色安全燈ヲ携行スルコト

- 五 牛車又ハ馬車ニ依リテ運搬スル場合ニ在リテハ牛馬ヲ取附ケタル儘積卸ヲ爲ササルコト
- 六 運搬具又ハ牛馬ニ積載スル量ハ其ノ普通積載量ノ二分ノ一以下トシ之ヲ二以上連行スルコトキハ五間以上ノ距離ヲ保タシムルコト
- 七 運搬中ハ徐行シ他ニ通路ナキ場合ノ外人家稠密ノ場所又ハ發火其ノ他危險ノ虞アル場所ヲ通過セサルコト
- 八 運搬中休泊スルコトキハ人家ヨリ遠隔セル安全ノ位置ニ火藥類ヲ停留セシメ且看守者ヲ附スルコト但シ宿泊スルコトキハ豫メ其ノ地警察官吏ニ申告スルコト

第八十六條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運搬スル者ハ特ニ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

- 一 第四十五條ノ規定ニ依リ收納シ其ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ箇所ニ火藥、爆藥若ハ火工品ト朱記シ又ハ其ノ旨朱記シタル標札ヲ附シ且轉載セシムヘカラサル旨ヲ明記シタルモノニ非サレハ之ヲ積載セサルコト
- 二 火藥類ハ成ルヘク木製ノ有蓋貨車ニ依リ運送シ床飯上ニハ枕木、木板、毛布、「ズック」又ハ藁ノ類ヲ敷キテ緩衝裝置ヲ施シ尙火藥類ノ前後ニハ彈力性ヲ有スル物質ヲ充實シテ衝突緩和ノ方法ヲ施スコト
- 三 第四十四條ノ規定ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ種類ノ火藥類ハ同一貨車ニ混載シ又ハ他ノ貨物ト混載セサルコト但シ銃用實包、銃用空包、火藥類ヲ充填セサル雷管附藥莖若ハ爆管附藥莖、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線、電氣導火線、導爆線、濕藥箱内ノ火



第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

第七 火藥類ノ積卸ヲ爲スニ當リテハ作業ノ前後ニ於テ其ノ場所及車内ヲ清掃スルコト

八 火藥類ノ積卸ハ第三號但書ニ掲ケタル火藥類ヲ除クノ外旅客乗降場ニ於テ之ヲ爲ササルコト但シ旅客ヲ搭載シタル客車カ場内ニ在ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

九 火藥類ヲ積載シタル貨車ノ兩側面ニハ見易キ箇所ニ白地ニ火藥ト朱書シタル標札ヲ附スルコト

十 火藥類ヲ積載シタル貨車ハ相聯結セシメ其ノ前後ニ聯結スル車輛ハ空車又ハ不燃質物ノ輕量ヲ積載セル貨車ナルコト

十一 火藥類ヲ積載シタル貨車ノ數五輛以上ナルトキハ之ニ他ノ貨車ヲ聯結セサルコト

十二 火藥類ヲ積載シタル貨車ハ旅客列車又ハ貨客混合列車ニ之ヲ聯結セサルコト但シ鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第三號但書ニ掲ケタル火藥類ハ此ノ限ニ在ラス

十三 火藥類ヲ積載シタル貨車ニ在リテハ制動機ヲ使用セサルコト但シ貫通制動機及車制制動機ハ此ノ限ニ在ラス

十四 火藥類ヲ積載スル列車停車シタルトキハ特ニ車輛ヲ嚴重ニ點檢シ危險アリト認ムル車輛ハ之ヲ即時解放シ危險防止ノ處置ヲ爲シ遲滯ナク其ノ旨警察官吏ニ申告スルコト

十五 火藥類ヲ積載シタル列車進行中車軸發熱其ノ他危險ノ徵候アリタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ之ヲ冷却シ又ハ危險ナキ程度ニ於テ最近ノ停車場迄徐行シ前號ニ準シテ危險防止其ノ他ノ處置ヲ爲スコト

第八十七條 積載シタル火藥類目的地ノ停車場ニ到着シタルトキハ鐵道管

六 火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿タサルコト

五 火藥類ノ積卸、荷繰等ニハ手鉤類ヲ用キス、之ヲ投下セス又衝突ヲ豫防スル爲革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ通過スヘキ箇所ヲ覆ヒタル場合ノ外之ヲ轉輾セサルコト

四 前號ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト同一貨車ニ混載スルトキハ之ヲ判然區別シ貨物ノ下積ト爲スコトヲ得ス

三 貨車ニ混載スル火藥類及他ノ貨物ノ總量ハ其ノ普通積載量ノ三分ノ二以下ナルトキ

(ハ) 混載スル貨物カ容易ニ燃焼セス又ハ火藥類ノ爆發ヲ誘引スル虞ナキトキ

(ロ) 火藥ノ容器又ハ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ箇所ニ品名ヲ明記シタルトキ

(イ) 火藥ノ條件ヲ具備シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

(イ) 火藥ノ容器又ハ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ箇所ニ品名ヲ明記シタルトキ

(ロ) 混載スル貨物カ容易ニ燃焼セス又ハ火藥類ノ爆發ヲ誘引スル虞ナキトキ

(ハ) 貨車ニ混載スル火藥類及他ノ貨物ノ總量ハ其ノ普通積載量ノ三分ノ二以下ナルトキ

四 前號ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト同一貨車ニ混載スルトキハ之ヲ判然區別シ貨物ノ下積ト爲スコトヲ得ス

五 火藥類ノ積卸、荷繰等ニハ手鉤類ヲ用キス、之ヲ投下セス又衝突ヲ豫防スル爲革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ通過スヘキ箇所ヲ覆ヒタル場合ノ外之ヲ轉輾セサルコト

六 火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿タサルコト

業者ハ遲滯ナク之ヲ引取ラシムヘシ若貨車到着ノ通知發送後四時間内ニ之ヲ引取ラサルトキハ其ノ旨警察署長ニ届出ツヘシ

第八十八條 一車以上ノ火藥類ノ輸送ヲ鐵道營業者ニ委託シタル者ハ鐵道營業者ノ要求アリタルトキハ火藥類取扱者ヲ附スヘシ

第八十九條 罰則

第九十條 火藥類ヲ携帯シテ汽車又ハ船舶ニ乗ルトコトヲ得ス但シ乗務員ニ告ケテ銃用火藥一貫二百匁、銃用實包、銃用空包、銃用ニ要スル雷管又ハ雷管附屬各五百匁以内、緩燃導火線及玩具用普通火工品ヲ安全ナル包裝ニ依リ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八章 雜 則

第九十一條 煙火ヲ打揚ケムトスル者ハ日時、場所、煙火ノ讓受先、種類及數量ヲ具シ周圍三町以内ニ於ケル地物ヲ表示セル略圖ヲ添附シ警察署長ニ届出テ許可ヲ受ケルヘシ

第九十二條 銃砲火藥類ヲ亡失シタル者ハ遲滯ナク警察署長ニ届出ツヘシ

第九十三條 火藥類爆發シ若ハ危險トナリタルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク警察官吏ニ申告スヘシ

第九十四條 銃砲火藥類ノ輸出入若ハ讓受渡ノ許可證、銃砲ノ所持若ハ火藥類ノ運搬ニ關スル許可證又ハ證明書ヲ毀損、亡失シタル者ハ遲滯ナク警察署長ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ毀損又ハ亡失シタル許可證又ハ證明書ハ之ヲ無効トス但シ其ノ事由ヲ疎明シテ届出テタルトキハ之ヲ再下付スルコトヲ得

第九十五條 銃砲火藥類ノ輸出入、讓受渡、銃砲所持又ハ火藥類運搬ニ關

シ其ノ許可ヲ取消サレ若ハ之ヲ禁止セラレタルトキ又ハ許可ノ效力ヲ失ヒタルトキハ許可證又ハ證明書ハ之ヲ十日内ニ警察署長ニ返付スヘシ

第九十六條 銃砲火藥類ヲ製造スル者、銃砲火藥類販賣營業者、火藥類倉庫營業者及火藥類貯藏所ヲ有スル者本籍、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ住所、氏名及定款ニ異動ヲ生シタルトキハ十日内ニ關東州廳長官ニ届出ツヘシ

第九十七條 火藥類貯藏所又ハ銃砲火藥類作業所變成シタルトキハ關東州廳長官ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス改築若ハ變更シタル貯藏所又ハ作業所ニ付亦同シ

第九十八條 關東州廳長官ハ危險豫防ノ爲必要アリト認ムルトキハ火藥類貯藏所又ハ銃砲火藥類作業所ノ改築、修繕若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第九十九條 警察署長ハ其ノ所屬警察官吏ヲシテ銃砲火藥類ヲ製造、販賣、貯藏若ハ消費スル場所又ハ其ノ疑アル場所ニ臨檢セシメ又ハ銃砲火藥類ヲ隱匿スルノ疑アル者ノ身體及物件若ハ銃砲火藥類ニ關スル諸帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得

第一百條 銃砲火藥類ノ製造、販賣營業又ハ火藥類倉庫營業ノ許可ヲ受ケタル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許可條件ニ違反シタルトキ又ハ公安ヲ害スル所爲アリト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ營業ヲ停止若ハ制限スルコトアルヘシ

第一百一條 警察署長ハ取締上必要ト認ムルトキハ銃砲火藥類ノ輸出入、讓受渡、所持若ハ運搬ノ許可ヲ取消シ、火藥類ノ使用ヲ制限シ又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得



第二百二條 第七條、第二十二條、第三十三條乃至第三十五條、第四十條、第六十二條、第八十五條及第九十二條ノ規定及其ノ罰則ハ煙火、爆竹及玩具用普通火工品ニ之テ適用セズ  
第二百二條ノ二 本令ノ規定ハ特ニ指定シタル銃砲ニ非サル他ノ戎器ニ之テ準用ス

第九章 罰則

第三百三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第四條乃至第七條、第十一條、第十二條第一項第二項、第十五條第一項、第十七條、第三十三條、第三十四條第一項、第三十五條、第五十三條、第六十七條第一項第三項、第八十三條第一項ニ違反シタル者  
二 銃砲火藥類製造ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可ノ條件ヲ超エテ銃砲火藥類ヲ製造シタル者  
三 第九十八條又ハ第九十條ノ處分ニ違反シタル者  
四 許可ノ條件ニ違反シテ火藥類ヲ貯藏シタル者  
第四百四條 第八十九條ニ違反シタルトキハ船長ヲ三月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第四百五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第十條、第十二條第三項、第二十三條、第二十四條、第三十二條、第四十條第一項、第四十二條第二項、第四十三條第一項、第四十四條第一項、第四十五條乃至第四十九條、第五十二條、第五十四條乃至第五十八條、第六十四條、第六十五條、第六十六條、第七十二條第二項、第九號第二十一號乃至第三十四號第三十六號乃至第三十八號、第七十三條第一項第七號乃至第十四號、第七十四條第九號乃至第十三號、第七十五條第六號乃至第十二號、第七十六條第四號乃至第六號、第七十七條第一項第九號第十三號第十五號、第八十二條、第八十五條乃至第八十七條又ハ第九十條ニ違反シタル者  
二 第二十一條ニ依リ備ヘタル帳簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者  
三 第二十二條ノ屆書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者  
四 第五十九條第二項ニ規定スル標準色紙、沃度加里澱粉紙又ハ精製滑石粉ヲ偽造シタル者  
五 第六十二條第二項ノ處分ニ違反シタル者  
六 第九十九條ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ又ハ警察官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者  
七 第七十一條ニ依ル處分ニ違反シタル者  
第四百六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス  
一 第十五條第二項但書、第二十一條、第二十二條、第三十六條第一項第二項、第三十七條第一項第二項、第三十八條、第四十條第二項第三項、第五十條、第五十一條第二項第三項、第五十九條第二項、第六十三條、第八十條、第八十一條、第八十三條第二項、第八十四條ニ違反シタル者  
二 第三十七條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ銃砲ヲ貸與シタル者  
三 第三十九條ニ違反シ若ハ其ノ收支ヲ詐リタル者  
第四百七條 第二十五條、第二十九條、第三十條、第三十七條第三項、第四十一條、第九十一條乃至第九十七條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス第三十一條ノ處分ニ違反シタル者亦同シ  
第四百八條 銃砲火藥類製造營業者若ハ銃砲火藥類販賣營業者、火藥類倉庫營業者又ハ許可ヲ受ケ銃砲火藥類ヲ製造スル者ニシテ未成年者又ハ禁治

産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス  
第九九條 銃砲火藥類製造營業者、銃砲火藥類販賣營業者、火藥類倉庫營業者、第十條ニ依リ若ハ許可ヲ受ケテ銃砲火藥類ヲ製造スル者、許可ヲ受ケ火藥類ヲ事業ニ使用スル者又ハ運送業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルトキト雖其ノ責ニ任ス  
第四百十條 法人ニシテ本令ニ違反シタル場合ハ本令ノ罰則ハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
關東州銃砲火藥類取締規則ハ之ヲ廢止ス  
本令施行前銃砲火藥類製造又ハ販賣ノ營業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス  
本令施行ノ際現ニ銃砲火藥類ノ輸出入、讓渡、所持、運搬ノ許可又ハ煙火打揚ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケ居ルモノト看做ス但シ銃砲所持ノ許可ヲ受ケ居ル者ハ本令施行後三十日內ニ本令所定ノ所持證明書若ハ所持許可書ニ書替ヲ受クルニ非サレハ爾後其ノ效力ヲ失フ  
本令施行後一年間ハ火藥類倉庫營業ニ關スル規定ニ依ラサルコトヲ得  
本令施行前許可ヲ受ケ現ニ設置セル火藥類貯藏所ハ本令施行後一年間ハ本令ニ依リ其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス  
本令施行後三月間ハ第二十三條、第二十四條及第六十二條第一項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則 (昭和七年實業令第二十一號)

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第九款 銃砲火藥類 壓縮及液化瓦斯

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前銃砲ノ所持證明又ハ所持許可ヲ受ケタル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ第三十七條ニ依リ寫眞ヲ提出シ所持證明書又ハ所持許可證ノ書換ヲ受ケヘシ  
(様式略ス)



大正五年關東都督府令第十號

(銃砲火藥類、阿片等沒收ニ關スル件)

大正五年三月二十四日 關東都督府令第十號

改正 昭和五年關東廳令第四二號、一〇年關東廳令第五九號  
正當ノ手續ニ依ラスシテ所持スル銃砲火藥類、阿片、阿片吸食用器具、一モルヒネ、「コカイン」、其ノ他ノ麻藥ハ何人ノ所有タルヲ問ハス警察處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●火藥類原料取締規則

昭和十五年三月二十日 關東局令第十三號

火藥類原料取締規則左ノ通定ム

- 第一條 本令ニ於テ火藥類原料トハ鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、硝石、硝酸ソーダ、硝酸アンモン及硫酸ヲ謂フ
- 第二條 火藥類原料ノ製造ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケルベシ第二號乃至第七號及第十號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

東州廳長官ニ届出ヅベシ

- 第四條 相續又ハ法人ノ合併ニ因リ火藥類原料ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ承繼シタル者ハ其ノ事由ヲ具シ二十日以内ニ關東州廳長官ニ届出ヅベシ前項ノ届出ヲ爲シタルトキハ相續又ハ合併ノ日ニ於テ第二條又ハ前條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第五條 火藥類原料ノ製造者ハ別記第一號様式、販賣營業者ハ別記第二號様式ノ帳簿ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記載シ製造者ニ在リテハ別記第三號様式、販賣營業者ニ在リテハ別記第四號様式ニ依リ毎月ノ受拂高ヲ翌月五日迄ニ關東州廳長官ニ届出ヅベシ
- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ火藥類原料ノ製造者又ハ販賣營業者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ届出ヅベシ
  - 一 第二條第一項第一號、第八號又ハ第九號ノ事項ヲ變更シタルトキ
  - 二 第三條第一項第一號又ハ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキ
  - 三 製造所又ハ販賣所ノ地名、番地ニ變更アリタルトキ
  - 四 法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキ
  - 五 製造者又ハ販賣營業者死亡シ又ハ所在不明ト爲リタルトキ
  - 六 一月以上休業セントスルトキ
- 第七條 火藥類原料ノ製造又ハ販賣營業ヲ許可セラレタル者其ノ製造又ハ販賣營業ヲ罷メタルトキハ十日以内ニ許可證ヲ添ヘ其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ届出ヅベシ
- 第八條 火藥類原料ヲ輸出シ又ハ輸入セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケルベシ

- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ氏名及定款)
- 二 製造所ノ位置(製造所ノ周圍五百米以内ノ地物ヲ表示シタル圖面添附)
- 三 製造ノ目的
- 四 製造品ノ種類及一年間ニ於ケル最大製造豫定數量
- 五 作業ノ順序及方法
- 六 建物ノ構造及配置(工事仕様書及圖面添附)
- 七 作業設備ノ名稱及配置(圖面添附)
- 八 製造品貯藏所ノ位置
- 九 資本金
- 十 工事竣功期日

前項ノ許可ヲ受ケタル者業務ヲ開始シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ届出ヅベシ

- 第三條 火藥類原料ノ販賣營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ關東州廳長官ノ許可ヲ受ケルベシ第二號又ハ第三號ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ
  - 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ氏名及定款)
  - 二 販賣所ノ位置
  - 三 營業品ノ種類
  - 四 火藥類原料貯藏所ノ位置

- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ氏名及定款)
- 二 火藥類原料ノ種類及數量
- 三 輸出又ハ輸入ノ目的
- 四 仕出地又ハ仕向地
- 五 輸出地又ハ輸入地
- 六 輸出又ハ輸入ノ期間
- 七 輸送ノ方法及経路
- 八 前項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲シタルトキハ別記第五號様式ノ許可證ヲ交付ス
- 第九條 火藥類原料ノ讓受又ハ讓渡ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受ケルベシ但シ火藥類原料ノ販賣營業者其ノ營業ニ關シ讓受又ハ讓渡ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
  - 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ氏名及定款)
  - 二 火藥類原料ノ種類及數量
  - 三 讓受又ハ讓渡ノ事由(讓受ニ在リテハ其ノ用途)
  - 四 讓受又ハ讓渡ノ期間
  - 五 讓受先又ハ讓渡先
- 第十條 火藥類原料ノ販賣營業者ハ前條ノ許可證ヲ所持セザル者ト讓受又ハ讓渡ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第十一條 火藥類原料ノ廢棄セントスルトキハ所轄警察署長ニ届出テ其ノ



指示ヲ受ケル

第十二條 火藥類原料ヲ亡失シ又ハ盜竊ニ罹リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第十三條 火藥類原料ノ輸出、輸入、讓受又ハ讓渡ノ許可證ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ輸出又ハ輸入ノ許可證ニ在リテハ關東州廳長官ニ、讓受又ハ讓渡ノ許可證ニ在リテハ所轄警察署長ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テ亡失シ又ハ毀損シタル許可證ハ之ヲ無効トシ其ノ事由ヲ證明シテ届出テタルトキハ之ヲ再下付スルコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ火藥類原料ノ輸出、輸入、讓受又ハ讓渡ノ許可ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ輸出又ハ輸入ノ許可證ニ在リテハ關東州廳長官ニ、讓受又ハ讓渡ノ許可證ニ在リテハ所轄警察署長ニ返納スベシ

一 許可ヲ取消サレタルトキ

二 許可ノ效力ヲ失ヒタルトキ

三 輸出、輸入又ハ讓渡ヲ了シタルトキ

四 讓受數量全部ヲ消費シタルトキ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ關東州廳長官ハ製造、販賣營業、輸出、輸入、讓受若ハ讓渡ノ許可ヲ取消シ又ハ製造若ハ販賣營業ヲ停止シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

一 許可ノ日ヨリ製造ニ在リテハ一年以内、販賣營業ニ在リテ六月以内ニ業務ヲ開始セザルトキ

二 三月以上休業シタルトキ

三 營業者ノ所在三月以上不明ト爲リタルトキ

四 公安又ハ保健上危害ヲ生ズルノ虞アルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

六 未成年者、準禁治産者又ハ妻ニシテ法定代理人、保佐人又ハ夫ノ許可若ハ同意ヲ取消サレタルトキ

七 本令ニ依ル願届ニ虚偽ノ事項ヲ記載シタルトキ

第十六條 關東州廳長官又ハ警察署長ハ火藥類原料ノ輸出、輸入、貯藏又ハ其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 警察署長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ其ノ所屬官吏ヲシテ何時ニテモ火藥類原料ノ製造所、販賣所其ノ他貯藏、詰換又ハ取扱ヲ爲ス場所ニ臨檢セシメ又ハ火藥類原料ニ關スル諸帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十八條 本令ニ依ル願届ハ未成年者及禁治産者ニ在リテハ法定代理人、準禁治産者ニ在リテハ保佐人、妻ニ在リテハ夫ノ連署ヲ要ス

第十九條 本令ノ規定ハ第一條ニ掲グル火藥類原料ニ非ザルモノト雖モ公安上取締ノ必要アリト認メ指定シタル藥品ニ之ヲ準用ス

第二十條 第二條第一項、第三條第一項、第八條、第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條ノ規定ニ依ル帳簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ届書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

二 第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第十七條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者  
第二十二條 第二條第二項、第三條第二項又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス  
第二十三條 第四條、第六條、第七條、第十一條、第十二條、第十三條第一項又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
第二十四條 火藥類原料ノ製造者又ハ販賣營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ  
第二十五條 本令ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ火藥類原料ノ製造又ハ販賣營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本令施行後一月以内ニ製造者ニ在リテハ第二條第一項、販賣營業者ニ在リテハ第三條第一項ノ事項ヲ具シ其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ届出ヅベシ

本令施行ノ際現ニ輸出又ハ輸入中ニ保ル火藥類原料ニ付テハ遲滞ナク第八條第一項ノ事項ヲ具シ其ノ旨ヲ關東州廳長官ニ届出ヅベシ

本令施行ノ際現ニ火藥類原料ヲ所持スル者ハ本令施行後一月以内ニ其ノ種類及數量ヲ具シ其ノ旨ヲ所轄警察署長ニ届出ヅベシ

(別記様式省略)



第十款 銃器携帯

●明治四十一年勅令第二百八十九號 (監獄官吏ヲシテ銃ヲ携帯セシムルノ件)

明治四十一年十一月二十八日 勅令第二百八十九號

改正 大正二年第三一六號  
朕監獄官吏ヲシテ銃ヲ携帯セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
監獄官吏ニシテ監獄ノ巡警、監外ノ作業ニ就ク受刑者ノ戒護並見張所及外  
門ノ警衛ニ從事スル者ニハ常ニ銃ヲ携帯セシム  
司法大臣ノ特ニ定メタル場合ニ於テハ典獄ハ戒護ニ從事スル監獄官吏ニ臨  
時銃ヲ携帯セシムルコトヲ得

●明治四十一年司法省令第三十一號 (明治四十一年勅令第二百八十九號ニ依リ戒護ニ從事スル監獄官吏ニ臨時銃ヲ携帯セシムルコトヲ得ルノ件)

改正 大正二年第一二二號  
明治四十一年勅令第二百八十九號ニ依リ戒護ニ從事スル監獄官吏ニ臨時銃ヲ携帯セシムルコトヲ得ル場合左ノ通相定ム  
一 天災事變ノトキ  
二 在監者カ人ノ身體ニ對シ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ  
三 在監者カ危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ肯セサルトキ  
四 在監者カ逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ  
五 逃走ヲ企テタル在監者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

●明治四十二年統監府令第四十八號 (朝鮮總督府監獄職員銃器携帯ニ關スル件)

明治四十二年十月二十三日 統監府令第四十八號

改正 明治四十四年朝鮮總督府令第五五號  
朝鮮總督府監獄職員ニシテ巡警、監外ノ作業ニ就ク受刑者ノ戒護、要所ノ警衛及護送ニ從事スル者ニハ常ニ銃ヲ携帯セシム  
前項ノ外典獄ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ戒護ニ從事スル監獄職員ニ臨時ニ銃ヲ携帯セシムルコトヲ得

〔輯一二五〕

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●昭和十六年朝鮮總督府令第四百四十五號 (朝鮮總督府豫防拘禁所職員銃器携帯ニ關スル件)

昭和十六年五月二十一日 朝鮮總督府令第四百四十五號

朝鮮總督府豫防拘禁所職員銃器携帯ニ關スル件左ノ通定ム  
朝鮮總督府豫防拘禁所職員ニシテ巡警、幕外ノ作業訓練ニ就ク收容者ノ監察、要所ノ警衛及護送ニ從事スル者ニハ銃ヲ携帯セシムルコトヲ得  
前項ノ外豫防拘禁所長ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ監察ニ從事スル豫防拘禁所職員ニ臨時ニ銃ヲ携帯セシムルコトヲ得

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●明治二十九年勅令第二百七十八號 (臺灣總督府所屬稅關監吏巡查看守及燈臺看守等ヲシテ銃器ヲ携帯セシムルノ件)

明治二十九年七月三十日 勅令第二百七十八號

改正 明治三十三年第二七八號、四一年第二三二號  
朕臺灣總督府所屬稅關監吏巡查及看守ヲシテ銃器ヲ携帯セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸軍、拓殖務  
臺灣總督ハ其ノ所屬ノ稅關監吏、巡查、看守、燈臺所看守及其ノ特ニ定メタル者ヲシテ銃器ヲ携帯セシムルコトヲ得其ノ銃器ハ陸軍大臣ノ定メタルモノニシテ左ニ記載スル場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス  
一 暴行ヲ受クルトキ  
二 其ノ監守スル場所或ハ物件又ハ人ヲ防衛スルニ銃器ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ銃器ヲ以テセサレハ抵抗ニ勝ツ能ハサルトキ

四二九



非常ノ場合ニ際シ前項ノ人員集團事ニ從フトキハ其ノ地ノ守備隊長ノ指揮ニ從フモノトス  
看守ノ銃器ヲ用ウル場合ニ關シテハ第一項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

### 第十一款 通貨證券及滙入紙

#### ●通貨及證券模造取締法

明治二十八年四月五日  
法律第二十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル通貨及證券模造取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、大藏、內務大臣副署)

#### 通貨及證券模造取締法

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス  
第二條 前條ニ違反シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「五圓以上五十圓以下ノ罰金」ヲ附加ス  
第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ  
第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

明治四十四年四月一日  
勅令第六十五號

朕貨幣法、銀行條例等ヲ樞太ニ施行スルノ件ヲ許可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、大藏、內務大臣副署)

左ニ掲ケル法律ハ之ヲ樞太ニ施行ス

#### 四 通貨及證券模造取締法(外略)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●紙幣類似證券取締法

明治三十九年五月八日  
法律第五十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル紙幣類似證券取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、大藏、內務大臣副署)

#### 紙幣類似證券取締法

第一條 紙幣ノ形式ヲ具ヘ箇々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行シタル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ一様ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準用ス  
第二條 前條ニ依リ證券ノ發行及流通ヲ禁止シタルトキハ主務大臣ハ直ニ其ノ旨ヲ公告ス  
禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ無効トス  
第三條 禁止ニ違反シテ證券ヲ發行シ又ハ其ノ證券ヲ授受シタル者ハ一年以下ノ「重禁錮」又ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ證券ヲ沒收ス  
禁止ニ違反シテ證券ヲ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ノ罰亦前項ニ同シ  
第四條 禁止ノ公告後ニ發行シ又ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル證券ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

大正七年六月二十四日  
勅令第二百六十號

朕紙幣類似證券取締法ヲ樞太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、大藏、內務大臣副署)

紙幣類似證券取締法ハ之ヲ樞太ニ施行ス

### ●印紙模造取締規則

大正五年七月二十日  
大藏省令第十八號

#### 印紙模造取締規則

帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、輸入、移入、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス  
前項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス

#### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●滙入紙製造取締規則

明治二十年七月二十五日  
勅令第三十六號

朕滙入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、大藏、內務大臣副署)

#### 滙入紙製造取締規則

第一條 文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳東京府ハニ届出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二條 紙幣兌換銀行券公債證券大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ滙入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十一款 通貨證券及滙入紙

### ●大正七年制令第一號 (紙幣類似證券取締ニ關スル件)

大正七年一月十日  
制令第一號

紙幣類似證券取締ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

紙幣類似證券ノ取締ニ關シテハ紙幣類似證券取締法ニ依ル但シ同法中主務大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

#### 附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●通貨及證券模造取締規則

明治三十六年十二月二十九日  
律令第十四號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル通貨及證券模造取締規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

#### 通貨及證券模造取締規則

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、臺灣銀行券、國債證券、地方債券及勸業債券ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造、輸入若ハ移入、販賣又ハ行使スルコトヲ得ス  
第二條 前條ニ違反シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「五圓以上五十圓以下ノ罰金」ヲ附加ス  
第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スヘシ



第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十七年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

### 第十二款 宿泊及居住

●明治三十二年勅令第三百五十二號 (條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件)

明治三十二年七月二十八日 勅令第三百五十二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、内務、外務、司法大臣副署)

第一條 外國人ハ條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル者ト雖從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住、移轉、營業其ノ他ノ行為ヲ爲スコトヲ得但シ勞働者ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ從前ノ居留地及雜居地以外ニ於テ居住シ又ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

勞働者ノ種類及本令施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條 前條第一項但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス  
第四條 明治二十七年勅令第三百三十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

### ●明治三十二年内務省令第四十二號 (條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件施行細則)

明治三十二年七月二十八日 内務省令第四十二號

明治三十二年勅令第三百五十二號條約若ハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業等ニ關スル件施行細則左ノ通相定ム

第一條 明治三十二年勅令第三百五十二號第一條ノ行政官廳ハ廳府縣長官トス

第二條 明治三十二年勅令第三百五十二號第一條ノ勞働者ハ農業漁業鑛業土木建築製造運搬挽車仲仕業其ノ他雜役ニ關スル勞働ニ從事スル者ヲ云フ但シ家事ニ使用セラレ又ハ炊爨若ハ給仕ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 勞働者ニ與ヘタル許可ハ廳府縣長官ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得



● 宿泊及居住規則

明治四十四年六月二十日  
朝鮮總督府令第七十五號

大正二年第七一號、三年第一〇〇號、四年第二〇號、八年第二八號、第一〇八號、  
一二年第一一六號

宿泊及居住規則左ノ通定ム

第一條 旅店主其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシメタル者ハ其ノ宿泊人ノ

著發每ニ左記各號ノ事項ヲ宿泊人名簿ニ記載シ到着ノ際ニハ第一號乃至  
第三號ノ事項ヲ、出發ノ際ニハ宿泊人ノ氏名、生徒ハ其ノ人員及指揮者又  
ハ引率者、及第四號ノ事項ヲ具シ當日午前九時迄ノ分ハ午前十時迄ニ、其ノ  
以後ノ分ハ翌日午前一時迄ニ所轄警察署、警察分遣所ヲ含ム以下同シ  
又ハ警察官駐在所 警察官派出所、憲兵駐在所、憲兵分遣所ヲ含ム以下同シ

一 宿泊人ノ氏名、本籍、外國人ニ在、住所、職業、年齡但シ軍隊又ハ多  
數一團ノ學生、生徒ハ其ノ隊名、學校名及人員並指揮者又ハ引率者  
ノ官職及氏名ヲ、華族、貴族ハ其ノ族稱及氏名、官公吏又ハ法令ヲ  
以テ組織シタル議會ノ議員ハ其ノ官公職及氏名ノミヲ記載スルコト  
ヲ得

二 前宿泊地  
三 到着年月日時  
四 出發年月日時及行先地  
營業ニ依ラスシテ外國人ヲ宿泊セシメタル者ハ前項ノ規定ニ準シ届出ツ  
ヘシ但シ警察署又ハ警察官駐在所ノ所在地外ニ在リテハ特ニ警察署長ノ

〔輯九八〕

指示シタル場合ヲ除クノ外宿泊人ノ到着ノ届出ハ其ノ翌日中ニ出發ノ届  
出ハ三日内ニ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外營業ニ依ラスシテ他人ヲ宿泊セシメ十日ニ至リタ  
ル者ハ宿泊人ニ付第一號第一號乃至第三號ノ事項ヲ其ノ翌日中ニ、出發  
ノ際ニハ宿泊人ノ氏名、軍隊又ハ多數一團ノ學生、生徒ハ其ノ人員及指揮者  
ノ事項ヲ三日内ニ所轄警察署又ハ警察官駐在所ニ届出ツヘシ  
第一號ノ營業者警察署又ハ警察官駐在所ノ所在地外ニ在ル場合ニ於テハ  
特ニ警察署長ノ指示シタル場合ヲ除クノ外宿泊人名簿ニ所定ノ事項ヲ記  
載シ之ヲ臨檢ノ警察官又ハ憲兵ニ提示シ届出ヲ省略スルコトヲ得

第二條 宿泊者ハ其ノ家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ前條ニ依リ届  
出ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ主人若ハ管理人ノ交付スル用紙ニ之ヲ記載ス  
ヘシ

第三條 一戸ヲ構ヘテ居住シ又ハ一戸ヲ構ヘサルモ二箇月以上同一府郡内  
ニ居住スル者ハ自己及其ノ携帶スル家族ニ關シ左ノ事項ヲ記載シ居住ノ  
日ヨリ十日内ニ所轄府尹又ハ面長ニ届出ツヘシ

- 一 氏名
- 二 本籍及外國人ニ在リテハ國籍
- 三 職業
- 四 生年月日
- 五 居住所
- 六 居住ノ日
- 七 前居住所
- 八 戸主非戸主ノ別非戸主ニ在リテハ戸主ノ氏名及戸主トノ続柄

〔吉本〕

前項第一號乃至第三號及第八號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ出生、  
死亡、失踪若ハ國籍ノ變更アリタルトキハ十日内ニ届出ツヘシ但シ居住  
者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テハ相續人、戸主、家族又ハ同居者ヨリ届出  
ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 居住者一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ他  
ノ家屋ヲ借受ケ一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屋所有者若ハ家屋管理人  
前條ノ届書ニ連署スヘシ但シ連署ヲ得ルコト能ハサル事情アルトキハ届  
出人其ノ旨ヲ届書ニ附記スヘシ

第五條 居住所ヲ移轉スルトキハ移轉前又ハ移轉後十日内ニ移轉ノ年月日  
及移轉先テ所轄府尹又ハ面長ニ届出ツヘシ

第六條 第三條及前條ノ届出ハ單身者ニ在リテハ本人、家族携帶者ニ在リ  
テハ戸主又ハ之ニ準スヘキ者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七條 府尹又ハ面長ニハ登錄簿ヲ備ヘ第三條及第五條ノ届書ヲ受ケタルトキ  
其ノ届出事項ヲ登錄スヘシ

第九條 何人ト雖前條ノ登錄簿ノ閱覽又ハ登錄ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請  
求スルコトヲ得  
登錄簿ノ閱覽ヲ請求スル者ハ手数料トシテ十錢謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請  
求スル者ハ一枚ニ付十錢ヲ納ムヘシ其ノ一枚ニ滿タサルモノ亦同シ  
前項ノ手数料ハ府尹又ハ面長ノ收入トス



第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十二款 宿泊及居住

又ハ面ノ負擔トス

第十條 第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項ニ關シ警察官又ハ憲兵ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ  
旅券其ノ他國籍ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スル外國人ハ警察官又ハ憲兵ノ請求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十一條 前條ニ違反シテ警察官又ハ憲兵ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ其ノ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十二條 第一條、第三條又ハ第五條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ其ノ實ヲ以テセサル者、第二條若ハ第四條ニ違反シタル者又ハ宿泊人名簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ居住ノ外國人及未タ居留規則ニ依ル届出ヲ爲ササル内地人ニ付テハ第三條及第五條ノ届出期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

●宿屋營業取締規則

明治四十年四月一日  
樺太廳令第七號

改正 大正七年第二八號、一二年第二九號

宿屋營業取締規則

第一條 本則ニ於テ宿屋營業ト稱スルハ旅人及下宿ヲ業トスルヲ謂フ  
第二條 宿屋營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ届出許可ヲ受ケヘシ

一 本籍、住所、氏名、生年月日法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所氏名、生年月日及定款及屋敷  
二 營業ノ場所及其ノ種類

三 濫ニ他人ヲ客室ニ立入ラシムヘカラサルコト

四 藝妓又ハ酌婦ヲ招致スヘカラサルコト

五 便所其ノ他家屋ノ内外ヲ掃除シ不潔ナラシムヘカラサルコト

六 宿泊料又ハ飲食料ノ代價トシテ宿泊人ノ所持品ヲ領置シ又ハ之ヲ買受ケ若ハ賣却買入交換等ノ周旋ヲ爲スヘカラサルコト但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ速ニ警察官吏ニ届出ヘシ

一 宿泊人傳染病ニ罹リタル疑アルトキ

二 宿泊人變死傷シタルトキ

三 宿泊人盜難ニ罹リ若ハ其ノ所持品ヲ紛失シタルトキ

第十一條 所轄警察官署ニ於テ衛生上必要ト認ムルトキハ營業者ニ對シ其ノ従業者ノ健康診斷書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條 客室ニハ堅固ナル鏡前ヲ附シタル押入、戸棚又ハ箆箱ヲ備フヘシ但シ鏡前ハ各其ノ鏡ヲ異ニスルヲ要ス

第十三條 双方承諾ナキ者ヲシテ同室ニ宿泊セシムルコトヲ得ス

第十四條 旅人宿營業者ハ別記様式ニ依リ宿泊人名簿ヲ作り所轄警察官署ニ檢印ヲ受ケ宿泊人アリタル毎ニ之ニ記載スヘシ但シ帳簿ハ最終記載ノ日ヨリ一箇年間保存スヘシ

第十五條 宿泊人ノ發者ハ所轄警察官署ノ定ムル所ニ從ヒ届出ヘシ

第十六條 下宿營業者ハ下宿人アリタル毎ニ其ノ本籍、職業、氏名及生年月日ヲ記シ二十四時間内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ轉宿シタルトキ又ハ外出五日ニ及ヒ所在不明ナルトキ亦同シ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十二款 宿泊及居住

四三六(四三七條)

四三六(四三七條)

三 營業用建物ノ構造仕様書坪數及間取ノ圖面

四 新築ニ保ルトキハ落成期日

第三條 營業ノ場所ヲ變更シ又ハ營業用建物ヲ増減變更セムトスルトキハ前條ノ規定ニ準シ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ

第四條 營業用建物ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受ケヘシ其ノ合格シタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 營業者ハ自ら其ノ營業ヲ管理セサルトキハ管理人ヲ定メ連署ニテ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ  
管理人ハ營業者ニ代リ其ノ責ニ任ス

第六條 左ノ場合ニ於テハ營業者ハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ死亡又ハ所在不明トナリタル場合ニ於テハ家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 第二條第一號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

二 引續キ三十日以上休業スルトキ

三 廢業、死亡又ハ所在不明トナリタルトキ

第七條 營業者ニシテ使用人ヲ雇入タルトキハ本籍、住所、氏名及生年月日ヲ具シ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ解雇死亡又ハ所在不明トナリタルトキ亦同シ

第八條 營業者ハ傳染性疾患アル者ヲシテ飲食食物若ハ容器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス

第九條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 正當ノ理由ナクシテ宿泊ヲ拒絶スヘカラサルコト

二 客引ヲ出シ又ハ其ノ他ノ手段ヲ以テ強テ宿泊ヲ勧誘スヘカラサルコト

【輯一〇一】

【輯八四】

第十七條 下宿營業者ハ下宿人ノ氏名ヲ門戸ニ揭示スヘシ

第十八條 營業組合ヲ設ケムトスル者ハ其ノ規約ヲ添ヘ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケヘシ、其ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十九條 組合ヲ解散シタルトキハ其ノ主幹者ヨリ五日以内ニ届出ヘシ

第十九條ノ二 所轄警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ營業者ニ對シ宿泊料ノ認可申請ヲ命スルコトヲ得

第二十條 營業者又ハ其ノ従業者組合又ハ其ノ役員ニシテ公安若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄警察官署ハ左ノ處分ヲナスコトヲ得

一 營業ノ停止又ハ禁止ヲ命シ若ハ其ノ許可ヲ取消スコト

二 組合ノ解散又ハ其ノ規約ノ變更ヲ命スルコト

三 管理人又ハ組合役員ノ變更ヲ命スルコト

四 使用人ノ解雇ヲ命スルコト

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ宿屋營業ヲ爲シタル者

二 認可ヲ受ケスシテ營業ノ場所ヲ變更シ又ハ營業用建物ヲ増減變更シタル者

三 認可ヲ受ケスシテ宿屋營業組合ヲ設置シ又ハ其ノ規約ヲ變更シタル者

四 第四條第五條第一項、第八條乃至第十條又ハ第十二條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタル者

五 第十一條、第十九條ノ二又ハ第二十條ノ規定ニ基ク處分ニ違反シタル者

四三九







一 本籍、住所、氏名及生年月日（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款寫及代表者ノ住所、氏名、生年月日）

- 二 營業ノ種別及場所
- 三 屋號ノアルモノハ其ノ名稱
- 四 營業用建物ノ構造仕様書坪數及間取ノ圖面
- 五 竣功期日

前項第二號、第四號及第五號ノ事項ヲ變更シ又ハ建物ノ改築、増築、變更若ハ大修繕ヲ爲サントスルトキハ所轄支廳長ニ願出テ許可ヲ受クベシ

- 第三條 宿屋ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルベシ但シ事情ニ依リ特ニ斟酌スルコトアルベシ
  - 一 客室ニハ適當ナル換氣及採光ノ裝置ヲ爲スコト
  - 二 客室ノ境界ニハ壁、換若ハ板戸ヲ用フルコト
  - 三 二階以上ノ層階ニ客室ヲ設クルトキハ各層階ノ居室ノ坪數ニシテ十五坪以上ノモノハ幅員内法三尺以上踏面八寸以上蹴上六寸五分以下ノ階段各二箇以上ヲ適當ノ場所ニ設クルコト
  - 四 非常口ヲ設ケ其ノ扉ハ外開戸又ハ引戸ト爲シ其ノ戸締ハ内部ニ之ヲ設クルコト

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル後營業用建物ノ工事竣功シタルトキハ所轄支廳長ニ届出テ検査ヲ受クベシ

- 第五條 營業者ハ左ノ設備ヲ爲スベシ
  - 一 門口ノ入口ニ第一號様式ノ標札ヲ掲グベシ
  - 二 客室ノ入口ニハ番號ヲ標記スベシ
  - 三 非常口ニハ壁一尺五寸以上幅五寸以上ノ標板ニ「非常口」ナル文字ヲ

前項ノ名簿ハ使用終リタル後一年間保存スベシ

第十二條 宿泊人名簿ハ餘白ヲ置カズ順次記入シ若シ誤字等アルモ其ノ紙葉ヲ除却スベカラズ

軍隊、學校生徒ノ如キ多數一團ノ宿泊人アルトキハ其ノ引卒者ノミヲ記シ其ノ外何名ト記スルモ妨ゲナシ

第十三條 營業者ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ
 一 宿泊料金表ヲ帳場及客室ニ揭示スベシ
 二 正當ノ事由ナクシテ宿泊ノ求ヲ拒絶スベカラズ
 三 雙方ノ承諾ナキ者又ハ同伴者ニ在ラザル男女ヲ同室ニ宿泊セシムベカラズ

第十四條 宿泊人ノ求メザル飲食物ヲ供シテ宿泊料以外ノ金錢ヲ請求シ又ハ遊興ヲ勸メ金錢ヲ浪費セシムベカラズ

第十五條 客引ヲ出シ又ハ其ノ他ノ手段ヲ以テ強テ客ヲ誘引スベカラズ

第十六條 宿泊料ノ代價トシテ宿泊人ノ所持品ヲ受取ラントスル場合ニ於テハ警察官吏ノ立會ヲ請フベシ

第十七條 宿泊人ノ承諾ナクシテ他人ヲ登ニ室内ニ入ラシムベカラズ
 第十八條 傳染性疾患アル者ヲ客席ニ出シ又ハ營業ニ供スル飲食物及其ノ器具類ヲ取扱ハシムベカラズ
 第十九條 宿泊人疾病ニ罹リタルトキハ醫藥、食物等其ノ需ニ應ジ懇切ニ取扱フベシ
 第二十條 宿泊人ニ供スル寢具類ハ常ニ清潔ヲ保チ時時日光ニ曝シ且白布ヲ以テ被覆シ宿泊人ノ代ル都度清潔ナルモノト取換フベシ
 第二十一條 廁所、洗面所、浴室並ニ風呂ハ毎日掃除ヲ爲シ常ニ清潔ニ保持ス

白書シタル標札ヲ掲グベシ

- 四 適當ノ場所ニ消火器又ハ消火劑ノ類ヲ設備シ時時試驗ヲ行ヒ常ニ有救ニ保持スベシ
- 五 廊下及客室其ノ他適當ノ場所ニ消毒藥ヲ入レタル唾壺ヲ備フベシ
- 六 手洗器ハ流出裝置トシ共用手拭ヲ備フベカラズ但シ使用者毎ニ清潔ナルモノヲ使用セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 七 飲食物ニハ覆蓋ヲ爲シ塵埃、蟲類等ノ附着セザル設備ヲ爲スベシ
- 八 調理場ニハ覆蓋アル廢棄物容器ヲ設備スベシ

第六條 營業者ハ同一家屋内ニ於テ料理屋、飲食店、藝妓置屋、紹介營業及遊技場ヲ兼メルコトヲ得ズ但シ特殊ノ事由アル場合ハ斟酌スルコトアルベシ

第七條 營業者自ラ營業ヲ管理セザルトキハ管理人ヲ定メ連署ニテ所轄支廳長ニ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第八條 前項ノ管理人ニシテ不適當ト認メタル場合ハ之ヲ變更ヲ命ズルコトヲ得

第九條 營業者ニ代リ其ノ責ニ任ズ
 第十條 第二條第一項第一號及第三號ニ異動ヲ生ジ又ハ休業シ若ハ廢業シタルトキハ十日以内ニ所轄支廳長ニ届出ヅベシ
 第十一條 營業所ニ第二號様式ノ從業者名簿ヲ備付ケ就業五日以内ニ所事項ヲ記載スベシ記載事項ニ異動アリタルトキ亦同ジ
 第十二條 營業者宿泊人在リタルトキハ第四號様式ニ從ヒ十二時間以内ニ所轄支廳長又ハ警察官吏派出所若ハ巡查駐在所ニ届出ヅベシ
 第十三條 旅館營業者ハ第三號様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ作製シ其ノ紙數ヲ記シ所轄支廳ノ檢印ヲ受クベシ

第十四條 營業者自ラ營業ヲ管理セザルトキハ管理人ヲ定メ連署ニテ所轄支廳長ニ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十五條 營業所ニ第二號様式ノ從業者名簿ヲ備付ケ就業五日以内ニ所事項ヲ記載スベシ記載事項ニ異動アリタルトキ亦同ジ

第十六條 營業者宿泊人在リタルトキハ第四號様式ニ從ヒ十二時間以内ニ所轄支廳長又ハ警察官吏派出所若ハ巡查駐在所ニ届出ヅベシ

第十七條 旅館營業者ハ第三號様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ作製シ其ノ紙數ヲ記シ所轄支廳ノ檢印ヲ受クベシ

第十八條 營業者自ラ營業ヲ管理セザルトキハ管理人ヲ定メ連署ニテ所轄支廳長ニ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十九條 營業所ニ第二號様式ノ從業者名簿ヲ備付ケ就業五日以内ニ所事項ヲ記載スベシ記載事項ニ異動アリタルトキ亦同ジ

第二十條 營業者宿泊人在リタルトキハ第四號様式ニ從ヒ十二時間以内ニ所轄支廳長又ハ警察官吏派出所若ハ巡查駐在所ニ届出ヅベシ

第二十一條 旅館營業者ハ第三號様式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ作製シ其ノ紙數ヲ記シ所轄支廳ノ檢印ヲ受クベシ



第十九條 第二條乃至第六條、第七條第一項、第八條乃至第十五條及第十八條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第七條第二項、第十六條、第十七條及第十八條第二項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者ハ其ノ代理人、家族其ノ他ノ從業者ニシテ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合其ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ第十九條ノ罰則ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 營業者法人ナルトキハ第十九條ノ罰則ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第二十三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 本令施行ノ際現ニ營業ヲ爲ス者ニシテ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ具シ所轄支廳長ニ届出シタルトキハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ第二條第一項第四號ノ構造仕様書ハ概要書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

(様式省略)

●南洋群島在留者取締規則

大正十四年二月十五日  
南洋廳令第三號

改正 昭和五年第一號、一四年第二〇號  
南洋群島在留者取締規則左ノ通定ム

南洋群島在留者取締規則  
第一條 南洋群島ニ居住シ又ハ三月以上ノ豫定ヲ以テ滞在セムトスル者ハ上陸後十日以内ニ左記事項ヲ具シ所轄支廳ニ届出ツヘシ三月未滿ノ豫定ヲ以テ滞在シタル者ニシテ滞在三月以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

- 二 氏名
- 三 生年月日
- 四 族稱、職業
- 五 戶主又ハ世帯主、家族、同居人、使用人ノ別、家族ニ在リテハ戶主又ハ世帯主トノ續柄
- 六 居住又ハ滞在ノ場所
- 七 上陸年月日
- 八 滞在ニ在リテハ其ノ豫定期間
- 九 在郷軍人ニ在リテハ役別、兵種、兵科、官等給、位階勳等及所屬聯隊區又ハ鎮守府
- 第二條 居住者又ハ滞在者ニシテ前條第一號乃至第六號ノ事項ニ異動ヲ生シ又ハ婚姻、離婚、養子縁組、離縁、出産、死亡若ハ行衛不明トナリタルトキハ十日以内ニ所轄支廳ニ届出ツヘシ
- 前項ノ届出ニシテ所轄支廳長必要アリト認ムルトキハ戶籍謄本ノ提出ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 前二條ニ依ル届出ハ婚姻、離婚、養子縁組、離縁ニ在リテハ本人、其ノ他ノ場合ニ在リテハ戶主又ハ世帯主若ハ雇傭主之ヲ爲スヘシ
- 第四條 前三條ニ依ル届出ハ支廳所在地外ニ在リテハ其ノ所轄警察官派出所、受持警部補派出所又ハ巡查駐在所ヲ經由スヘシ
- 第五條 南洋群島ニ居住又ハ滞在スル者ニシテ公安、風俗ヲ害シ若ハ其ノ虞アリト認ムルトキハ所轄支廳長ハ南洋廳長官ノ認可ヲ得一年以上三年以内南洋群島ニ於ケル在留ヲ禁止スルコトヲ得
- 在留ヲ禁止セラレタル者ハ最近便船ニテ南洋群島ヲ退去スヘシ但シ已ム



ヲ得サル事由アリト認ムルトキハ所轄支廳長ハ一定ノ期間之カヲ豫メテ與  
フルコトヲ得

第六條 在留ヲ禁止セラレタル者處分後六月ヲ經過シ改役ノ情願者ナルト  
キハ南洋羣島官ノ認可ヲ得其ノ處分ヲ取消スコトヲ得

第七條 第三條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
在留ヲ禁止セラレタル者其ノ期間内ニ退去セザルトキハ三月以下ノ懲役  
又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本令ハ南洋羣島島民ニ之ヲ適用セス  
附則

大正六年南洋羣島民政令第十號南洋羣島渡航及居住者取締規則ハ之ヲ廢止  
ス

### 第十三款 檢視

#### ●明治十年太政官布告第二十二號

(變死ノ屍警察官吏檢査ノ際其  
致命ノ原因確知シ難キ場合解剖  
檢査セシムルコトヲ得ルノ件)

明治十年二月二十一日  
太政官布告第二十二號

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原因  
ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢査方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ  
解剖檢査セシムルコトヲ得

右布告候事

#### ●明治十三年太政官達第十四號

(官廳内竝官有工場及艦船等ニ  
於ケル變死者等檢視ノ件)

明治十三年二月二十五日  
太政官達第十四號

〔官〕省院〔使〕府廳

明治十二年三月十二號達左ノ通改正候條此旨相達候事  
官廳内竝官有ノ工場及ヒ船艦等ニテ變死ニ係ル者及ヒ重傷死ニ至ル者ハ  
近傍ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受ケヘシ  
但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限り處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セザル分及  
ヒ遠洋航海中ニ係ル者ハ此限ニアラス

### 第十四款 墓地及埋火葬

#### ●墓地及埋葬取締規則

明治十七年十月四日  
太政官布告第二十五號

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム(内務卿  
連署)

〔轉八四〕

#### (墓地及埋葬取締規則施行方法 細目標準)

明治十七年十一月十八日  
内務省達乙第四十號

大正元年第三號

〔轉八四〕

本年第貳拾五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ  
此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル  
但已ムコトヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ  
地方官ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ  
六拾間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ  
死シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノ  
ハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノ  
トス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト非サルニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ  
一丈以上ノ樹木塙塙ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上

#### ●明治十七年内務省達乙第四十號

明治十七年十月四日  
太政官達第八十二號

〔轉八四〕

今般第貳拾五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモ  
ノハ〔違背罪〕ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十四款 墓地及埋火葬



ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塹ヲ設ケヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫師ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

第十二條 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルモハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

第十三條 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

第十四條 死屍ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十五條 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ同署官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十六條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十七條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ一年間保存シ警察官吏ノ求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十八條 警察官吏ノ管理ハ墓地ノ繪圖及墓標ヲ調整シ置クヘシ

●明治三十三年內務省訓令第二十號 (死産ノ埋火葬認許證ニ特別番號ヲ付スルノ件)

明治三十三年六月二十七日 內務省訓令第二十號

墓地及埋葬取締規則ニ依リ死産ニ關シ埋火葬認許證ヲ與フルトキハ其順序ニ從ヒ特別ニ番號ヲ付スヘシ

●明治八年內務省達乙第八十號 (燒場取扱方)

明治八年六月二十四日 內務省達乙第八十號

火葬ノ儀第八拾九號ノ通御布告有之候ニ付テハ燒場ノ儀左ノ心得ヲ以テ取扱可申此旨相達候事

一 燒場ハ東京府下ハ〔朱引外〕其他ノ地方ハ市街村落ノ外渾テ人家遠隔ノ地ニ於テ薄稅地又ハ借地料等無之地ヲ撰ミ最寄市邑申合共用致サスヘク尤官有地又ハ民有地ノ内新規相設ケ候積リ取調可何出申

一 舊燒場〔官民有地〕從前ノ儘使用スル土地及ヒ新規拂下タル土地ハ民有地第二種ニ可租入事

一 燒場ハ火爐煙筒及ヒ塔壁等ヲ設ケヘシ尤人家遠隔ノ山野等ニ於テハ適宜簡易ノ裝置ヲナスモ不苦候事

一 燒場造築修繕等一切ノ入費ハ人民ノ自辨勿論ニ候得共都テ不都合無之様區戶長於テ注意取締可爲致事

一遺骨ヲ此場中ニ埋葬候儀ハ不相成候事

●明治二十四年內務省令第十一號 (刑死者及犯罪者ノ墓標祭祀寫眞等取締ニ關スル件)

明治二十四年七月二十七日 內務省令第十一號

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齢、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得シテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限ニ在ラス

第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十日以上二十五日以下ノ〔輕禁錮〕ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、勾留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、勾留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官〔東京府ハ警視總監〕ハ安寧秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲グルル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十四款 墓地及埋火葬

●墓地、火葬場、埋葬及火葬取締規則

大正四年第七三號、七年第八號、八年第一三三號、第一五二號 昭和二年第三六號 朝鮮總督府令第百二十三號

墓地、火葬場、埋葬及火葬取締規則

第一條 共同墓地以外ニ於テ祖先又ハ配偶者ノ墳墓ヲ有スル者ハ其ノ境域ニ依リ又ハ之ニ接續シテ自己ノ所有地内ニ墓地ヲ設クルコトヲ得

前項ノ墓地ノ面積ハ三千坪以下トシ一家ニ付一箇所ニ限ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ道知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 墓地ニ埋葬ノ餘地ナキニ至リタルトキ

二 土地ノ狀況ノ變更ニ依リ墓地タルニ適セサルニ至リタルトキ

三 前二號ノ外特別ノ事由アルトキ

第一項ニ依リ墓地ヲ設ケタルトキハ十日以内ニ墓地ノ位置及面積ヲ道知事ニ届出ツヘシ

第二條 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外墓地ヲ新設セムトスルトキハ墓地ノ位置及面積ヲ記載シタル書類及圖面ヲ具シ道知事ニ届出テ許可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條 削除

第四條 火葬場ヲ新設セムトスルトキハ位置構造ヲ知ルニ足ルヘキ書面及圖面ヲ具シ道知事ニ届出テ許可ヲ受ケヘシ改築又ハ増築ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

四四五



火葬場ノ事業ヲ中止シ又ハ廢止セムトスルトキハ警察署長ニ届出ツヘシ  
第五條 火葬場ヲ設ケル場合ニハ左ノ制限ニ依ルヘシ  
一 道路、鐵道及河川ヲ距ルコト六十間以上人家及公衆輻輳ノ場所ヲ距  
ルコト百二十間以上ナルコト

二 市街及部落ニ對シ重ニ風上ニ位セサル土地ナルコト  
三 火爐煙筒ヲ備ヘ奥煙ヲ防クノ裝置ヲ爲スコト  
四 周圍ニ高サ六尺以上ノ塙塙ヲ設ケルコト但シ山林、原野等人家ヲ隔  
ツル場所ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

道知事ニ於テ土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ前項第  
一號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第六條 火葬場ノ工事落成シタルトキハ警察署長ニ届出テ検査ヲ受ケ其ノ  
認可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條 墓地及火葬場ノ周圍ニハ植樹ヲ爲スヘシ  
第八條 共同墓地ノ管理者ハ其ノ管理ニ屬スル墓地ノ圍面及墓籍ヲ調整ス  
ヘシ

火葬場ニハ火葬臺機ヲ備フヘシ  
第九條 墓地及火葬場ハ常ニ清潔ヲ保持シ損壞ノ箇所アルトキハ直ニ修繕  
スヘシ

第十條 死體又ハ遺骨ハ墓地以外ニ埋葬又ハ改葬スルコトヲ得ス  
死體ノ火葬ハ火葬場以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ火葬場ノ存セザ  
ル府面ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬スル  
コトヲ得ス但シ傳染病者ノ死體ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 ノ二 他人ノ墓地又ハ墓地以外ノ地ニ擲ニ死體又ハ遺骨ヲ埋葬  
又ハ改葬シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ  
罰金ニ處ス  
一 削除  
二 第十條第二項ニ違反シタル者  
三 死體又ハ死體ヲ納メタル棺槨ヲ山林原野其他ノ場所ニ暴露シタル者  
四 第十八條、第十九條又ハ第二十一條第一項ノ命令ニ違反シタル者

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
一 第一條第三項、第四條、第六條、第八條第二項、第十一條乃至第十  
三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者  
二 埋葬、火葬、改葬又ハ死體移送ヲ妨害シタル者  
三 警察官吏ノ督促ヲ受ケテ墓地又ハ火葬場ノ掃除ヲ爲ササル者

附則  
本令施行ノ地域及期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム  
本令施行ノ際現ニ存スル共同墓地ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス但  
シ其ノ管理者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ圖面ヲ添ヘ其ノ所在地、位置及  
墓籍ヲ届出ツヘシ  
前項ノ届出ヲ爲ササルモノハ其ノ墓地ヲ廢止シタルモノト看做ス  
本令施行ノ際現ニ存スル共同墓地以外ノ墳墓ハ本令ニ依リ設置シタルモノ  
ト看做ス但シ其ノ管理者ハ本令施行ノ日ヨリ一年内ニ其ノ所在地、位置及  
墓籍ヲ届出ツヘシ  
前項ノ届出ナキモノハ無縁墳墓ト看做ス  
本令施行ノ際現ニ存スル火葬場ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス但シ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十四款 墓地及埋火葬

第十一條 ノ二 傳染病者ノ死體ノ埋葬又ハ火葬ニ關シテハ警察官吏又ハ檢  
疫委員ノ指揮ニ從フヘシ  
第十二條 埋葬、改葬又ハ火葬セムトスル者ハ府尹、面長ノ認許證ヲ受ケ  
ヘシ  
第十三條 火葬場ノ經營者ハ前條ノ認許證ヲ受領スルニ非サレハ火葬ヲ爲  
サシムルコトヲ得ス  
第十四條 削除  
第十五條 火葬ハ日没後之ヲ行フヘシ但シ警察官吏ノ認可ヲ得タルトキハ  
此ノ限ニ在ラス  
第十六條、第十七條 削除  
第十八條 道知事ハ墓地又ハ火葬場ニシテ公衆衛生ニ害アリ又ハ土地ノ變  
狀ニ因リ墓地若ハ火葬場タルニ適セスト認ムルトキハ其ノ移轉ヲ命スル  
コトヲ得  
第十九條 警察署長ハ必要ト認ムルトキハ火葬場ノ改良、修繕又ハ其ノ使  
用停止ヲ命スルコトヲ得  
第二十條 管理者ノ知レサル墳墓アルトキハ警察署長ハ六月以上ノ期間ヲ  
定メ其ノ期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ告示スヘシ  
前項ノ期間内ニ届出ナキモノハ無縁墳墓ト看做ス  
第二十一條 他人ノ墓地又ハ墓地以外ニ埋葬シタル死體又ハ遺骨ハ警察署  
長ニ於テ之ヲ改葬ヲ命スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ埋葬者ノ知レサルトキハ土地ノ所有者又ハ其ノ管理者ハ警  
察署長ノ許可ヲ得テ之ヲ改葬ヲ爲スコトヲ得  
第二十二條 無縁墳墓ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

其ノ經營者ハ本令施行ノ日ヨリ一月内ニ其ノ所在地、位置及構造ヲ届出ツ  
ヘシ  
前項ノ届出ヲ爲ササルモノハ其ノ事業ヲ廢止シタルモノト看做ス  
第四項ニ依リ届出タル墳墓ニハ其ノ墳墓ニ埋葬セラレタル者ノ配偶者ノ死  
體ニ限リ本令ノ規定ニ拘ラス之ヲ合葬スルコトヲ得  
(各道ニ施行)

大正九年十月二十八日  
朝鮮總督府令第六十號

●大正九年朝鮮總督府令第六十  
號(刑死者ノ墳墓祭祀肖像等ノ  
取締ニ關スル件)

刑死者ノ墳墓祭祀肖像等ノ取締ニ關スル件左ノ通定ム  
第一條 本令ニ於テ刑死者トハ死刑ヲ執行セラレタル者、死刑ニ處セラレ  
執行前死亡シタル者及無期ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ執行中死亡シ  
タル者ヲ謂フ  
第二條 刑死者ノ墳墓又ハ墓標ヲ建設セムトスル者ハ位置、構造及設備ヲ  
具シ道知事ノ許可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ  
第三條 刑死者ノ爲公然葬儀又ハ祭祀ヲ行フコトヲ得ス  
第四條 刑死者ノ寫真其ノ他ノ肖像若ハ筆跡ノ類ヲ公然陳列シ若ハ頒布  
シ、刑死者ヲ賞揚スル行爲ヲ爲シ又ハ刑死者ヲ追悼スル爲集會ヲ爲スコ  
トヲ得ス  
刑死者ノ形像又ハ紀念碑ヲ建設スルコトヲ得ス

〔韓四〇〕

〔韓七三〕

四四六

四四七



第五條 道知事ハ第二條ノ規定ニ違反シテ建設シタル墳墓若ハ墓標又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反シテ建設シタル形像若ハ紀念碑ノ撤去又ハ改造ヲ命スルコトヲ得

第六條 第二條乃至第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

第七條 道知事ハ安寧秩序ヲ維持スル爲必要ト認ムルトキハ有期ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ執行中死亡シタル者、禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ關シ捜査、起訴若ハ拘留中死亡シタル者又ハ犯罪現行ノ際死亡シタル者ニ付第二條ノ許可ヲ受ケシメ、第三條及第四條ノ規定スル行爲ヲ禁止シ若ハ第五條ノ處分ヲ爲シ又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ關シ捜査、起訴若ハ拘留中ノ者ニ付第四條第一項ノ規定スル行爲ヲ禁止スルコトヲ得

第六條ノ規定ハ前項ノ命令ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正二年朝鮮總督府訓令第四十三號(古墳發掘出願取扱方)

大正二年七月十日  
朝鮮總督府訓令第四十三號  
警察官署

古墳ノ發掘ヲ願出ツル者アルトキハ豫メ左ノ事項ヲ具シ「警務總長」ヲ經テ朝鮮總督ニ申請シ指揮ヲ受ケヘシ

一 出願者ノ氏名、職業及住所

●墓地火葬場及埋火葬取締規則

明治四十年六月七日  
樺太廳令第五十二號

改正 大正二年第二五號、七年第四九號、一二年第三一號、一四年第一七號  
昭和八年第三三號、一二年第三七號

墓地火葬場及埋火葬取締規則

第一章 墓地及火葬場

第一條 墓地ハ樺太廳長官ノ指定シタル區域ニ限ル

第一條ノ二 寺院境內ニ墓地ヲ設定セムトキハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シ樺太廳長官ニ願出テ其ノ指定ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトキ亦同シ

一 寺院名及代表者ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日

二 寺院ノ敷地及建物ノ面積並埋地數

三 墓地設定場所及其ノ面積

四 境內建物ノ配置及墓地區劃圖並四隣ノ平面圖

五 墓地ノ施設方法書並墓地使用ニ關スル規程

六 土地ノ使用權ヲ證スル書類

第二條 火葬場ヲ設ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ借地ニ保ルトキハ土地貸付許可書ノ原本若ハ地主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察官署ヲ經テ樺太廳長官ニ願出許可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトキ亦同シ但シ第二條ノ事項ヲ記載スルコトヲ要セス

一 本籍、住所、氏名及生年月日

二 火葬場設置ノ場所及四隣三百六十メートル以内ノ平面圖

●臺灣墓地火葬場及埋火葬取締規則

大正十一年四月一日  
臺灣總督府令第五十六號

昭和七年第六〇號、一二年第一〇五號

臺灣墓地火葬場及埋火葬取締規則左ノ通改正ス

臺灣墓地火葬場及埋火葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄州、廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス但シ他ノ法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 市尹、街庄長又ハ大正九年勅令第三百六十一號第二條ノ區長ノ許可ヲ得タル者ニ非ザレバ埋葬、火葬、改葬、洗骨又ハ埋骨ヲ行フコトヲ得ズ

第四條 墓地及火葬場ノ管理者又ハ營業者ハ前條ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬、火葬、改葬、洗骨又ハ埋骨ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第五條 前條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三 建設物ノ配置圖(縮尺三分ノ一)同平面圖(縮尺百分ノ一)同斷面圖(縮尺五十分ノ一)同外面圖(縮尺五十分ノ一)及仕様書

四 著手及落成期日

第三條 火葬場ノ工事ハ所轄警察官署ノ指示ニ從ヒ落成シタルトキハ其ノ檢査ヲ受ケヘシ檢査ニ合格シタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條 火葬場ノ落成期日後六十日ヲ過キ尙竣功セス若ハ落成後燒失又ハ崩壞シタル日ヨリ六十日以内ニ改築ニ著手セサルトキハ許可ノ效ヲ失フ但シ樺太廳長官ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 削除

第六條 墓地ニ非サル場所ニ埋葬スルコトヲ得ス但シ墓地ヲ距ル遠隔ノ地ニ在リテ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 火葬場ニ非サル場所ニ於テ火葬ヲ行フコトヲ得ス但シ其ノ設ナキ土地ニ在リテ場所ヲ指定シ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 墓地ニ碑表ヲ建設セムトスル者ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ死者ノ姓名、族稱、官位、勳爵、法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ此ノ限ニ在ラス

第八條ノ二 樺太廳長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ墓地ノ指定ヲ廢シ又ハ改葬ヲ命スルコトアルヘシ

第二章 埋葬及火葬

第九條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬スルコトヲ得ス但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條 死體ヲ埋葬又ハ火葬セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ住所都市町村長ノ埋葬認可證ヲ受ケヘシ



- 一 死亡ニ在リテハ死亡者ノ本籍住所族稱職業氏名生年月日戸主トノ續柄病名死亡年月日時死場所埋葬又ハ火葬ノ場所
- 二 死胎ニ在リテハ父(私生兒ナルトキハ母)ノ本籍住所族稱職業氏名戸主トノ續柄妊娠月數分娩年月日時分娩場所埋葬又ハ火葬ノ場所
- 前項ノ埋葬認許證ハ埋葬ノ際墓地ノ管理者ニ交付スヘシ
- 第十一條 前條ノ出願ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
  - 一 主治醫ノ死亡診斷書
  - 二 主治醫ナキトキ又ハ主治醫ノ死亡診斷書ヲ得ルコト能ハサルトキハ醫師ノ死體檢案書
  - 三 妊娠四月以上ノ死胎ニ在リテハ醫師又ハ產婆ノ死産證書若ハ死胎檢案書
  - 四 變死ニ保ルトキハ檢視官ノ檢印シタル立會醫師ノ檢案書
  - 五 引取リタル囚徒ノ死屍ニ保ルトキハ死刑執行濟病死又ハ變死ノ事實ヲ證スル司獄官ノ書類
  - 六 交通不便ノ場所ニオケル死亡者若ハ死胎ニシテ第一號乃至第四號ノ書類ヲ得難キトキハ警察官吏ノ作成シタル證明書
- 第十二條 削除
- 第十三條 改葬ヲ爲サムトスル者ハ所轄警察官署ニ願出許可證ヲ受クヘシ
- 第十四條 墓穴ノ深サハ死體ノ埋葬ニ在リテハ二メートル以上燒骨ノ埋葬ニ在リテハ一メートル以上トスヘシ
- 第三章 墓地及火葬場管理者
- 第十五條 墓地ハ其ノ所在地市町村長ニ於テ管理スヘシ但シ寺院ニ於テ設定スル墓地ハ其ノ住職ニ於テ管理スヘシ

ニ差出スヘシ

- 第二十四條 墓地ノ管理者ハ墓地ノ圖面及墓籍ヲ調製シ左ノ事項ヲ登載スヘシ
  - 一 區劃番號
  - 二 墓地使用者ノ住所氏名
  - 三 被埋葬者ノ本籍、住所、族稱、氏名、年齢、病死、變死其ノ他ノ別並埋葬年月日
  - 四 改葬其ノ他墳墓ヲ發掘シタルトキハ其ノ事由及年月日
- 第二十五條 墓地ノ管理者ハ被埋葬者ノ親戚故舊等ヨリ墓地ノ圖面並墓籍ノ閱覽ヲ求メラレタルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
  - 一 許可ヲ受ケスシテ火葬場ヲ設置シ又ハ之ヲ變更シタル者
  - 二 埋葬認許證ヲ受ケスシテ埋葬又ハ火葬シタル者
  - 三 第五條ニ依ル命令ニ從ハサル者
  - 四 第六條乃至第九條、第十三條、第十六條乃至第十九條、第二十一條又ハ第二十四條ノ規定ニ違反シタル者
- 第二十七條 第三條、第十四條、第十五條第二項、第二十條、第二十一條ノ二乃至第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

●墓地及埋火葬取締規則

大正十五年八月二十六日  
南洋廳令第四號

墓地及埋火葬取締規則左ノ通定ム

- 墓地又ハ火葬場ヲ自ラ管理セサルトキハ其ノ責任者ヲ定メ五日內ニ其ノ本籍、住所、氏名及生年月日ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十六條 墓地及火葬場ノ管理者ハ埋葬認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲サシムヘカラス又所轄警察官署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲ爲サシムヘカラス
- 第十七條 墓地及火葬場ノ管理者ハ死後二十四時間ヲ經過シタル死體ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲サシムヘカラス但シ特定ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第十八條 火葬料ノ定額ハ樺太廳長官ノ認可ヲ受クヘシ  
何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス認可ヲ受ケタル定料外ニ金錢ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第十九條 火葬場ノ管理者ハ正當ノ理由ナクシテ火葬ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二十條 火葬場ノ管理者ハ火葬終リタルトキ埋葬認許證ノ裏面ニ火葬ノ年月日時ヲ記入シ署名捺印ノ上返付スヘシ
- 第二十一條 火葬場ノ管理者ハ帳簿ヲ具ヘ之ニ火葬依託人並死者ノ本籍、住所、族稱、氏名及火葬ノ年月日時ヲ登記スヘシ
- 第二十二條 墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽植スヘシ墓地內ニハ大樹及塙ヲ存スルコトヲ得ス
- 第二十三條 墓地ノ管理者ハ常ニ墓所ヲ監護シ墓碑墓標等ノ頹敗ヲ防グヘシ
- 第二十四條 墓地ノ管理者ハ埋葬前墓穴ノ檢査ヲ爲スヘシ
- 第二十五條 墓地ノ管理者ハ四箇月毎ニ埋葬認許證ヲ取據メ所轄警察官署

墓地及埋火葬取締規則

- 第一條 墓地ノ設置、移轉又ハ變更ヲ爲サムトスル者ハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 墓地ニ非サル場所ニ埋葬スルコトヲ得ス
- 第三條 南洋廳長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ墓地ノ移轉、廢止又ハ改葬ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬スルコトヲ得ス
- 第五條 死體、又ハ妊娠四月以上ノ死胎ヲ埋葬又ハ火葬セムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ所轄支廳長又ハ駐在警察官吏、警察官吏ノ駐在セサル處島ニ在リテハ村吏ニ届出テ其ノ認可ヲ受クヘシ
  - 一 死體ニ在リテハ死亡者ノ本籍、住所、族稱、職業、性別、氏名、生年月日、戸主トノ續柄、病名、死亡年月日時、死亡ノ場所及埋葬又ハ火葬ノ場所
  - 二 死胎ニ在リテハ父(私生兒ナルトキハ母)ノ本籍、住所、族稱、職業、氏名、戸主トノ續柄、妊娠月數、分娩年月日時、分娩ノ場所及埋葬又ハ火葬ノ場所
- 第六條 前條ノ届出ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ但シ醫師若ハ產婆又ハ警察官吏ナキ地方ニ於テ死亡又ハ死産シタル者ニ付キテハ之ヲ省略スルコトヲ得
  - 一 死亡ニ在リテハ醫師ノ死亡診斷書若ハ死體檢案書
  - 二 死産ニ在リテハ醫師又ハ產婆ノ死産證書若ハ死胎檢案書
  - 三 變死ニ在リテハ檢視調書原本又ハ檢視官ノ檢印シタル立會醫師ノ死



體檢案書若ハ死胎檢案書

四 引取タル囚徒ノ死體ニ在リテハ死刑執行済、病死又ハ變死ノ事實ヲ證明スル司獄官ノ書類

第七條 前條但書ニ依リ死因又ハ死産ヲ證明スヘキ書類ヲ差出ササルモノニ在リテハ所轄支廳ニ於テ其ノ死體又ハ死胎ノ檢案ヲ行フコトアルヘシ

第八條 改葬ヲ爲サムトスル者ハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 墓穴ノ深サハ死體ノ埋葬ニ在リテハ六尺以上遺骨ノ埋葬ニ在リテハ三尺以上トスヘシ

第十條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第一條、第二條、第四條、第五條、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者

二 第三條ノ命令ニ從ハス又ハ第七條ノ檢案ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者

第十一條 本令ハ慣習ニ依リテ行フ水葬ニ關シ之ヲ準用ス

附則 本令ハ大正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
從前使用ノ墓地ハ其ノ區域ヲ變更セサル限リ其ノ儘之ヲ使用スルコトヲ得

### 南洋廳火葬場規程

大正十四年二月二日  
南洋廳令第二號

南洋廳火葬場規程左ノ通定ム

南洋廳火葬場規程

第一條 南洋廳ニ於テ火葬場ヲ設置ス火葬場ノ位置ハ之ヲ告示ス

第二條 火葬場ヲ使用セムトスル者ハ火葬認許證ヲ添附シ使用ノ日時ヲ具シ所轄支廳長ノ許可ヲ受ヘシ

第三條 遺骨ハ火葬ノ翌日出ヨリ正午迄ノ間ニ於テ之ヲ拾收スヘシ

遺骨拾收ノ後ハ清潔ニ掃除ヲ爲シ置クヘシ

第四條 前條第一項ノ時間内ニ遺骨ヲ拾收セサルトキハ所轄支廳長之ヲ處置スルコトヲ得

第五條 火葬場ノ使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス但シ所轄支廳長ニ於テ貧困者ト認メタル者及官ニ於テ火葬ニ付スル必要アリト認メタル者ニ對シテハ之ヲ減額又ハ免除スルコトヲ得

死體 一箇ニ付 一圓  
死胎 一箇ニ付 五十錢

火葬ニ要スル消耗品及第四條ニ依リ爲タル處置ニ要シタル費用ハ使用者ノ負擔トス

第六條 使用者ハ火葬場使用ニ關スル所轄支廳長ノ指示命令ヲ遵守スヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔日本〕

### 第十五款 非常及消防

#### 明治五年太政官布告第八十三號 (非常並御近火ノ節號砲發射ノ件)

明治五年三月十四日  
太政官布告第八十三號

非常並御近火ノ節大砲三發ヲ以合圖ト定メ候段相違置候處非常ハ五發御近火ハ三發ト改定候條此旨更ニ相違候事

#### 昭和十一年宮内省告示第十六號 (宮城及赤坂離宮青山御所ノ御近火區域)

昭和十一年七月二十八日  
宮内省告示第十六號

改正 昭和十一年第二六號

宮城及赤坂離宮青山御所ノ御近火區域左ノ通定ム

御近火區域

一 宮城ノ部

麴町區ノ内

宮城前外苑

丸ノ内一丁目十番ノ一十番ノ二十番ノ四、大手町一丁目一番二番七番ノ一ヨリ八番ノ二迄九番、竹平町一番ヨリ二番ノ二迄、代官町、一番

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

〔轉九二〕

町一番三十三番、麴町一丁目一番ノ一ヨリ二番ノ三迄四番ノ一ヨリ四番ノ七迄七番ノ一ヨリ七番ノ四迄十二番ノ一ヨリ十二番ノ四迄、永田町一丁目一番、霞ヶ關一丁目

右地域ニ介在スル官有無番地及御料地

二 赤坂離宮青山御所ノ部

四谷區ノ内

尾張町、傳馬町一丁目二十番ノ一ヨリ五十四番迄、仲町一丁目、同二丁目、同三丁目、谷町一丁目一番ヨリ三十三番ノ二迄、元町四十四番

ノ一ヨリ四十五番ノ三迄五十八番ノ一ヨリ六十番迄六十二番ノ一ヨリ六十三番ノ一迄七十番、南町、元町所在御料地

右地域ニ介在スル官有無番地

赤坂區ノ内

青山權田原町、青山六軒町、青山三筋町一丁目、同二丁目、青山北町一丁目、青山南町一丁目一番ノ一ヨリ三十八番ノ二迄三十九番ノ一

一部三十九番ノ二三十九番ノ三、同二丁目一番ヨリ七十四番ノ五迄、新坂町一番ヨリ三十六番ノ一迄三十八番ノ一、臺町一番ノ一ヨリ十六

番迄七十二番ノ一ヨリ七十八番ノ十迄、丹後町一番ノ一ヨリ四十三番

迄、一ツ木町一番ノ一ヨリ二十七番ノ一迄七十六番ヨリ九十一番ノ二

迄、表町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、傳馬町一丁目、同

二丁目、同三丁目

右地域ニ介在スル官有無番地

風向其ノ他ノ狀況ニ依リ前二號以外ノ近接地ヲ御近火區域ト看做スコ

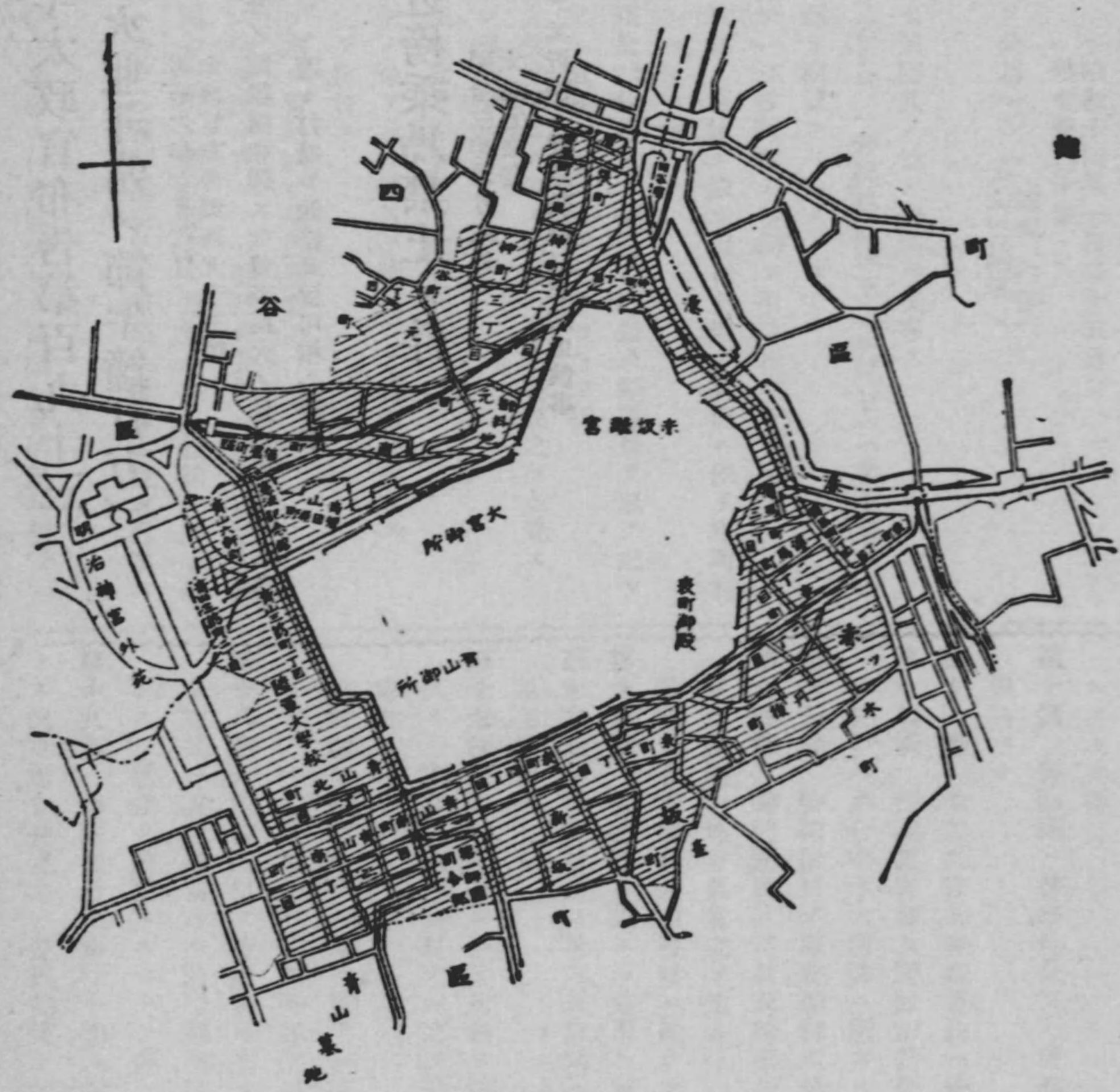
トアルヘシ

三

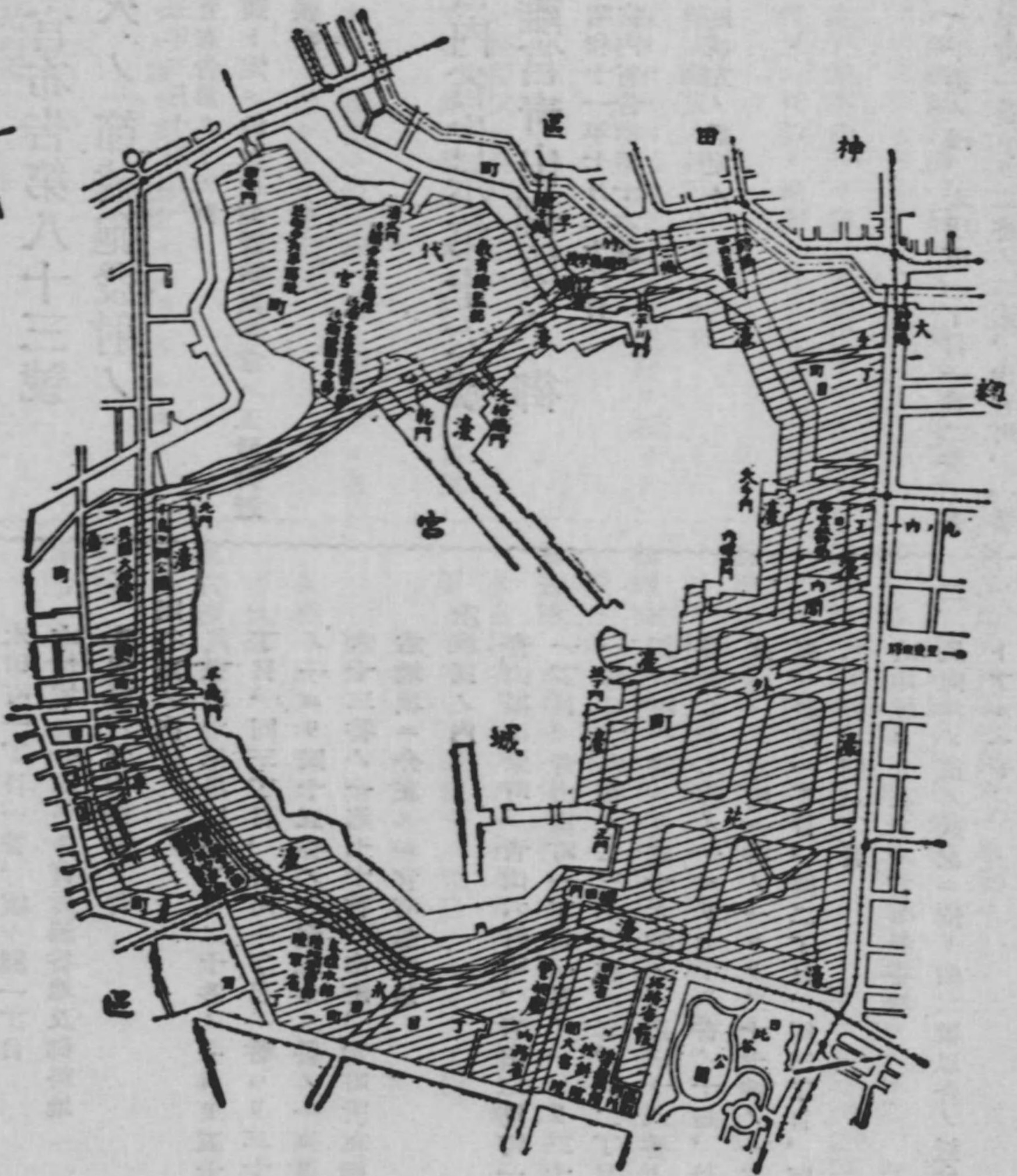
トアルヘシ

四五三





二 赤坂離宮青山御所附近火區域圖





### ●明治六年太政官布告第九十三號(御近火並非常ノ節半鐘打方)

明治六年六月八日  
太政官布告第九十三號

【赤阪假皇居】御近火並非常ノ節鐘砲相聞エ次第各區火ノ見ニ於テ御近火ハ半鐘四點ツ、非常ハ五點ツ、連々打鳴シ候條此旨可相心得事

### ●出火場近傍乘馬禁止ノ件

明治三年二月三日  
太政官布告

出火之節出役之外馬上ニテ其近傍へ乘込候儀以來禁止候事

### ●警防團令

昭和十四年一月二十五日  
勅令第二十號  
朕警防團令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、內務大臣副署)

#### 警防團令

- 第一條 警防團ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ從事ス
- 第二條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ハ職權又ハ市町村長ノ申請ニ依リ警防團ヲ設置スルモノトス
- 第三條 前條ノ警防團ニ非ザレバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
- 第四條 警防團ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 警防團ハ團長、副團長、分團長、部長、班長及警防員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ分團長、部長又ハ班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得
- 第六條 團長及副團長ハ地方長官、其ノ他ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス
- 第七條 團長ハ團員ヲ統率シ團務ヲ掌理ス  
副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス  
分團長、部長及班長ハ上長ノ命ヲ承ケ團員ヲ指揮シテ業務ニ從事ス
- 第八條 警防團ハ地方長官之ヲ監督ス  
警察署長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス
- 第九條 警防團ハ警察部長(警視廳ニ在リテハ警務部長但シ水火消防ニ關シテハ消防部長以下之ニ同シ)又ハ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スベシ但シ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テハ市町村長又ハ團長ノ指揮ニ從ヒ行動スルヲ妨グズ

市町村長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指示ス

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

ルコトヲ得

- 第十條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ應投スベシ
- 第十一條 地方長官及警察署長ハ警防團ノ訓練ヲ行フベシ
- 第十二條 警視廳官制及特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニ於テハ本令中水火消防ニ關スル警察署長ノ職務ハ消防署長之ヲ行フ
- 第十三條 警防團員ノ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム
- 第十四條 警防團員ノ定員及給與並ニ警防團ニ必要ナル設備資材ハ市町村會ニ諮問シ地方長官之ヲ定ム
- 第十五條 前項ノ設備資材ハ市町村ニ於テ之ヲ備フベシ
- 第十六條 警防團ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス
- 第十七條 市町村長ハ地方長官又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ答申スベシ
- 第十八條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
- 第十九條 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス
- 第二十條 內務大臣ノ指定スル市ニ於テハ警防團ノ外地方長官ノ認可ヲ受ケ市長ハ其ノ擔當スル防空業務ニシテ地方長官ノ指定スルモノニ從事セシムル團體ヲ設置スルコトヲ得
- 第二十一條 第四條乃至第十一條及第十五條ノ規定ハ前條ノ團體ニ之ヲ準用ス但シ地方長官又ハ警察部長トアルハ市長、警察署長トアルハ市長ノ定



ムル者トス

第二十條 地方長官警防業務ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ヲ指揮スルコトヲ得

警察署長職務執行上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ニ對シ指示スルコトヲ得

第二十一條 第十八條ノ團體ノ名稱及組織並ニ團員ノ定員、服務方法、服務規律、懲戒、服裝及給與ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ市長之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防團及第十八條ノ團體ノ設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
消防組規則ハ之ヲ廢止ス

昭和十四年一月二十五日  
内務省告示第二十六號

警防團令第十八條ノ規定ニ依リ市ヲ指定スルコト左ノ如シ  
東京市、京都市、大阪市、横浜市、神戸市、名古屋市

### ●大正五年内務省訓令第四號（洪水氾濫ノ虞アル地方ニ水防施設ヲ完備セシムル標準等ノ件）

大正五年四月十四日  
内務省訓令第四號

府縣

洪水氾濫ノ虞アル地方ニシテ未タ水防ニ關スル施設ノ完カラサルモノニ在リテハ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水害豫防組合ヲシテ其ノ土地ノ狀況河川ノ狀態等ニ鑑ミ大體左ノ標準ニ依リ水防施設ヲ完備セシムルト共ニ之カ監督指導ニ努メ以テ水害豫防ノ實踐ヲ舉グルコトヲ期スヘシ

一 地域廣闊其ノ他特別ノ事情アルモノニ對シテハ適宜水防區ヲ設ケシムヘシ

二 水防ノ必要アル公共團體ニ對シテハ左ノ設備ヲ爲サシムヘシ

一 貯藏小屋  
一 材料及器具  
一 洪水標

三 貯藏小屋ハ堤防延長凡五百間乃至千間毎ニ堤防又ハ其ノ附近ニ之ヲ設置セシムヘシ

四 材料及器具ハ知事ニ於テ其ノ種類及數量ヲ定メ之ヲ藏置セシムヘシ  
五 洪水標ニハ警戒水位ヲ表示シ出水ノ虞アルトキハ豫メ水防長ニ於テ選

〔輯九七〕

### ●消防手配置及勤務概則

大正七年三月三十日  
内務省訓令第三號

府縣

消防手配置及勤務概則左ノ通定ム

消防手配置及勤務概則

第一條 消防手ハ消防曹長並機關、操船、調馬、放水、喇叭勤務及教習中ノ消防手ニ區別シ其ノ配置及勤務ノ方法ハ府縣長官之ヲ定ム

第二條 土地ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ消防署又ハ消防分署ノ下ニ消防出張所ヲ設ケルコトヲ得

第三條 消防出張所ニハ消防曹長タル消防手ヲ配置シ所屬ノ消防手ニ對スル監督ノ責ニ任セシムヘシ

第四條 消防手ハ隔日勤務トス但シ消防出張所ニ配置セラレタル消防曹長ハ毎日勤務タラシムルコトヲ得

第五條 消防手ノ勤務時間ハ隔日勤務ノ者ニ在リテハ二十四時間乃至十八時間トシ毎日勤務ノ者ニ在リテハ八時間乃至十二時間トス

第六條 消防手ノ當番員ニ對シテハ毎日點檢ヲ行ヒ實務及法令ノ應用ニ關スル事項ヲ訓授又ハ應問スヘシ

第七條 非常召集、水火災地出場及應援區域ニ關スル規定ハ府縣長官之ヲ定ム

第八條 本令施行ノ爲必要ナル規定ハ府縣長官之ヲ定メ内務大臣ニ報告スヘシ

定シタル水防員ヲシテ之ヲ監視セシメ警戒水位ニ達シタルトキハ速ニ

水防ノ準備ヲ爲サシムヘシ

六 材料及器具並洪水標ハ出水期前官吏員ヲ派遣シテ檢閲セシムヘシ

七 水防上警戒ヲ要スル場合ニハ水位ヲ時々下流公共團體ニ順次通報セシムヘシ

八 水防ノ必要アル公共團體ニハ左ノ水防員ヲ置カシムヘシ

一 水防部長  
水防事務ヲ掌理スル者

一 水防部長  
水防長ノ命ヲ承ケ水防事務ヲ分擔スル者 若干名

一 水防組頭  
水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮シ水防ニ從事スル者 若干名

一 水防小頭  
水防組頭ヲ助ケ水防組頭故障アルトキハ之ニ代ル者 若干名

一 水防夫  
水防長以下ノ命ヲ承ケ水防ニ從事スル者 若干名

九 毎年一回若ハ數回水防員ヲシテ水防方法ノ練習ヲ爲サシムヘシ

十 水防ノ方法及練習ニ關スル規定ハ當該公共團體ニ於テ之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受ケシムヘシ

十一 水防ノ監督指導ノ爲メ官吏員ノ分擔區域ヲ定ムヘシ

十二 〔明治二十七年二月勅令第十五號消防組規則〕ニ依リ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルヲ適當トスルモノニ在リテハ前各項ノ趣旨ニ準シ相當ノ施設ヲ爲サシムヘシ



第七條 本令ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
警視廳消防手配置及勤務概則ハ之ヲ廢止ス

### ●大正三年勅令第五百七十七號（請願ニ依ル消防手配置ニ關スル件）

大正三年八月六日  
勅令第五百七十七號

改正 大正七年第五九號、九年第五七九號  
朕請願ニ依ル消防手及消防員配置ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、內務大臣副署）

第一條 判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ハ請願者ノ申請ニ因リ警視廳又ハ大阪府京都府神奈川縣兵庫縣愛知縣知事ニ於テ必要アリト認ムル場所ニ之ヲ配置スルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ配置スル消防手ニ關スル費用ハ請願者之ヲ納付スヘシ

前項費用ノ額ハ府縣會ノ議決ヲ經テ知事之ヲ定ム

第三條 請願者ノ納付スル費用ハ府縣ノ收入トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●警防團規則

昭和十四年七月三日  
朝鮮總督府令第四百四號

警防團規則左ノ通定ム

警防團規則

第一條 警防團ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ從事ス

第二條 道知事ハ職權又ハ府邑面ノ申請ニ依リ警防團ヲ設置スルモノトス

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

第三條 前條ノ警防團ニ非ザレバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第四條 警防團ノ區域ハ府邑面ノ區域ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ府邑面内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第五條 警防團ハ團長、副團長、分團長、部長、班長及消防員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ分團長、部長又ハ班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得

第六條 團長、副團長及分團長ハ道知事、其ノ他ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス

第七條 團長ハ團員ヲ統率シ團務ヲ掌理ス

副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス

分團長、部長及班長ハ上長ノ命ヲ承ケ團員ヲ指揮シテ業務ニ從事ス

第八條 警防團ハ道知事之ヲ監督ス

警察署長ハ道知事ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス

第九條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動ス但シ緊急

已ムヲ得ザル場合ニ於テハ府尹、邑面長又ハ團長ノ指揮ニ依リ行動スル

ヲ妨ゲズ

府尹、邑面長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指

示スルコトヲ得

第十條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ應

投スベシ

第十一條 道知事及警察署長ハ警防團ノ訓練ヲ行フベシ

第十二條 朝鮮總督府地方官官制ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニ於テ

ハ本令中消防ニ關スル警察署長ノ職務ハ消防署長之ヲ行フ

第十三條 警防團員ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ道知事之ヲ定ム



第十四條 警防團員ノ定員及給與並ニ警防團ニ必要ナル設備資材ハ府邑面

ノ意見ヲ徵シ通知事之ヲ定ム

前項ノ設備資材ハ府邑面ニ於テ之ヲ備フベシ

第十五條 警防團ニ關スル費用ハ其ノ府邑面ノ負擔トス

第十六條 府邑面ハ道知事又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ

答申スベシ

附則

本令ハ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

消防組規則及水防團規則ハ之ヲ廢止ス

### ●臺灣消防組規則

大正十年五月十一日  
勅令第二百六號

(總理大臣副署)

臺灣消防組規則

第一條 州知事又ハ廳長ハ其ノ職權ニ依リ又ハ市尹街庄長ノ申請ニ依リ火

災ノ警戒防禦ノ爲消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條 消防組ノ設置區域ハ市街庄ノ區域ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況ニ依

リ市街庄内ニ於テ適宜設置區域ヲ定ムルコトヲ得

第三條 消防組ハ組長一人、副組長若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織

ス

組長及副組長ハ州知事又ハ廳長之ヲ命免ス

消防手ハ郡守、支廳長又ハ警察署長之ヲ命免ス

第四條 組長ハ郡守、支廳長又ハ警察署長ノ命ヲ承ケ消防組ノ事務ヲ管理



シ組員ノ取締ニ任ス但シ消防組設置區域ニ以上ノ警察署管轄區域ニ互ル  
トキハ州知事ノ指定シタル警察署長ノ命ニ承ケルモノトス  
副組長ハ組長ヲ補ク組長事故アルトキハ之ニ代ルモノトス  
第五條 消防組ハ郡守、支廳長又ハ警察署長之ヲ監督ス但シ消防組ノ設置  
區域ニ以上ノ警察署管轄區域ニ互ルトキハ州知事ノ指定シタル警察署長  
之ヲ監督ス  
消防組ハ火災ニ際シテハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ警察官ノ臨  
場スル迄ハ組長又ハ副組長ノ指揮ニ從フヘシ  
第六條 郡守、支廳長又ハ警察署長ハ消防組ヲシテ其ノ設置區域外ニ於ケ  
ル火災ノ警防ニ應授セシムルコトヲ得  
第七條 州警務部長又ハ廳警務課長ハ州知事又ハ廳長ノ命ヲ承ケ其ノ地方  
全體ノ消防組ヲ監督ス  
第八條 州知事又ハ廳長ハ消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之  
ヲ解クコトヲ得  
第九條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ設置區域ノ屬スル市街庄ノ負擔トス  
第十條 組長以下組員ノ服務規律、懲戒、服裝、給與其ノ他消防組ニ關シ  
必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム  
第十一條 州知事又ハ廳長ハ地方ノ狀況ニ依リ本令ノ全部又ハ一部ヲ準用  
シテ水災ノ警戒防禦ノ爲水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務  
ヲ兼行ハシムルコトヲ得  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 臺灣消防組規則施行規則

大正十年五月十九日  
臺灣總督府令第百號

改正 昭和三年第一七號  
臺灣消防組規則施行規則

第一條 州知事又ハ廳長必要ト認ムルトキハ市尹、街庄長ノ意見ヲ聞キ消  
防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得  
第二條 郡守、支廳長又ハ警察署長ハ水、火災警戒防禦ノ爲必要ト認ムル  
トキハ消防組ヲ一定ノ場所ニ當直セシメ又ハ指定シタル區域内ヲ警邏セ  
シムルコトヲ得  
第三條 消防組ニシテ設置區域外ニ於ケル火災ノ警防ニ應授シタルトキハ  
其ノ火災地ヲ管轄スル郡守、支廳長又ハ警察署長ノ指揮ニ從フヘシ  
第四條 消防組ハ水、火災警戒防禦ノ爲ニ非サレハ集合若ハ運動ヲ爲スコ  
トヲ得ス但シ郡守、支廳長又ハ警察署長ニ於テ儀式、訓練等ノ爲集合運  
動ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第五條 組長以下組員ノ服務規律、懲戒、服裝ニ關スル規程ハ州知事又ハ  
廳長之ヲ定ム  
第六條 組長以下組員ノ被服並手當其ノ他諸給與ニ關スル規定ハ市尹、街  
庄長ノ意見ヲ聞キ州知事又ハ廳長之ヲ定ム  
第七條 消防組ニ必要ナル器具及建物ハ市尹、街庄長ノ意見ヲ聞キ州知事  
又ハ廳長之ヲ定ム  
前項ノ器具及建物ハ市街庄ニ於テ之ヲ設備スヘシ

(台本)

第八條 施設消防組ハ市制、街庄制ノ施行ナキ地域ニ限リ州知事又ハ廳長  
ノ許可ヲ得テ設置スルコトヲ得但シ私人ニ於テ自家防禦ノ爲ニスルモノ  
ハ此限ニ在ラス  
第九條 此ノ規則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム  
附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 樺太警防團令

昭和十四年五月二十五日  
樺太廳令第四十一號

樺太警防團令左ノ通定ム

第一章 總則  
第一條 警防團ハ防空、水消防其ノ他ノ警防ニ從事ス  
第二條 樺太廳長官ハ職權又ハ市町村長ノ申請ニ依リ警防團ヲ設置シ又ハ  
職權ニ依リ之ヲ廢止ス  
前項ノ規定ニ依リ警防團ヲ設置又ハ廢止シタルトキハ樺太廳長官之ヲ告  
示ス  
第三條 前條ノ警防團ニ非ザレバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ  
第四條 警防團ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ルベシ但シ土地ノ狀況ニ依リ市  
町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得  
第五條 市町村長警防團設置ノ申請ヲ爲サントスルトキハ市町村會ノ議決  
案ヲ經テ申請書ニ左ノ事項ヲ具シ樺太廳長官ニ提出スベシ其ノ名稱、區域  
又ハ組織ヲ變更セントスルトキ亦同シ  
第二章 名稱  
二 設置スベキ市町村名及其ノ區域並ニ戶數人口

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

〔輯〕〇一七

三 組織及定員  
四 設備資材ノ名稱及其ノ員數  
第六條 警察署長ニ於テ警防團ノ設置、廢止又ハ組織、定員若ハ區域ノ變  
更ニ付必要アリト認メタルトキハ市町村長ニ諮問シ樺太廳長官ニ之ヲ具  
申スベシ  
第七條 警防團ノ名稱ハ其ノ設置區域ノ市町村名ヲ冠稱スベシ  
第八條 警防團ハ樺太廳長官之ヲ監督ス  
警察署長ハ樺太廳長官ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス  
第九條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スベシ但シ緊急  
已ムヲ得ザル場合ニ於テハ市町村長又ハ團長ノ指揮ニ從ヒ行動スルヲ妨  
グズ  
市町村長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指示ス  
ルコトヲ得  
第十條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ出  
動應授スベシ  
前項ノ規定ニ依リ應授ヲ爲ス場合ニ在リテハ警防團ハ其ノ應授ヲ受クル  
地ヲ管轄スル警察署長ノ指揮ヲ承クベシ  
第十一條 警防團ノ應授出動區域ハ警察部長之ヲ定ム  
警察部長ハ應授出動區域外ト雖モ災害ノ狀況ニ依リ應授ヲ命ズルコトヲ  
得  
第十二條 警察部長又ハ警察署長ハ定期又ハ隨時ニ警防團ノ檢閲及訓練ヲ  
行フベシ  
第十三條 前條ノ檢閲及訓練ノ科目ハ別ニ之ヲ定ム  
第十四條 警防團ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス  
前項ノ費用ニ對シ樺太廳長官ハ別ニ定ムル所ニ依リ補助スルコトアルベ

四五九



第十五條 市町村長ハ樺太廳長官又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ答申スベシ

第十六條 本令ニ基キ樺太廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スベシ

第二章 組織及定員

第十七條 警防團ハ團長一名、副團長若干名、分團長各一名、副分團長若干名、部長各一名、副部長若干名、班長各一名、副班長若干名及警防員若干名ヲ以テ之ヲ組織スベシ但シ分團長、副分團長、部長、副部長、班長又ハ副班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得

第十八條 警防團ハ本部、消防部隊及防空部隊ニ分チ其ノ編成概ネ左ニ據ルベシ但シ土地ノ狀況其ノ他ニ依リ之ヲ増減シ兼掌シ又ハ業務ノ全般ニ互リ一體トシテ活動セシムルコトヲ得

本部 庶務係、連絡係

消防部隊

常備部 (機械係、救急係、唧筒係、給水係、連絡係、火先係)

第一部 (機械係、救急係、唧筒係、給水係、連絡係、火先係)

以下之ニ倣フ

防空部隊

警報部

第一班(受領係、傳達係)

以下之ニ倣フ

燈火管制部

第一班(指導係、監視係)

以下之ニ倣フ

交通整理部

第一班(整理係、指導係)

以下之ニ倣フ

警護部

第一班(警戒係、巡邏係)

以下之ニ倣フ

防毒部

第一班(檢知係、消毒係)

以下之ニ倣フ

救護部

第一班(治療係、收容係)

以下之ニ倣フ

工作部

第一班(偽裝係、修繕係)

以下之ニ倣フ

配給部

第一班(調理係、分配係)

以下之ニ倣フ

避難所管理部

第一班(管理係、引卒係)

以下之ニ倣フ

第十九條 警防團ノ定員ハ市町村會ニ諮問シ樺太廳長官之ヲ定ム

第三章 命 免

第二十條 團長、副團長及顧問ハ警察署長ノ具申ニ依リ樺太廳長官之ヲ命

免又ハ委囑若ハ解囑ス

前項以外ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス

前二項ノ命免又ハ委囑若ハ解囑ニハ任命又ハ委囑ハ辭令書(第一號様式)ヲ交付シ免退職又ハ解囑ハ通知書(第二號様式)ヲ送達ス

第二十一條 警防員ヲ志願セントスル者ハ團長ヲ經由シ願書(第三號様式)ヲ所轄警察署長ニ提出スベシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ團員タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル者ニハ第五號ノ規定ヲ適用セズ

一 警防團設置區域内ニ居住セザル者

二 破産者ニシテ復権セザル者

三 禁治産者又ハ準禁治産者

四 本令ノ定ムル懲戒處分ニ因リ團員ヲ免セラレ滿二年ヲ經過セザル者

五 滿十六歳未滿ノ者又ハ滿五十歳ヲ超ユル者

六 平素粗暴過激ノ言動アル者、酒癖アル者又ハ素行不良ノ者

七 身體虛弱又ハ精神ニ異常ヲ來ス虞アル者

八 防空法第三條ノ規定ニ依リ特別防空計畫設定者ノ設置スル特設防護團體ノ團員タル者

九 其ノ他團員トシテ不適當ト認ムル者

第二十三條 團員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命ズルコトアルベシ

一 前條第一號乃至第三號、第六號、第七號又ハ第九號ノ事項ニ該當スルトキ

二 五十日以上所在不明ト爲リタルトキ

三 團長、副團長、分團長又ハ副分團長ニシテ滿六十歳ニ、部長、副部長、班長、副班長又ハ警防員ニシテ滿五十五歳ニ達シタルトキ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

四 警防團ノ組織ノ變更又ハ團務ノ都合ニ依リ必要アリト認ムルトキ

第二十四條 團員辭職セントスルトキハ團長又ハ副團長ニ在リテハ樺太廳長官ニ其ノ他ハ警察署長ニ其ノ事由ヲ具シ願出ツベシ

顧問辭任セントスルトキハ樺太廳長官ニ願出ツベシ

第二十五條 團長ハ警察署長ノ命ヲ承ケ概ネ左ノ團務ヲ掌理スベシ

一 團員ノ指揮統率ニ關スル事項

二 令達ノ指示ニ關スル事項

三 團員ノ服務要領細目ノ作成ニ關スル事項

四 警防ノ調査研究ニ關スル事項

五 團員ノ進退功過ノ具申及願届等ノ進達ニ關スル事項

六 設備資材及貨與品ノ管理ニ關スル事項

七 諸給與ノ請求及交付ニ關スル事項

八 簿冊ノ調製及整理ニ關スル事項

第二十六條 副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長ノ命ヲ承ケ團員ヲ監督シ團長事故アルトキハ團長ノ定メタル順位ニ依リ其ノ職務ヲ代行ス

第二十七條 分團長ハ團長ノ命ヲ承ケ分團員ヲ指揮統率ス

第二十八條 副分團長ハ分團長ヲ輔佐シ分團長ノ命ヲ承ケ部長以下ヲ監督シ分團長事故アルトキハ第二十六條ニ準ジ其ノ職務ヲ代行ス

第二十九條 部長、副部長、班長又ハ副班長ハ團長又ハ分團長ノ命ヲ承ケ部員又ハ班員ヲ指揮シ管掌業務ニ従事ス

第三十條 警防員ハ上長ノ指揮ヲ承ケ各擔任ノ業務ニ従事ス

第三十一條 顧問ハ重要團務ニ付團長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ開陳スルモノトス

第三十二條 團長更迭シタルトキハ十日以内ニ後任者ニ事務引繼ヲ爲シ後



任者ニ事務引継ヲ爲シ得ザル事情アルトキハ副團長ニ之ガ引継ヲ爲シ第  
四號様式ニ依リ其ノ旨所轄警察署長ニ報告スベシ

第三十三條 團員ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

- 一 常ニ警防精神ヲ練成シ一朝事アルニ際シテハ身ヲ挺シテ難ニ赴クノ  
覚悟アルベキコト
- 二 紀律ヲ嚴守シ上長ノ指揮命令ニ服従シ上下一體以テ事ニ當ルベキコ  
ト
- 三 上下同僚互ニ敬愛シ禮節ヲ重シ信義ヲ敦クシ常ニ言行ヲ慎ミ以テ  
郷間ニ範タルノ實ヲ示スベキコト
- 四 職務ニ關シ私ニ金品ノ寄贈又ハ饗應接待ヲ受ケ若ハ之ヲ請求スル等  
ノ所爲アルベカラザルコト
- 五 職務ニ關シ之ヲ知りタルト又ハ他ヨリ之ヲ聞知シタルト問ハズ機  
密ヲ洩洩セザルコト
- 六 警防團又ハ團員ノ名義ヲ以テ政治運動ニ關與シ又ハ他人ノ訴訟若ハ  
紛議ニ關與スベカラザルコト
- 七 警防團又ハ團員ノ名義ヲ以テ濫ニ寄附ヲ募集シ又ハ營利行爲ヲ爲シ  
若ハ義務ノ負擔トナルガ如キ行爲アルベカラザルコト
- 八 平素何時ニテモ召集ニ應ジ得ルノ準備ヲ整ヘ置キ事ニ當リ不都合ナ  
キヲ期スルコト
- 九 召集ノ命ヲ受ケザル場合ト雖モ非常警防事件ノ發生ヲ知りタルトキ  
ハ其ノ住宅ニ在ルト外出中ナルトニ拘ラズ豫メ指示ヲ受ケタル所ニ從  
ヒ直ニ所定ノ場所ニ參集スルコト
- 十 其ノ他警防團ノ名譽又ハ威信ヲ失墜スルガ如キ言動ヲ爲サザルコト

第三十四條 團員ハ左ノ事項ヲ遵行スベシ

- 一 勤務ニ服スルトキハ制規ノ服裝ヲ爲スコト

ロ 防空器材

ハ 團旗分團旗標旗指揮旗及提燈(第五號様式)

ニ 其ノ他告示ヲ以テ定ムルモノ

第六章 給與

第三十七條 團員ニ給與スベキ手當被服等ハ市町村會ニ諮問シ樺太廳長官  
之ヲ定ム

第三十八條 團員ニ支給スベキ手當其ノ他ハ概ネ左ノ如シ

- 一 月手當
- 二 出勤手當
- 三 技能手當
- 四 特別慰勞手當
- 五 辨當料
- 六 旅費
- 七 傷疾手當
- 八 療治料
- 九 痲疾扶助料
- 十 弔祭料
- 十一 遺族扶助料
- 十二 退職手當

前項ノ手當其ノ他ノ標準ハ別ニ之ヲ定ム

第三十九條 團員ニ給與スベキ被服ノ型式、種類、員數等ニ關スル服制  
ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 表彰及懲戒

第四十條 警防團、團長及副團長ノ表彰ハ樺太廳長官、分團長以下ノ表彰  
ハ警察署長之ヲ行フ但シ功勞特ニ拔群ナル者ハ樺太廳長官ニ於テ之ヲ行  
フ

第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

二 勤務中ハ功ヲ爭ヒ又ハ故ナク持場ヲ離ルルガ如キ所爲アルベカラザ  
ルコト

三 警防ノ爲ト雖モ警察官吏ノ指揮ニ依ラズシテ濫ニ建造物其ノ他ノ物  
件ヲ撤去又ハ破壊スベカラザルコト

四 出勤シタルトキハ警察官吏(警察官吏在ラザルトキハ團長、分團長、  
部長、班長)ノ點檢ヲ受クルニ非ザレバ退散セザルコト

五 十五日以上私事旅行其ノ他ノ事由ニ依リ勤務ニ服シ難キトキハ豫メ團  
長又ハ副團長ハ所轄警察署長ニ其ノ他ノ團員ハ團長ニ届出ヅベキコト

六 警察署長ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ濫ニ集合スベカラザルコト

七 服務中ハ飲酒スベカラザルコト

八 給與品ハ之ガ保管ヲ嚴ニシ服務以外ニ於テ之ヲ使用シ又ハ他人ニ  
貸與スルガ如キ所爲アルベカラザルコト

第五章 設備資材

第三十五條 警防團ニ必要ナル設備資材ハ市町村會ニ諮問シ樺太廳長官之  
ヲ定ム

第三十六條 警防團ノ設備資材ハ概ネ左ノ如シ

- 一 設備
  - イ 事務所
  - ロ 器材格納庫
  - ハ 詰所
  - ニ 見張又ハ信號所
  - ホ 其ノ他告示ヲ以テ定ムルモノ
- 二 資材
  - イ 消防機械器具

ア フォトアルベシ

第四十一條 團長又ハ副團長ノ懲戒ハ樺太廳長官、分團長以下ノ懲戒ハ警  
察署長之ヲ行フ

第四十二條 警防團ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ表彰狀(第六  
號様式)ト共ニ表彰(第七號様式)ヲ授與ス

一 紀律嚴肅訓練優秀ニシテ他ノ模範タルベキモノ

二 防空、水火消防其ノ他ニ關シ功勞拔群ニシテ他ノ模範ト爲ルベキモ  
ノ

第四十三條 表彰授與セラレタル警防團ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ルトキハ之ヲ視察又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトアルベシ

一 紀律ヲ紊シ又ハ訓練著シク衰退セリト認メタルトキ

二 災害救護上著シキ過誤又ハ怠慢アリト認メタルトキ

第四十四條 團員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ賞狀(第八號様式)  
及徽章(第九號様式)ヲ授與ス

一 勤績五年以上ニシテ功勞顯著ナル者

二 勤績十年以上ニシテ功勞顯著ナル者

三 勤績十五年以上ニシテ功勞顯著ナル者

四 勤績二十年以上ニシテ功勞顯著ナル者

五 防空、水火消防其ノ他警防ニ關シ功勞拔群ニシテ他ノ模範ト爲ルベ  
キ者

六 紀律嚴正勤務勉勵ニシテ警防ニ關スル知識技能ニ熟達シ他ノ模範ト  
ルベキ者

七 警防上ノ施設改善ヲ圖リ功績顯著ナル者

八 其ノ他警防ニ關スル善行アリ他ノ模範トシテ表彰スベキ者

第四十五條 團員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

一 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

二 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

三 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

四 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

五 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

六 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

七 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

八 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

九 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

十 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

十一 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

十二 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス

十三 該當スルトキハ之ヲ懲戒ス



第九輯 警察 衛生 第一章 警察 第十五款 非常及消防

- 一 上長ニ反抗シ又ハ其ノ命令ニ服從セザルトキ
- 二 職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 三 紀律ヲ紊ル所爲アリタルトキ
- 四 其ノ他職務ノ内外ヲ問ハズ團員タルノ體面ヲ汚損スルノ所爲アリタルトキ

第四十六條 團員ノ懲戒處分ハ左ノ如シ

- 一 誹責
- 二 停職
- 三 免職

第四十七條 賞狀及徽章ヲ授與セラレタル團員ニシテ本令ニ依リ懲戒處分ヲ受ケタルトキハ其ノ賞狀及徽章ヲ褫奪セラルルコトアルベシ

第八章 簿冊

第四十八條 警防團ニハ左ノ簿冊及臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度之ヲ整理スベシ

- 一 團員名簿(第十號様式)
- 二 設備資材臺帳(第十一號様式)
- 三 地理水利調査簿(第十二號様式)
- 四 災害記錄簿(第十三號様式)
- 五 貸與品臺帳(第十四號様式)
- 六 給與受拂簿(第十五號様式)
- 七 勤務日誌(第十六號様式)
- 八 沿革誌(第十七號様式)
- 九 出勤簿(第十八號様式)
- 十 警防團保費類級

第九章 信號

第四十九條 警防信號左ノ如シ

- 一 火災其ノ他ノ災害信號
- 二 防空信號
- 三 訓練召集信號

前項ノ信號ノ傳達方法ハ別ニ之ヲ告示ス

第五十條 信號ハ團長ノ指定スル者之ヲ行フベシ但シ急迫ノ場合ハ此ノ限リニ在ラズ

附則

本令ハ昭和十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防團ノ設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ消防組員又ハ防護團員タル者ニシテ引續キ警防團員ト爲リタル者ノ勤続年數ハ前後之ヲ通算ス  
公設消防組規則及附屬關係規程ハ之ヲ廢止ス  
(様式省略)

●警防團補助規則

昭和十五年十一月十三日  
樺太廳令第百十九號

警防團補助規則左ノ通定ム

警防團補助規則

第一條 市町村警防團ノ必要ナル設備、資材及被服ノ整備ヲ爲シタルトキハ本令ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ノ一部ヲ補助ス但シ防

警防團補助規則左ノ通定ム

第二條 市町村前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ各號ノ書類ヲ添附シ十二月末日迄ニ樺太廳長官ニ提出スベシ

- 一 當該年度市町村歳入歳出豫算書原本
- 二 第一號様式ニ依ル當該年度設備、資材及被服目録
- 三 第二號様式ニ依ル既設設備、資材及被服目録

第三條 補助金額ハ市町村警防費支出額ニ對シ其ノ財政狀況ヲ斟酌シ樺太廳長官之ヲ定ム但シ支出額百圓未満ナルトキハ補助セズ

前項ノ場合ニ於テ支出ニ伴フ收入又ハ寄附金アリタルトキハ之ヲ控除シタル額ヲ以テ支出額ト看做ス

第四條 補助ヲ受ケテ爲シタル設備、資材及被服ハ他ニ讓渡スルコトヲ得ズ但シ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 補助金ヲ受ケタル市町村ハ其ノ收支決算ニ關シ翌年度九月三十日迄ニ市町村歳入歳出決算書ヲ具シ樺太廳長官ニ報告スベシ

第六條 左ノ場合ニ於テハ補助金ノ全部又ハ一部ノ返納ヲ命ズルコトヲ得

- 一 第四條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 補助申請ニシテ虛偽ノ事實アリタルトキ

第七條 本令ニ依リ樺太廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(様式省略)